

平成29年度 松本大学大学院、松本大学、松本大学松商短期大学部
自己点検・評価報告書 目次

はじめに 4

第1部 平成29年度事業計画(大学委員会・理事会決定)に基づく総括的点検・評価

I. 全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価7
II. 全学的点検・評価
1. 大学院 健康科学研究科..... 15
2. 総合経営学部 17
3. 人間健康学部 22
4. 教育学部 27
5. 松商短期大学部 30

第2部 委員会・部会別点検・評価

I. 学生センター部門

A：教育推進充実部門

1. 教務委員会
(1) 全学教務委員会..... 36
(2) 総合経営学部教務委員会..... 39
(3) 人間健康学部教務委員会..... 42
(4) 教育学部教務委員会..... 45
(5) 松商短期大学部教務委員会..... 48
(6) 共通教養センター運営部会..... 53
(7) キャリア教育センター運営部会..... 53
(8) 資格取得支援センター運営部会..... 54
(9) 基礎教育センター運営部会..... 58
2. 教育改善推進委員会
(1) 教育企画推進部会..... 60
(2) FD・SD 運営部会 62
3. 教職センター運営委員会 64
4. 図書館運営委員会 67
5. 情報センター運営委員会 70
6. 国際交流センター運営委員会 72
7. 地域健康支援ステーション運営委員会 74
8. 地域づくり考房『ゆめ』運営委員会 80

B：学生支援部門

1. 学生委員会
(1) 全学学生委員会..... 84
(2) 総合経営学部学生委員会..... 87
(3) 人間健康学部学生委員会..... 88

(4) 教育学部学生委員会	90
(5) 松商短期大学部学生委員会	91
2. 就職委員会	
(1) 全学就職委員会	94
(2) 総合経営学部就職委員会	95
(3) 人間健康学部就職委員会	98
(4) 教育学部就職委員会	100
(5) 松商短期大学部就職委員会	101
II. 研究推進及び管理部門	
1. 研究推進委員会	105
(1) 発明管理部会	106
(2) 研究誌編集部会	107
(3) 松本大学出版会運営部会	108
(4) 地域総合研究センター運営部会	108
2. 研究倫理委員会	110
(1) 動物実験部会	117
(2) 遺伝子組換え実験安全部会	120
III. 入試広報部門	
1. 入試委員会	
(1) 全学入試委員会	124
(2) 総合経営学部入試委員会	128
(3) 人間健康学部入試委員会	130
(4) 教育学部入試委員会	134
(5) 松商短期大学部入試委員会	135
(6) 入試問題検討部会	139
(7) AO入試運営部会	140
2. 広報委員会	140
3. 高大連携推進委員会	141
4. センター入試委員会	145
IV. 管理部門	
A: 大学運営管理	
1. 全学協議会	148
2. 衛生委員会	150
3. 自己点検・評価委員会	152
(1) IR推進部会	153
(2) コンプライアンス推進部会	154
(3) 認証評価準備部会	155
4. 人権委員会	155
5. 健康安全センター運営委員会	156

B：施設管理

- 1. 施設管理センター運営委員会 159
- 2. 危機管理委員会
 - (1) 環境保全部会 160
 - (2) 防災防犯対策部会 161

第3部 事務部門の点検・評価

- I. 全学的事務部門 163
- II. 総務課・管理課 167
 - 1. 総務課 167
 - 2. 管理課 173
- III. 学生センター 176
 - 1. 教務課 177
 - 2. 学生課 181
 - 3. キャリアセンター 185
 - 4. 情報センター 195
- IV. 入試・広報室 198

第4部 文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の自己点検・評価

..... 207

第5部 資料

- I. 平成29年度委員会構成 210
- II. アンケート調査結果（平成29年度）
 - 1. 松本大学卒業予定者アンケート 211
 - 2. 松本大学松商短期大学部卒業予定者アンケート 245
 - 3. 松本大学松商短期大学部在学生アンケート 257

はじめに

－2017(H29)年度の活動に対する自己点検・評価報告書の発行に当たって－ 〈2017(H29).4～2018(H30).3〉

[全学的課題、学生募集、教育改善の進展]

2017年度の大学・短大における大きな課題は、①教育学部・教職関係、②学生定員と学生募集関係、③教育研究の充実、④施設設備関係などであった。

(1) 教育学部・教育関係 －3つの課題－

① 先ずは新設なった教育学部の運営を軌道に乗せること。

今年度に新設された教育学部であるが、80名定員に対して当初予想を下回る65名の入学者になった。この学生に対して、「学校ボランティア」等現場との交渉が必要な授業科目もあり、実習受け入れ先の確保など、軌道に乗せることが大きな課題になっている。また、通常の授業でも相談できる先輩のいない学生を対象に、多くの分からないであろう事柄を一つ一つ丁寧に説明を加えながら、学修スタイルを創り上げるという課題があった。

② 教育学部に中高英語教諭免許課程を設置すること。

定員を割った原因の一つに、義務教育学校の流れを捉えた中学校の教員免許を取得する課程を持っていないことがあると考えていた。加えて小学校でも英語が正課科目になるため、これに対応しようとする学生のニーズにも応える必要があった。こうした理由から、外国人を含む教員の充実に図り、学部内に中高の英語教諭免許課程を設置しようと考えた。

③ 再課程認定への対応を怠りなく進めること

文科省の方針に則って、全国の大学で開講されている全ての教職課程についてチェックが入ることになっている。本学もこれに対応すべく、必要な措置を講じた上で申請書類を提出することが課題となっている。また、シラバスに対応した研究業績についても万全の対策を心掛けるよう、全国の大学と同様に各担当教員にも呼びかけることとした。

(2) 学生定員と学生募集

① 学科定員の増減申請を成功裏に進めること。

これは大学院設置を睨んで、学生募集に関して定員遵守の縛り（過去4年間の学部入学生数が定員の1.15倍未満）をクリアしながら、且つ県内大学事情にも配慮しながら、できるだけ県内学生の進学先を保証すること目的とした入試を実施しようと考えていた。このため総合経営学科+10名、スポーツ健康学科+20名、県立大学に競合する学科が開学する健康栄養学科については10名の定員変更を文科省に申請することとした。これらの申請は全て認可された。

② 新たな定員枠での学生募集を成功させること。

定員変更が認められることを前提に、短大部を含む全7学科において新たな入学定員を確保することに加え、1.15倍未満の条件をクリアした入学試験を実施することが課題となる。結果的には教育学部が昨年を回復したが定員の90%である72名に止まった。

(3) 教育・研究の充実に向けて

① 短期大学部のAP推進

短大部で採択されていた競争的資金であるAPの実施計画に盛り込まれた内容を、着実に進展させることが課題となっている。

4学期制の導入で長期インターンシップや数ヶ月に及ぶ海外留学が容易にできるようにするなどの学修環境の整備を図る。また学修成果について厳格な評価を実施し、ディプロマ・サプレメントの作成等その可視化等への対応など学修支援の強化に努めている。

② 私立大学研究ブランディング事業の展開

各大学がそのブランドとして掲げるテーマを独自に打ち出し、大学経営の将来を特徴付ける旗印を鮮明にしようというものであった。今回は2度目の申請であったが、ようやく「健康経営」をテーマとした事業が採択され、多額の補助金が付いた。今年度がその初年度であるため、実施体制を確立し今後の円滑な運営の基盤固めを行うことが課題となる。

③ 私立大学等改革総合支援事業への取組

前年度四大・短大部ともにタイプ1と2をクリアしていた。今年度は短大部のタイプ2が難しいと感じていたが、案の定クリア出来なかった。これは従来の質問に、新しい項目（大学間連携や自治体との連携、社会人受け入れと育児支援体制など）が加えられ、大学・短大部共に新項目への対応が不十分であったため、大学でもぎりぎりのクリアであった。次年度からは、タイプ2は無くなるが、別のタイプでの補助金獲得を目指す必要がある。

（４）施設設備の充実

教育学部設置に伴って、長野県、松本市からそれぞれ1.5億円、計3億円の補助金が付いた。また後援会や同窓会からの支援もあった。こうした資金は、大学の施設拡充や充実に当てられることとなった。

① 駐車場の拡充

学生数の増加に伴って、駐車場が不足することは明白であった。そのため、大学近辺の空き地や企業の駐車場を借りるなどの手立てを講じていた。しかしどこもスペースは狭く、なかなか展望は見えなかった。たまたま家屋が取り壊され、かなりの広さを持った跡地が売りに出されたため、急いで購入しこの件については落着した。

② 食堂の拡充と整備

学生数の増加に伴うもう一つの課題は食堂の混雑解消である。二つある食堂は収容定員が1,300人程度を想定したものであったが、教育学部の完成年度には2,200人を越える数になるため手狭になることが予想された。これに対しては理事会が理解を示し、食堂拡張、ラーニング・コモンズ的な多目的学生ホールの設置、大学院の創設を見込んだ教育・研究スペースの拡充などを目的とした9号館の建設という形で解決の見通しが立った。

③ LED化の進展

環境問題への配慮、長期的に見た電気代の節約などを目的として、大学校内の照明設備を順次LED化することとし、具体的に取り替え工事に入っている。先行していた短期大学の取り組みにより節電効果も見えていたため、この際一気に大学全体のLED化へ向けて舵を切ることになる。

【県内の高等教育の状況】

昨年度長野大学が公立化し、今年度は県立短大が4大化するとともに諏訪東京理科大も公立化す

る。県下では1国立大、4公立大、5私立大の体制となる。私大は松本大学を除き全て単科の小規模大学であるため、長野県においては学生数の上においても、国公立のウエイトがかなり高くなってしまった。

こうした新しい状況が、学生募集にどのような影響を及ぼすのかが焦点となったが、結果的には国公立は県外生を含め成績上位者を吸収できたが、これまで対象としていた高校生は入学できなかった。その結果、こうした高校で県内に残ろうとしていた生徒は、松本大学、県下の短期大学、専門学校を目指すか、仕方なく県外の大学を受験するという方向を採らざるを得なかった。この意味で本学への志願者も増えたが、定員超過率に対する制限があるため、収容することに限界があった。このことを見越して、定員増の申請を行い認められていたが、焼け石に水の状況であった。閉め出された高校にとっては、これからの進路指導には困難が伴い、心ならずも県外へ出さざるを得ない状況が当分続くであろう。

「県内に残りたいと思っても残ることが出来ない」という状況を緩和することは地域活性化策の一つであり、高等教育政策として真剣に取り組んでいくことが切実に求められている。また、私立大学学生への教育費の支援を充実させるなど、国公私のどこで学ぼうとも同じように地域社会に出て、一構成員として税金も払い立派に生計を立てているなら、学修に要する費用を含め、教育への機会均等を目指す施策を充実させるよう、県を通して国に求めていく必要がある。

[自己点検・評価委員会としての活動]

自己点検・評価委員会は全学運営会議メンバーである管理職が中心となり構成されている。自己点検・評価報告書はそれ以外にも教員側では学科長、全学委員長が、職員側では担当課をまとめる課長が入って、PDCA サイクルに基づいて執筆されている。また、そのDの部分に対応するアニュアル・レポートの作成には各教職員や管理職も入って、その執筆に携わっている。さらに学生の勉学活動（授業の成績、資格取得、休退学など）、自主的活動（ボランティア、学友会、クラブなど）、就職活動など、年間を通してそのアクティビティを網羅した学生版アニュアル・レポートの作成に責任を負っている。これらを取りまとめるのに、かなりの労力を注いでいるが、大学改革のベースを構成しているため疎かにはできないと認識している。

しかしながら、これらを次年度の活動に活かすには、3つの報告書が年度終了後の早い時期に出版されている必要があるが、この早期出版（第三者評価を受審する際には6月までに自己点検・評価報告書を完成させていなければならない）と言う点に関しては未だに克服できていない。自らの活動を絶えず記録するという習慣が確立できていない教職員の存在や、それを無くそうとして新しいコンピュータシステムを導入するが、それを使いこなせる迄に時間が掛かって仕舞うという事情も生じているのが実情である。それにも関わらず、確実に毎年出版できていることは、記録が残るということの他に絶えず改革を推し進めようとする意志が伝承されているからに他ならない。この視点から、次年度には、全てではないがその重要度に応じて部会を委員会へ格上げすることも考えたい。

2018.5.31

自己点検・評価委員会 委員長 住吉 廣行

第1部 平成29年度事業計画（大学委員会・理事会決定）に基づく総括的点検・評価

I. 全学的視点で見た事業計画実施状況の点検・評価

(1) 「平成29年度事業計画」における全学的課題 <P>

1) 大学、短大をめぐる情勢と大学改革

(a) 長野県高等教育の今後の姿をどうとらえるか

長野県の高等教育については、ここ数年激しい動きが見られる。これがどのような形に落ち着いていくのか見定めることはなかなか難しいが、本学の平成29年度の事業計画についても何らかの見通しのもとに考えなければならない。

① 各大学の動きと学生募集への影響

i) 公立化した長野大学の影響と入学試験の状況

平成29(2017)年4月入学生を迎えるための、平成29年度入学試験が行われたが、これは長野大学が公立化した後の最初の試験であった。私学の公立化が松本大学の入試にどのように影響するのかについて、当初の予想を超えた状況が出現した。本学も同系列の学科構成を持っているため、「これまでと逆転して、本学に来ていた上位層が減少し、少し下位層の学生へと入れ替わってしまうのではないかと考えていた。しかし、長野大学は県外からの受験生も期待し、本学の上位層を超えた学生層をターゲットにした感がある。その結果、本学への志願者が予想を超えて増加したのであるが、定員管理上受け入れることが出来ないというジレンマに陥った。この課題を解決する必要がある（例えば次のiii)参照）。

ii) 定員超過率と申請業務

今後の文部科学省に対する各種設置認可申請に関して、過去4年間の定員超過率が全学部において平成29(2017)年度申請（本学では教育学部設置がこれに当たる）に向けては1.30倍未満、平成30(2018)年度申請（本学では後に述べるように収容定員変更）では1.25倍未満、平成31(2019)年度以降は1.15倍未満でなければ受け付けられないことになっている。

実は平成28(2016)年度の総合経営学科の入学生が読み違いの影響で、1.42倍を超える超過率で観光ホスピタリティ学科も1.26倍と高い値となってしまうため、総合経営学部として1.15倍未満を実現するためには、平成29(2017)年度、平成30(2018)年度ともかなり抑制的な対応を採らざるを得なくなっている。人間健康学部については、スポーツ健康学科が毎年1.3倍近くの入学生を迎えているが、健康栄養学科は厚生労働省の指導で1.1倍未満に抑えるようにという指導があり、また平成26(2014)年度入試では定員を割り込み0.81倍であったため、総合経営学部 비해平成29年度入試における抑制度については少し緩和されていた。

iii) 定員超過率緩和及び入学者数増を図る定員増及び各種入学試験での定員管理

こうした志願者数の増加という状況に対応して総合経営学科で10名、スポーツ健康学科で20名の定員増を、健康栄養学科では県立大学の開学をにらんで10名の定員減を計画している。これが実現したとしても平成30年度に受入れできる学生数は最大で総合経営学部（2学科合計の定員170名に対して）180名、人間健康学部（2学科合計の定員170名に対して）181名となる。推薦入試、AO入試、一般入試、センター入試などの定員管理について至急対応策を練り、高校

側への丁寧な説明が求められる。

また、少子化がもう一段階進んだ時点での定員超過率に関しては、1.0 を基準とするという、より厳しい方向が打ち出される可能性も視野に入れておく必要があるだろう。

iv) 長野県立大学と諏訪東京理科大学の公立化の影響

長野大学に続いて、長野県立大学が開校し諏訪東京理科大学が公立化した平成 30 年度の入学試験がどのように展開されるかについては予断を許さない。諏訪東京理科大学が工学系統のみになるため、県内で競合するのは信州大学工学部のみであり、他の私学は当面影響が出ないだろう。しかし経営情報学科を廃止するため、この学科を対象としていた学生の動向がどうなるのか。山梨県への流出、公立長野大学の経営系、本学の経営系、短期大学などがその受け皿になる可能性がありそうだが、不確定要素が多い。

v) 北信地域での二つの看護学部設立の動き

長野市に設立された私立の長野保健医療大学（保健科学部：理学療法・作業療法）、さらに清泉女学院大学（人間学部・心理コミュニケーション学科）において、二つ目の学部として看護学部設置の動きがあり、公立の長野大学には理科系の学部増設の話もある。新潟薬科大学が上田地域に進出するという動きについては、一応断念されてはいないがその後の成り行きが定かではない。さらに新規に考えられている「専門職業大学」の流れに沿って、専門学校が名乗りを上げる可能性もあるだろう。また松本短大の看護学科や諏訪赤十字病院の動きにも注意を払っておく必要がある。

vi) 高等教育再編の動きが収束した後をどう描くか

短期大学部においても「専門職業大学」への移行の動きや県立短大の廃止に伴う受け皿機能の強化を図る動きが出てきても不思議ではない。こうした大学、短大、専門学校等における一連の流れが収まった後の、県下高等教育の地図がどのようになっているのかについても、多様な可能性を想定しつつ、対応を怠らないようにしておく必要がある。

② 厳しい情勢に耐えうる将来計画の策定と実施

i) 中高英語免許課程の創設

教育学部設置については、アンケート調査では好調だったが学生募集に苦戦したのは、過疎地域を多く抱える長野県において進む小中一貫の義務教育学校（特に施設一体型）への対応に不十分さがあったのではないかと思われる。こうした学校の教員に対しては、小学校だけではなく、例え二種ではあっても中学校の免許も必要とされるからである。現在の教育学部では小学校と特別支援の教職免許だけのため、この点に弱みがあった。今回、中学校の英語教育の免許を取得できるように、課程認定の申請及び設置に関しての AC（After Care）において、こうした対応を認めて貰うように力を注ぐことは、特に重要である。

また、学生募集への対応強化策としては、新たに赴任される先生方の日常的な活動を前面に押し出して、教育学部の内容・特色を高校生や進路指導の先生方にアピールすることも重要である。

ii) 再課程認定への対応

本学の全ての学科及び大学院での専修免許に対して、再課程認定が行われる。具体的には、総合経営学科（高校：情報・商業）、観光ホスピタリティ学科（高校：地歴・公民、中学：社会）、健康栄養学科（栄養教諭）、スポーツ健康学科（中高：保健体育、保健、養護教諭）、健康科学

研究科（専修：栄養教諭、保健体育）に対する認定である。教職課程については、専任教員を一名補充し強化を図ると共に、全学教職センターのもと、学部長や各学科の教務委員が検討に入る。ただし、観光ホスピタリティ学科における福祉分野については廃止の手続きを既にとっている。

今回の大掛かりな再課程認定においては、全国の多くの大学でその科目の教職課程を存続させるかどうかの判断を迫られると思われる。その時に基準となる言葉が「相当性」であり、ある学科にその科目を設置することが妥当であるかどうかの判断に際して用いられるであろう。本学においても、「相当性」を満たすほどに科目充実を図れるのか、或いはそれを無理と判断して、廃止を決定するかが迫られることになる。

(b) 学内改革・改善の更なる推進

以上のような状況への対応のほか、絶えず自らの組織的活動を改革・改善する目を持ち続けなければならない。今年度も、未だ確立できていない部分を中心に、継続して改革に取り組む。

① 各学部・学科の教育改善への取組

総合経営学部、人間健康学部、教育学部、松商短期大学部、健康科学研究科それぞれに、研究科長、学部長、学科長を中心に自らの抱える課題解決に向けて取り組む。欠員人事については、将来の構想と絡めた人材を獲得すべく柔軟に対応し、必ず補充し教育内容の充実を図る。

② 組織の見直し

ここ数年、本学が取り組まなければならない課題が見えるように必要な組織を立ち上げ、課題解決に向けた機能的な組織へと改革してきた。特に、全ての委員会を「大学運営」「研究」「教育」「地域貢献」の四分野に振り分け再編している。このように見直して実施してきた委員会制度について、必要な箇所については適宜変更、改善を加えていく。

③ 全学運営会議の下に諮問機関を設置

学長の権限強化の全国的な流れの中で、小規模な組織である本学では、研究科長、学部長、事務局長からなる集団的な執行体制（全学運営会議）を敷いて、全学の合意形成（全学協議会）を図るよう対応してきている。広い観点から対応すべき課題については、諮問会議を設けている。例えば、規程整備である。この間の学園、大学の急速な発展のため規程の整合性を含めて不備な箇所があり、これを一掃するために諮問委員会を設けた。整合性のある新規規程の作成（多くの場合関連する委員会から上程されるが、これを整合性という観点から検討する）や既存規程の改定などを手掛ける。また、一昨年度初めて実施した学長表彰に加え、昨年度は、学長裁量経費が承認されたことから、これを適正に実施する。

④ 緊急度を要する施設設備について

学生数の増加と非常勤を含む教員の増加に伴って、駐車場の確保は喫緊の課題である。農地転用において厳しい規制があるため、大学に近いところで、農地以外の駐車スペースを捜す必要がある。

また、昼食時間が通常の大学に比べ40分と短いため、食堂の利用効率の向上と営業面積の増加が求められており、生協食堂とは異なる業者の導入も検討課題となってくる。

図書館については、7号館にラーニング・コモンズとなるスペースが出来たこと、教育学部の8号館に「教学半」と名付けられた学習室ができたこと等で、ある程度の解決ができています。

(c) IRの充実

数値データに裏付けられて、大学改革を進める上で、IRは大学運営のあらゆる分野において欠かせない、戦略的意味合いを持っている。

① 広報の視点

i) 経営の根幹をなす学生の募集戦略

松本大学の知名度が上がってきたことに伴い、受験者層にも変化の兆しが見えてきている。これは、ここ数年間にわたって取り組んできたACDポリシーの検討、確定、およびそれに基づく教展開と入試広報の充実が奏功したものと判断できる。

しかしながら、平成26(2014)年度入試における健康栄養学科の受験者数の大幅減に象徴されるように、全国的な厳しい状況に本学も無縁ではあり得ない。そうした中でも、一昨年来実施してきたIRに裏づけられた健康栄養学科の試験対策の取り組みは一定の成果を示していることも事実である。各学部・学科においても、それぞれに特徴的で必要な対応を考え、全学的な特色ある取り組みとして前面に打ち出し推進することが求められる。

ii) 各高校対応の募集戦略の重要性

また、各高校の実情にあった広報戦略を展開することが、今後の活動にとって大変重要になってくると考えられるが、過去のデータからどのような特徴を“売り”にするかを定めることも課題である。各学部・学科での「学修内容」と「就職・進学先」との関係を、進路指導の先生方に分かり易く説明することが特に重要である。

iii) 各学科の募集戦略に対する意思統一とACDポリシー

特に平成29年度の入試状況等に鑑み、学科毎に緻密な学生募集戦略を構築することの重要性が増している。また、ACDポリシーに表現される各学科の特色がどの辺りにあるのかを強く意識して取り組むべきである。

② 教学の視点

研究成果として、GPA分布の年次変化をカリキュラム・ポリシーの成功度を測る指標となる可能性があるとして指摘しているが、AP申請が不採択に終わったことで本学の弱点も見えてきている。これを克服するのも、教職協働に基づいたIRになってくる。

学修行動調査や卒業生アンケートなどのデータを用いて、最近の学生の動向を正確に把握すると共に、大学や短大部に内包している課題を洗い出し、その解決に向けてより洗練された教育システムを考える必要がある。

③ 学生支援の視点

入学前教育と初年次の退学率の強い相関が、IRの成果として明瞭になってきている。就職活動にもどのような効用が出ているのかを吟味するなど、科学的な手法を取り込むことで新たな飛躍をもたらす。

また、クラブ活動に対する一貫した対応のあり方について整理するとともに、強化部に入部する人数など、入試との関連についても全学的な合意が得られるようにする。

(2) 「平成29年度事業計画」における全学的課題の実施状況 <D・C>

1) 大学、短大をめぐる情勢と大学改革

(a) 長野県高等教育の今後の姿をどう捉えるか

① 各大学の動きと学生募集への影響

i) 公立化した長野大学の影響と入学試験の状況

長野大学の公立化は県内残留率を下げる方向に働いた。首都圏の大学でも定員管理の厳格化に呼応した動きがあったため、結果的には本学への志願者が増加した。

ii) 定員超過率と申請業務

2019（平成 31）年度以降に何か申請事項がある場合、直近 4 年間の学部定員超過率は 1.15 未満であることが条件となる。大学院の設置計画もあり、志願者増にも関わらず入学者を絞らざるを得なかった。同じ悩みを抱えた大学も多く、全国的に同様の傾向が見られた。

iii) 定員超過率緩和及び入学者数増を図る定員増及び各種入学試験での定員管理

前年度入試が、高倍率化の様相を呈していた。その緩和と次年度県立大学に管理栄養士養成課程が発足する影響を考慮して、平成 30 年度入試から適用される定員変更を申請し、無事認可された。総合経営学科は 10 名増員にも関わらず、志願者増への対応としては不十分だった。しかし一方で、定員厳守のため補欠合格制度を援用して対応したが、掛け持ち受験生の動向についての読みが難しく、必ずしも思った通りの結果にはならなかった。

iv) 長野県立大学と諏訪東京理科大学の公立化の影響

県立大学の影響は、健康栄養学科受験生の減少、県外生の割合が減少したこと等に現れた。諏訪東京理科大が経営情報を廃止したことの本学への影響はあまり見られなかった。

v) 北信地域での二つの看護学部設立の動き

二つの大学の動きが、長野市の支援を受ける形で具体化し、すでに平成 31 年 4 月開学を目指し文科省に認可申請している。

vi) 高等教育再編の動きが収束した後をどう描くか

公立化する諏訪東京理科大学に、農学系の分野に進出しようかという動きが見られる。少子化、残留率、大学進学率、短期大学の動きなど今後注視すべき課題は多い。

② 教育学部の設置と各学部改革の迅速な推進

i) 中高英語免許課程の創設

外国人を含む 2 名の新規採用と他学部から 1 名の移籍により、教育学部に中高英語免許課程の創設が新たに認められた。平成 30 年度のカリキュラムから適用される。これに伴って、教職科目もこれまで初等に限られていたが中等まで含まれることになる。

ii) 再課程認定への対応

各学科で検討し、観光ホスピタリティ学科の地歴を廃止するが、それ以外は現行通りの開設で申請した。各科目担当教員には、その授業内容に関連する論文執筆も要請した。

(b) 学内改革・改善の更なる推進

① 各学部・学科の教育改善への取組

3 ポリシーの表現を含め、各学部・学科の教育内容を見直した。教育学部に関しては学校ボランティアの教科内容を実質化すべく、学校現場との連携を強めた。

② 組織の見直し

組織については、実情を反映すべく、また新たな課題に対応すべく、継続的に見直しを行っている。四本柱（教育、研究、地域貢献、管理運営）に沿って、各委員会を束ねると同時に、会議

数を減らすべく委員会の下に部会を置くスタイルを追求し、合理化を図った。

③ 全学運営会議の下に諮問機関を設置

規程整備や教職員の評価指標の開発等については、管理部門が責任を負うように全学運営会議の下で、継続的に探求できるようにした。

④ 緊急度を要する施設設備について

教育学部の創設に伴う学生増への対応として、「食堂」と「駐車場」の増設が喫緊の課題となっていた。「駐車場」に関しては近隣の土地を購入することができたこと、「食堂」については9号館の増設を理事会が打ち出したことで、解決に向かうことが出来そうである。加えて大学院創設に向けての対応も兼ねる施設とすることになっている。

(c) IRの充実

IR部門の充実がこれからの大学経営の鍵となることが全国的にも認識されてきており、本学でも全学的な取り組みとなるように組織改編した。

① 広報の視点

i) 経営の根幹をなす学生の募集戦略

本学の経営において、財源確保の観点からは入学生確保が最大の課題である。長野県の高等教育機関の再編に伴い、各学部・学科毎にAPに見合う学生募集の戦略を練り直した。経営系は全国的に志願者を増やす傾向にあるため、当面こうした戦略を考え直す必要に迫られないが、絶えず意識して取り組んでおく必要がある。

ii) 各高校対応の募集戦略の重要性

高校毎に本学に対する期待は異なっており、それに適合するような募集戦略を練ることが今後の課題になってくる。手始めに、新潟県の短大希望者向けのチラシを作成した。

iii) 各学科の募集戦略に対する意思統一とACDポリシー

i) とも関連して、各学科毎に、高校生にアピールできる特色を前面に打ち出した学生募集を心掛けた。

② 教学の視点

短期大学部が申請した「AP」が採択され、4学期制の導入など教学改革が進んでいる。大学は「AP」が不採択となったため、教育改革への取り組みに不十分さが残っている。

③ 学生支援の視点

クラブ活動を主にした受験者の扱い方について全学的合意が得られた。退学者の割合が低下する傾向にあるが、さらに対応を強化しておくことが必要である。

(3) 「平成30年度事業計画」における全学的課題 <A>

1) 前年度からの継続的な取組

① 学生の質・学力保証への取組の強化

- ・学生の質・学力保証に向けて教学改革を進める。とりわけ、シラバスのあり方および様式について検討を進め、具体化を図る。
- ・全学的な成績評価基準を検討しシラバスに記載すべく取り組む。
- ・時間外学修の測定方法と実質化方法について検討を進める。

② 教養教育の更なる充実

- ・2年目となる全学共通教養科目の実施状況を点検し円滑な運用に努める。
- ・キャリア形成科目群について見直しを行い更なる充実を図る。

③ 英語科目及び英語力の強化と環境整備

- ・ネイティブによる英語科目の増加と内容充実の取組を進める。
- ・TOEIC講座およびイングリッシュ・カフェなど正課外教育を更に充実させる。
- ・上記正課外教育充実のために人的措置および場所の確保などの環境整備を進める。

④ インターンシップの扱い

- ・インターンシップの位置づけとあり方について検討し明確化に取り組む。
- ・単位化されたインターンシップ科目の設置について検討し具体化する。

⑤ キャリア教育の検討と充実

- ・就職指導との切り分けを前提に、キャリア教育のあり方および内容について検討を進める。
- ・キャリア教育の実施体制についての課題を確認し、その解決を図る。

⑥ 教職課程のいっそうの充実

- ・採用試験合格者数を更に増加すべく取り組む。
- ・教職センターと教職事務室の協力・共同によって、再課程認定を遺漏なく進める。
- ・各学部教育における教職課程について検討し位置づけを明確にする。

⑦ 次期認証評価（2022年）に向けた対応策の検討と遂行

- ・次期認証評価に向けて教学面の課題を洗い出し整理する。
- ・課題解決を中心とした具体的なロードマップを作成し準備を進める。
- ・SD等はFD活動等を通じて認証評価の現状に対する全学的な共通理解を図るべく取り組む。

2) 運営組織の整備

① 教職センターの拡充

- ・教職事務室の移動にともなう学部教務事務との連携上の問題点を整理し解決を図る。
- ・三つの教職センターの関係を整理し効率的かつ一体的な運用を図る。
- ・各学部の教職関係諸委員の効率的・効果的な配置について検討し実施に移す。
- ・全学教職センターの権限について課題の洗い出しを進める。

② 資格取得支援センターの点検

- ・教育課程と資格取得・試験との関係を点検し課題を明確にする。
- ・担当事務体制について既存部署との関係を含め検討し、より適切なあり方を探る。
- ・より効果的な資格取得奨励金のあり方について継続的に見直す。

③ 国際交流センターの点検

- ・連携協定を結んでいるアジア圏の大学との交流を更に促進する。
- ・欧米の大学との交流についても持続的に可能性を追求する。
- ・交流事業を進めるために必要な人的・組織的整備について検討し解決に取り組む。
- ・国際交流センターの権限について課題の洗い出しを進める。

④ IR推進体制の強化

- ・IR関連データに関する情報の周知を図りその活用の促進に努める。

- ・受験生の志望動向の分析等の具体的課題を示し、IRの対象として取り組む。
- ・IR担当事務（者）を明確にして、組織的に位置づけデータの活用の利便化を図る。

⑤ 地域連携事業の推進体制

- ・COC事業補助金交付期間終了後も地域連携事業を取りまとめる組織を継続し、本学として事業を見直しつつ、新たな展開を進める。

⑥ 収益事業担当部署の検討

- ・研究ブランディング事業を先行させつつ、本学における収益事業の可能性を探る。
- ・収益事業の担当部署について検討を進める。

⑦ 次期認証評価への準備

- ・次期認証評価の受審に対する具体的な体制について検討していく。
- ・次期認証評価に向けて、現状分析を進めSD活動などを通じて周知を図る。

3) 卒業後の進路支援

① 「公務員試験対策講座」の更なる充実・強化

- ・講座受講者数の増加を図るとともに、昨年度を上回る実績の確保に努める。
- ・講座の宣伝・広報に工夫を加え、その効果的な機会の提供を図る。
- ・講座担当者が専用に使用できる部屋の設置を踏まえ、その適切な運用に努める。

② 教員採用試験への対策の強化

- ・教職センター専門員の採用・補充を計画どおり進める。
- ・「公務員試験対策講座」の利用など、採用試験受験希望者への具体的方策を検討、実施する。

4) 課外活動の支援

① クラブ・サークル活動に対する振興と支援

- ・強化部・重点部に対する支援と点検に引き続き取り組む。
- ・強化部・重点部の指導者の安定的確保に必要な方策を検討していく。
- ・部長・顧問の負担について、複数クラブの担当や付添頻度などの実態を把握し、必要があればその軽減に取り組む。
- ・文化・芸術系クラブ・サークルの振興策について、実態を調査した上で検討する。

② 学友会など学生の自主的・自治的活動に対する振興と支援

- ・海外の連携協定大学との学生間交流について検討し、いっそうの充実を図る。
- ・後援会と連携して、学生の諸活動を機能的かつ効果的に支援する。

5) 大学機関別認証評価への対応・準備

- ・短期大学部の受審機関について、大学部との共通化を検討する。
- ・2022（平成34）年度受審に向けて、具体的なロードマップを作成し、周知を図る。
- ・SD活動などを通じて、認証評価の現状について共通理解を図るべく取り組む。

＜執筆担当／学長 住吉 廣行＞

II. 全学的点検・評価

1. 大学院 健康科学研究科（修士）

（1）年度当初の目標 <P>

長野県立大学の開設に加えて山梨学院大学スポーツ科学部や新潟医療福祉大学健康スポーツ学科など近県のスポーツ系の大学の設置・拡充が相次いでおり、本学人間健康学部を巡る環境は厳しさを増している。これらの大学は完成年度に大学院の設置が予想される。その中で差別化を図り、本大学院としてのよりよい特長を伸ばすために、

- ①カリキュラムの変更
- ②研究倫理教育の強化
- ③キャリア教育にもつながる長期インターンシップの導入
- ④グローバル化・高度化の対応に向けた博士課程の設置
- ⑤入試
- ⑥広報活動
- ⑦その他

などあらゆる方策を検討していくこととした。

（2）目標の実施状況 <D>

1) カリキュラムの変更

- ①平成 29 (2017) 年度より人間健康学部から本研究科の専任教員として齊藤茂准教授が異動した。
- ②総合経営学部の真次宏典教授に「スポーツと法特論」を、人間健康学部の石原三妃准教授に「調理科学特論」を、齊藤茂准教授に「指導者のための実践心理学特論」「実践心理学演習」「特別研究」を、新設された教育学部の守一雄教授に「心理学研究法入門」を担当していただいた。また、非常勤講師として、国立病院機構まつもと医療センターの青木雄次先生に「病態栄養学演習」を担当いただき、数を6科目増やした。
- ③大学院の「栄養教諭専修免許」及び「保健体育専修免許」の再課程認定に対応すべく準備した。
- ④グローバル化への対応のうち、「アカデミック・ライティングを教える授業科目の開設」について、「特別研究」内で対応することを決定した。

2) 研究倫理教育の強化

研究は社会的活動であり、いずれの時点においても倫理的配慮が求められる。研究倫理教育として、必修科目の「健康科学特論」での講義に加えて、日本学術振興会の e-ラーニングコースの受講と修了証書の提出、研究倫理に関する講習会への参加を義務化した。

3) キャリア教育にもつながる長期インターンシップの導入

健康運動指導士資格を有するスポーツ健康学科卒の大学院生 1 名を公益社団法人に長期インターンとして派遣した。

4) グローバル化・高度化の対応に向けた博士課程の設置

総合経営学部・教育学部の修士課程設置時期に合わせて、健康科学研究科博士課程の設置を目指すことにした。

5) 入試

平成 29 年度入学者は健康栄養学科新卒 2 名で、在学者 11 名（学部出身者：7 名）を加え、在籍者は計 13 名となった。

平成 30（2018）年度入学予定者は 4 名（学部卒：2 名、社会人：2 名）となった。学部卒 2 名ともスポーツ健康学科の新卒業生であり、社会人は 2 名とも看護師資格保有者であった。社会人のうち 1 名（短期大学教員）を標準収容年限 3 年の長期履修学生として承認した。

6) 広報活動

大学院全体としては、オープンキャンパスや進学説明会等にあわせた信濃毎日新聞への広告掲出や大学 HP への研究成果の随時掲載により広報した。また、海外留学を経験した院生、長期インターンシップを行った院生、大学教員として就職した修了生に関する記事も HP に掲載し、受験を考えている学生に入学後あるいは修了後の進路についてイメージしやすくした。

社会人院生向けには、HP や募集要項で昼夜開講制度や長期履修制度など働きながらも学びやすい環境である点を強調した。

7) その他

- ① 院生 1 名が指導教員を高木勝広教授から山田一哉教授に変更した。
- ② 今後の外国人博士研究員や、日本学術振興会特別研究員の受け入れに備えて「松本大学大学院特別研究員の称号付与に関する規程」を制定した。

(3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

1) カリキュラムの変更

- ① 今年度から専任教員が 1 名増加した。結果的に、専任教員数は 11 名となった。
- ② 次年度は、人間健康学部から新たに 1 名に科目担当をしていただくとともに、数を 2 科目増やした。このことは院生の受け皿を広めることにもつながると思われる。

2) 研究倫理教育の強化

院生全員が「研究倫理 e-learning コース」の修了証書を提出した。複数名が研究倫理講演会に参加した。

3) キャリア教育にもつなげる長期インターンシップの導入

長期インターンシップ先に就職することができた。

4) グローバル化・高度化の対応に向けた博士課程の設置

博士課程では留学生の比率も上昇するためグローバル化・高度化に対応するためにも、修士課程の定員の安定的確保のためにも博士課程の設置が重要だと考えられる。また、博士課程に占める社会人院生の割合は全国平均約 32%であり、社会的な要請も強いと思われる。事実、本学修士課程修了者の中にも、将来的に博士の学位の取得を目指すものもいる。また、文部科学省等で募集されている大学院の競争的経費や補助金は、博士課程設置を原則とするものがほとんどであるため、現状では補助金を申請することができていない。

5) 入試

平成 30（2018）年度の院生総数は 8 名で、事務上は経常費補助金を得るための最低ラインの 10

名を割り込んだ。

6) 広報活動

松本市内の病院の看護師や松本市内の短期大学の教員から、大学院入学についての問い合わせと面談があるなど、大学院の認知度は上がっている。引き続き、HP コンテンツをより充実させて情報を発信していく必要がある。

7) その他

- ① 修了生9名は、それぞれ希望の就職先に就職できた。うち、2名が大学・専門学校の高等教育機関の教員として、1名が公務員として、1名が長期インターンシップを行った企業に就職した。
- ② 継続を含めて文部科学省の科学研究費に4名、5件が採択された。

(4) 次年度に向けて <A>

- ① 大学院入学者数を確保するためには、受け皿を増やしていかなければならない。そのためにあらゆる方策を打っていく必要がある。
- ② 社会人の学び直しニーズに応えられるように、社会人がより入学しやすい環境を整えていく。
- ③ インターンシップ先について、慎重かつ積極的に開発する必要がある。
- ④ 大学院博士課程設置に向けて、教員の研究業績の蓄積と質の高い教員を確保する。

<執筆担当/大学院健康科学研究科 研究科長 山田 一哉>

2. 総合経営学部

(1) 計画 <P>

総合経営学部を取り巻く社会の変化は大きく、これによる影響も看過できないものがある。このような現状を認識し、両学科の特性を生かした改善が必要となってくる。以下本学部ならびに両学科が取り組むべき課題をあげるものとする。

1) 総合経営学部の取組

- ① カリキュラムツリーとして学科ごとに教育目標を達成するために必要な授業科目の流れおよび各授業科目のつながりを示した。これに基づきカリキュラムの点検を行う。

総合経営学科の各学年の到達目標は次の通りである。1年次は、経営についての基礎知識、社会の仕組みと広い教養を身につけることである。2年次は、経営についての具体的な知識、高度化・複雑化するICT化社会における技術およびリテラシーの基礎知識、さらに社会人として適切かつ広い視野を身につけることである。3年次の到達目標は、経営および企業経営についてマクロ的・ミクロ的視点から分析を試みることができること。また、地域産業を理解し、地域社会で生きるための知識と技能を有していることである。4年次は、地域社会において、社会人として生きるための知識や技能、地域社会に貢献できる基礎力を身につけていることである。

次に、観光ホスピタリティ学科の各学年の到達目標は次の通りである。1年次は、「観光」「地域」「福祉」の各要素について基礎的知識を理解していること。また、各要素を通して地域社会に関心を持ち、現状認識ができ、人との関わりの中で大切な社会性や人間力を身に付け

る姿勢が持てることである。2年次は、3要素について資格取得など実践的知識を理解していること。また、各要素を通して地域社会の課題解決に向けた取組みができ、地域社会との関わりの中で自己覚知できることである。3年次は、3要素について課題の分析など応用的知識を理解していること。また、各要素を通して地域社会での有効な実践を身につける取組みができていくこと。これまでの学びを根拠にした新しい自分像を描けることである。4年次は、3要素について研究や本格的な実践など展開的知識を理解していること。また、各要素を通して地域の変化に責任ある行動ができ、世界を捉える視座が持てることである。

- ② 休・退学者問題は、以前から学部全体で強い問題意識を持って対応し、これらの減少に努めることにより一定の成果を上げているものの、ここ2年ほどはなかなか減少せずにいる。この現状から更なる成果をあげるため、来年度は休・退学者対策として基礎ゼミナールに重点を置くものとする。休・退学の理由にはさまざまなものがあるが、これらの中には、学業不振、学校生活不適應など、学生が高校と大学の教育上のギャップに適應できていないことから生じているものがあり、更にこの問題に取り組む必要がある。そのため、担当教員数を増やし、講義内容の再評価と充実、担当教員間の連携の強化などを図り、「初年次教育」として大学における良好な学習・生活環境の確保、学ぶ上で必要となる基礎的な知識と技術の習得などに積極的に取り組むこととした。
- ③ 東日本の大震災以降、防災教育に対する国民の関心は高くなっている。本学部では、災害の防災・減災を図る防災士の養成を目的として「防災総論」、「防災各論」、「地域の防災」の3科目を設置した。これらの科目は、企業の視点から学ぶことにより「企業の危機管理」、地域の視点から学ぶことにより「地域防災」として位置づけられ、両学科にそれぞれ配置している。防災士の養成は地域防災力の向上に有効であると考えている。
- ④ 大学院の設置を目指して準備したいと考えている。本学部は、地域貢献の理念のもと、長年にわたって活動をしており、地域社会全体の運営だけではなく、企業・行政・住民など、地域社会を構成するさまざまなものを的確に運営するマネジメント能力を養成する場として役割を果たし、また周囲からも一定の評価を受けてきた。これらのことから、研究科としては、「地域経営研究科」あるいは「地域政策研究科」といった方向性のものが相応しいと考えられ、この方向性での設置を検討している。
- ⑤ 平成28年度に福祉系の1名の採用人事が成功したものの、経営系と観光系の採用人事が残っており、改めて教員採用人事を行う。カリキュラム・ポリシーおよび今後の両学科の展開に留意して行うものとする。
- ⑥ 高大連携事業、自治体および企業との連携事業については、両学科の特徴を生かせる方向で取り組んでいく。また、既存の連携事業はさらなる発展を目指すものとする。

2) 各学科の取組

【総合経営学科】

- ① 総合経営学科の新しいイメージである「経済学 マネジメント」、「経営戦略 マーケティング」、「消費生活」、「人と心理学」の4分野を核として、カリキュラム・ポリシーに即した学科のカリキュラムを点検・検討し、社会と学生の要望に応えるような教育内容となるよう一層の充実と発展を図る。

- ② 基礎ゼミナールを充実させることにより休・退学者の減少を図る。ゼミの数は従来の4ゼミと同じではあるが、前期と後期で担当者が交代することにより担当教員数を4人から8人に増やす。これにより、学生は、身近に対応してくれる学科の教員をより多く知ることができ、気軽に相談しやすい環境を作る。また、講義内容の再評価と充実、担当教員間の連携の強化も図る。
- ③ 防災士の資格取得を目指し、教育の充実を図り、この資格を生かした有為な人材を輩出する。この資格は、「企業の危機管理」として位置づけられるものであり、平時において、企業の継続計画の立案、災害対応マニュアルなどを整える等、ひいては企業機能の維持・回復に資するものである。
- ④ 学科では、ITパスポート、ファイナンシャル・プランナー、宅地建物取引士を重点資格としてとらえ、対応する正課内科目の指導のみならず正課外における学生の自主的な勉強会へのサポート等、学生の資格取得を支援していく。また、これら重点資格は、必要に応じて再検討し、追加および入れ替えを行っていく。
- ⑤ 地域貢献、学生教育、学生募集および広報的効果などの観点から、飯田市と飯田 OIDE 長姫高校との三者連携協定、国土交通省の進める「道の駅を利用した地域活性化」など、高大連携事業および地域貢献事業の推進を図る。
- ⑥ 正課科目である「公務員対策講座」と大学が正課外に設けた「公務員講座」との関係を検討し、両者の強みが発揮できる形の模索、ならびに省力化を図り、両者による相乗効果を図る。

【観光ホスピタリティ学科】

- ① 観光ホスピタリティ学科に設けられている分野である「観光 マネジメント」、「地域文化 マーケティング」、「福祉 まちづくり」について、学科のカリキュラムを点検・検討し、社会と学生のニーズに応えるような教育内容となるよう一層の充実と発展を図る。
- ② 基礎ゼミナールを充実させることにより休・退学者の減少を図る。ゼミの数を従来の4ゼミから8ゼミに増やし、担当教員を増やすことにより少人数制のゼミとする。また、基礎ゼミの担当者を少しずつ交代させ、「オール学科」で対応する。講義内容の再評価と充実、担当教員間の連携の強化にも努める。
- ③ 防災士の資格取得を目指し、教育の充実を図り、この資格を生かした有為な人材を輩出する。この資格は、「地域防災」として位置づけられるものであり、平時において、地域の継続的な防災計画の立案、自主防災組織およびボランティア団体内での活動等、ひいては住民および社会の維持・回復に資するものである。
- ④ 学科では、国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者、社会福祉士を重点資格としてとらえ、対応する正課内科目の指導のみならず正課外における学生の自主的な勉強会へのサポート等、学生の資格取得を支援していく。また、これら重点資格は、必要に応じて再検討し、追加など行っていく。なお、厚労省の指導のもと新たな社会福祉士の養成のあり方が検討されており、議論の推移をにらみつつ検討していく。
- ⑤ 地域貢献、学生教育、学生募集および広報的効果などの観点から、高大連携事業をさらに推進していく。主な事業として、長野県商業教育研究会と合同で行っているマーケティング塾、農業系高校と行っているクラーク塾の他、福祉系においても同様のプログラムが整えられている。

- ⑥ 正課科目である「公務員対策講座」と大学が正課外に設けた「公務員講座」との関係を検討し、両者の強みが発揮できる形の模索、ならびに省力化を図り、両者による相乗効果を図る。

(2) 実施と検証 <D・C>

総合経営学部を取り巻く社会の変化は大きく、長野県立大学の開学と東京諏訪理科大学の公立化があり、特に前者による影響は大きかったと思われる。このような現状を認識し、学部・学科の特性を生かした対策に取り組んだ。以下本学部ならびに両学科が取り組んだ事業について報告と検討を行う。

1) 総合経営学部の取組

- ① カリキュラムツリーとして学科ごとに教育目標を達成するために必要な授業科目の流れおよび各授業科目のつながりを示した。これに基づきカリキュラムの点検を行った。その際に念頭に置いたのは、3ポリシー(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)との関係、学生と社会のニーズ、ゼミナールのあり方、専門科目とキャリア科目の整合性などである。今後も継続的な検討が必要ではあるが、十分な成果が得られる構成になっている。
- ② 休・退学者問題の対策として基礎ゼミナールの教育に重点を置いた。休・退学の理由にはいろいろあるものの、学生が高校と大学のギャップに適応できていないことから生じるものがある。そのため、担当教員数を増やし、教員間の連携の強化を図り、講義内容の再評価と充実、大学における良好な学習・生活環境の確保、学ぶ上で必要となる基礎的な知識と技術の習得などに積極的に取り組んだ。
- ③ 防災士の養成は地域防災力の向上に有効であるとの観点から、本学部では、防災士の資格取得を目指し、1年次配当科目として「防災総論」、2年次配当科目として「防災各論」と「地域の防災」の3科目を設置した。今年度は1年目のため「防災総論」のみの開講となったが、26人の受講生が集まり、関心の高さがうかがえた。
- ④ 大学院の設置を目指して検討を行った。本学部は、地域貢献の理念のもと、長年にわたって活動をしており、研究科としては、「地域経営研究科」あるいは「地域政策研究科」といった方向性のものが相応しいと考える。
- ⑤ ここ数年、適任者がなかなか見つからず、教員採用人事を見送らざるを得なかったが、本年度は、経営系1名と観光系1名を採用することができた。教員採用人事に際しては、それぞれの学科の教員構成、カリキュラム・ポリシーおよび今後の両学科の展開に留意して行うことができた。

2) 各学科の取組

【総合経営学科】

- ① 総合経営学科の新しいイメージである「経済学とマネジメント」、「経営戦略とマーケティング」、「消費と生活」、「人と心理学」の4分野を核として、カリキュラム・ポリシーと社会と学生の要望に沿った学科のカリキュラムになっているかを点検・検討した。
- ② 休・退学者の減少を図る目的から基礎ゼミナールを充実させた。前期と後期でゼミ担当者が交代することにより、学生は、身近に対応してくれる学科の教員をより多く知ることができ、気

軽に相談しやすい環境を作ることができた。

- ③ 学科では、IT パスポート、ファイナンシャル・プランニング技能検定、宅地建物取引士、販売士を重点資格としてとらえ、対応する正課内科目の指導のみならず正課外における学生の自主的な勉強会へのサポート等、学生の資格取得を支援した。その結果、今年度も例年通りの合格者数を出すことができた。
- ④ 国土交通省の進める「道の駅を利用した地域活性化事業」における商品開発および発表会など積極的に参加し、この具体的な活動を通じて地域貢献のみならず学生教育に活用した。

【観光ホスピタリティ学科】

- ① 観光ホスピタリティ学科に設けられている「観光 マネジメント」、「地域文化 マーケティング」、「福祉 まちづくり」分野について、学科のカリキュラムを点検・検討し、社会と学生のニーズに応えるような教育内容となるよう一層の充実と発展を図った。
- ② 休・退学者の減少を図る目的から基礎ゼミナールを充実させた。ゼミの数を4ゼミから8ゼミに増やし、担当教員を増やすことにより少人数制のゼミとした。また、基礎ゼミの担当者を毎年少しずつ交代させ、「オール学科」で対応することとした。
- ③ 学科では、国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者、社会福祉士を重点資格としており、対応する正課内科目のみならず正課外の指導も行い、学生の資格取得を支援した。その結果、今年度も例年通りの合格者数を出すことができた。
- ④ 長野県商業教育研究会と合同で行っているマーケティング塾、農業系高校と行っているクラーク塾の他、観光系、福祉系においても高大連携事業、地域貢献事業を行った。これらにより地域貢献、学生教育、学生募集および広報的効果など、さまざまな成果を得たものと思われる。

(3) 来年度に向けて <A>

1) 総合経営学部全体

- ① 平成30年度から導入した「各学科の特色を活かした学びの領域」を検証し、専門教育の一層の充実を図る。
- ② 両学科に設置されている重点資格につき、合格者を増やすべく手厚くサポートするとともに、多様化する学生のニーズに合わせるため目標資格の再検討を行っていく。
- ③ 各種入試のあり方を検討・改革し、「量の確保」から「質の確保」への転換を図るとともに入学定員の確保を目指す。
- ④ 階層的に展開しているキャリア教育について点検・検討し、学生の学習意欲を喚起し、より適切な進路選択に寄与できるように進める。
- ⑤ 両学科の特徴に留意し、高大連携事業ならびに地域連携事業をさらに発展させる方向で取り組んでいく。
- ⑥ 大学院の設置を模索する。「地域経営研究科」あるいは「地域政策研究科」といった方向性での設置を検討している。

2) 総合経営学科

- ① 総合経営学科のカリキュラム・ツリーと教育目標との整合性を点検・検討し、魅力ある教育課程の充実と発展を進める。

- ② IT パスポート、ファイナンシャル・プランナー、宅地建物取引士を重点資格としてとらえ、学生の資格取得を支援し、合格者の増加を目指す。
- ③ 飯田市と飯田O I D E長姫高校との三者連携協定、国土交通省の進める「道の駅を利用した地域活性化」等、高大連携事業ならびに地域貢献事業の推進を図る。

3) 観光ホスピタリティ学科

- ① 観光ホスピタリティ学科の教育課程を点検・検討し、カリキュラム・ポリシーに即し、より柔軟で魅力的なものとなるよう一層の充実と発展を図る。
- ② 総合・国内旅行業務取扱管理者、社会福祉士を重点資格としてとらえ、学生の資格取得を支援し、合格者の増加を目指す。
- ③ マーケティング塾、クラーク塾等、高大連携事業ならびに地域貢献事業の推進を図る。

〈執筆担当／総合経営学部 学部長 増尾 均〉

3. 人間健康学部

(1) 「平成 29 年度事業計画」〈P〉

創設 11 年目となる今年度は、本年 1 月の定例教授会並びに法人理事会において承認された、健康栄養学科入学定員の 10 名減（現行 80 名を 70 名に）及びスポーツ健康学科入学定員の 20 名増（現行 80 名を 100 名に）を踏まえ、それが施行される 2018（平成 30）年度以降の教学展開について議論し改革案を得る一年となる。その際、一昨年度に承認されている、管理栄養士養成で競合する長野県立大学の来年度開学への対応を念頭に策定されたコース制採用等の改革案との融合を重視し、その具体的実施に取り組みねばならない。

また、健康栄養・スポーツ健康両学科の連携によってこそ、「健康」領域各分野における特色ある研究・教育を行うことができるとの観点に立って、従来にも増して相互理解と協力の実を上げるべく取り組む。この点に関して言えば、健康科学研究科との連携についても同様である。

以上のような諸点を踏まえ、まず学部全体が、次に両学科がそれぞれ取り組むべき諸課題を以下に挙げる。

1) 学部全体の取組

- ① 「資格志向」受験生のニーズを的確に捉え、入学試験の改革・改善を通じて、より学習に意欲的な学生の確保に努める。その際、長野県内は当然のことながら、「健康づくり」の取り組みを県外にも普及するため、県外からの受験生・学生確保も重視して取り組む。また、松商学園高校との入試連携事業については、さらに充実させる方向で取り組み、新たな方策についても検討、協議を進める。
- ② 一昨年度来の学部・学科改革の具体化であるコース制の導入とその円滑な運営並びに、来年度から実施される両学科の入学定員の増減に伴うカリキュラムの検討、確定こそが、今年度最大の課題である。そのためにも、学部教務委員会を中心に具体案を検討し、問題点の洗い出しと対応策について確認していく。
- ③ この間取り組んできた成績評価の厳格化はおおむね達成されており、今年度もそれを推進すべく積極的に取り組む。

- ④ キャリア教育の実効性をさらに高めるべく、キャリア職員と協力して取り組む。また、県外出身学生の就職指導について、県外からのよりいっそうの学生確保という中期的展望を踏まえ、関係部署と連絡を密にしつつ取組を進める。
- ⑤ 今年度実施が予想される教職免許課程の再課程認定申請に向け、申請準備委員会と協力して、関連科目の精査並びに担当教員の業績確認などに積極的に取り組む。
- ⑥ 両学科共に、退職者、退職予定者の後任人事及び新規採用予定人事について、先の学部・学科改革の実現並びに両学科の入学定員の変更を踏まえたカリキュラム改革を念頭に、早急に取り組み具体化する。その一例として、今年度より、健康栄養学科の応用栄養学分野でスポーツ栄養を専門とする教員が赴任することから、両学科に共通する運動と栄養という境界領域分野を成長、充実させることを念頭に、ゼミ配属を含めた学科間の学生交流を検討する。
- ⑦ 講演会・教室の実施など各種取組を、COC+事業、あるいは教育企画推進事業に位置づけ、いっそう充実した形で展開する。また、「地域課題研究B『健康』」について、円滑な運営、実施に協力していく。この点に関しては、教育学部に設置される教養科目「こころと体の健康」についても同様である。
- ⑧ 国際交流事業について、スポーツ健康学科と中国・嶺南師範学院体育学部との交流促進をはじめ、健康栄養学科も含め可能な形で協力していく。
- ⑨ 高大連携事業については、従来の岡谷東高校および松商学園高校に加え、飯山高校等とも連携・協力を進めるべく検討を進め、可能な部分から実施に移す。
- ⑩ 自治体および企業などとの連携事業については、両学科の特性を生かしつつ取り組む。また、実習場所の確保という観点を重視し、広報効果の側面についても軽視せずに進める。その際、現行の地域健康支援ステーションの活用を積極的に検討し可能性を探る。

2) 健康栄養学科

- ① 本学科に進学する学生の多くは管理栄養士の資格を取得し、専門性を生かした職に就くことを希望しているが、一部に学力の不足する学生がいるのが現状である。対策として、学力によるクラス分け等も含め、平成27(2015)年度入学生から設定、適用した3年次への進級要件制度を有効活用する。また、新設した1年次の「基礎ゼミナール」を活用し、管理栄養士として必要な専門知識修得のための基礎学力を養成する。また、各科目のシラバスで設定した評価基準に基づき、厳密な成績評価を行う。
- ② 長野県立大学の開学に伴って受験生の減少や入学生の学力低下が危惧されるため、従来の教育レベルを維持する対策が必要となる。その一つとして、来年度より入学定員を10名減らして70名とし、35名2クラスによる少数教育で教育効果の向上を図る。また、今年度から実施される4コース制については、運用上予想される問題点を精査し、実施に支障がないよう準備を行い、各種資格修得が円滑に進むよう努める。さらに、1年次の早期体験学習などにより、現場業務を意識させ学習への動機づけを強化する。
- ③ 管理栄養士国家試験等の合格率アップと種々の資格取得のため、学科教員は一致して協力し力を尽くす。また、従来の国家試験対策に加え、昨年度より大学からの支援を受けた試験対策を始めたが、内容、予算等についてさらに検討を進める。さらに、今年度から管理栄養士国家試験が3月第1週に行われるため、検討してきた対応策を滞りなく実行し、万全の準備を行う。

- ④ 今後連続する教員の定年等の転退職に伴う教員構成の変化を踏まえ、教授内容を検討し、昨年度見直したカリキュラム・ポリシーに沿って教育の充実を図る。
- ⑤ これまで進めてきた長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業を充実・強化し、地域貢献事業をいっそう推進する。また、スポーツ健康学科と連携して地域貢献の実を挙げるべく積極的に取り組み、本学科の独自性を強化する。具体的には、教員が個別に取り組んでいるプロジェクトの事業化や、研究成果を反映した商品化を促し、一次から三次産業までを含めた地域企業との連携で六次産業化を図り、地域への貢献を目指す。
- ⑥ 学生には、⑤の食に関する諸事業をコーディネートする能力を高められるよう、学内外の管理栄養士現職者や企業の商品開発部門等との連携を深める場を設け、学内はもとより、課外、学外での学習を充実させる。また、他大学や企業などとの連携を通じて、学生の国際会議への派遣や外国企業との共同開発を行うなど、可能な形で国際交流の機会を設ける。

3) スポーツ健康学科

- ① 本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年 100 名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努め、一人ひとりが大学四年間および将来に向けた目標を定め自ら学ぶ姿勢を育てていくために要する教育・研究環境の整備、構築をいっそう促進する。
- ② 一年次の「大学入門」、二年次の「スポーツ科学入門」の両科目について、学年毎の目標を明確にし、学生の運動やスポーツへの関心を地域の課題と結びつけつつ、内容的にも方法的にも検討し、さらに充実させていく。
- ③ 地域貢献事業に求められる企画・マネジメント力といった実践力を培うために、導入段階として 1 年次科目に「地域課題研究 B『健康』」を開設した。それを含め、1 年を通じアウトキャンパスの機会を設け、学生自身が大学生活で目標とする地域課題発見の道筋を見出すよう仕組み、それを意識した指導に努める。
- ④ 来年度から実施される入学定員 80 名から 100 名への増員を念頭に、一昨年度確定した 3 コース制の内容について、今年度実施予定の 3 名の教員補充を勘案した科目の新設、改廃などカリキュラム改革に取り組む、定例の学科会議を中心に協議、検討しより充実した形で成案を得る。
- ⑤ 転出者の後任及び定員増に伴う増員など今年度実施可能な 3 名の採用人事について、上記のように来年度からの学科改革及びカリキュラム改革と連動させ、より充実したものにすべく早急かつ着実に取り組む。
- ⑥ A0 入試の内容変更など見直しが進む入試制度について、これを遺漏なく実施し、その効果や影響などを入試広報室と連携して的確に把握し分析に努める。
- ⑦ 自治体及び企業との連携強化をいっそう進め、他大学の同系学部・学科と差別化できているヘルスケア分野をいっそう充実させるべく取り組む。

(2) 「平成 29 年度事業計画」に対する実施状況 <D・C>

創設 11 年目である今年度は、平成 29 (2017) 年 1 月の定例教授会並びに法人理事会において承認された、健康栄養学科入学定員の 10 名減 (現行 80 名を 70 名に) 及びスポーツ健康学科入学定員の 20 名増 (現行 80 名を 100 名に) を踏まえ、それが施行される 2018 (平成 30) 年度以降の

教学展開について議論し改革案を得る一年となった。以上の観点を踏まえ、今年度展開された諸事業の主要なものについて学部全体と両学科に分けて、以下に記す。

1) 学部全体の取組

- ① まず、平成 27 (2015) 年度来の学部・学科改革の具体化であるコース制の導入とその円滑な運営並びに、来年度から実施される両学科の入学定員の増減に伴うカリキュラムの検討、確定を今年度最大の課題と位置付け、学部教務委員会を中心に具体案を検討し、問題点の洗い出しと対応策について確認、実施することができた。
- ② この間取り組んできた成績評価の厳格化はおおむね達成されており、今年度もそれを推進すべく積極的に取り組んだ。
- ③ 教職免許課程の再課程認定申請に向けて、学部教務委員会及び教職担当職員との関係を密にし、関連科目の精査並びに担当教員の業績確認などに取り組み、おおよその準備を滞りなく行うことができた。
- ④ 両学科共に、退職者、退職予定者の後任人事及び新規採用予定人事について、先の学部・学科改革の実現並び両学科の入学定員の変更を踏まえたカリキュラム改革を念頭に取り組んだ。その一つとして、今年度より、健康栄養学科の応用栄養学分野でスポーツ栄養を専門とする教員が着任し、両学科に共通する運動と栄養という境界領域分野を充実させることができた。
- ⑤ 自治体および企業などとの連携事業について、両学科の特性を生かしつつ取り組むことができた。今年度の文部科学省私立大学研究ブランディング事業への選定は、そうした今年度のものも含め、この間本学部が取り組んできた地域との貢献・連携事業における活動実績があつてこそそのことと高く評価してよいだろう。

2) 健康栄養学科

- ① 本学科に進学する学生の多くは管理栄養士の資格を取得し、専門性を生かした職に就くことを希望しているため、新設した 1 年次の「基礎ゼミナール」を活用し、管理栄養士として必要な専門知識修得のための基礎学力の養成に努めた。また、各科目のシラバスで設定した評価基準に基づき、厳密な成績評価の実施に努めた。
- ② 今年度より入学定員を 10 名減らして 70 名として、35 名 2 クラスによる少数教育で教育効果の向上を図るとともに、今年度から実施された 4 コース制について、運用上予想される問題点を精査、準備を行い、各種資格修得が円滑に進むよう努めた。
- ③ 管理栄養士国家試験について、今年度から 3 月第 1 週に行われることを踏まえ学科教員が一致して検討してきた対応策を滞りなく実行し万全の準備を行うよう努めた。その結果、受験者 55 名中 51 名が合格する (92.7%) という好結果を得ることができた。
- ④ これまでも進めてきた長野県内の行政や観光産業、外食産業、食品製造産業等と連携・共同した事業を充実・強化し、地域貢献事業をいっそう推進することに努めた。また、スポーツ健康学科と連携して地域貢献の実を挙げるべく積極的に取り組み、本学科の独自性を強化することができた。それが、今年度の文部科学省私立大学研究ブランディング事業への選定に結び付いたことは、すでに述べたとおりである。

3) スポーツ健康学科

- ① 本学科の教育理念である「運動・スポーツを通じた健康づくりの視点で、地域の活性化に貢献できる人材を育成する」を踏まえ、一学年 100 名を超える学生の年次毎の実態を把握することに努め、一人ひとりが大学四年間及び将来に向けた目標を定め自ら学ぶ姿勢を育てていくために要する教育・研究環境の整備、構築に、教務課職員を中心とする事務局と学科教員が連携し一つ一致して努めた。
- ② 一年次の「大学入門」、二年次の「スポーツ科学入門」の両科目について、学年毎の目標を明確にし、学生の運動やスポーツへの関心を地域の課題と結び付けつつ、内容的にも方法的にも検討し、いっそうの充実を図ることができた。
- ③ 来年度から実施される入学定員 80 名から 100 名への増員を念頭に、平成 27 (2015) 年度に確定した 3 コース制の内容について、今年度実施した 2 名の教員補充を念頭においた科目の新設、改廃などカリキュラム改革に取り組むことができた。
- ④ A0 入試の変更など新たな入試制度の構築に向けて、その効果や影響などを入試広報室と連携して的確に把握し分析に努め、そのおおよその内容と方法について確定することができた。

(3) 「平成 30 年度事業計画」 <A>

1) 学部全体

- ① 両学科及び健康科学研究科との相互理解と協力を従来に増して強化し、「健康」領域・分野における特色ある研究・教育を推進する。
- ② 2017 年度からの両学科の入学定員の変更を念頭に、それぞれ（健康栄養学科 70 名、スポーツ健康学科 100 名）確実に充足すべく入試・広報事業を展開する。
- ③ 「資格志向」受験生のニーズを適確に捉え、入学試験の改革・改善を通じて、より学修に積極的な学生の確保を図る。
- ④ 新たに設定したコース制の問題点などを適宜・適切に把握し、円滑な運用に努める。
- ⑤ 管理栄養士・健康運動指導士・各種教員採用試験等の合格率をさらに向上させる。
- ⑥ 研究ブランディング事業に積極的に関与し、その成果を教育に還元すべく取り組む。

2) 健康栄養学科

- ① 健康栄養学科の独自性をブラッシュ・アップして他大学との差別化を図る。
- ② 上記 1 による教育成果を積極的に発信し、就職先についても県立大学に対する優位性を確保すべく取り組む。

3) スポーツ健康学科

- ① 3 名の新任教員を迎えスタートする今年度は、教育並びに学務のスムーズな移行を図り成果を挙げるべく、学科教員間のいっそうの連携・協力に取り組む。
- ② 変更した A0 入学試験を遺漏なく実施するために、入試広報室との連携強化を進め、その円滑な運用に努める。

<執筆担当/人間健康学部 学部長 等々力 賢治>

4. 教育学部

(1) 事業計画 <P>

松本大学は、これまでも「地域貢献」という基本理念のもと、「まちづくり」「健康づくり」「ひとづくり」をテーマに掲げ、特長である専門教育+実践教育を推進してきた。新たに教育学部を開設されることは、「まちづくり」の総合経営学部、「健康づくり」の人間健康学部に加え「ひとづくり」の教育学部というそれぞれの学部が特色のある総合大学として専門教育を行うことが可能になる。

本年度から、開設される教育学部は、長野大学および諏訪東京理科大学の公立化が進む中で、長野県内の唯一の総合型私立大学として、さらに、近県を含む地域での唯一の小学校教員養成課程を持つ私立大学として、学部・学科の新たな方向性とあり方を方向づけてゆく年となる。

その内容は、教員を目指す高校生に進学機会を提供し、これからの社会に求められる「真の人間力」を持った教員養成を目指す。初年度であり、一年次生のみとなるため、より細やかな教育現場体験の指導と、地域での様々な実践活動を通して、子どもの心を理解し、信頼される教員の資質を高める。

1) 教育学部全体の取組

(a) 3ポリシーについて

① アドミッション・ポリシーについて

教育学部のアドミッション・ポリシーとして次の7項目をあげている。i)子どもの人格形成に大きな影響を及ぼす存在になるという自覚を持った高校生、ii)子どもが好きで、子どもに寄り添いながらその成長を願う心を持った高校生、iii)子どもの教育に必要な知識、技能、表現力を積極的に身につけようとする高校生、iv)自ら課題設定ができ、その解決に向けて前向きに努力しようとする高校生、v)幅広い分野に興味・関心を持ち、絶えず自身の許容量を広げようとする高校生、vi)教育現場の教職員、保護者を含む地域の方々との連携を重視し、協働できる高校生、vii)同僚との協力を強め、地域の教育の質向上に向けて絶えず努力できる高校生。

これらを高校・受験生などに理解されるように、広めてゆく。また、初年度の受験生の動向を詳細に分析し、さらに充実した入試の方向を探ってゆく。2年目の受験生をむかえる本年度も県外からの受験生を含めた教員志望の学生に対する広い認知を目指して、入試広報室等関係部署と連携し、意欲的な学生の確保、定着化を図る。

② ディプロマ・ポリシーについて

教育学部では、以下の「八つの力」を備えた人材を育成する。カリキュラム・ポリシーと関連して、一年次生へのきめ細かい指導を行う。

i) [地元力] 長野県の初等教育を誠実に担って行こうとする意欲を持った人材：学校教育の周辺分野において、学校現場をサポートできる力量を持ち、地域社会の発展と地域文化の振興に資する力量を持った人材も包摂している。ii) [子ども理解力] 子どもの発達段階に応じた育ちのあり様を理解しようとする人材：現場体験の中で子ども達の行動様式を観察・確認するだけではなく、心理学的な学びを深めることで、子ども個々人の内面からの洞察も加えられるようにする。iii) [授業力] 子どもの学ぶ力を引き出す分かりやすい授業を展開できる人材：初等教育の

基本となる、分かりやすくやる気を引き出せる授業を展開できる能力や児童の間違った思考過程をクラス全体の深い理解に活かせる柔軟な指導力を獲得する。iv) [学級運営力] 子どもの個性を尊重しながら学級を運営できる人材：学級の構成員である子ども達の和を保ちつつ、それぞれの能力を引き出し、学校で学ぶことが楽しいと思えるクラス運営を実施できる力を獲得する。v) [生徒指導力] 同僚の協力を得ながら生徒指導の諸課題に対応できる人材：最近の複雑な様相を呈する生徒指導・進路指導の諸課題に、人間的幅の広さを備えて、他の教師と協力しながら対応できる力を培う。vi) [地域連携力] 地域の力を学校教育に導入・活用できる人材：児童の多様な能力を引き出すには、保護者を含む地域の教育力を学校に取り込み、地域と一体となって子ども達を育てる、柔軟かつ原則的な対応ができる能力を培う。vii) [学校運営力] 同僚と協力して学校運営をできる人材：他の教師と協力して学校運営に携わることができるのは、学校に生起する諸課題を前向きに改善するために必要な資質であり、その力を獲得する。viii) [自己開拓力] 自分の守備範囲を拡げること意欲的である人材：小学校の教員免許取得にとどまらず、特別支援学校や中学校の一種免許など時代の要請に応じて、自分が携わることのできる教育の範囲を絶えず拡げようとする意欲的な姿勢を養成する。

③ カリキュラム・ポリシーについて

教育学部での、カリキュラムの編成方針として、i) 教養科目と専門科目のバランスがとれた配置で、専門性の獲得とそれを支える広く深い教養を身につけ、教育者あるいはその支援者としての魅力を高める。ii) 教養科目はモジュール化し、科目設定の意図を明示する。iii) 教師としての八つの力を基に、小学校教諭一種免許や特別支援学校教諭一種免許を取得する専門的力量を身につけることができる専門科目を配置する。iv) 教育現場との交流を重視した「教育実践科目群」や「教育実習科目群」を配置する。を基本としている。

これらを基本として、小学校や特別支援学校の教員を目指す学校教育学科の教育課程は、各教科の知識や指導力を深め、1年次から学校現場を体験できるプログラムを用意する。多くの諸問題の解決に向けて、討論・バズセッション・ロールプレイなどアクティブラーニングを多用して、他者と協働できる人間力を身につける、バランスのとれた教育が特長です。また、教養教育も重視し、現代社会をテーマにした幅広い知識の修得と多様な考え方に触れる科目を配置しています。少人数教育を実施できる強みを活かし、一人ひとりにきめ細かい指導を行うとともに、学生同士が学び合う環境を用意する。

2) 学校教育学科の取組

- ① 座学だけではなく、教育現場との結びつきを強め、子ども達の実態に基づいた教育ができるようにするため、PBL型のアクティブラーニングを取り入れた授業展開を重視する。
- ② 学生間同士の切磋琢磨により、教員としての力量の向上を目指すため、「教学半」のような学びのスペースや、教員への積極的質問を受けつける相談窓口としての各種センターを設け対応する。
- ③ ゼミナール等少人数教育を推進し、講義以外の演習や実習形式の授業も重視する。
- ④ 正課外の活動にも、教師としての成長を促す要素が数多くあることから、学生の自主的な課外活動を支援する。
- ⑤ 一貫した教育目標・内容・方法を設定して、学生の活動意欲の向上と学修支援に取り組み、厳正

な出席管理や成績評価を実施する。

- ⑥ GPA 値の見える化など、学修成果をフィードバックすることで、PDCA サイクルを自身で回し、絶えず学修計画の見直しを図れるようにする。その判断結果の妥当性等を、ゼミナール担当教員等が話し合いの中で評価しアドバイスする。
- ⑦ 「教育実習」とその事後指導や「卒業論文」など、学修成果をまとめ発表させることで、学位授与に向けた人材育成の達成度評価の場とする。

(2) 実施状況 <D・C>

平成 29 年 4 月に開設された教育学部学校教育学科は、1 学部 1 学科として始まった。平成 29 (2017) 年度、開設時において、4 月 28 日に教育学部開設記念式典を人間健康学部開設 10 周年記念とともに、新設の第二体育館で行った。これは長野県内の私立大学の公立化が進む中で、長野県内の唯一の私立大学として、また、近県を含む地域での唯一の小学校教員養成課程を持つ私立大学として独自の方向性を進むための学部の創設であった。これまでも松本大学は「地域貢献」という基本理念のもと、「まちづくり」「健康づくり」「ひとづくり」をテーマに掲げ、特長である専門教育+実践教育を推進してきた。教育学部が開設されたことは、「まちづくり」の総合経営学部、「健康づくり」の人間健康学部に加え「ひとづくり」の教育学部というそれぞれの学部が特色のある総合大学として専門教育を行うことが可能になった。松本大学教育学部は、小学校教員養成課程を基礎として特別支援教育教員の養成も行われている。さらに、平成 29 年 12 月には、中学校・高校の英語教員の養成課程も認可された。

【学校教育学科】

単一学科である学校教育学科は、3 つの教員免許を取得するための専門分野カリキュラムを持って教育を行っている。平成 29 (2017) 年度において、取り組んだことは、以下の内容である。

- ① 1 期生 65 名を迎え入れ、教育学部学校教育学科がスタートした。学科会議等で学生の動向が報告され、要支援学生についてはゼミ担当教員、教務委員、学生委員が中心になって共通理解の上に対応を行ってきた。
- ② 初年次教育として「基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」を設定し、全教員が 3～4 名の少人数の学生を担当することで、手厚い指導・支援を行うことができた。また、4 月末には 1 年生全員と全教員が参加して、親睦と大学生活への適応を目的に「フレッシュマン・セミナー」を 1 泊 2 日で行い、有意義であった。
- ③ 後期からは「学校ボランティア活動」の授業を行い、1 年生の段階から学校現場での活動を展開した。また、2 年次には「学校インターンシップ」、3、4 年次には「教育実習」が予定されているため、松本市、安曇野市、塩尻市および長野市等の教育委員会と連携し、校長会等との関係づくりにも努めてきた。
- ④ 教育学部に教職支援センターを設置し、全学教職センターと連携して、教員養成の充実を図っている。
- ⑤ 教育学部に英語（中学・高校）の課程が認可された。これに伴い 2 期生からは中学校教員一種免許状（英語）と高等学校教員一種免許状（英語）の取得が可能になった。なお、1 期生は中高（英語）二種の取得が可能である。

- ⑥ 小学校での英語の教科化に伴い、英語教育の充実を目指して、ブリティッシュヒルズへの国内留学を行い、次年度からの新たな留学制度を計画中である。
- ⑦ 中高一種免許状（英語）の課程認定に伴い、英語教員 3 名が新たに採用された。内 1 名は他学部からの移籍であった。
- ⑧ 英語教育が注目される一方で、学校現場では特別支援教育の充実が期待されており、学校教育学科では小学校教員一種免許状を基礎免許として、英語（中高）または特別支援教育の免許状を取得することを推奨している。なお、希望により 3 つの免許状取得も認めることとした。
- ⑨ 入試については 1 期生の定員割れを受けて、高校訪問や出前授業などを積極的に行ってきたが、2 期生も定員を充足することはできなかった。今後は指定校推薦枠や AO 入試等の改革を行っていく予定である。

（3）次年度に向けて <A>

1) 教育学部全体

- ① 入学定員の充足を第一目標に、過去 2 回の入試情報を詳しく分析し、入試・広報事業を展開する。そのために県内外の高校へ積極的に、松本大学教育学部の良さをアピールしてゆく
- ② 入学定員の充足を目指すとともに、高大接続改革に伴う平成 33 年度入学生募集に向けた入試改革案を策定し、段階的に実施に移していく
- ③ 甲信越唯一の教員養成系学部を持つ私立大学として、教員を目指す高校生に進学機会を提供し、これからの社会に求められる「真の人間力」を持った教員養成を目指す。
- ④ 初年度を通して得られた情報をもとに、より細やかな教育現場体験の指導と地域での実践活動を通して、子どもの心を理解し、信頼される教員の資質を高める。
- ⑤ 新たに認可が下りた英語免許の課程について充実した課程となるよう適切に把握し、円滑な運用に努める。

2) 学校教育学科

- ① 第二期生を迎え、初年度の教育課程の検証と反省を進めつつ「入学後、学生を伸ばす教育」に組織的に取り組む。
- ② 第一志望率の向上を目指して、一人ひとりに手を入れた教育を実践し、学生の満足度を高め、その成果を発信していく。
- ③ 教員を希望しない学生が新たな可能性や進路を見出せるように、「幅のある教育」を大切にしている。
- ④ 第一期生の教員採用試験合格に向けて、教職センター運営委員会を中心に試験対策の充実とマツダイモシ等の実施による学生への支援を推進していく。

<執筆担当／教育学部設置準備室長 川島 一夫>

5. 松商短期大学部

（1）計画 <P>

1) 短期大学部の現状

平成 22（2010）年度から 25 年度へと年々回復基調にあった本学の志願者数は、その後の 2 年間

低迷し、平成 27 年度には平成 15(2003)年度以来 12 年ぶりの定員割れとなった。しかしながら、平成 28 年度には 235 名の入学者を迎えていくらか持ち直した感があったものの、平成 29 年度入試では 2 月末現在で入学手続者 202 名と、予断を許さない厳しい状況が続いている。

2) 短期大学の課題

そのような状況の中、「学修ポートフォリオ」や「ルーブリック」による学修成果の可視化を通して、学生が自分の技術・能力の成長を把握しながら主体的に学修を進める環境を整備し、卒業時に「ディプロマ・サプリメント」を発行することで、修得した技術・能力を客観的に評価する仕組みの構築を目指すという本学の取組が、平成 28 年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」に採択されたことを契機として、新しい学修環境の整備に着手した。この取組においては、学生は「コンピテンス配分表」を用いて履修科目を決定し (Plan)、授業では「e-ポートフォリオ」を含む「学修ポートフォリオ」を活用して学修し (Do)、成績表や「ルーブリック」による学修成果の確認を通して (Check)、自身の改善を図りつつ次学期の履修科目を決定する (Action)。このように学生自身が PDCA サイクルを回しながら主体的に学修を進める環境を整備し、「ディプロマ・サプリメント」の発行を通して学修成果を社会に提示するとともに、外部評価体制を構築することで教育の質保証を図っていくことが本学のこれからの中期的な課題である。

3) 前年度から継続する平成 29 年度の計画

前年度から継続実施する施策は以下の 4 つである。

① 入学者選抜段階における施策

「特待生入学制度」および「入学金割引制度」を維持し、入学生に対する経済的支援を継続、同時に、本学進学のための経済的優位性を高校生にアピールする。

② 修学意欲向上のための施策

「資格奨励金制度」および「学業成績優秀賞授与制度」を維持し、本学学生の学業に対するモチベーションの維持向上につとめ、同時に、専任教員の手による本学独自の講義テキストの開発および作成を継続し、本学学生に合わせたわかりやすい授業の展開と学生の学習意欲向上を図る。また、導入 4 年目となる入学直後のプレイスメント・テストを継続実施し、入学生の基礎学力のデータを収集、状況把握を行い、本学の教育活動・学生募集活動に活用する。

③ 進路支援に対する施策

学内合同企業説明会および単独企業学内説明会の強化拡大、講座開設による公務員受験対策の強化、四年制大学への編入対策の強化を図る。同時に、県内製造業生産拠点の海外移転傾向を加味して、業務ツールとしての英語力育成に取組み、企業ニーズに対応した人材育成を行う。さらに就職内定者に対しては早期離職防止対策の強化に取組む。

④ 地域貢献のための施策

本学の地域貢献の一つである高大連携事業に取り組む。12 年目を迎える穂高商業高校との連携を、高校生に対するキャリア教育の一環として県内の他の商業高校にも拡大する。また、教育ツールとしてのモバイル PC の活用を図る。松商学園高校商業科との連携事業を今年度も継続し、高校・短大 5 カ年教育を視野に入れた高短大接続教育プログラムの研究開発をさらに進めていく。

4) 平成 29 年度 AP 事業計画

前年度は、AP 事業の実施体制の整備のために以下の取組を行った。

- ① 「AP 実施委員会」「指標作成委員会」「外部評価委員会」等の設置
- ② FD・SD 活動による学修支援システムやシラバスの見直し
- ③ 学習支援システムの「e-ポートフォリオ」としての活用手法への調整と本事業実施に向けたシステム改修着手
- ④ 「指標作成委員会」を中心に「コンピテンス表」「コンピテンス配分表」「ルーブリック」の作成とその他の他大学への視察や講師の招聘
- ⑤ 4 学期制実施に伴う週 1 回、週 2 回、週 4 回科目のすみ分けと学年歴の見直し
- ⑥ 『わかりやすい授業を目指して』における成績評価分布の公表

そこで、この前年度の取り組みを引き継いだ本年度の事業計画は以下の通りである。

- ① 4 学期制の導入
- ② 専任教員担当科目におけるコンピテンス育成を意図した授業の展開
- ③ 学生のコンピテンス評価における「ルーブリック」の活用
- ④ アクティブ・ラーニング等の導入に向けた FD・SD 活動を通じた授業改善
- ⑤ 振り返りによる学修と主体的な学びを促す観点からの学修支援システムを用いた e-ポートフォリオの構築
- ⑥ システム改修を通じた「ディプロマ・サプリメント」発行の準備
- ⑦ 次年度実施予定の、4 学期制を活用した海外研修や長期インターンシップ等のプログラム充実のための奨学金制度の整備並びに入学試験制度改革への着手。

また、本年度は、本事業の意義と有効性を地域社会に発信する観点から、パンフレットや報告書の作成、フォーラムや公開 FD・SD 等を実施するとともに、短大フォーラムや学会とも連携して本事業を地域社会に発信する。さらに「ルーブリック」や「ディプロマ・サプリメント」に関連して国内外の担当者や研究者を招聘し、より良いパフォーマンス評価や可視化、本取り組みの質的向上に努める。さらに、学生アンケートや企業アンケート等により地域が求める人材（コンピテンス）や教育内容を整理するとともに、外部評価委員会や新たに設置される「外部評価・助言委員会」により、本事業の成果・有効性を検証していく。

(2) 実施・検証 <D・C>

1) 入学者選抜段階における施策

前年度に引き続き入学生に対して「特待生入学制度」と「入学金割引制度」に基づく経済的支援を行った。今年度の特待生は、授業料全額免除の 1 種、同半額免除の 2 種のうち、学力特待 2 種が 4 名、経済特待 1 種が 1 名であった。また、松商特待 1 種は 1 名であった。昨年度新設した沖縄県出身者枠については、今年度の該当者はいなかった。入学金割引については推薦入試段階で、専門資格取得割引(一資格あたり 5 万円)の対象者が 10 名(重複取得を含む。内訳は漢検 5 名、英検 1 名、簿記 6 名、IT パスポート 1 名)、兄弟姉妹割引が 9 名であった。資格割引については入学時点での申請が 8 名(漢検 7 名、簿記 1 名)あり、この制度導入時から想定していたとおり入学決定後から入学までの学習目標としての機能が果たされていると考えられる。なお、松商高校

出身者については入学金全学免除であり、推薦入試段階で25名、一般入試段階で1名が該当した。

2) 修学意欲向上のための施策

制度発足以来大きな効果が現れてきている「資格奨励金制度」と「学業成績優秀賞授与制度」について、今年度も継続実施した。資格奨励金の今年度の短大部における支給総額は1,456,000円(昨年度1,665,000円)となり、昨年度に比べて減少した。また、受給者数は延べ365名(昨年度440名)となり、受給者数も減少した。これらについては、在学生の数やここ数年行われているカリキュラム改革の影響もあると考えられる。他方、学業成績優秀者表彰は、前期(1・2年生)・後期(1年生)2回行い、各学年成績上位10名を表彰した。各回各学年で素点平均点93点以上と非常に高いレベルでの受賞であった。両制度とも本学学生の学業に対するモチベーションの維持向上にとってなくてはならない制度である。

専任教員の手による本学独自の講義テキストの開発については、今年度、松原健二教授の『海外旅行入門テキスト』の増刷を行った。

3) 進路支援に対する施策

学内合同企業説明会および単独企業学内説明会の開催状況については、例年通りの合同説明会を3回(各回参加企業約60社)と、長野県中小企業団体中央会主催の合同説明会(参加22社)を学内で開催したが、単独企業説明会は35回の開催となり、昨年の44回を下回った。また、今年度も、日本経済の回復による雇用の拡大に伴い、学生の就職環境は昨年度同様良好であった。その結果、本学学生の内定率も98.6%となり、一昨年の99.5%、昨年の100%には及ばないものの高い水準となった。就職先企業についても、銀行・証券・保険等の金融関係で10名以上、また農協全体で10名以上の採用があるなど、1社で複数名採用する企業があることに加え、電力、精密機械、自動車販売、卸・小売りなど、幅広い業種へと就職先企業のすそ野も広がった。

四年制大学への編入は、松本大学総合経営学部総合経営学科に2名、大阪産業大学経営学部、東京経済大学経営学部各1名であり、製菓・調理の専門学校であるレコールバンタンへ1名が進学した。その結果、就職と編入等を合わせた進路決定率は95.0%(昨年度95.3%)となった。

4) 地域貢献のための施策

本学の地域貢献の一つである高大連携事業も穂高商業高校とは12年目を迎え、例年通りグレードアップ型連携、チャレンジ型連携を実施した。このチャレンジ型連携で本学に来て授業に参加した生徒数は、総勢200名を超えた。また、金子ゼミナールは今年度も「バレンタインスイーツ対決」において県下商業高校の生徒とともに、商品開発・販売実践に参加した。“JAあずみ”と金子ゼミとのコラボレート事業である“おにぎりプロジェクト”については、今年度も学生が作成した「おにぎりレシピ」をJAあずみに贈呈した。

5) グローバル人材育成教育

今年度の学生の海外交流実績は、学生派遣の面では、オーストラリア・ニューカッスル大学のサマープログラム(8/13~28)に3名、米国・ノートルダム大学の短期語学研修(8/28~9/7)に2名、本年度協定を締結した台湾・義守大学のサマープログラムに5名の学生が参加した。さらに、長野県の交換留学生として本学の学生1名が中国の河北大学で1年間、また3か月の語学留学で義守大学に1名が留学することになった。

他方、学生受け入れの面では、本学主催のウィンタープログラム(1/28～2/10)には、中国・嶺南師範大学から17名、台湾・義守大学から21名、米国・ニューヨーク市立大学ラガーディア校から1名、マレーシア在住学生1名、韓国・済州大学からの招待学生の1名、計41名の学生が参加した。また、今年度は、嶺南師範大学から5名、東新大学から3名の交換留学生(科目等履修生)を受け入れた。

このように、少しずつではあるが、本学学生の海外研修参加者数が増え、また、本学を訪れる海外の大学生も中国や韓国に加えてアメリカやマレーシアと多様化が進み、徐々に学内の国際化が進んでいると言える。

加えて、教員交流の面では、昨年同様、嶺南師範大学において、山添教授が3月、糸井が9月に集中講義を実施した。特に、山添教授が担当した科目の「簿記」では、日本の全国経理教育協会主催の簿記能力検定の成績が極めて良かったため、同協会から嶺南師範学院外国語学部日本語学科が表彰されている。また、海外からの教員受け入れでは、韓国の東新大学の教員と元嶺南師範大学の教員(現在は中山大学)が本学の科目である「海外事情Ⅰ」を担当し、「海外事情Ⅱ」においても嶺南師範大学の教員と義守大学の教員が授業を担当した。

6) AP事業

平成28年度大学教育再生加速プログラム(通称、AP)の採択を受け、本年度は、平成30年度の「ディプロマ・サプリメント」の発行を目指して、システム改修やパフォーマンス評価を実施する年であった。特に、「e-ポートフォリオ」や「ルーブリック」による学修成果の可視化を通して、学生が自分の技術・能力の成長を把握しながら主体的に学修を進めるため、「ルーブリック」評価や学生評価を実施した。また、「ルーブリック」によるパフォーマンス評価を実施するのに伴って、「指標作成委員会」を「指標検討委員会」に名称変更し、教員間の評価に対する共通認識の醸成や、評価対象課題についての検討等を行うことで、コンピテンス育成の実質化を図ることになった。加えて、本年度は第1回「外部評価・助言委員会」を開催し、本学の教育についての説明を行った。

また、今年度は、一部の科目を除いて全面的に4学期制に移行した年である。4学期制を明確にするため、第1学期と第2学期の間と第3学期と第4学期の間に1週間のアウトキャンパス・ウィークを設けた。しかしながら、90分授業を続ける場合、単位認定には15週が必要であり、試験期間とアウトキャンパス・ウィークを含めると前・後期17週になってしまい、夏休みと春休みが短くなってしまう。その結果、休暇期間に海外留学をさせるプログラムの実施が困難になるとともに、事務処理上も難しくなることから平成30年度からは1週間のアウトキャンパス・ウィークを実施しないことにした。

7) 活性化設備整備事業・ICT活用推進事業

例年の「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」については、本学はタイプⅠ「教育の質的転換」においてのみの採択となった。また、補助事業で、4月に1号館のWi-Fiの再整備、平成30年の2月には2号館のWi-Fiの再整備を行った。

(3) 平成30(2018)年度計画 <A>

1) AP事業

- ① AP 補助事業を円滑に実施する。特に、下記の項目については優先的に実施する。
 - a) ルーブリック評価の実施と実施科目の拡大、並びに教員間の共通認識の醸成。
 - b) 4 学期制に対応した海外留学や長期インターンシップ等のプログラムの開発。
 - c) ディプロマ・サプリメントの発行による学生の主体的な学びの促進と、記載内容の検討。
 - d) e-ポートフォリオの構築に向けたシステム改修の継続。
- ② 4 学期制による教育効果を検証し、資格取得やコンピテンス育成等の教育効果を更に高めるためのカリキュラムの在り方についての検討を続ける。

2) 恒常的施策の充実

- ① 就職内定率に加えて職場定着率を高めるキャリア教育を推進する。
- ② 高校生等に本学の特色や魅力をアピールし、安定した学生募集を推進する。
- ③ 国内外の他大学・短大との連携を強化し、積極的に補助金を獲得することで教育の質をさらに高める。

<執筆担当/松短期大学部 学部長 糸井 重夫>

第2部 委員会・部会別点検・評価

I. 学生センター部門

A : 教育推進充実部門

1. 教務委員会

(1) 全学教務委員会

各学部選出委員及び教務課職員を構成員とする全学教務委員会は、短期大学部も含めた教務に関わる学部横断的課題・事項に関する審議・決定機関であり、さらに、共通教養・キャリア教育・資格取得支援・基礎教育の各センター運営部会をも統括している。原則として一ヶ月に一度開催される定例会議において、日常的な教務事項の円滑な運営、遂行を基本としつつ、教学を巡る学内外の動向を的確に捉え、その充実に必要な諸課題の把握と対応に努め、各種報告事項についても適宜取り扱い情報の全学的共有化に努めてきている。

今（平成29）年度もまた、前後10回の定例会議において、日常的な教務事項の推進並びに進捗に伴って確認、整理された諸課題について慎重に審議し決定することを中心に、報告事項についても適切かつ適確に周知を図るべく努めた。

1) 計画 <P>

本委員会の主要な任務は、上記のように、原則として一ヶ月に一度開催される定例の会議において、日常的な教務事項の円滑な運営、遂行を基本としつつ、教学を巡る学内外の動向を的確に捉え、その充実に必要な諸課題の把握と対応に努め、各種報告事項についても適宜取り扱い情報の全学的共有化に努めることである。

そのうえで、今年度は教職課程の再課程認定が予定されることから、例年以上に諸事項を前倒しの日程で進めていく必要がある。特に、文部科学省への事前相談を10月に行う予定であることから、カリキュラム表は平成30年度及び平成31年度のもを同時に検討し、今年度9月までに平成30年度カリキュラム表の確定、10月までに平成31年度カリキュラム案を作成すべく力を尽くさねばならない。関連して、同一学科に複数の免許種を設置している場合に、各課程の履修モデル及び各学部の履修細則が必要となることから、カリキュラム変更とともに各学部において今年度前期を目処に作成することが求められる。

このほかにも、点検・評価活動の一環として、全学共通教養科目の実施状況の点検と確認、CAP及び他学科履修の上限の再検討、演習科目の適切なクラスサイズ運営のチェック等にくわえ、新たな取組として、次期外部評価じゅしん受審（平成33年）に向けた具体的なロードマップの作成及び準備開始、今年度中の新シラバスの様式決定（平成31年度から施行）、全学的な成績評価基準の検討（新シラバスに搭載）、IRを活用したDP・CPのチェック体制及び教学改革サイクルの構築、アクティブラーニングの推進と充実、時間外学修の測定及び実質化方法の検討、ICTを活用した授業の充実（e-learning、クリッカー等）などが、今年度に取り組み解決すべき課題として挙げられる。

2) 実績・現状 <D>

今（平成29）年度もまた、日常的な教務事項の推進に取り組むと共に、それに伴って確認、整理された諸課題について慎重に審議し決定することを中心に、報告事項についても適時・適確に周知を図るべく取り組んできた。また、今年度の特徴として、共通教養センター運営部会の対象範囲

である全学共通教養教育（科目）の関連諸事項についても、当委員会において扱い適切に対応してきた。

以下、①教学関連事項の全学的共通化、②教学関係諸規程の制定・改正・変更・廃止、③次期認証評価対応、④私立大学等改革総合支援事業への対応、⑤その他、の5点にまとめ今年度の活動状況を概述する。

① 教学関連事項の全学的共通化

- ・全学共通教養科目実施状況の点検
- ・年度を跨いだ進級に関する規程の運用変更について確定
- ・未修得10単位以下留年生の学費減免（制度）の運用変更について確定
- ・交換留学生（科目等履修生）のゼミ履修について確定
- ・Jアラート発令時の対応について確定
- ・裁判員制度に係る出席の取り扱いについて確定
- ・成績優秀表彰の審査基準の一部修正の確認
- ・補講申請方法の変更

② 教学関係諸規程の制定・改正・変更・廃止

以下の各規程について制定並びに変更・廃止が承認され、全学協議会、理事会に上程することが承認された。

- ・松本大学学業成績優秀者表彰規程（案）
- ・松本大学松商短期大学部学業成績上位者表彰規程（案）
- ・松本大学長期履修学生規程（案）
- ・松本大学松商短期大学部長期履修学生規程（案）
- ・松本大学学則変更（案）
- ・松本大学松商短期大学部学則変更（案）
- ・教育学部履修細則（案）
- ・松本大学長期在学計画学生制度に関する内規の廃止

③ 次期認証評価対応

- ・シラバスのあり方検討
- ・教育の質保証の検討
- ・その他の課題の洗い出し

④ 私立大学等改革総合支援事業への対応

- ・外国語のクラスサイズ減
- ・外部試験結果による語学科目の単位認定
- ・English Caféの実施
- ・履修証明プログラムの検討

⑤ その他

- ・年度別退学分析と学生指導の強化
- ・入学年度別卒業率・退学率・留年率の分析
- ・プレイスメントテストの結果分析
- ・教職課程の再課程認定への対応

- ・キャリアセンターとの協力・共同による入学前セミナーの実施
- ・入学式当日の新入生保護者対象説明会の実施
- ・短期大学の4学期制本格実施に向けた対応
- ・適正な出欠管理に関する周知・徹底（通知）
- ・履修登録抹消期限の短期化（3週目までに）

以上が、今年度、本委員会が取り扱い一定の結論を得た事項である。このほか、入学前教育及び新入生保護者説明会アンケート結果報告などについても検討し、実施に移した。また、会議の都度、教務に関する諸報告も合わせてなされ、関連する情報が全学的に共有化され各学部に円滑に伝達された。

3) 点検・評価の結果 <C>

上述したように、本委員会の主要な任務は日常的な教務事項の円滑な運営、遂行であるが、くわえて、それに関連する諸規程・内規などの検討、整備にも多くの時間を費やした。その際、例えば、年度を跨いだ進級に関する規程の運用変更や未修得 10 単位以下留年生の学費減免（制度）の運用変更などのように、学部間の調整と本委員会における数度にわたる審議、決定にくわえ、全学運営会議や最高意思決定機関である全学協議会への上程、そこでの論議を反映して修正を加えるなど、懸案事項については慎重な対応を心がけ結論を見出すべく努めた。

前述した今年度の活動内容の少なくないものは、そのようにして合意に達することができたものであり、その意味で、懸案事項のいくつかを解決できた一年であったと言える。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

本委員会は、次年度もまた、原則として1ヶ月に一度開催される定例の会議において、日常的な教務事項の円滑な運営、遂行を基本としつつ、教学を巡る学内外の動向を的確に捉え、その充実に必要な諸課題の把握と対応に努め、各種報告事項についても適宜取り扱い情報の全学的共有化に努めることである。

とりわけ、点検・評価活動の一環として、2年目となる全学共通教養科目の実施状況の点検と確認、CAP及び他学科履修の上限の再検討、演習科目の適切なクラスサイズ運営のチェック等にくわえ、新たな取組として、次期外部評価受審（平成34年）に向けた具体的なロードマップの作成及び準備開始、今年度中に新シラバスの様式決定（平成31年度から施行）、全学的な成績評価基準の検討（新シラバスに明示）、IRを活用したDP・CPのチェック体制及び教学改革サイクルの構築、アクティブラーニングの推進と充実、時間外学修の測定及び実質化方法の検討、ICTを活用した授業の充実（e-learning、クリッカー等）などが、引き続き次年度に取り組むべき課題として挙げられる。

くわえて、①English Café及び「TOEIC講座」など引き続きいっそうの充実によるグローバル化対応のさらなる推進とその実施体制の構築、②次期認証評価に向けた教学面の課題の洗い出しと課題解決を中心とした具体的なロードマップの作成、受審機関の選定やFD・SD研修の実施などによる次期認証評価への対応準備、③インターンシップの位置づけとあり方について検討し明確化及びインターンシップ科目の設置についての検討と具体化、④就職指導との切り分けを前提にキャリア教育のあり方について検討を進め、キャリア教育の内容、担当者などについて課題を確認しその解決を図るなどその充実などもまた、本委員会が中心となって取り組むべき課題である。

<執筆担当/全学教務委員会 委員長 等々力 賢治>

(2) 総合経営学部教務委員会

1) 年度当初の予定 <P>

平成 29 年度当初に計画された総合経営学部教務委員会の事業は、以下の通りである。

- ・ 規程・規則の整備等を全学教務委員会と協力して行う。
- ・ 進級規程の運用変更
- ・ 10 単位以下の留年生学費減免制度の運用変更
- ・ 交換留学等による特待生審査の運用変更
- ・ 成績優秀者表彰の最低修得単位数導入
- ・ 松本大学学業成績優秀者表彰規程の整備
- ・ 松本大学長期履修学生規程の整備
- ・ 全学共通教養科目等に関して、補講申請方法の変更
- ・ 年度別退学理由分析と学生指導の強化
- ・ 入学年度別卒業率・退学率・留年率の分析
- ・ プレイメントテスト結果分析
- ・ 次期認証評価を踏まえた、シラバスの検討開始
- ・ 私立大学等総合改革支援事業に対応した新たな改革検討
- ・ 私立大学等総合改革支援事業の課題に対するフィードバック
- ・ 外部試験結果による語学科目の単位認定
- ・ 全学共通教養科目の実施状況の点検と確認
- ・ CAP、他学科履修の上限の再検討
- ・ 演習科目の適切なクラスサイズ運営のチェック
- ・ 次期外部評価受審（2020 年度予定）に向けた具体的なロードマップの作成および準備開始
- ・ 平成 29 年度中に新シラバスの様式を決定
- ・ 全学的な成績評価基準の検討（新シラバスに搭載）
- ・ IRを活用したDP・CPのチェック体制および教学改革サイクルの構築
- ・ アクティブラーニングの推進、充実
- ・ 時間外学修の測定および実質化方法の検討
- ・ ICT を活用した授業の充実（e-learning、クリッカー等）
- ・ 再課程認定申請への対応と具体的なロードマップの作成
- ・ キャリアセンターとの協働による入学前セミナーの実施
- ・ 入学式当日における新入生保護者説明会の実施
- ・ 適正な出席管理についての周知・徹底
- ・ 再課程認定の対応（新カリキュラムと履修規程・履修モデルの作成）
- ・ 定期試験における不正行為の対応と防止の徹底
- ・ 欠席調査の実施
- ・ 卒業研究・卒業論文発表会の実施
- ・ 資格取得の推進
- ・ 短期大学部からの編入学者の単位の読替の見直しを行う
- ・ 教職の免許取得の推進

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

多くの事業は、計画通り実施された。

- ・進級規程の運用変更を行った。
- ・10 単位以下の留年生学費減免制度の運用変更
- ・交換留学等による特待生審査の運用変更
- ・成績優秀者表彰の最低修得単位数導入
- ・松本大学学業成績優秀者表彰規程の整備
- ・松本大学長期履修学生規程の整備
- ・全学共通教養科目等に関する補講申請方法の変更
- ・年度別退学理由分析と学生指導の強化
- ・入学年度別卒業率・退学率・留年率の分析
- ・プレイスメントテスト結果分析
- ・次期認証評価を踏まえた、シラバスの検討開始
- ・私立大学等総合改革支援事業に対応した新たな改革検討
- ・外部試験結果による語学科目の単位認定
- ・キャリアセンターとの協働による入学前セミナーの実施
- ・入学式当日における新入生保護者説明会の実施
- ・適正な出席管理についての周知・徹底（通知）
- ・履修抹消期限を3週目に前倒しする（集中講義は除く）
- ・再課程認定への対応（新カリキュラムと履修規程・履修モデルの作成）
- ・平成29年度卒業研究発表会が2月9日に開催された。創業と融資の実際、「道の駅」を拠点とした地域経済活性化の可能性、地域防災の拠点としての「道の駅」の可能性、マーケティングと商品パッケージの工夫、女性労働力の活用とワークライフバランス、FCチーム「松本山雅」についての経営分析、農協改革が及ぼす農業者への影響、JAにおける農産物の輸出の現状と課題、第四次産業革命と未来、地域発展と六次産業化ネットワークなどのテーマで発表会が行われた。
- ・資格取得の結果として、専門的な資格取得の合格者は、「総合旅行業務取扱管理者国家試験」で観光ホスピタリティ学科1名、「国内旅行業務取扱管理者国家試験」で観光ホスピタリティ学科6名、「社会福祉士国家試験」で観光ホスピタリティ学科4名、「産業カウンセラー」で総合経営学科4名、「医療事務検定試験」で観光ホスピタリティ学科1名・総合経営学科1名、「医療事務コンピュータ能力技能検定試験」で総合経営学科1名、「学芸員」で観光ホスピタリティ学科13名となった。その他の教養的資格取得でも多数の学生が合格した。
- ・短期大学部からの編入学生の単位の読替の見直しを行った。短期大学部から編入生の読替表の一部を変更した。従来、短大での「基礎簿記Ⅰ、Ⅱ（初級・中級・上級）」を、学部での「簿記Ⅰ」に読替していた。これを、短大の「基礎簿記Ⅰ（初級・中級・上級）」を学部の「簿記Ⅰ」に、短大の「基礎簿記Ⅱ（初級・中級・上級）」を学部の「簿記Ⅱ」に読み替えるように変更を行った。
- ・教職総合経営学部の教職履修者数は6名、教員免許取得者数は5名であった。取得免許の内訳は、高校（商業）1名、高校（情報）1名、高校（公民）4名、高校（地理歴史）3名、

中学（社会）2名であった。また、公立学校受験者数は1名（不合格）であった。私立学校就職者数が1名で、飯田女子高等学校に常勤講師（情報）に採用された。

3) 点検・評価の結果 <C>

平成29年度は、議論を深めながら業務を遂行できた点は評価したい。以下に、点検・評価の結果について示す。

- ・進級規程の運用変更を行った結果、運用しやすい形になった。
- ・10単位以下の留年生学費減免制度の運用変更の結果、留年生が制度を利用しやすくなった。
- ・交換留学等による特待生審査の運用変更の結果、運用しやすくなった。
- ・成績優秀者表彰の最低修得単位数導入の結果、ルールが明確になった。
- ・松本大学学業成績優秀者表彰規程の整備の結果、ルールが明確になった。
- ・松本大学長期履修学生規程の整備の結果、ルールが明確になった。
- ・全学共通教養科目等に関する補講申請方法の変更の結果、運用しやすくなった。
- ・年度別退学理由分析と学生指導の強化の結果、学生の状況の把握ができた。
- ・入学年度別卒業率・退学率・留年率の分析の結果、学生の状況の把握ができた。
- ・プレイメントテスト結果分析の結果、学生の状況の把握ができた。
- ・次期認証評価を踏まえたシラバスの検討を開始した結果、シラバスに関して見直しが見直しができた。
- ・キャリアセンターとの協働による入学前セミナーの実施をした結果、入学前セミナーが充実した形となった。
- ・入学式当日における新入生保護者説明会を実施した結果、保護者への情報の伝達がうまく行えた。
- ・定期試験における不正行為の対応と防止の徹底をした結果、不正行為の防止に貢献できた。
- ・シラバスの充実をした結果、学生にとってより分かりやすいシラバスとなった。
- ・欠席調査を実施した結果、欠席の多い学生への指導の徹底ができた。
- ・素晴らしい卒業論文発表会を実施できた。卒業研究発表会に、14組の各々に与えられた時間は、発表10分、質疑応答2分であった。ほとんどすべての組が、時間内に収まった。また、会場には学科に所属している2,3年生も多く集まり、先輩たちの発表に耳を傾け、メモを取り、時に鋭い質問をする姿が見られ、深みを感じた発表の数々に、後輩たちもよい刺激となった。
- ・多くの資格で合格者を出すことができた。
- ・短期大学部からの編入学生の単位の読替の見直しを行うことで、読替のルールの最適化が図れた。
- ・教職の免許取得の推進を行い、免許取得者の中から私立学校の教員に1名が採用された。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

平成30年度は、以下の事業を予定している。

- ・全学教務委員会に協力し、全学共通教養科目の実施状況の点検と確認
- ・CAP、他学科履修の上限の再検討
- ・演習科目の適切なクラスサイズ運営のチェック
- ・次期外部評価受審に向けた具体的なロードマップの作成および準備開始
- ・平成30年度中に新シラバスの様式を決定する。平成33年度シラバス（平成32年入力分）から完全施行。

- ・全学教務委員会に協力し、全学的な成績評価基準の検討
- ・IRを活用したDP・CPのチェック体制および教学改革サイクルの構築
- ・アクティブラーニングの推進、充実
- ・時間外学修の測定および実質化方法の検討
- ・ICTを活用した授業の充実（e-learning、クリッカー等）
- ・さらなるグローバル化推進（English Café など）の実施体制
- ・次期認証評価に向けた全学的な準備体制（評価団体の選定・FD研修）
- ・さらに充実した卒業研究発表会を実施するように努める。
- ・より多くの学生が資格を受験して合格できるように努める。
- ・さらに教職の免許取得の推進を行い、より多くの学生が教員に採用されるように努める。

＜執筆担当／教務委員会 総合経営学部主任 小林 俊一 ＞

（3）人間健康学部教務委員会

人間健康学部教務委員会は、各運営部会を教務委員会内に統合した。また、教職課程の再課程認定をふまえ、教務委員を各学科1名ずつ増員し、6名の教務委員と、教務課職員も1月から1名増員され11名の構成員となった。月1回の割合で部会を開催し、必要時はメール会議も開催した。今年度は、再課程認定への対応で30年度、31年度のカリキュラム構築、休退学者の増加など課題が多かった。

1) 計画 <P>

資格取得率の向上を勧めるとともに、コース制導入に伴う、履修モデル、時間割等を含めたカリキュラムの検討を行っていく。資格取得、キャリア教育を含め修学指導を行う。また、成績不振学生、留年生、休退学者の動向等を含め学修指導の充実とオフィスアワー等での学生指導を行う。基礎ゼミナール等の活用による基礎学力の向上、将来像の目標設定を勧めていく。また、キャリア教育の充実を図るためカリキュラムの見直しを勧めていく。

教職課程の再課程認定の3月の申請書類提出に向けて、教職課程の科目担当者の研究業績を整え、30年度、31年度の2か年分のカリキュラム案を作成する。

教養科目の改変がなされ、運用後の教育効果の変化、受講者数、成績分布などについて評価点検を行う。また、グローバル化を視野に入れ海外研修の履修を検討していく。

2) 実績・現状 <D>

① 学修指導の推進

- ・通年科目を開講することによる弊害（年間通じた履修にしなければならない等）を改善するため、ほとんどの科目をsemester化し、シラバスも対応した。
- ・シラバスに成績評価の基準を明記し、成績評価の厳格化を実施した。
- ・適正な出席管理、代返等への対応、教育実習等で欠席する学生への配慮、出席不足の学生指導等を実施した。
- ・健康栄養学科2016年度入学生において休退学を希望する学生が増加したことを受け、本学部独自のアンケートを実施し、学生の休退学に関する動向を探るとともに、分析を行った。
- ・地域課題研究Bについては受講生が5名以下であったが開講となった。

- ・卒業研究発表会を実施した。
- ・履修登録期間で履修者を早期に確定し、それに伴い抹消期間短縮の変更を行った。
- ・社会人入試の入学生、編入学学生の単位読み替え認定を行った。
- ・欠席調査の実施と出席不足の学生への指導の実施を行った。

② コース制導入への対応

- ・資格オリエンテーションの実施をし、希望コースおよび希望資格のアンケートを実施した。
- ・コース制をふまえて、カリキュラムマップ、ツリーの見直しを行った。
- ・資格取得に向けての履修モデルの作成と見直しを行った。
- ・入学定員の変更に伴う対応を行った。
- ・管理栄養士国家試験の早期化に伴う対応、長野県保健所と事務手続きに関する調整を行った。
- ・スポーツ健康学科の体育およびスポーツ実技科目の履修制限を次年度入学生から実施する。
- ・スポーツ・レクリエーション指導者養成認定校に承認された。

③ 教職課程の再課程認定

- ・再課程認定をふまえて、平成 30 年度、31 年度の 2 か年分の構築を行った。
- ・教員養成の再課程認定に向けて該当科目担当者の研究業績の蓄積および業績書類作成を行った。
- ・栄養教諭の栄養に係る教育に関する科目「栄養教諭論」「学校栄養教育論」「食教育指導法」を学科専門科目に配置、及び養護教諭の養護に関する科目「養護概説」「養護教諭と看護」「学校の看護」「健康相談活動」を各学科の専門科目に配属した。
- ・保健体育科教員の教科に関する科目の体育実技科目の 6 技能を明確化した

④ キャリア教育の見直しと検討

- ・「キャリアデザインⅠ」の講義内容の検討を行った。
- ・健康栄養学科の 1 年生の早期体験型学習の実施に向けての検討を行った。
- ・キャリア教育の実効性をはかり、担当部署と連携しキャリア教育科目の見直しを行った。
- ・入学式当日の保護者説明会を実施した。
- ・入学前セミナーをキャリアセンターとともに実施し、先輩学生がサポートした。

⑤ 共通教養科目の点検・評価

- ・共通教養科目の履修者はクラスサイズに対応できる範囲で履修された。
- ・グローバル化の一環として、「海外研修Ⅰ・Ⅱ」を履修上限単位から外し、研修先を追加することで履修しやすくなった。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学修指導の推進

成績評価の厳格化においてはほぼ実施できている。出席管理等も出席不足の学生についても早い段階で把握し、指導に繋がっている。履修登録期間の変更については、早期に履修者が確定でき問題なく進められている。

健康栄養学科 2016 年度入学生において休退学を希望する学生が増加したことを受け、本学部独自のアンケートを実施し、学生の休退学に関する動向を探るとともに、分析を行った。学生アンケートの分析結果をもとに、学生指導につなげた。

② コース制導入への対応

コース制導入に向けての履修モデル等は検討され精選されてきている。スポーツ栄養コースの資格取得を含めて履修モデルの検討を継続していく。30年度入学生の定員変更、管理栄養士の国家試験の早期化に伴う対応もできている。

③ 教職課程の再課程認定

2年間分のカリキュラム、教員業績については、対応可能な状態となり滞りなく進められている。今後は、文科省に提出した書類等に対する指摘事項に対応していく。

④ キャリア教育の見直しと検討

キャリア教育のカリキュラムの構築、担当者について検討を行ったが、今後さらに検討が必要である。健康栄養学科の1年生の早期体験型学習の実施に向けての検討を行ったが、実施までは至らず次年度への課題となった。

⑤ 共通教養科目の評価点検

履修者数は、クラスサイズに対応できる範囲で実施され、問題なく進められている。

⑥ その他

- ・資格取得については管理栄養士の国家試験合格率92.7%と9割を超え、健康運動指導士や実践指導者に関しても全国の合格率を上回り資格取得に向けての成果は見られている。

表：人間健康学部資格取得状況

資格名	平成 29(2017)年度			
	受験者	合格者 (取得者)	合格率	全国合格率
健康運動指導士	29	26	89.7%	59.8%
健康運動実践指導者	25	21	84.0%	57.1%
レクリエーション・コーディネーター	-	4	-	-
レクリエーション・インストラクター	-	6	-	-
トレーニング指導者	10	7	70.0%	-
第一種衛生管理者	-	82	-	-
スポーツ指導者(21年度入学生より適用)	-	4	-	-
アシスタントマネジャー	1	1	100.0%	-
中学校教諭一種免許状(保健体育)	-	17	-	-
高等学校教諭一種免許状(保健体育)	-	17	-	-
中学校教諭一種免許状(保健)	-	0	-	-
高等学校教諭一種免許状(保健)	-	0	-	-
養護教諭一種免許状	-	11	-	-
小学校教諭二種免許状	-	3	-	-
フードスペシャリスト	57	53	93.0%	84.8%
フードスペシャリスト専門(食品開発)	14	3	21.4%	18.5%
フードスペシャリスト専門(食品流通・サービス)	23	3	13.0%	25.2%
栄養教諭一種免許状	-	2	-	-
管理栄養士	55	51	92.7%	95.8%
栄養士	-	63	-	-
食品衛生管理者(任用資格)	-	50	-	-
食品衛生監視員(任用資格)	-	50	-	-
介護職員初任者研修		8		

4) 今後の課題 <A>

① 学修指導の推進

Semester化の実施、基礎ゼミナールのカリキュラムの見直しによる基礎学力の評価、授業成績評価（GPAの平均値）の見直し、資格取得者数と合格率の向上、時間外学修の学生へのフィードバック等実効化の検討、休退学者数の変化等を検討し、学修指導の充実と推進に努める。評価方法をより明確にするとともにルーブリック導入を検討していく。

② キャリア教育の再検討

キャリア教育については、今後さらに関係部署と連携して見直しをしていく。

③ コース制導入への対応

学生の定員数の変更を含め、コース制導入と履修モデルの見直しと検討を進めていく。

④ 教職課程の再課程認定への対応

再課程認定文科省に提出された書類等に対する指摘事項に対応していく。

＜執筆担当者／教務委員会 人間健康学部主任 中島 節子＞

（４）教育学部教務委員会

今年度から新設された教育学部では、学校教育学科から6名の教務委員と、教務課職員3名の9名から構成され、月1回のペースで計12回部会を開催した。開設初年度のため課題が多く、また教務事項の共通認識を図ることが大切なことから、委員会を臨時で開催されることもあった。

1) 計画 <P>

- ① 学科開設の初年度であるため、年間スケジュールを確認し、修正点を検討しながら事業を実施する。
- ② 基礎ゼミナールの内容を共通に理解し、具体的な実施方法と評価について検討する。
- ③ 教育職員免許法改正に伴い、年度内に行われる再課程認定のあり方を理解し、初等と中等の教職に関する科目の共通開設や、大括り化による科目区分の変更、科目内容の変更及び業績の確認などに対応していく。
- ④ 学生の大学生活への適応と関係づくりを目的に、フレッシュマン・セミナーを実施する。
- ⑤ 他学科免許履修支援プログラムを策定する。
- ⑥ 教員採用試験対策としての「マツダイモシ」を作成し、実施する。
- ⑦ 専門ゼミ（教職入門ゼミ）の決定方法について検討する。
- ⑧ 教育実習履修要項を作成する。
- ⑨ 教員免許の取得について、履修ルールを策定する。
- ⑩ 後期及び次年度の時間割の策定。
- ⑪ 次年度入学前教育の方針と内容を決定する。
- ⑫ 中高英語免許課程認定申請に向けて、科目の配置や同課程の設置に伴って採用予定の教員の担当科目等について検討する。
- ⑬ 教育学部における各コースの履修モデル及び履修細則を作成する。

2) 実績・現状 <D>

① 年間のスケジュールの確認と学科事業の推進について

年間のスケジュールの確認を毎回行い、学科独自の活動と連動させながら、計画の微調整や内容の修正を行った。

② 基礎ゼミナールについて

基礎ゼミナールでは、各回ごとに内容を確認し、特にアウトキャンパス・スタディ（幼稚園参観実習）では、下見や打合せを入念に行って、全ての教員が参加して行うことができた。また、ポートフォリオの作成により評価基準を明確にし、マツダイモシやレポートの書き方指導等、多様な活動を盛り込んだ内容となった。

③ 再課程認定に伴う取り組みについて

再課程認定に伴い同一学科内に限り、初等と中等の教職科目を共通に開設できる特例を活用して、業績やシラバスの確認、アフターケアへの確認など、具体的な準備を進めることとした。再課程認定の内容や日程等を含めて、その主旨を理解することからはじめた。

④ フレッシュマン・セミナーについて

フレッシュマン・セミナーについては、入学したての1期生が短時間で企画・運営を行い、4月の下旬に高遠少年自然の家を会場に、1泊2日で実施された。教職員も全員参加で行われた。

⑤ 他学科免許履修支援プログラムの策定について

他学部・他学科履修による複数免許の習得を希望する学生に対して、特に教育学部と他学科間の履修を規定する内容について検討し、教育学部生は中学（社会・二種）と中学（保健体育・二種）を、観光ホスピタリティ学科とスポーツ健康学科は小学校（二種）の取得を認めることとした。またそれに伴い、教育実習実施の有無、免許申請の方法、CAPの扱い等について詳細を決定した。

⑥ 「マツダイモシ」について

1年生から教員採用試験対策としてマツダイモシを実施し、経験を踏むことができた。併せて業者模試も活用した。

⑦ 専門ゼミ（教職入門ゼミ）の決定方法について

2年生後期から始まる専門ゼミ（教職入門ゼミ等）の所属決定方法が検討された。その結果、基準を最高5人までと設定し、予備の希望調査に続き本調査を行い、抽選と再調査を繰り返すこととなった。

⑧ 教育実習履修要項について

教育実習判定会議を実施し、GPA（2.2以上）や実習面談の結果について検討することとした。また、実習を行わない学生への対応については就職委員会やキャリアセンターと連携して、適切な支援が行われるように配慮する。

⑨ 教員免許の取得に関する履修ルールについて

教員としての資質向上のために、特別支援教育に関する科目群及び英語教育に関する科目群について、それぞれの免許を取得しない学生にも履修可能な科目を示して、単位の取得を可能とした。

⑩ 時間割の策定について

1期生については、様々な場面でガイダンスが必要になり、必修授業や基礎ゼミナールの時間を利用して行うことが多かった。したがって後期からは水曜1限に必要な応じてガイダンス講義の時間を配置した。

⑪ 次年度入学前教育について

今年の内容を踏襲し、推薦・AO入学者に対してはeラーニングを課すこととした。

⑫ 中高英語課程申請について

中高英語課程申請を行い、教職科目については、教育学部の学生が英語を取得するために、総合経営学部及び人間健康学部の教職科目を履修する必要があることから、時間割の調整がなされ、2コマ開講科目についてはA、Bと明記して開講することとした。

⑬ 履修モデル及び履修細則の作成について

文部科学省の指導に則り、教育学部における教員免許の習得の実情に合わせて、初等教育コース、特別支援教育コース、英語国際教育コースの履修モデルを作成した。また履修の必要条件や単位数、履修制限等について細則を決定した。

3) 点検・評価 <C>

① 年間のスケジュールの確認と学科事業の推進について

大学全体の教務運営に経験のある職員を中心に随時検討し、学科会議で協議を尽くして計画を推進することができた。

② 基礎ゼミナールについて

「基礎ゼミナール」という科目自体のあり方や特性等を共通理解することが難しい面があった。

③ 再課程認定について

大括り化、シラバスの作成等、年度内に理解すべきことや取り組むことはできた。

④ フレッシュマン・セミナーについて

フレッシュマン・セミナーの目的は「大学生活への適応と関係づくり」であるので、来年以降は学生委員会に位置づけたほうがよい。

⑤ 他学科免許履修支援プログラムの策定について

全学的な課題であるので教育学部単独で進めることはできないが、一定の規約（学内ルール）が策定された。

⑥ 「マツダイモシ」について

教員採用試験について知り、1年生から経験を積むことでまずは慣れることから始めた。また各教員による解説を時間をとって行い、内容の理解に努めた点がよかった。

⑦ 専門ゼミについて

2年後期からはじまる教職入門ゼミについては、実施後に評価を行い随時改良を加えることとなる。

⑧ 教育実習履修要項について

実習の実施の可否については、成績や教職への意思等を適切に判断する必要があることから、一定の条件を設定する必要がある。

⑨ 教員免許の取得に関する履修ルールについて

小学校教員、特別支援学校教員はその免許の取得に関わらず、英語と特別支援の教授能力が問われるため、積極的な学修を勧めたい。

⑩ 時間割の策定について

先の見通しが持ちづらい1期生にとって、ガイダンスの機会が少なかったために、後期からガイダンス講義の時間割を設けたことはよかった。

⑪ 次年度入学前教育について

全学的な英語のeラーニングが導入されたので、入学前教育に導入した。またイングリッシ

ユ・カフェなども始まり、教育学部の学生には英語に触れる機会を一層増やしていきたい。

⑫ 中高英語課程申請について

英語の課程が認可され、教員の採用や科目の設定等が順調に進んだ。

⑬ 履修モデル及び履修細則の作成について

履修モデルの策定によって、教育学部内の教員免許取得の意味やその方法について具体的に示すことができるようになった。

4) 今後の課題 <A>

今年度は学部学科開設の初年度で、教員も学生も初めての体験が多く、教務事項は手探り状態の面があった。しかし長期的な展望で取り組むことと短期の実施が求められることなどを見極めて、計画的に推進しなくてはならない。とはいえ、実践しなければ分からないことも多く、完成年度までは様々な変更点や改革の必要な事項もあると思われる。

① 学科独自の教務事項について

基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、教職入門ゼミ（専門ゼミ）については、中心になる適切な担当者を配置してより計画的に実施する。マツダイモシは今後も継続し、主に長野県教員採用試験に対応した実のあるものに改良していく。フレッシュマン・セミナーを2年生まで拡大して、1、2年生合同のセミナーとして交流を図りながら、学部のよい伝統を築いていけるように支援する。ただし担当は学生委員とする。

完成年度を見据えて、人事との関係からカリキュラムの配置等について検討を進めていく必要がある。

② 再課程認定について

再課程認定への対応は全学の教職課程と歩調を合わせて行われるが、教育学部では特に準備を滞りなく進めて生きたい。

③ 学修指導の推進について

基礎ゼミナール等による基礎学力の向上や、授業の事前事後学修への取り組みなど、学修意欲の向上に向けて取り組む。オフィスアワーの活用などによって、学生の学習意欲を高めるよう支援する。

<執筆担当者／教務委員会 教育学部主任 岸田 幸弘>

(5) 松商短期大学部教務委員会

1) 年度当初の予定 <P>

平成28年度の自己点検・評価報告書で報告されている、平成29年度当初の計画は以下のとおりである。

① AP事業の推進

4学期制対応科目の充実や学外学修の機会増など、教務の側面からAP事業を押し進める。

a) カリキュラム

平成30年度のカリキュラムでは、4学期に対応する科目の比率を上げる。そのために、非常勤担当科目についても調整を進める。

b) 時間割

実習教室や兼任教員について他学部との間で綿密な調整が必要となる。なるべく早い時期から時間割作成に向けた調整をしていきたい。

c) 年間行事予定の見直し

平成 29 年度は大きく変更されるため、再検討すべき事項が出てくると予想される。特に各種行事の実施時期や特別学修期間の使い方について検討を重ねたい。

d) 履修者数調整について

以前から上がっている 1 クラスあたりの履修者数について議論をし、基準を見直したい。

e) 長期海外研修やインターンシップの実施について

関連する委員会と調整しながら、カリキュラムに盛り込んでいきたい。

f) 学習支援システム

メソフィアについては他学部や AP 関連の委員会と連携しつつ、必要な機能を盛り込む作業を進める。グレクサについては、フロントエンドとして必要とする全機能を利用可能な環境にできるかを、関連の委員会とも議論しながら検討し具体化していきたい。

② その他

a) 3 つのポリシーについて

引き続き総務委員会へ検討を依頼する。

b) 授業外学修について

AP 関連委員会や FD 委員会とも連携し授業外学修について具体的な方策を検討していきたい。

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

① AP 事業の推進

AP 事業で本学が取り組むべきものは、学生の汎用的能力の育成、ディプロマ・サプリメントの発行、4 学期制導入の 3 点である。4 学期制については、平成 27 年度後期より専任教員の担当科目を中心に 4 学期化を進めてきたが、平成 30 年度は全科目を対象に 4 学期化に向けた具体案を作成し、実現に向けた準備を進めた。また、ディプロマ・サプリメントの発行に向けた取り組みでは、指標作成委員会および AP 実施委員会で検討した案を実施可能な形にすべく具体的な方法を検討し、その一部は実施に移した。

a) カリキュラムについて

本格的な 4 学期化に向け、現行カリキュラムの全面的な見直しを行った。各フィールドに配置する科目の開講時期や単位数、必修と選択必修などの卒業条件、さらにフィールドの統廃合について検討し、新カリキュラムの原案を作成した。

必修科目に関して、これまで単位が付いていた基礎ゼミナールとキャリア科目の一部は、単位を発行するにふさわしくない講義内容であることから、単位が付かない必修科目とした。

選択必修科目については、これまで必修科目であった「English I」を外し、中国語やハングル等の外国語科目 9 科目から 2 科目 2 単位以上を取得する語学系選択必修科目を設けた。さらに、これまでの選択必修科目も開講時期を含めて見直しを行い、卒業までに 10 科目（実質 7 科目）から 8 単位以上を取得する条件に変更した。

この案を非常勤講師に示す機会として、9 月上旬に 4 学期制導入に関する説明会を設け、これを 2 回実施した。この説明会では、非常勤講師に AP 事業の内容について 4 学期化とルーブリック評価を中心に理解と協力を呼びかけると共に、新カリキュラムの実現に向けた意見等を集めた。

また、時間割作成に向けて必要となる各担当科目の開講学期及び時間帯の希望アンケートを実施した。

私立大学等改革総合支援事業への対応としては、外国語による科目として『異文化理解』を新設することと、キャップ制の導入に向け、1年次履修単位数の上限を45単位に定めることを決めた。

b) 時間割

平成30年度カリキュラムの大幅な変更を行うにあたって、実際に各講義が開講可能な形になるのを見極めるため、平成30年度に加えて平成31年度の時間割についても試作した。これを基に各科目の開講時期や担当教員の配置について検討した。検討にあたっては、各科目について1つの学期内に収める際に週2コマ以上での配置が可能であるかを、学習内容や教育効果などを踏まえる必要があると判断し、まずは全科目を4学期化して配置したカリキュラムおよび時間割の原案を担当教員らに示した。なお、時間割は学年別および学期別に作表した。

原案に対し、担当教員の判断で週1コマの方が講義の進め方や教育効果の面で利点があるとした科目については、次の学期にまたがって週1コマペースで進める形を取ることとし、「科目名Ⅰ・Ⅱ」と科目を分割して配置することとした。また、他学部との関係でやむを得ない場合を除き、原則として5時限以降には科目を配置せず、集中講義やオリエンテーション、追再試験などが実施できるようにした。

他学部と共用するPC教室や体育館などの施設に関しては、調整を円滑に進めるために他学部に先駆けて時間割案を全学教務委員会に提示し、変更が必要な事項を洗い出しながら時間割を調整した。

c) 年間行事予定

年間行事予定は、原則として短期大学部独自のものとして組み、実施した。1、2学期および3、4学期の間は1週間の特別学修期間を設け、この間に追再試やアウトキャンパス・スタディ、体育大会等を実施したが、2学期が8月11日までずれ込んだ影響で、例年本学が参加している全国私立短期大学体育大会（8月7日～10日）への参加を見送ることとなった。

d) 履修者数調整について

履修者数調整については全学的な課題であることから全学教務委員会を中心に議論を行い、演習系科目の1クラスあたりの履修者数の基準について見直しを行った。

e) 長期海外研修やインターンシップの実施について

国際交流委員会から出された案について実施上特別に配慮等が必要と判断される事項について協議し対応した。夏期休業中に海外研修期間が追再試験日と重複するケースがあり、引率者が再試希望者の有無および申請者の情報を取りまとめて教務課と連絡を取る対応をした。

義守大学（台湾）への留学希望学生3名に関して、留学中の必修科目の扱いについて検討した。平成30年度は「専門ゼミナールⅡ」、「キャリア・クリエイトⅢ」がこれにあたり、科目担当教員が集中講義等で対応する事とした。今後、留学期間中の成績評価ルール等を検討していく必要がある。

f) 学習支援システム

AP実施委員会を中心にメソフィアおよびグレクサの機能の追加・変更について検討した。メソフィアについては他学部からの要望との兼ね合いを考慮しながらの仕様変更となったが、4学期

化できたのは履修登録画面などの一部のみであり、一部の科目やコンピテンス評価などは手作業での処理が必要であった。また、グレクサについては AP 実施委員会での追加要望のあった機能について開発業者との調整に時間を要し、一部の機能の追加にとどまった。

② その他

a) 3つのポリシーについて

全学教務委員会より各学部の教務委員会で3つのポリシーの見直しを行ったことに合わせて短期大学のポリシー見直しが打診されたことを受け、総務委員会に判断をゆだねた。

b) 授業外学修について

各科目の担当教員に対し、シラバス作成マニュアルを配付し、事前事後学習について学習時間を含めた指示内容の記載を依頼した。作成された全科目のシラバスについて確認作業を行い、記入漏れ等のある科目について再確認の依頼を行った。

3) 点検・評価の結果 <C>

① AP事業の推進

指標作成委員会、AP 実施委員会、FD 委員会と連携しながら準備作業を進めることができた。

a) カリキュラムについて

平成 29 年度のカリキュラムでは、4 学期化された科目の割合は約 25%であったが、平成 30 年度カリキュラムでは対象を非常勤担当科目に広げ、その割合を 94%にまで引き上げることができた。残りの科目は他学部学生も受講するものや教育効果を考慮して判断したもの 5 科目のみであり、実質的には全科目の 4 学期化を実現できたといえる。これは、早い時期に非常勤教員に対して複数回にわたる説明会を通して理解と協力を得られたことによるところが大きい。

b) 時間割

他学部の調整を円滑にするため、例年よりも約 2 ヶ月早いペースでカリキュラムおよび時間割の原案を作成し他学部との調整を図ろうとしたが、結果的には例年と同じ時期まで先方の時間割案の提示を待つこととなり、PC 教室や体育館などの施設利用や兼任教員、学部共通科目、図書館司書科目などの調整が遅れる事態となり、カリキュラムと時間割が確定するのが年度末までかかってしまった。

c) 年間行事予定

特別学修期間を設けたことによる学外行事参加の見送りや追再試験調整、成績処理期間の縮小などの影響が生じ、見直すこととした。その結果、平成 30 年度はこの特別学修期間を廃止し、5 時限目に追再試験や補講等を実施することで対応してみた上で再検討したい。

d) 履修者数調整について

全学教務委員会で検討した結果、1 クラスあたりの履修者数を、語学系科目は 20 名、演習・実習系科目は 40 名とする全学統一基準を定めることができた。

e) 長期海外研修やインターンシップの実施について

平成 29 年度時点では、海外研修やインターンシップの参加者が少なかったため、各案件に対して個別に対応することができたが、今後は参加者が増えてくることが予想される。スムーズな対応ができるようにカリキュラムの見直しや基準作りなどの検討が必要となる。

f) 学習支援システム

システムのさらなる 4 学期化対応に向けて予算をみながら優先順位を決めて開発を進めていく

必要がある。特に、グレクサは追加機能に対する開発費と開発者のスキルの面で課題があることが判明し、今後の方針を見直す必要が出てきた。

② その他

a) 3つのポリシーについて

しばらくは現行のポリシーのままとするが、変更の是非も含め継続して検討したい。

b) 授業外学修について

各担当教員には、シラバスに学習時間を示すことと講義の中で学習を促すことを依頼することどまっている。今後、FD委員会と連携して研修会等で議論の場を設け、具体的な方策を見出したい。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① AP事業の推進

4学期化によって生じる様々な課題について取り組みながら、質の向上を目指す。

a) カリキュラム

本格的な4学期制が開始され、生じるであろう様々な課題に対して解決策を検討しカリキュラムに反映させる。また、キャップ制の導入については、キャップの対象外とする科目や例外について検討を進めた上で規程に盛り込むこととする。

また、カリキュラムを大幅に見直したことにより廃止・新設した科目が出てきたため、旧カリキュラムの再履修者への対応を考える必要がある。例えば、旧カリキュラムではハングル語や中国語はⅠ～Ⅳまでであったものを改定によってⅢとⅣを廃止したが、新カリキュラムに変更されてから入学した学生から、入学前に見た大学案内に載っていた科目一覧（旧カリキュラム）にはあったが新カリキュラムでは無くなったⅢ、Ⅳを受講したかったとの申し出を受けた事例がある。大学案内に示されたカリキュラムがパンフレット発行時点でのものであり、変更の可能性がある旨を付記していなかったことから、申し出のあった学生の要望に対応する必要があると判断し、勉強会という形で応えることとしたが、大学案内などへの付記を関係部署へ依頼するとともに、今後、カリキュラムの見直しに際して学生からの要望をしっかりと見極めながら科目の整理をする必要がある。

b) 時間割

平成30年度は旧カリキュラムとの移行期となる。再履修者や他学部履修者の履修問題が生じる可能性があることから、早期の問題発見と解決を図る。

c) 年間行事予定の見直し

平成30年度に特別学修期間を廃止することで生じる影響の有無と程度、その他行事等の実施状況について課題点を整理し、次年度の予定表に反映させる。

d) 長期海外研修やインターンシップの実施について

関連する委員会と調整しながら、具体案を検討する。

e) 学習支援システム

メソフィアに追加させるべき4学期制対応機能を整理し、その開発を要望する。グレクサについても、開発予算を踏まえながら追加すべき機能に優先順位を付けて順次開発を進める。

② その他

a) 授業外学修について

FD委員会と連携し、授業外学修について具体的な方策を検討していきたい。

＜執筆担当／教務委員会 短期大学部主任 矢野口 聡＞

（6）共通教養センター運営部会

1) 年度当初の計画 <P>

共通教養センター運営部会は、2017年度より「部会」として全学教務委員会の下におかれ、過去数年にわたる議論を経て昨年度「モジュール方式」として確定された。現代的な課題・テーマで複数の科目を括ることによって学ぶべき対象・内容をより分かりやすく表現し、学生の学びを促し深めることを企図した「モジュール方式」を採用した全学共通教養科目（群）を円滑に運営し、生起する諸課題に迅速かつ適切に対応していくことが主たる任務である。

2) 実施・活動状況 <D>

新方式発足1年目の今年度は、上記の点を重視して状況の把握・観察に努める一年であったが、格段の問題がなかったことから運営部会は開催していない。

とはいえ、全学教務委員会において、概略、①共通教養科目の履修状況の点検、②「海外研修」のオーストラリア・国立ニューカッスル大学短期留学の引率者の募集・調整・決定、③来年度の「地域企業特論」担当者の調整と決定、④各学部の来年度カリキュラム並びに時間割に関する審議と承認、⑤来年度の共通教養科目担当非常勤講師および兼任の調整・依頼・確定などの事項について、その都度取り扱い適宜審議・決定し、報告してきた。

3) 点検・評価結果 <C>

大学側が考える「松本大学の学生が教養として持つべき内容」をモジュールとして設定することができた。上記のとおり、当運営部会の今年度の活動については、必要に応じて全学教務委員会で審議、決定するとともに報告することで対応してきており、特段問題となることはなかったと判断している。

4) 次年度に向けて <A>

今年度より採用したモジュール方式に関しては明らかになった問題点や課題について精査するとともに、①キャリア形成科目について就職指導との切り分けを前提に内容及び担当者の課題を確認し見直しを行い、②英語科目及び英語力の強化と環境整備を進め、インターンシップ科目の設置について検討し実施に移すなど、2年目となる全学共通教養科目の実施状況を点検し円滑な運用に努め教養教育のさらなる充実を図る。また、各学部の専門教育と共通する課題として、時間外学修の促進と実質化方法や全学的な評価基準を検討しシラバスに掲載するなど、学修の質・学力保証に向けた取組の強化を図る。くわえて、複雑なカリキュラムの調整、学部・学科間の調整などを担当する者の責任と権限を明確にすべく取り組む。

＜執筆担当者 共通教養センター運営部会長 等々力 賢治＞

（7）キャリア教育センター運営部会

1) 当初の計画 <P>

今年度は、前年同様、各学部のカリキュラム改革の動向やキャリア教育の現状を把握する必要が

あり、目立った活動を行わなかった。しかしながら、キャリア教育と就職支援の棲み分けを行うため、短期大学部において、先行的に就職委員会の業務の一部をキャリア教育センター運営部会に移管する改革を行うことになっていた。

2) 実施状況 <D>

本年度は、短期大学部において、就職委員会の活動をキャリア教育の視点から再整理するために、就職委員会の業務の一部をキャリア教育センター運営部会へ移管して従来のキャリア関係科目の見直しを行った。

3) 点検・評価 <C>

短期大学部での業務移管により、キャリア教育の面から、キャリア教育センター運営部会が主体的にキャリア教育と就職活動支援の棲み分けに係ることができるようになった。

4) 次年度に向けて <A>

次年度に向けて、キャリア教育として単位認定する科目と就職活動支援として単位を認定しない科目の棲み分けを行うとともに、単位認定科目については次年度のカリキュラム改定で教員が担当することとした。

<執筆担当/キャリア教育センター運営部会長 糸井 重夫>

(8) 資格取得支援センター運営部会

資格取得支援センターは、本学学生の各種検定資格取得の支援とその管理、及び公務員試験対策の支援を行うことを目的としている。本学において学生が取得する資格には、次表に示されるように大きく分けて3種類ある。一つは(a) 必要単位を取得すれば資格が得られる、或いは受験資格が得られる内容である。多くは学科単位で重点資格などに指定されている。二つ目は(b) 講義に関連した内容で、より理解を深める、技術力を高める内容で単独或いは関連する複数の科目で資格に対応するものである。情報、簿記会計、英語系の資格などがこれに対応する。三つ目は(c) 学生が教養として身に付けようとする場合で、本学においては就職試験対策の様相を呈するケースも多い。

分類	資格名等	学部・学科名、講義系
(a)	基本情報処理技術者試験	△ 総合経営学科
	宅地建物取引主任者	△ 総合経営学科
	防災士	○ 総合経営学部
	産業カウンセラー	○ 観光ホスピタリティ学科
	国内旅行業務取扱管理者、総合旅行業務取扱管理者	△ 観光ホスピタリティ学科
	学芸員	○ 観光ホスピタリティ学科
	社会福祉士、介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー)	○ 観光ホスピタリティ学科
	管理栄養士、栄養士、食品衛生管理者・監視員	○ 健康栄養学科
	フードスペシャリスト、フードコーディネーター	○ 健康栄養学科
	健康運動指導士、健康運動実践指導者	○ スポーツ健康学科
	レクリエーション・インストラクター、第一種衛生管理者	○ スポーツ健康学科
	図書館司書	○ 短期大学部
	医療事務、保険請求事務技能『歯科』、 医療事務コンピュータ能力技能、調剤薬局コンピュータ修了、	△ 短期大学部

	各種教員免許	○	各学科
(b)	日商簿記検定、全経簿記能力検定		簿記論、会計学
	F P 技能士、証券外務員		金融論、銀行論
	販売士		マーケティング論等
	自然体験活動 (NEAL) 指導者		環境系 (総経)
	ホームページ作成検定、日本語ワープロ検定、文書デザイン検定 Microsoft Office Specialist、情報処理技能検定 (各種)		各種情報系科目
	レクリエーション・コーディネータ、トレーニング指導者		
	色彩能力検定		
	アシスタント・ブライダル・コーディネーター		ブライダル系 (短大)
	福祉住環境コーディネーター、ユニバーサルマナー検定		福祉系 (短大)
	TOEIC		TOEIC
(c)	ニュース時事能力検定		
	漢字検定、数学検定、英語検定		
	秘書技能検定、ビジネス文書検定、サービス接客検定		

○は、資格取得・受験資格取得のために、履修すべき授業科目が決められている場合

△は、授業科目が決められているわけではないが、対策を講じなければ合格が難しい

1) 年度当初の予定 <P>

① 検定資格取得の支援と管理

(a) に分類される資格は、授業の単位取得などが前提となるケースが多いため、教務職員でなければ判断できない。従って、本センターでは教務課と協力しながら実績を集計することが任務となる。また (b) に分類される資格についても、現在のところ授業担当教員或いは教員集団の意向が大きく反映している。従って教務マターとしての色彩を色濃く帯びていることは間違いない。このセンターがこうした資格についても支援しているという姿勢を打ち出すためには、その成果を聞き取ったり、効果を上げるための取組として何が必要なかを聞き出しておく必要があるだろう。

(c) に関しては、全学生を対象として支援することが必要で、現在のところ基礎教育センターが窓口となっている状況にある。専任教職員が不在の機関であるだけに、どのような支援が可能かその策を考える必要がある。

現状では、奨励金支給資格および奨励金給付額の決定を通して、支援しかつ管理することになっている。今後はお金の面だけではなく、体制面でも支援の在り方を考える時期に来ているといえる。

② 公務員資格取得の支援

本学の教育の使命・目的である「地域社会に貢献できる人材の育成」を、地元自治体への人材輩出という形で具現化するために、前年度に引き続き、(株)LEC 東京リーガルマインドの全面的協力を得て「公務員試験対策講座」を開設し、本学学生の公務員への就職支援に取り組む。

2) 実施した活動の概要 <D>

① 検定資格取得の支援と管理

(a) ~ (c) タイプの資格取得状況 (全学部の合計数) は次の通りである。詳細は学生版マニュアル・レポートを参照のこと。

(a) タイプの資格について

教員免許については延べ 62 名、学芸員 13 名、産業カウンセラー 1 名、社会福祉士 4 名、介護

職員初任者研修 12 名、国内旅行業務取扱管理者 6 名、総合旅行業務取扱管理者 1 名、自然体験活動指導者 15 名、栄養士 63 名、管理栄養士 51 名、フードスペシャリスト 59 名、食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）50 名、第一種衛生管理者 82 名、レクリエーション・コーディネーター 4 名、健康運動指導士 26 名、健康運動実践指導者 21 名、トレーニング指導者 7 名、図書館司書 22 名。

(b) タイプの資格について

宅地建物取引主任者 1 名、日商簿記検定 2 級 8 名、3 級 79 名、全経簿記検定 1 級総合 2 名、会計 4 名、工簿 10 名、2 級商業 18 名、工簿 32 名、3 級 141 名、FP 技能検定 2 級学科 2 名、実技 4 名、総合 2 名、3 級学科 29 名、実技 44 名、総合 22 名、証券外務員一種 5 名、二種 2 名、販売士 3 級 19 名、福祉住環境コーディネーター 2 名、医療事務検定 69 名、保険請求事務技能検定『歯科』15 名、医療事務コンピュータ能力 37 名、色彩能力検定 3 級 6 名、アシスタントブライダルコーディネーター 2 名、情報系各種：表計算初段 36 名、1 級 57 名、2 級 442 名、3 級 49 名、データベース 1 級 11 名、2 級 70 名、3 級 7 名、ワープロ 1 級 3 名、準 1 級 13 名、2 級 51 名、準 2 級 116 名、3 級 77 名、ホームページ作成 1 級 50 名、2 級 55 名、文書デザイン 1 級 31 名、2 級 7 名 MO SPPT 43 名、Excel 7 名、TOEIC：700 点以上 2 名、600 点以上 5 名。

(c) タイプの資格について

秘書技能検定 2 級 5 名、3 級 159 名、ビジネス文書 2 級 2 名、3 級 69 名、漢検準 2 級 2 名。

今年度は、前年度までの奨励金支給資格および給付金額の見直しにもとづき改訂された「資格奨励金一覧表」にもとづき、下記の通りの奨励金の給付を行った。

2017年度 前期 資格奨励金給付状況

資格名	奨励金	総経	人間	教育	短大	合計	給付額
日商簿記検定2級	10,000				2	2	20,000
全経簿記能力検定1級会計	5,000				1	1	5,000
全経簿記能力検定1級工業簿記	5,000				3	3	15,000
情報処理技術者試験(表計算1級)	1,000	43	2		9	54	54,000
ホームページ作成検定1級	1,000				30	30	30,000
日本語ワープロ検定1級	3,000				2	2	6,000
Microsoft Office Specialist(Word)	5,000				43	43	215,000
ビジネス文書検定試験2級	3,800				2	2	7,600
色彩検定3級	3,500				1	1	3,500
FP技能士3級(学科)	10,000	3			1	4	40,000
FP技能士3級(実技)	10,000	1				1	10,000
国内旅行業務取扱管理者試験	30,000	1				1	30,000
販売士検定3級	4,100	7			2	9	36,900
福祉住環境コーディネーター3級	2,500				2	2	5,000
TOEIC(600以上)	20,000	2		1		3	60,000
ニュース時事能力検定試験準2級	3,000	2				2	6,000
ニュース時事能力検定試験2級	10,000				1	1	10,000
合計		59	2	1	99	161	554,000

2017年度 後期 資格奨励金給付状況

資格名	奨励金	総経	人間	教育	短大	合計	給付額
日商簿記検定2級	10,000				6	6	60,000
全経簿記能力検定1級会計	5,000				3	3	15,000
全経簿記能力検定1級工業簿記	5,000				8	8	40,000
基本情報技術者試験	30,000	1				1	30,000
情報処理技術者試験(表計算初段)	3,000				36	36	108,000
情報処理技術者試験(表計算1級)	1,000	2			90	92	92,000
情報処理技術者試験(データベース1級)	1,000				11	11	11,000
ホームページ作成検定1級	1,000	20				20	20,000
日本語ワープロ検定1級	3,000				1	1	3,000
Microsoft Office Specialist(Power P)	5,000				7	7	35,000
文書デザイン検定試験1級	1,000				31	31	31,000
色彩検定3級	3,500				5	5	17,500
FP技能士3級(学科)	10,000	13			21	34	340,000
FP技能士3級(実技)	10,000	13			16	29	290,000
FP技能士2級(学科)	15,000	2			2	4	60,000
FP技能士2級(実技)	15,000	2			1	3	45,000
国内旅行業務取扱管理者試験	30,000	6				6	180,000
総合旅行業務取扱管理者試験	50,000	1				1	50,000
宅地建物取引主任者	50,000	1				1	50,000
証券外務員2種	30,000				2	2	60,000
証券外務員1種	50,000		3		2	5	250,000
販売士検定3級	4,100				12	12	49,200
アシスタントブライダルコーディネーター3級	2,000				2	2	4,000
TOEIC(600以上)	20,000	2			1	3	60,000
TOEIC(700以上)	※10,000	1	1			2	20,000
ニュース時事能力検定試験準2級	3,000				4	4	12,000
ニュース時事能力検定試験2級	10,000	3			4	7	70,000
合計		67	4	-	265	336	2,002,700

※TOEICにおいて1回目の受験で700以上の場合は30,000円、前に600以上で給付されている場合は差額の10,000円を給付。

② 公務員試験対策支援

今年度の公務員講座開設状況と受講学生数は以下のとおりである。

2017年度 公務員試験対策講座

対象学年	講座名	受講者数	開講期間（回数）
学部4年	実践演習講座	9名	2/20～3/31（全30回）
学部3年	基礎教養講座	16名	4/12～7/26 9/27～1/17（全30回）
	基礎専門講座	6名	4/11～7/25 9/26～1/23（全30回）
学部2年	プレ基礎教養講座	23名	4/11～7/25 9/22～1/19（全30回）
	プレ基礎専門講座	15名	4/12～7/26 9/27～1/17（全30回）
学部1年	入門講座	33名	6/5～7/3 9/25～1/22（全20回）
短大2年	実践演習講座	5名	4/13～9/20（全25回）
短大1年	入門講座	26名	5/12～9/19 9/28～1/25（全30回）
全	夏期集中講座	9名	8/17～8/25（全16回）

今年度の公務員就職実績は以下のとおりである。

2017年度 公務員就職実績

学 科	職 名	人 数	学科計
総合経営	安曇野市役所	1名	5名
	天龍村役場	1名	
	長野県警察	2名	
	松本市役所(嘱託)	1名	
観光ホスピタリティ	越谷市役所	1名	5名
	長野県警察	1名	
	新潟県警察	1名	
	松本市役所(嘱託)	1名	
	松本市立博物館(嘱託)	1名	
健康栄養	糸魚川市役所	1名	1名
スポーツ健康	松本市役所	1名	4名
	警視庁	1名	
	長野県警察	2名	
松商短大部	自衛官	1名	3名
	長野県警察	1名	
	大町市役所(嘱託)	1名	
合 計			18名

3) 点検・評価 <C>

① 検定資格取得の支援と管理

(a)～(c)タイプとも、総じて例年並み或いはそれ以上の成果が上がってきていると思われ、着実な前進が見られる。

(a)タイプの資格については、管理栄養士の合格率が過去最高になったこと、社会福祉士の合格率が高かったこと、健康運動指導士の合格者が多いことに対して協会からお褒めの言葉をいただけていること、旅行業務取扱管理者でも総合で合格者が出、教員免許取得者が学科のバラツキがあるものの62名になり、図書館司書資格でも22名が取得出来たことなど、着実に成果が上がっている。

(b)タイプについては宅建、日商簿記などの国家資格のみならず、FPや証券外務員、医療系、情報系など授業の成果を伺わせる各種資格に挑戦し、成果を出している。TOEICでも600点以上

が7名にも達し、グローバル化対応にも遅まきながら成果が出ている。

(c) タイプでも個人の頑張りが大きいと思われるが、基礎教育センターの支援もあり、漢検2級に合格者が出ている。

検定資格取得の支援と管理については、前年度の奨励金支給資格および給付金額の見直しにもとづき改訂された「資格奨励金一覧表」にもとづき資格取得の支援を行った。今年度は、給付資格および給付金額についての見直しは行わなかった。券売機の導入による、検定受験料の納入、受験票の発行事務の機械化が推進され、事務職員の負担がやや軽減した。

② 公務員試験対策支援

公務員資格取得の支援については、対策講座の開講が4年目となり、例年を上回る着実な合格実績へとつながっている。

4) 次年度への改善に向けた方策 <A>

① 検定資格取得の支援と管理

(a)～(c)の各分類ごとに、本センターとしてどのような支援策を講じることができるのか、見直す必要がある。奨励金支給資格および給付金額の見直しを、社会が求める資格の変化やそれに対応した本学カリキュラムの改革に合わせて柔軟に行わなければならない。

② 公務員試験対策支援

公務員試験対策支援については、対策講座の開講時期によって受講者数に大きなばらつきが見られるため、学生にとってより受講しやすいタイミングを模索することが必要である。ここ数年の超売り手市場と言われる就職環境において、公務員試験の前に大手優良企業の採用が決まる状況にあり、能力が高くとも公務員試験まで待てないという学生が少なからず存在する。学生にとって公務員という職業の理解を更に進める必要性がある。

<執筆担当/資格取得支援センター運営部会長 山添 昌彦>

(9) 基礎教育センター運営部会

基礎教育センター運営部会は、今(2017)年度より「部会」として全学教務委員会の下におかれ、総合経営・人間健康・教育各学部から選出された委員6名にくわえ、基礎教育センター所属専門員4名と事務局員3名の計13名で担当した。

当センターの主たる任務は、センターにおける個別指導を中心とした「リメディアル教育」にあるが、近年では、各学部・学科の実状や要望に応えキャリア系科目並びに基礎あるいは入門ゼミなどの講義においても学生全体を対象とした基礎学力の底上げなどにも携わってきている。しかしながら、この点については「教育の質保証」および「単位認定権」といった観点から見直しが求められており、今年度は、その解決・解消が重要課題として位置づけられ解決に取り組んだ。

1) 年度当初の計画<P>

当センターの今年度の活動計画の柱は、以下の4点である。

- ① 従来からの基礎学力づくりへの取組の定着と評価
- ② 「公務員試験対策講座」へのセンター教育的職員の関わり方
- ③ 長期休業における課題の実施と評価
- ④ センターの活動と各学部・学科の講義との関係のあり方の検討

2) 活動状況 <D>

上記計画にしたがって実施・展開された活動は、おおよそ以下の8点にまとめられる。

① センターにおける個別指導

これは、今年度もまた当センターの主要な取組であり、集計したところ、2017(平成29)年4月から18(平成30)年1月までの来室学生数は、短期大学部生延べ558(昨年度762)名、学部生延べ1501(同965)名、計延べ2059(同1727)名と、多くの学生が利用した。

② 朝の学習講座の実施

これもまたセンターの取組の柱となっており、集計したところ、2017(平成29)年4月から18(平成30)年1月までの参加学生数は、短期大学部生延べ167(昨年度680)名、学部生延べ879(同612)名、計延べ1046(同1292)名であった。

③ 各種課題・問題集の実施

人間健康学部健康栄養学科など一部を除き、各学部・学科の要請を受けて「入学前学習用問題集」「夏季課題問題集」「春季課題問題集」などを作成し、実施した。

④ 漢字検定、ニュース検定、数学検定、英語研定、TOEICテスト受験学生に対する指導

各検定の受験希望者を対象に指導がなされ、判明しているものでは、漢字検定3名(準2級2名、2級1名)、ニュース検定5名(準2級2名、2級3名)、数学検定5名(準2級1名、2級4名)がそれぞれ合格しており、TOEICテストではセンター来室学生の1名が670点を獲得している。

⑤ 他部署からの要請に基づく各種協力

総合経営・人間健康学部教職センターからの依頼に基づいて教員採用試験模擬面接に協力すると共に、昨年度に引き続いて公務員試験対策講座(教養)の一部を担当した。

⑥ 「基礎教育センターだより」の発行(年4回)

⑦ 基礎教育センター所属教育的職員の「専門員」への呼称変更とその授業支援の上限設定

基礎教育センター所属教育的職員の呼称が「専門員」と定められると共に授業支援の上限を三分の一未満とすることになり、平成30年度分についてはそれに沿って確認がなされた。

3) 活動に対する評価 <C>

当センター利用学生についてみると、既述のように、個別指導学生と朝の学習講座参加学生の合計数は3105名であり、昨年度の3019名より若干増加しているものの、短期大学部生の減少、とりわけ朝の学習講座参加数の減少が顕著であり、その原因の把握とそれに基づく対応策の検討が求められる。また、センターとしては利用学生が増加しつつあるとの印象である一方、例年実施される2017年度の「学修行動調査」によれば、「基礎教育センターを一回も利用したことがない」と回答した学生が増加しているとの調査結果もあり、その原因を調査すると共に、対策を取る必要があるものと思われる。

その他、上記の各種検定については、それなりの成果が上がりつつあるものの、検定に要する情報センターの負担などの面から再考を求められ、来年度からは、従来どおり指導はするものの試験については学外のものを受けよう指導することとした。

4) 次年度の事業計画 <A>

上述した今年度の状況を踏まえ、次年度については、従来どおり個人に対するリメディアル教育の実施を中心に以下の事項に取り組む。

① 従来からの基礎学力づくりへの取組の強化と評価

- ② 学生が来室し利用しやすいセンターの雰囲気づくりの推進
- ③ センター来室学生の実態分析と、それに基づく増加のための対策の策定
- ④ 「公務員試験対策講座」など他部署からの要請に基づく協力と、その適切性の確保
- ⑤ 今年度の整理を踏まえたセンター専門員と各学部・学科の講義との関係の点検
- ⑥ 次年度からの組織改革に伴う、センター運営部会に代わるスタッフ会議の充実
- ⑦ 読まれる「基礎教育センターだより」の発行

＜執筆担当／基礎教育センター運営部会長 等々力 賢治＞

2. 教育改善推進委員会

教育改善推進委員会は、教育企画推進部会とFD・SD運営部会からなり、研究科・学部・学科単位でのCPを実現するために必要な教育の企画推進と教育改善および職員の業務改善のための活動を支援している。

(1) 教育企画推進部会

教育企画推進部会は、研究科・学部・学科を単位とした各々のカリキュラム・ポリシーの実現のために提案された教育的企画に対して、その妥当性を検討し、資金的な面からその実践を支援することを目的としている。

1) 当初の計画 <P>

各学科の取組は、総合経営学科が「『道の駅』と連携した経営創造教育、協働教育の推進」、観光ホスピタリティ学科が「国内旅行取扱・社会福祉士の資格取得強化策の取り組み」、健康栄養学科が「管理栄養士国家試験受験支援」、スポーツ健康学科が「大学入門ゼミナールでの学習手法の習得と学習時間の獲得」、松商短期大学部が「オリジナルテキスト制作」および「情報処理検定受験支援」である。

2) 実施した活動の概要 <D>

総合経営学科の「『道の駅』と連携した経営創造教育、協働教育の推進」は、2015年度より開始し、3年目となった今年度は、5月22日のキックオフ・ミーティング(本学)に始まり、6月18日の道の駅「中条」でのアウトキャンパス・スタディ、10月22日の道の駅「中条」における本学学生の発案・企画によるスタンプラリー、11月3日長野市中条地域最大「むしくらまつり」への連携・協力を経て、2018年3月13日さいたま新都心合同庁舎で行われた国土交通省の「平成29年度道の駅と大学連携成果発表交流会」に参加し、学生は2017年度の成果として、西山大豆の種まきから商品化という6次産業化への取り組みとして西山大豆豆乳スープの考案・ふるまい、西山大豆おからドッグの販売とスタンプラリーの実施を報告し、活動を締めくくった。

観光ホスピタリティ学科の「国内旅行取扱・社会福祉士の資格取得強化策の取組」は、当該学科開設以来の継続した取組であり、今年度も昨年に引き続き、対策強化の観点から対策講座内容の充実に向けた支援を行った。健康栄養学科の「管理栄養士国家試験受験支援」については、管理栄養士国家試験の合格のための、医歯薬研修協会主催の模擬試験およびインターメディカル主催の模擬試験を実施し、その受験料の一部について支援を行った。スポーツ健康学科の「大学入門ゼミナールでの学習手法の習得と学習時間の獲得」については、同学科の初年次教育における効果的教材の購入、その効果測定のための業者テストの導入を支援した。松商短期大学部の「オリジナルテキス

ト制作」および「情報処理検定受験支援」については、オリジナルテキスト1冊の増刷と一部不完全であったソフトウェアの追加整備の実施を支援した。また、新設の教育学部については「留学への動機を高めるための国内英語留学体験－British Hills 訪問－」について支援を行った。9月10日から13日までの3泊4日で同学科1年生16名が福島県・羽鳥自然公園内のBritish Hillsを訪問した。なお、この教育学部の取組については当初予算には組み込まれておらず年度末における補正予算での対応となった。

3) 点検・評価 <C>

総合経営学科の取組については、今年度も、道の駅「中条」を拠点とした地域づくりと地域活性化を図ることにより、地域発展と学生教育に寄与する活動となった。

観光ホスピタリティ学科の取組については、当学科の基幹資格となる3つの資格について合格率を高めるための対策講座の内容充実を図るものであり、教員の指導法の強化、学生の勉強法の見直し、そして、資格受験のプロに講師をお願いして両方の観点から指導を仰ぐことができ、今後の効果が期待される。

健康栄養学科の取組については、国家試験合格のために、一定間隔で全国模試を受験して、その成績から自分の全国的な成績順位や偏差値、またその経時変化を把握し、それを平素の試験対策の学びに活かすことができた。また、スポーツ健康学科の取組については、初年次教育における教員の負担軽減および学生の知識共通化を図りつつ、学生と教員のコンタクト促進と能動的な学習手法、学習時間の確保の重要性等について実践をもって身につけていく重要な機会を確保することができた。

教育学部学校教育学科の取組については、小学校における英語教育導入および中学校・高等学校英語教員免許一種取得に向けて、1年生に対して教育実習などでの英語の積極的な使用、短期留学を通じた異文化体験への動機付けとして有効な機会となった。

松商短期大学部の取組は、本学の在学生への最適な水準の授業提供を目的とした、両学科専任教員の手による独自テキスト作成の取組であり、平成24年度から実施している。これまでに11冊(001～011)が完成、シリーズ化されてきているが、今年度は、001「海外旅行入門」の増刷を行った。また、情報処理検定の受験支援としては、一部未整備であったソフトウェア「ホームページビルダー」を追加整備し、学生の検定受験対策における学習意欲向上にとって大きな貢献となった。

4) 次年度の事業計画 <A>

総合経営学部(総合経営学科・観光ホスピタリティ学科)は、次年度新たな教育企画として「防災士の育成」に取り組む。同学部では、平成29年度から日本防災士機構が実施する防災士認定資格試験の受験資格を得るための必須科目を置いているが、この分野は、本学部の主要分野となる可能性があり、試行的にさまざまな拡充を図る必要がある。まず次年度は、受講生の経済的負担を軽減させ、防災士の資格が取得し易い環境作りに取り組む。

健康栄養学科においては、より多くの学生が管理栄養士国家試験に合格するために、次年度も引き続き、全国模試の受験機会を確保し、その結果を合格のための指導に役立てていく。また、スポーツ健康学科においても、今年度の初年次教育に係わる取組を継続し、更に就職試験対策をも視野に入れてその取組の拡充を図っていく。

教育学部については、今年度と同様の取組を継続することによって、その教育効果の向上を目指していく。また、松商短期大学部については、オリジナルテキストのシリーズ化の完成を目指しつ

つ、改訂増刷にも対応していく。また、情報処理検定の受験支援としてのソフトウェアの整備を継続し、学生にとってより良いパソコン学習環境の構築に取り組む。

＜執筆担当／教育企画推進部会長 山添 昌彦＞

（2）FD・SD 運営部会

1) 年度当初の計画 <P>

- ① 授業アンケート
- ② 授業改善活動
- ③ 卒業生等へのアンケート
- ④ FD・SD 活動
- ⑤ 新人研修

2) 実施した活動の概要 <D>

① 授業アンケート

通常の 15 回の授業中、およそ 6～9 回目の授業において中間アンケート、および、およそ 13 回目授業以降に「授業についての学生アンケート(授業アンケート)」を実施するよう依頼した。中間アンケートはすべての授業での実施が依頼され、内容は自由であるが、平成 25 年度に作成された雛形を任意で使用するよう配布された。授業アンケートは、専任教員においては前後期各 2 科目程度、および、非常勤教員の全科目において実施した。

アンケートのデータ集計後には、各授業担当者に「改善計画等」の記入を依頼した。同様に、各区分別集合データには学長、学部長、学科長、全学教務委員長などに「改善計画等」の記入を依頼した。以上の内容について点検および校正の後、「授業についての学生アンケート集計報告書～分かりやすい授業を目指して～」の松本大学版、および、松本大学松商短期大学部版を発行した。

今年度からは、授業外学習についての質問の時間設定をそれぞれ 2 倍にし、最大で 2 時間以上、最低で 30 分未満という設定に変更した。

② 授業改善活動

授業改善活動として、授業全期間を対象として授業参観への参加を促した。

前期においては全専任教員 89 人（助手を除く）中、25 名から「授業参観アンケート用紙」が提出され、参加率は 28.1%であった。後期においては、88 名中 22 名から提出があり、参加率は 25.0%であった。

③ 卒業生等へのアンケート

各学部の「卒業生アンケート」および松商短期大学部の「在学生アンケート」について、一部質問項目を見直し、後期末のオリエンテーションで実施した。集計し、個人名の秘匿などチェックの後、自己点検・評価報告書に掲載される。

前年度（平成 28 年度）実施のアンケート結果をもとに、一部の部署で、教育活動や学校運営業務の改善についてディスカッションが実施された。

④ FD・SD 活動

5 月 31 日(水)に「2017 年度新入生プレイスメントテスト結果について」と題した FD・SD 研修会を開催した。講師は住吉廣行学長であった。参加者は、専任教員 54 人、職員 24 人であった。

8月4日(金)に「科研費の採択を目指して～申請書のどのような点に気をつければよいのか?～」と題したFD・SD研修会を開催した。講師は久留米大学の児島将康教授であった。参加者は、専任教員46人、職員5人、大学院生6人、外来者7人であった。

9月12日(火)に実施された松商短大第2回APフォーラム中における「大学におけるパフォーマンス評価の理論と方法～何のためのルーブリックか～」をもとにFD・SD研修会を開催した。講師は京都大学の松下佳代教授であった。参加者は、専任教員41人、職員12人、外来者39人であった。

12月4日(月)に「高大接続改革～大学入学者選抜改革の動き～」と題したFD・SD研修会を開催した。講師は(株)KEIアドバンスの神部悟氏であった。参加者は、専任教員21人、職員18人であった。

3月1日(木)に実施された松商短大第3回APフォーラム中における「金沢工業大学の教育改革とAP(金沢工業大学・福田謙之教授)」および「京都光華女子大学短期大学部の教育改革とAP(京都光華女子大学短期大学部・相場浩和教授)」をもとにFD・SD研修会を開催した。参加者は、専任教員29人、職員12人、外来者23人であった。

各部局でのFD・SD活動は、松商短大部で2回、事務局で12回実施された。

外部でのFD・SD研修にも参加した。

- ・8月25日(金)新潟国際情報大学との合同SD(於:松本大学)
- ・8月30日(水)豊橋創造大学との合同SD(於:松本大学)
- ・9月22日(金)清泉女学院大学、諏訪東京理科大学との合同SD(於:松本大学)
- ・11月4日(土)～5日(日)大学人サミット(於:星槎道都大学)
- ・2月27日(土)大学行政管理学会北関東・信越地区研究会(於:前橋国際大学)

⑤ 新人研修

新人研修を実施するよう、新任者のいる学部長および事務局長に依頼した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 授業アンケート

例年通り実施したが、前年から学内でデータ読み取りシステムを採用したものの、作業の効率化・迅速化につながっていないようである。前年から生データへのアクセスができるようになったものの、分析は進んでいない。また、授業担当教員は2014年度後期からアンケート結果を見た上で改善計画等を記すことになっているものの、何もチェック機能がない状態であり、形骸化してしまう恐れもあるかもしれない。

② 授業改善活動

授業改善活動としての授業参観への参加率は前後期それぞれ、28.1%および25.0%であった。昨年度は64.8%および59.2%であったので、半減以下の変化である。昨年度は認証評価を受けていたということも影響して相対的に実施率が高かったのか、それとも、今年度は前後期ともに期間中一度だけの参加案内であったためにこうなったのかは分からない。授業改善活動をどうしていくべきか検討すべきかもしれない。

③ 卒業生等へのアンケート

今年度はほぼ結果のとりまとめだけに終わり、それについての議論は一部でしか行われなかった。学生の意見をもとにした改善への意識をもっと高めるよう仕向ける必要がある。

④ FD・SD活動

FD・SD研修会は数多く開催できたものの、各部署でのFD・SD活動は少なくなった。活動が

多くなるよう呼びかける必要がある。

⑤ 新人研修

各学部長や事務局長に実施を呼びかけた。今後も継続していければと考える。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

新しくできる FD・SD 委員会において、次の項目について改善・改革されるよう提言する。

① 授業改善活動

現状の授業アンケートと授業参観の実施状況には検討すべき改善点がいくつもある。たとえば、教員が記述する改善計画が特にチェックされていない授業アンケート、見て感想を提出するだけの授業参観、しかも全員が実施していない授業参観というような問題がある。授業アンケートや授業参観に限らず、授業改善活動を今後どう進めていくのか議論して方針を決める必要がある。

② 卒業生等へのアンケート

貴重なアンケートデータを各部局でどのように活用するか考える必要がある。

③ FD・SD 活動

教職員のレベルアップのために必要な研修会を、各部局で活発に開催する必要がある。

④ 新人研修

<執筆担当/FD・SD運営部会 川島 均>

3. 教職センター運営委員会

平成 29 年度の、教職センター活動方針として、以下の目標をあげられた。

松本大学全学教職センターの組織として、教育学部の設立に伴って「教育学部教職支援センター」が設立された。教育学部設立に伴い、総合経営・人間健康教職センターも新たなメンバーを加えて、充実した活動が行われた。また、一昨年度から、行われている教職センター内の主要な活動における会議の議事進行役を分担することでより内容の充実を図った。

1) 目標 <P>

平成 29 年度は、教職に関連する教育学部が設置されたことから、本教職センターも、教育学部教職センターと総合経営・人間健康教職センターを含むものと改められた。教育学部教職センターは、教育学部において教育学部構成員全員が担当することとなった。総合経営・人間健康教職センターについては、構成員も教育学部と兼任ではあるが 2 名の増加となった。ただ、他の構成員も教育学部との兼任であることからの物理的に制限される部分も生じることが懸念される。総合経営・人間健康教職センターは、主要な活動における会議の議事進行役を分担することでより内容の充実を図る。分担は、教育実習連絡会議関係を小松教授、小学校 2 種免許状取得支援プログラム会議を征矢野教授、教員採用受験指導センター運営部会を岸田教授・羽田教授、教員免許状更新講習については武者教授、その他を川島が担当することとした。

① 再課程認定の速やかな実施を目指す。

教育職員免許法改正に伴う、平成 31 年度に向けた教職課程の再課程認定の事前相談と書類の申請を行う。シラバス、教育研究業績書等を学内の各部署と連携して準備し、事前相談を行い、提出へと進める。

② 教員採用試験の合格を目指し、教職センターでの指導を具体化する。

4 年生についてだけでなく、3 年生に対しても採用試験への意欲を高めるために、模擬テストな

どを実施する。また、教育学部との連携の中で、動機づけを高め、実力をつけるための自主ゼミ等の開設も計画する。同時に教員採用二次試験対策のための個人面接及び模擬授業も実施する。

③「教員免許状更新講習」の速やかな実施を目指し、システムの充実を図る。

必修領域2講習、選択必修領域10講習、選択領域20講習を開講する。

④教育学部との連携により、インターンシップ、ボランティア科目の充実を目指す。

教育学部が開設され、教職支援センターに教員経験のある講師が着任したことから、教育学部教職支援センターと総合経営・人間健康教職センターが共同して、インターンシップ、ボランティア科目の充実を目指す。

⑤教職センターの業務内容のシステム化と充実を図る。

教職センターの業務内容のシステム化と共有化を行う。そのために、教職センター専任教員以外のシラバスの点検などを含む業務内容の明確化及びRidocを活用した業務内容と書類の共有化を行ってゆく。

2) 目標への成果・実績 <D>

①再課程認定の速やかな実施を目指す。

平成31年度に向けた教職課程の再課程認定の事前相談と書類の申請が適切に行われた。「シラバス」「業績書等」の提出後の文科省の指摘にはシビアな問題はなく、訂正され再提出がなされた。

②教員採用試験の合格を目指し、教職センターでの指導を具体化する。

「教員採用受験指導センター運営部会」においては、教員採用試験の合格を目指し、センターでの活動が具体化され、春季休業中から教員採用試験に向けて、受験生の動機づけを高め、実力をつけるため模擬試験等を行った。その結果、過年度生7名の合格と私立を含めた現役での教員採用試験において5名の合格者を出すことができた。活動内容は、昨年度と同様に、i) 教員採用一次試験のために集団面接を開催、ii) 教員採用一次試験体育実技対策講座の開催、iii) 教員採用二次試験対策のための個人面接及び模擬授業(事例対応)練習を開催、iv) 「校友会」の開催と並行して在学生および教員採用試験を受験する卒業生のために教員採用試験受験に向けて外部講師による講座を開催、v) 年度当初に、受験への動機づけを高めるために教員採用試験対策公開模試の日程掲示を行った。

③「教員免許状更新講習」の速やかな実施を目指し、システムの充実を図る。

3年目となった松本大学教員免許状更新講習が開催された。松本大学での教員免許更新講習は必修講習(2講)158名、選択必修講習(10講習)168名、選択講習(20講習)363名が開講され述べ689名が受講した。事後アンケートにおいても好評を得た。昨年と同様に5月から11月の期間において、全更新講習が順調に開講された。事務職員を中心とした教職センターの構成員の努力により運営のみならず講習の経営にも順調な成果をあげることができた。

④教育学部との連携により、インターンシップ、ボランティア科目の充実を目指す。

教育学部教職センター、総合経営・人間健康教職センターともに、教員経験のある専門員が着任したことから、共同して、インターンシップ、ボランティア科目の充実を目指している。特に、教育学部教職支援センターでは、新入学年の学年進行によって、新規にインターンシップの対象校を選択し、指導教員の指導のもとインターンシップが行われた。

⑤教職センターの業務内容のシステム化と充実を図る。

教職専門科目以外の、シラバスの点検などを含む業務内容については、教員の増加によって、負担が減少した。Ridoc を活用した業務内容と書類の共有化を行ってゆくことについては、年度末において見ると一応は達成されており、共通化の効果はあったと言える。

3) 成果・実績の点検・評価 <C>

① 再課程認定の速やかな実施を目指す。

再課程認定の事前相談と書類の申請が行われた。一部を除き、特に大きな指摘はなく、シラバス、教育研究業績書等の提出が行われたことは、評価される。

② 教員採用試験の合格を目指し、教職センターでの指導を具体化する。

教員採用試験の受験指導の各項目の充実が図られたことは評価できる。昨年度と同様に、当教育センターの教職経験者を中心に行われた面接及び面接練習は効果が見られた。学生に対する教職課程履修に関する相談支援活動は、教員を主たる進路とする学生向けに、丁寧に行われたことは今後の可能性へと続くものである。

③ 「教員免許状更新講習」の速やかな実施を目指し、システムの充実を図る。

3年目となった松本大学教員免許状更新講習が開催された。本年度も5月から11月の期間において、全更新講習が順調に開講された。これらの開催に向けた事務職員を中心とした教職センターの構成員の努力は、評価できる。

④ 教育学部との連携により、インターンシップ、ボランティア科目の充実を目指す。

教員経験のある専門員 教員経験のある専門員を中心に、共同して新入学年の学年進行による、インターンシップの対象校との綿密な連絡のもと、学生の指導教員との共同で指導が行われたことは、来年度からの、インターンシップ、ボランティア科目の実施にあたって成果があったと認められる。

⑤ 教職センターの業務内容のシステム化と充実を図る。

昨年と同様に、教職センター内での Ridoc の使用は、頻繁ではなかったが、実習関係の書類を中心に、共有すべき書類はアップロードされている状況にあることは評価できる。また、次年度からは、教職センターのすべての会議を、ペーパーレスにする方向で準備が進められていることは評価できる。

4) 次年度への改善事項及び課題 <A>

① 再課程認定の速やかな実施を目指す。

再課程認定終了となる。

② 教員採用試験の合格を目指し、教職センターでの指導を具体化する。

各項目での充実した活動が行われた。昨年度と同様に当教育センターの教職経験者を中心に行われた教員採用一次試験のための集団面接、および教員採用一次試験体育実技対策講座、さらに教員採用二次試験対策のための個人面接及び模擬授業(事例対応)練習は、今後も、教職センターおよび教職支援センターの教員を中心に、継続して行われることが望まれる。

③ 「教員免許状更新講習」の速やかな実施を目指し、システムの充実を図る。

来年度のむけての松本大学教員免許状更新講習の開催に当たっては、受講生の講習申込時における事務的な混乱を避けるために、できれば、専任の事務職員の増員が望まれる。それは、事前・事後アンケートにおける受講生の希望を適切に受け入れるためにも必要であろう。

④ 教育学部との連携により、インターンシップ、ボランティア科目の充実を目指す。

教育学部の新入学生の学年進行に伴うインターンシップ、ボランティア科目の実施は、さらに、充実することが期待できる。同時に、総合経営・人間健康教職センターについても、従来中心であった福祉関係の施設だけでなく、学校での活動も期待できるであろう。

⑤ 教職センターの業務内容のシステム化と充実を図る。

業務内容のシステム化として教職センター内での Ridoc の利用は頻繁ではなかったが、来年度に向けては、より、アップロードされた書類の活用とともに、すべての会議をペーパーレスにする方向で準備が進められている。

＜執筆担当／教職センター運営委員会 委員長 川島 一夫＞

4. 図書館運営委員会

1) 年度当初の計画 <P>

2017 年度は以下のことを目標として運営を進めた。

○図書館サービスの充実と利用の拡大

- ・入館者・貸出冊数・レファレンス件数の拡大
- ・オリエンテーション、利用教育、授業対応等の充実
- ・論文レポート講座、講演会、データベース講座等の開催
- ・ILL、各種機器等、利用案内の周知徹底
- ・各種情報発信、企画展示等の継続的開催

○図書館の基盤整備の促進

- ・選書、蔵書、排架の質の向上
- ・教育、研究への支援体制の向上
- ・過ごしやすい図書館環境の向上
- ・ホスピタリティを含めた職員の資質向上

2) 利用統計及び点検評価 <D・C>

【利用統計】2017（平成 29）年度

図書(雑誌)貸出数・AV 資料閲覧点数（図書：冊、AV 資料：点）

	所 属	貸出数	合 計	AV 閲覧	合 計
短 大	商学科	778(5)	1, 513(13)	375	708
	経営情報学科	735(8)		333	
総合経営	総合経営学科	767(23)	2, 123(56)	206	492
	観光ホスピタリティ学科	1, 356(33)		286	
人間健康	健康栄養学科	1, 487(16)	2, 270(33)	105	620
	スポーツ健康学科	783(17)		515	
教 育	学校教育学科	205(0)	205(0)	17	17
	健康科学研究科	118(11)	118(11)	0	0
	教職員	1, 678(116)	1, 678(116)	26	26
計		7, 907(229)	7, 907(229)	1, 863	1, 863

学生1人あたり貸出数

年 度	学生数 5/1 現在(人)	貸 出 数 (冊)	1人当り貸出数 (冊)
27年度	1,888	7,408	3.92
28年度	1,952	6,954	3.56
29年度	2,004	6,229	3.11

入館者数 (延べ人数) (人)

	27年度	28年度	29年度
館内利用者	88,348	80,286	77,502
学 外 者	268	797	892

(1) 図書館サービスの充実と利用の拡大

○ 入館者・貸出冊数・レファレンス件数の拡大

- ・入館者数は前年比97%、11月以降に活動が鈍くなっている。また貸出冊数は前年比98%となり、入館者数の減少分がそのまま反映されたと思われるが、入館者数が回復すれば結果につながると考えられる。そのため広報活動をきちんと行い、松本大学図書館を内外にアピールすることが必要と思われる。
- ・人間健康学部・大学院生の入館者数が前年比5%ダウンとなっているため、ここに力点をおいたイベント等を開催するなど工夫が必要と思われる。
- ・次世代の図書館利用者育成を担う、教育学部生の利用促進を図りたい。
- ・レファレンス数は昨年並みであった。今後はレファレンスの充実を図っていきたい。

○ オリエンテーション、利用教育、授業対応等の充実

- ・4月上旬の新入生対象の図書館オリエンテーション、3月下旬の在学生対象の図書館オリエンテーション、及び総合経営学部・短期大学部の新生対象ゼミナール別図書館ガイダンスを行った。
- ・新生対象のゼミナール別図書館ガイダンスは、限られた時間のなかで効率よく行える様、実施方法を一考したい。
- ・教育学部1年生全員：4月19日・26日(水)2限「図書館講習」
教室でOPACの使い方と電子情報検索の案内、館内ツアー実施。
- ・教育学部1年生全員：11月22日・29日(水)1限「レポート論文の書き方講座」
レポートの書き方+資料検索方法の説明。資料検索方法では実際にOPAC検索を行い、OPACの見方、本の探し方を説明。
- ・山田先生：10月2日(月)「バイオメディカル文献探索法」受講生8名
データベース講習会を実施。レポート・論文の書き方とデータベースを使用した文献検索方法(Pub Med、医中誌web、Science Direct)の講習を行った。
- ・室谷先生：12月1日(金)4限「レポート論文の書き方講座」受講生15名
「教育指導入門」の時間に実施。レポート・論文の書き方と資料検索方法の説明、図書館で実際に資料を探し当てる実習を行った。
- ・司書科目授業協力として、「図書館基礎特論」の授業で図書館実習への協力。

- 座学と装備、発注、受入、排架、紀要登録等の実習を行った。
- ・利用教育の一環として、ゲームをしながら図書館の使い方等が学べる「謎解きゲーム」を実施した。おおむね好評であった為、今後も継続して行いたい。
- 論文・レポート講座、講演会、データベース講座等の開催
 - ・レポート・論文の書き方講座
 - 前期：5月29日（月）～6月2日（金）30分程度
 - 後期：11月6日（月）～10日（金）45分程度、読書月間の企画として実施
 - ・図書館主催公開講座
 - 6月10日（土）：「地域にある生活に身近な図書館ができること」
 - 講師：舟田彰氏（川崎市立図書館）
 - 12月2日（土）：「学校図書館が学校教育の中の図書館であるために」
 - 講師：中山美由紀先生（埼玉大学・立教大学等非常勤講師）
 - ・「レポート・論文の書き方講座」「図書館主催公開講座」の2講座とも、もっと周知が必要であったと思われる。今後は早めの広報を行いたい。
 - ・「レポート・論文の書き方講座」は年間を通し要望があれば行いたい。
 - ・今年度は実施できなかったデータベース講習会を、次年度は実施したい。
- ILL、各種機器等、利用案内の周知徹底
 - ・ILL（図書館間相互利用）サービス利用率は前年比186%と学生・教職員とも増加した。文献複写や文献検索方法については毎年学生より問い合わせがあるので、データベースの使い方や文献複写の申込方法を周知する必要がある。
 - ・OPAC（図書館蔵書検索）の使い方や本の探し方、館内図等、サービスの周知や案内表示をし、利用者自身で行えるように工夫をした。
- 各種情報発信、企画展示等の継続的開催
 - ・「図書館だより」を館内の机に置き、利用者に見てもらえるよう工夫をした。
 - ・通常展示である映画・ドラマの原作本、直木賞・芥川賞受賞作、本屋大賞展示に加え、新入生向け展示、就活生応援フェア、TOEIC対策、レポート・論文の書き方関連本等の展示を行った。
 - ・常に、話題やニュースなどの新しい情報を取り入れながら、学生に興味を持ってもらえるような展示内容にしたい。

(2) 図書館の基盤整備の促進

- 選書、蔵書、排架の質の向上
 - ・棚担当を決め、担当分野での図書の選書、旧版・不要図書等の入替等責任を持って行うようにした。
 - ・1階電動書架の洋書カビ除去および書籍の洗浄（一部除籍）を実施した。
 - ・絵本のラベルを修正した。
 - ・郷土資料のラベルをわかりやすく修正した。未済分は次年度も引き続き行う。
- 教育、研究への支援体制の向上
 - ・蔵書検索システムがバージョンアップしWeb上で利用者自身による文献依頼が可能になった。利用が一部に限られているので、引き続き広報を行う必要がある。
 - ・レポート課題調査を行い、教員から出された課題に関する図書購入や関係図書を集めてコーナ

一を設置。貸出期間、貸出冊数を制限し対応した。

- 過ごしやすい図書館環境の向上
 - ・視聴覚コーナーのモニター、デスクを10台分入替、ブルーレイを鑑賞出来るようにした。
- ホスピタリティを含めた職員の資質向上
 - ・各種研修会への参加
長野県図書館協会大学専門図書館部会夏期研修会
長野県図書館協会専門研修
長野県図書館協会大学専門図書館部会研究会
平成29年度レファレンス・サービス研修（国立国会図書館関西館）
私立大学図書館協会東地区部会 2017 研修分科会（全6回） 等
 - ・利用者への対応が一様になるよう、職員間での情報の共有を図った。

3) 2018年度の計画 <A>

利用統計にみられるとおり、過去3年間における図書館利用の低下が著しい。その数値も高いものではない。多様な理由や原因が重なり合っていると思われるが、大学図書館としての期待に応えられる図書館運営がなされていないと考えざるをえない。換言すれば、大学・地域のためにできることがまだまだたくさんあるということであろう。この状況を真摯に受け止め、多面的な図書館サービスの拡充に努めることを目標にする。

- 図書館サービスの充実と利用の拡大を図る
 - ・入館者、貸出数、レファレンス、ILL 件数の拡大
 - ・オリエンテーション、利用教育、授業支援等の充実
 - ・人間健康学部、教育学部、大学院生への取り組み強化
 - ・レファレンス、ILL、各種機器等、図書館利用の周知
 - ・広報活動、企画事業の強化
- 図書館サービスの基盤整備
 - ・迅速、的確でホスピタリティのある職員対応
 - ・選書力の向上と蔵書構成の見直し
 - ・教育および研究への支援体制の強化
 - ・学習の場、滞在の場としての快適な図書館環境の創出

<執筆担当/図書館運営委員会 委員長 伊東 直登>

5. 情報センター運営委員会

1) 年度当初の予定 <P>

情報センターでは、通常業務として

① 研究・教育の支援

パソコン教室整備、コンピュータ関連科目支援、オリエンテーション実施、学生アシスタント手配等

② 情報機器の維持・管理

ネットワーク、サーバー類の維持管理、教職員パソコンの管理、貸出ノートパソコンの管理

③ その他

資格取得支援管理、外部講習会の実施等を行っている。その中でも、平成 29 年度当初に計画された情報センターの新規または単発事業は以下のとおりである。

① 研究・教育の支援

- (a) データセンターへのサーバーの移行（継続）
- (b) 教職員使用デスクトップ PC 導入（新任含む）
- (c) 会議システムの入替え
- (d) 教員業績管理システム導入

② 情報機器の維持・管理

- (a) 各階フロア設置パソコンの入替え
- (b) 貸出用ノートパソコンの入替え
- (c) 学内ネットワーク機器システムメンテナンス（ヘルプデスク）
- (d) 1 号館ネットワークアクセスポイント構築
- (e) 2 号館サーバー室ラック内機器の老朽化のための入替え
- (f) 3 号館ネットワーク配線老朽化のための入替え
- (g) メソフィアカスタマイズ（継続）
- (h) 無線 LAN 脆弱箇所改修
- (i) サーバー内ファイルアクセス権限管理ソフト導入

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

多くの通常事業および新規事業は、若干予算の変更はあったものの計画通り実施された。ただし予算面では、保守や管理の費用が下がっているため、全体としては、かなりの減額の補正予算となった。それ以外の業務で、当初計画から新規に追加されたもの等について、以下に記述しておく。

① 研究・教育の支援

- スマートセッションクラウド使用
- SPSS 新規購入

② 情報機器の維持・管理

なし

③ その他

なし

3) 点検・評価の結果 <C>

前年度は委員長と情報センターの職員や一部の教員とで相談・議論をしながら、委員会を開催すること無く様々な事項を決定してきた反省のもと、今年度は 4 回（5 月・8 月・10 月・12 月）定期的に委員会を開催し、学部・学科による様々な事情や教育方針の違いなどを考慮に入れて議論しながら、業務を遂行してきた。

とくに、IO ゲート（ネットワークプリンター）の利用方法や、無線 LAN 接続機器の増加に伴うファイアーウォールの入替え、SPSS の購入、さらに PC 教室での OS（Windows10 への変更）や Office およびソフトウェアについては、様々な方針や考え方の違いなどを考慮に入れて議論を重ねながら、大学全体のことを考慮して決定・実施をしてきた。

ただし、学部・学科レベルはもちろん、教員・職員レベルでも、考え方の違いはあるため、それ

らの意見を吸収し、限られた予算の中で大学全体としての方針を立てることは困難な面が多く、今後とも、より多くの教職員の方々と議論を重ねながら、決定を下していければと思う。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

平成 30 年度は、通常業務に加えて以下の新規事業を予定しており、予算申請を行っている。ただし、情報機器の変化は激しく、学生や教職員から求められるものも、立場の違いによって様々である。そのため、いずれの事業においても委員会で検討しながら慎重に決定していきたい。また、今年度から教育学部が新設され新たな校舎や設備も増えている。これまでにない研究・教育に対する支援や新たな情報機器の購入やメンテナンスなども考慮する必要があると考えられる。限られた予算内で、学生の満足度を上げることができるよう今まで以上に慎重な議論を重ねていきたい。

① 研究・教育の支援

- スマートセッション接続
- アドビ「アニメイト」ライセンス購入
- PC 教室 Windows10 入れ替え
- 仮想デスクトップシステム

② 情報機器の維持・管理

- 在庫管理ハンディターミナルシステム
- 資産管理システム関連サーバー
- 入試広報・キャリアセンターリモートアクセス
- 新規ファイヤーウォール設置

③ その他

なし

<執筆担当/情報センター運営委員会 委員長 浜崎 央>

6. 国際交流センター運営委員会

1) 計画 <P>

ここ数年、本学のグローバル戦略は、学内のグローバル化の推進と、多様な留学先の確保が中心となっている。したがって、前年度の計画においても、①協定校との関係強化や「短期日本語プログラム」の充実等、②海外研修先の整備や新たな協定校の開拓、③通常業務の充実の3つが挙げられていた。平成 29 年度も、基本的には上記の3つの目標を計画の柱に据えた。他方で、平成 29 年度は、前年度に表面化したこれら3つの柱における課題に対して、対策を検討する年でもあった。

2) 活動内容 <D>

2-① 協定校との関係強化：「短期日本語プログラム」の実施と充実等

本年度は、5月に台湾の義守大学と交流協定を締結し、9月には2週間の語学研修に短大生5人が参加した。また、春休みの3月には、本学の学友会メンバーが義守大学を訪問し、同校の学生自治組織と交流した。

「短期日本語プログラム」については、例年通り夏と冬に実施を予定していた。しかしながら、協定校である中国の嶺南師範学院と韓国の東新大学が、国からの補助金等を受けることができなかった等の理由で学生の派遣ができないとの連絡を受けた。その結果、参加者が済州大学からの

招待学生1名になったため、夏の「短期日本語プログラム」は中止することとした。これに対して、冬の「短期日本語プログラム」には、嶺南師範学院から17名、台湾の義守大学から21名、済州大学からの招待学生1名と連携校であるニューヨーク市立大学ラガーディア校の学生1名、さらにはマレーシア在住の学生1名の計41名が参加した。前年度も課題として挙げられていたが、この冬のプログラムにおいても、参加者の日本語能力の差が大きかったため、3つのクラスでの運営となった。クラスサイズとしては、各クラス15名程度の人数で好ましかったが、エクスカッションでバス等を使用することを考慮すると限界に近い状況であった。次年度の課題として、参加者数の上限と下限の設定、参加費用や語学力の参加基準についての再検討等が必要である。

本学学生の海外体験については、科目である「海外研修」の現地研修で、オーストラリア・ニューカッスル大学語学研修に11名（湘北短大と共催）、アメリカ・ノートルダム大学体験学習に3名、韓国・東新大学語学研修に2名、上記のように台湾・義守大学の語学研修に5名、イギリス・リージェンツ大学に2名が海外体験をした。また、2名の学生が韓国の東新大学で交換留学生として半年間留学生生活を体験し、1名の短大生が長野県の交換留学生として1年の予定で中国の河北大学に留学している。さらに、1名の学生が認定留学生として、平成30年の3月から5月まで台湾の義守大学に留学している。その結果、平成29年度に単位認定科目「海外研修」の現地研修で派遣された学生は23名、交換留学が3名、認定留学が1名であった。他方、受け入れでは、協定校である嶺南師範学院から5名、東新大学から3名の計8名の学生を交換留学生（科目等履修生）として受け入れた。

教員交流では、科目の「海外事情Ⅰ」で東新大学の柳在淵先生と中山大学の李國寧先生が授業を担当し、「海外事情Ⅱ」で嶺南師範学院の程麗華先生と義守大学の花城可裕先生が授業を担当した。また、短大部と嶺南師範学院の覚書に基づき、山添教授と糸井が嶺南師範学院で集中講義を行った。山添教授が3月に「簿記」「会計学」の授業、糸井が9月に「世界経済論」と「貿易商務論」の授業を担当した。

2-② 海外研修先の整備

今年度は、5月に台湾の義守大学と交流協定を締結し、学生交流と教員交流が開始された。また、教育学部においては、マルタ大学との連携による留学プログラムの作成に向けた準備を開始するとともに、短大部においても4学期制を活用したプログラムの充実のため、シンガポールやフィリピンでの現地視察を行うなど、教育学部と短期大学部を中心に海外研修先の整備がすすめられた。

2-③ 通常業務の充実

国際交流事業で学生を海外に派遣する場合、また海外の学生を受け入れる場合、渡航費用等、学生の経済的な負担は大きくなる。経済的な理由で留学をあきらめてしまう学生も多い。そこで、経済的な面からの支援体制の整備が求められるが、本学では、政府等の公的補助金を活用した支援、地域企業等の民間の支援金を活用した支援、同窓会等の本学が関係する団体からの支援、そして本学自身の支援の4種類の取り組みを本年度も推進した。

今年度の政府の補助金申請としては、学生支援機構の「トビタテ日本」プログラムに総合経営学部から1件の応募があった。不採択になったものの、学生と教員の意識が変わり今後につながる事が期待される。地域企業等民間からの留学支援については、村瀬組からの支援金を今年度も得ることができ、松本商工会議所と連携した企業支援制度の創設に向けた議論も始まった。ま

た、同窓会支援金については、単位認定科目での留学者に授与される額は維持されるとともに、昨年に続いて国際交流でも使用可能な支援金が増額され、20名を超える学生に支給された。さらに、短大部では、4学期制移行に伴って第3学期や第4学期を活用して海外留学させるプログラムを開発した。このプログラムは3～5か月間の留学を想定し、海外留学時の学費相当額を支援するなどの経済支援を実施するもので、入試の段階で民間の語学試験等を活用した能力証明を重視する「留学支援型AO入試」として導入したが、平成29年度はこの試験区分での入学者はいなかった。

その他の活動としては、日本語スピーチコンテストへの参加や本学訪問団への対応、留学生の生活環境の改善、「フィールド・トリップ」等の留学生支援、海外研修の事務手続きや引率業務等、本学学生の支援活動を行った。このような今年度の一つ一つの活動の詳細については、アニュアル・レポートを参照されたい。

3) 点検と評価 ・次年度に向けて<C・A>

①の協定校との関係強化、その手法としての「短期日本語プログラム」の実施や科目「海外事情」での講師派遣については、これまで通り実施する方向で検討している。しかしながら、「短期日本語プログラム」については、実施の在り方について再検討が必要である。②海外研修先の整備については、各学部の特性を考慮したグローバル戦略が重要な段階に入ってきたと考えられ、1・2年生で実施される全学部共通のプログラムと各学部で実施されるプログラムの検討が今後の課題となる。例えば、現在実施されている「海外事情」は学部共通科目とし、それ以外のプログラムについては各学部の必要に応じて各学部が準備するのが望ましい。すでに、教育学部や短期大学部では独自のプログラムの開発を進めており、今後の方向性としては上記のような棲み分けが進むものと考えられる。③通常業務の充実については、特に留学生用の寮（国際寮）の確保、学内外を含めて留学希望者に対する経済支援体制の充実が次年度以降の課題となる。

<執筆担当/国際交流センター運営委員会 委員長 糸井 重夫>

7. 地域健康支援ステーション運営委員会

文部科学省平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム【テーマA】「食の課題解決に向けた質の高い学士の育成～地域の食に関する課題解決への意欲と実践的能力を有する食の専門家の育成～」の採択を受け、人間健康学部健康栄養学科内に設置され平成22年4月から本格的に活動を開始した。平成24年度からは本学の特徴ある取り組みとして継続され、平成25年9月に文部科学省COE事業の採択を受け、健康運動指導士を専任スタッフとして配置したことから、栄養と運動の両面から地域貢献を理念とし、スポーツ健康学科も含めた人間健康学部全体の地域活動と学内教育をつなぐ窓口として活動の幅を広げている。

1) 組織と会議

- a) 組織：運営委員長1名（健康科学研究科教授） 委員4名（スポーツ健康学科長、総合経営学科、観光ホスピタリティ学科、学校教育学科） 事務局5名
- b) 運営委員会：1回 5月15日

2) H29(2017)年度当初の事業計画 <P>

地域健康支援ステーションのH28(2016)年度の事業計画は以下の通りである。

- a) 健康づくり指導事業
 - ① 栄養健康教育 ② 運動実践指導・レクリエーション
- b) 学生との連携による実践的活動
- c) サポート教員
- d) その他専門活動
- e) 広報・啓発事業
- f) 卒後フォローアップ事業

3) 事業報告 <D>

地域健康支援ステーションの独自の取り組みと、文部科学省より採択を受けたCOC+事業を並行して実施した。

a) 健康づくり指導事業

公共機関、企業、団体等からの依頼を受け、個別指導・集団指導・講演・セミナー・スポーツ栄養サポートなどを行った。主として指導教員と専任の管理栄養士・健康運動指導士スタッフが指導を行い、学生はその補助等を行い実践的学修を積んだ。

① 栄養健康教育

依頼元からのテーマに応じて、クイズや試飲、食事診断などの参加型の内容を組み入れて講話を行った。学生の同行が可能な場合には学生の補助により実施した。

- ・「ハイリスク学生個別栄養指導」(3回)(依頼元：松本大学健康安全センター、指導教員：廣田直子)
- ・「高齢期の食生活の講話と調理実習の講師」(依頼元：真々部公民館、指導教員：廣田直子)
- ・「林業作業士初任者研修の講師」(2回)(依頼元：財長野県林業労働財団、指導教員：廣田直子)
- ・「イスラエルシニア世代との交流事業の講話と調理実習の講師」(依頼元：シルバーカフェ、指導教員：廣田直子)
- ・「食育イベントにおける体験ブース設営」(依頼元：長野県諏訪保健福祉事務所、指導教員：廣田直子)
- ・「自立訓練事業所での調理実習の講師」(依頼元：医療法人芳州会自立訓練事業所あかしや、指導教員：廣田直子)

② 運動実践指導・レクリエーション

健康運動指導士スタッフが中心となり、時にスポーツ健康学科の学生も参加して地域住民及び企業社員並びに障害のある方に、講話と運動指導を行った。学生はスタッフ及び参加者を補助した。企業からも社員の体力測定を依頼され実施した。年間を通して定期的に関行される運動講座では、参加者が継続して楽しく通えるよう、運動の意義についての資料を毎回配布、その後できるだけ講話に沿った内容で運動を行った。内容に変化を持たせるため、音楽療法などの外部講師を招いたりゲームで競い合わせたりするなど工夫した。定期的に関行されるいずれの講座でも、初期の段階で簡単な体力測定を実施し、参加者一人ひとりの体力を数値化することで実施に向けた目標を持てるよう指導した。

[塩尻市]

- ・「介護予防運動教室の講師」(12回)(依頼元：塩尻市社会福祉協議会本山分会、指導教員：根

本賢一)

- ・「健康教室『のびのび健康時間』の講師」(38回)(依頼元:塩尻市吉田公民館、指導教員:根本賢一)
- ・「介護予防運動教室の講師」(12回)(依頼元:塩尻市社会福祉協議会床尾分会、指導教員:根本賢一)
- ・「認知症予防と運動・速歩教室の講師」(2回)(依頼元:塩尻市峰原地区、指導教員:根本賢一)
- ・「ふれあいセンター洗馬『いきいき講座』の講師」(10回)(依頼元:塩尻市社会福祉協議会、指導教員:根本賢一)
- ・「介護予防講座の講師」(2回)(依頼元:塩尻市広丘ヘルスアップ委員会、指導教員:根本賢一)
- ・「介護予防講座の講師」(依頼元:塩尻市社会福祉協議会奈良井分会、指導教員:根本賢一)
- ・「吉田四分会いきいきサロン運動講座の講師」(依頼元:塩尻市社会福祉協議会、指導教員:根本賢一)
- ・「郷原分会お元気づくり広場健康体操の講師」(依頼元:塩尻市社協地域福祉センター、指導教員:根本賢一)

[朝日村]

- ・「介護予防講座『転ばぬジェントルマンとレディーの会』の講師」(19回)(依頼元:朝日村社会福祉協議会、指導教員:根本賢一)
- ・「横出ヶ崎地区健康運動講座の講師」(3回)(依頼元:朝日村、指導教員:根本賢一)
- ・「旭ヶ丘地区サロン健康運動講座の講師」(3回)(依頼元:朝日村社会福祉協議会、指導教員:根本賢一)
- ・「下洗馬地区地域サロン運動講座の講師」(依頼元:朝日村社会福祉協議会、指導教員:根本賢一)
- ・「原新田地区地域サロン運動講座の講師」(依頼元:朝日村社会福祉協議会、指導教員:根本賢一)
- ・「本郷地区地域サロン運動講座の講師」(依頼元:朝日村社会福祉協議会、指導教員:根本賢一)
- ・「三ヶ組地区地域サロン運動講座の講師」(依頼元:朝日村社会福祉協議会、指導教員:根本賢一)
- ・「精神障がい者デイケアたんぼぼ『レクリエーションと軽運動』の講師」(3回)(依頼元:朝日村、指導教員:犬飼己紀子)

[その他]

- ・「速歩教室の講師」(2回)(依頼元:宮田村公民館、指導教員:根本賢一)
- ・「介護予防講座の講師」(依頼元:ふれあいセンターすがのの郷、指導教員:中島節子)
- ・「食生活改善推進員研修会の講師」(依頼元:長野県松本保健福祉事務所、指導教員:中島節子)
- ・「自立訓練事業所あかしや運動指導の講師」(2回)(依頼元:自立訓練事業所あかしや、指導教員:根本賢一)
- ・「こころケア・デイケアたんぼぼ交流会の講師」(依頼元:山形村・朝日村、指導教員:犬飼己紀子)

b) 学生との連携による実践的活動

県・市町村、企業からの依頼を受け、人間健康学部の学生が主体となり、当ステーションの管

理栄養士、健康運動指導士の専門的サポートと学科教員の指導のもとに、メニュー開発や大学の専門的な機器を使った体力測定などを実施した。

① メニュー開発、メニュー提案

- ・「松本山雅スタジアム『食』第8期メニュー開発」（5品商品化）（依頼元：株式会社 松本山雅、指導教員：廣田直子）
- ・「世界健康首都会議 健康弁当提案プロジェクト」（1品商品化）（依頼元：松本市ほか、指導教員：廣田直子 成瀬祐子、参加学生2名）
- ・「社員食堂ヘルシーメニュー提案」（2回提供）（依頼元：㈱サイベックコーポレーション、指導教員：廣田直子）
- ・「三陽商事商品展示会メニュー紹介」（10メニュー）（依頼元：三陽商事有限会社、指導教員：廣田直子）

② 栄養健康教育

- ・「松本山雅ホームタウンイベントブース担当」（依頼元：松本市、指導教員：廣田直子）

③ 地域住民組織の健康づくり研修会受託

- ・「登山同好会会員の体力測定」（依頼元：穂高登高会ワタスゲ、指導教員：中島節子）
- ・「新村ニュースポーツ大会における体力測定ブース担当」（依頼元：新村公民館、指導教員：中島節子）

c) サポート教員

授業を担当する教員から、講義のサポートを依頼され実施した。

- ・「地域課題研究B（運動・スポーツイベント・林業研修会の現場および事前事後学習）」（3回）（担当教員：廣田直子）
- ・「大学入門 行政栄養士の活動の実際について」（担当教員：矢内和博）
- ・「臨床栄養学実習Ⅱ ロコモ度テストの演習」（担当教員：藤岡由美子）

d) その他専門活動

- ・「一日限りのレストラン」運営支援（健康栄養学科主催の事業、指導教員：成瀬祐子）
- ・「ポリ袋で料理を作ろうコーナー」実施（松本広域ものづくりフェアへのイベント参加）

e) 広報・啓発事業

ホームページ、学報「蒼穹」、キャンパスガイド等で、内外に当ステーションの活動内容等を紹介したほか、在学生へのオリエンテーションにて当ステーションの活動を紹介し学生の参加を促した。

また学外の講演会や研修会、イベント等において当ステーションの活動と具体的な取組みを発表した。

- ・「地域健康支援ステーションのホームページ更新」（随時）
- ・「蒼穹」第127、128、129、130号への原稿執筆
- ・健康づくり研究討論会「活動事例発表」（演題「学生の提案する『健康弁当』プロジェクトの取り組み 第2報」）
- ・在学生オリエンテーション「ステーションの活動紹介」（新2・3・4年生対象）

f) 卒後フォローアップ事業

人間健康学部の卒業生および在学生を対象に、健康知識の習得やキャリアアップをめざした

事業を実施した。

COC+講演会・卒業生フォローアップ研修会

講演会「アンガーマネジメント～イライラや怒りの感情コントロール方法～」

講師 一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 関奈保子氏

4) 点検・評価の結果 <C>

a) 健康づくり指導事業

- ① 栄養健康教育 ② 運動実践指導

地域からの依頼を受け入れた健康づくり指導事業は 28 件で受講者は延べ 2,922 名であった。そのうち、学生の同行した事業は 12 件で延べ 31 名の学生が参加した。

ステーションスタッフが講師となって出向き指導したことにより、地域の食と栄養による健康づくりの意識の啓発および実践者の増大に寄与したものと考えられる。

参加者からは、運動の重要性について改めて認識した、自分だけでなく家族も一緒に「ながら運動」をするようになった、膝痛がなくなった、教室参加のメンバーでウォーキンググループをつくった、等の前向きな感想をいただいた。

また、学生にとっては、現場に同行した活動においては健康教育におけるプロセス（PDCA）を、実践的に学ぶことができ、学内で既習の内容を実際の教育現場で活用することで自身の専門知識の不足を知り、授業での学びへのモチベーションの向上にもつながった。また、学外に出て地域の人々と接する中で言葉づかいや態度等を学び、就職活動や就職後の就業にも活かされる経験となった。学生の同行が難しい講座では、事前に教育教材の作成補助など教育現場を想定しながら健康教育の内容を企画立案する形で学生と連携する活動も行った。

また事業の依頼者からは、学生が関与することにより活気が生まれる等の成果が出るとの声も聞かれ、好評であった。

b) 学生との連携による実践的活動

学生との連携による実践的活動は 7 件で活動に参加した学生は延べ 41 名であった。学生は今までの学習の振り返りとこれからの学びのポイントを掴むことができた。

大学教員とステーションスタッフのコーディネートのもと学生が主体となって取り組んだメニュー開発については、アイデアを提案するものから学生自身が実際に試作調理するもの、飲食業者に採択され商品化されるもの等、幅広い分野において活動を展開することができた。実際に商品化された物として、松本山雅フットボールクラブのスタジアム飲食物は 5 品目で、販売日にはそれぞれ完売した。世界健康首都会議で販売した健康弁当は当日 250 食が完売しその後も業者が注文販売に応じている。商品展示会でのアイデアメニュー紹介は展示会参加者からの評判もよく、紹介メニューのうちの 1 つを業者が新商品として検討したい？との申し出もあった。これらの活動は、学生にとって自分のアイデアが具体化され商品となる過程での学びも多く、実際に販売される達成感は大いと思われる。

運動指導現場への学生の参加は、ゼミ等で実際に運動指導を行う際のバリエーションの豊かさに繋がっている。また、卒業研究・ゼミナール活動等で現場を持っていない学生にとっては指導者としての心構えやスキルアップ習得の場となっている。低学年での現場参加は高学年で履修する現場実習の予習の位置づけとしても活用できる。学生の多くは参加したことは大変有意義だったと答えていることから今後も積極的に当ステーション活動に勧誘していきたい。参加学生の活

動はテレビ・FMラジオ・新聞等に数多く取り上げられ、地域に学生の活躍が広く知られることとなっている。

c) 広報・啓発事業

ホームページへ実際の活動内容を逐次掲載するように心がけ、訪問数は717で広く当ステーションの活動を披露することができた。学報「蒼穹」への原稿執筆は年4回行い、多くの読者に広報を行うことができた。

掲示板や在学生へのオリエンテーションを通して学生の活動参加を促すと共に、学外の講演会や研修会、学会、イベント等あらゆる機会を活用して当ステーションの活動と具体的な取組みを発表することで健康づくり関係機関等に存在をアピールできた。

d) 卒後フォローアップ事業

在学時に登録した卒業生や在学生、地域の方々を対象にキャリアアップや専門知識習得をめざし、COC+講演会と併催で行った。参加した在学生や卒業生からは知識が広がったと好評であったが、学生の参加人数が少ないことから開催内容を検討するなどして卒業生の参加者の増大を図るなど、今後に向けての検討が必要である。

5) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

地域から当ステーションに依頼される件数は、口コミや広報により年々増加している。限られた専任スタッフでは、すべての依頼に対応することが難しくなっており、人材の確保をどうするのが依然として当ステーションの課題である。この問題を解決するためには学校全体の方向性の中で探っていく必要がある。

また、受託した事業への学生の参加者をできる限り増大させ、その活動を通じて人間健康学部にある組織として広い視野を持った学生の育成にも寄与したいと考えている。

a) 健康づくり指導事業

健康づくりには栄養と運動のバランスが重要である。地域の健康づくりを効果的に支援するために、地域や企業において管理栄養士スタッフと健康運動指導士スタッフが有機的に連携した活動を展開した。今後においてもこうした連携により、人間健康の視点を意識した活動を充実させるとともに、栄養と運動の両面からの地域活動をさらに推進したいと考えている。

b) 学生との連携による実践的活動

イベントでのブース担当や体力測定や食事診断を伴う研修会などは、広く地域住民とふれあえる貴重な機会であり、大学のゼミナール活動や実習にも応用できる取り組みも多い。そのため、さまざまな機会を捉えて学生にそのメリットを伝えると共に興味あるより多くの学生が参加しやすくなるよう工夫していきたい。メニュー提案は専門知識の学習がまだ十分ではない低学年でも行いやすい取り組みであり、活動を通じて学年を超えた交流ができるという特徴がある。そのため学生への働きかけを工夫したいと考えている。

c) サポート教員

教員へのサポートを可能な限り実施していきたいと考えている。

d) その他専門活動

依頼された事業のみならず、地域の健康づくり支援に繋がる案件については可能な限り関わり、貢献したいと考えている。

e) 広報・啓発事業

活動報告を記事としてまとめ、積極的にホームページや学報等に掲載していくとともに、内外へのステーション活動のアピールを、機会を捉えて行っていく。

f) 卒後フォローアップ事業

人間健康学部の卒業生の資質の充実および向上を図るための事業として、より多くの卒業生の参加を促すために事業の内容等について更に試行錯誤を重ねていきたい。事業継続について検討する必要性も生じるかもしれない。

＜執筆担当／地域健康支援ステーション運営委員会 委員長 廣田 直子＞

8. 地域づくり考房『ゆめ』運営委員会

平成29年度も昨年度に引き続き、地域づくり考房『ゆめ』（以下『ゆめ』という）専任教員不在であり学生と地域を実質的にコーディネート及び学生の教育的なサポートをする常駐スタッフ不足の体制であった。7月より非常勤職員を1名増員したが、常駐スタッフによる地域や学生への支援力不足は解消せず、結果的に『ゆめ』常駐スタッフが状況を判断し決断する体制確立への課題が明確となった1年である。運営委員は、教員7名（各学科より1名）、事務職員4名（課長1名、非常勤3名）にて運営した。運営委員の教員は、専任教員が不在となった時にやむを得ず各プロジェクトの指導を担当していただいていたが、委員の異動により学生活動（プロジェクト）への日常的支援は困難であることから運営委員会の機能を以下のように見直した。

- ① 運営の方向性を審議
- ② 学生生活に支障がないよう学生の所属する学部学科との連携
- ③ 各学部学科の専門性と学生の活動のコーディネート

また、昨年度より取り組んでいる、学生の参加状況の改善により、多くの学生が『ゆめ』の活動に関わることができるようになってきている。しかし、学生の活動の活発化は、学生への支援や地域との連携業務の負担の増大をもたらすため、地域や学生のコーディネートや支援を専門とする常勤スタッフを確保することが重要である。

1) 平成29年度当初の事業計画 <P>

地域づくり考房『ゆめ』の平成29年度当初の計画は以下のとおりである。

- ① 学生の地域活動促進事業
- ② 学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業
- ③ 『ゆめ』自主事業
- ④ 『ゆめ』運営組織の整備
- ⑤ 広報啓発事業

2) 平成29年度事業報告 <D>

① 学生の地域活動促進事業

新入生の『ゆめ』への活動促進を図るため、ウェルカムパーティーにて活動紹介を行ったり、各プロジェクト等の活動を紹介するチラシや小冊子を配布したり、学生スタッフ及び各プロジェクトによる説明会「ゆめカフェ」を行った。また「地域社会と大学教育」（学部一年生必修）の中で『ゆめ』の活動を紹介する時間をいただいた。

今年度の『ゆめ』に対して地域からの年間受入れ件数は65件、そのうち学生の年間参加件数

は24件あり、参加学生の延べ人数は119人となった。

② 学生と地域との連携による社会貢献活動へのコーディネート事業

i) 学生の自主企画

学生の自主企画による活動は、学生チャレンジ奨励制度対象プロジェクトが6チーム、対象外プロジェクトが3チーム、松本大学支援によるプロジェクトが1チーム稼働した。

ii) 地域からの依頼による活動

行政や企業、自治会、NPO等からの依頼を受けて学生が参加したイベントは24件あった。また、新村地区との関係も重視し、地域づくりセンターや公民館との情報交換を行い、新村地区運動会のお手伝いやオープン大会・新村文化祭・ウォークラリーへの参加などにつながった。

③ 『ゆめ』自主事業

平成29年度学生チャレンジ奨励制度と企画書作成指導

29年度の地域づくり学生チャレンジ奨励制度審査会は、継続的事業については3月（前年度）に行い、1年生などが加わることができる新規事業については、9月に行った。本年度は6プロジェクトが活動し、2団体は9月に応募したプロジェクトである。9月の審査会では、前期の活動が活発化したため予算不足が生じ、活動費の追加補正を行うプロジェクトがあった。活動の内容によって後期の活動計画を見直し、必要に応じて助成額上限までは補正を認めたが、これも能動的に活動するための支援として今後も継続させたい。

プロジェクトは、『ゆめ』専任教員が不在となったときから昨年度までは運営委員が分担し活動の担当を決め、『ゆめ』の職員と協力して活動の指導や相談、会計指導・報告書作成指導などの支援を行うことで、奨励金の適切な運用を管理しつつ自主事業の支援を行った。しかし、日常的な支援の難しさに加え、運営委員の異動により継続的な支援の困難さが生じたため、日常的な支援について可能な限り『ゆめ』の常駐スタッフで行い、運営委員に限らず本学全体として専門分野の教員との連携を進めることとし、運営委員の教員には、各学部学科とのパイプ役として役割をお願いした。

また、3月13日には、学生チャレンジ奨励制度の活動報告会を実施した。次年度の学生チャレンジ奨励制度の審査については、学生に周知徹底が出来ず必要書類の提出が間に合わなかったため、次年度の早い時期に行うこととなった。

④ 『ゆめ』運営組織の整備

専任職員4名（課長・パート3名）、学生スタッフ7名により、学生活動の相談・支援体制に加え、運営委員5名が各学部学科との調整を図りながら補助的支援を行った。また、専任職員が地域からのニーズの相談窓口となり、活動に関する情報の収集・整理、学生への活動紹介等を行い、学生が地域活動をスムーズに展開できるよう支援した。

⑤ 広報啓発事業

学内外に向け、ウェブサイト（『ゆめ』HP）・学生ブログによる情報発信や『ゆめ通信』による広報紙発行、蒼穹への活動記事掲載を行った。また、(株)アルピコの好意で設置していただいている北新松本大学駅前の掲示板を活用し学生や地域の駅利用者への情報発信を行った。新聞社各社にも記事として学生の活動が取り上げられた。月刊イクジイには、毎月活動を紹介し学生プロジェクトへの参加者を募った。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学生の地域活動促進事業

昨年度からチラシや掲示物、映像資料などについて「まず『ゆめ』に興味関心を持っていただき、『ゆめ』に来ていただく」ことを目的に取り組み、学生が『ゆめ』を訪れる機会が増加している。学生が、自ら学習、行動し結果に繋げ、その反省から次の活動に取り組む『ゆめ』本来の学生活動が展開できた結果と考えている。しかし、年度当初に登録した学生を、継続してプロジェクトの活動に繋げていくことや、興味関心を継続させていくための取り組みはまだ具体的な行動につながっていないため、次年度への課題となっている。

また、3月6日に行われた『ゆめ』活動報告会では、一緒に活動してきた地域の皆様にも参加いただき、情報交換や地域の人の思いを学生が直接受け止める機会となった。ポスターセッション形式により行われた活動報告は、参加者と学生のコミュニケーションが促進された。

② 考房『ゆめ』自主事業

平成29年度地域づくり学生チャレンジ奨励制度は、28年度からの継続及び在学生の新規事業の募集を3月に行い、追加募集として1年生の企画も含めて9月に行った。3月の募集は4件、9月の追加募集では2件であった。また、9月の追加募集時には前期の活動が活性化したことにより、補正が必要となった団体も申請し後期の活動に支障がないように取り組むことができた。

③ 『ゆめ』運営組織の整備

学生が自主的に『ゆめ』を運営していけるようにするために、学生スタッフを中心となり、各プロジェクトの横の繋がりを知り、お互いに支え合っているような体制を目指した。3年目を迎えた夏の研修会（合宿）を、学生スタッフを中心となってプログラムを検討し「国立妙高青少年自然の家」にて合宿形式で行った。今回は、これまで関係構築が進んだ田園調布学園大学や共愛学園前橋国際大学も参加し3大学合同合宿となった。これまでの活動内容について報告集をまとめ、それぞれの団体によるプレゼンテーションにより、他大学の活動からも学びを深めた。

また、3月6日の活動報告会も学生スタッフを中心となり企画し、地域の皆様も参加できるような工夫をし、学生だけではなく地域の皆様にも活動を紹介する場を設けることができた。学生の企画力やプレゼンテーション能力、そして地域の人との交流を通して、地域のニーズを直接受け止めることができた。

④ 広報啓発事業

毎年4回発行してきた広報誌「ゆめ通信」については、本年度は職員体制の変化により、3回の発行とした。内容も学生が中心となって情報を発信できるようにするため、学生に記事の作成を依頼し、教職員で内容の確認をした。分かりやすい広報誌を目指し、活動や本学の教育・学生支援活動への理解が深まり、学生と地域住民との円滑な連携を促す効果となった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

地域社会の創造と発展に寄与する人材を育成するために、『ゆめ』を拠点に、施設・人材の両面で拡充をはかり、支援体制の一層の充実・発展を目指して事業展開していく。

① 学生の地域活動促進事業

学生の地域活動の原点となる開設以来の地域受け入れ票については、学生の参加状況や活動内容の再確認を行い、学生のスムーズな地域活動への受け入れ体制を整えていく。学生が地域活動に興味を持っていただけるような情報提示を模索する。

② 学生と新村地域とのコーディネート促進

新村地区と松本大学は「地域づくりに係る包括連携協定」を締結したことで、学生の地域活動への参加も期待されている。学生も勉学と両立しやすい新村の活動に参加しやすいようにコーディネートを促進したい。また、新村地区も学生に参加だけではなく、学習の場となるように工夫する姿勢もあり、学生成長の場として期待したい。

③ 考房『ゆめ』自主事業

地域づくり学生チャレンジ奨励制度は、3月と9月の年2回の募集とすることで、既存プロジェクトは年度当初から事業展開をすすめ、未熟な自主企画についてはじっくりと時間をかけて企画から支援を展開していく。専任教員が確保できない場合は、本年度と同様に運営委員による補助的支援を行うこととなる。しかし、学生の活動の補助だけではなく、教育的支援や精神的サポートも重要であり専任教員の配置が望ましい。

④ 『ゆめ』運営組織の整備

専任教員が不在のままでは、これまでのような学生への支援が展開できないことが分かってきた。専任教員にこだわるわけではないが『ゆめ』として、学生活動を支援し地域との関係調整を行うコーディネートスタッフが必要である。学生への教育的支援及び学内の組織及び教員との連携を図ることが求められる。将来的な活動の継続を視野に入れると、非常勤職員を増加し、目先の対応を図るだけではなく、『ゆめ』の活動状況から職員や教員の配置について検討する必要がある。

⑤ 広報啓発事業

ホームページやブログ、掲示板での的確・迅速な情報発信を進める。また、実施していない講座の情報がトップページに掲載されているなど実情にそぐわない内容があるため更新が必要と考えている。次年度はホームページの内容の検討を進めなければならない。ゆめ通信についても掲載する情報量を吟味し、分かりやすい紙面を工夫するなど、読み手に伝わるような工夫が求められる。

<執筆担当/地域づくり考房『ゆめ』運営委員会 委員長 廣瀬 豊>

B：学生支援部門

1. 学生委員会

(1) 全学学生委員会

平成 29 年度の全学学生委員会は、総合経営学部、人間健康学部、教育学部および短期大学部より委員長の他に各 2 名（内 1 名は学部主任）、学生課からは課長以下課員 4 名の計 13 名によって構成され、計 12 回の全学学生委員会を開催した。

1) 年間計画 <P>

全学学生委員会では学生生活および課外活動の円滑かつ適正な支援を活動の目的に以下を立案した。

① 松本大学課外活動に関する規定の見直し

課外活動内規運用の適正化及びその見守りの実施。旅費申請、バス利用申請におけるルール遵守、課外活動予算の緊縮化を研究する。

② 部・クラブ・サークル・同好会指導者のマッチング

11 名の指導者より寄せられた変更希望について、本年度より発足する教育学部の教員へのクラブ・サークル等指導者意向調査の結果を踏まえたマッチングを図る。

③ 国内版危機管理マニュアル策定

松本大学「国内版危機管理対応マニュアル」（案）の内容について、教育学部委員を交えた検討と策定。

④ 学部学友会の一本化

昨年度末に開催された臨時学生大会で議決された総合経営学部、人間健康学部、教育学部ならびに短期大学部学友会の組織の一本化、それにとまなう各学友会の預貯金管理の一本化、新設された教育学部新生を対象とした学友会説明会の実施（平成 29 年 4 月）、教育学部学友会の発足と役員公募、「松本大学定期学生大会」における教育学部学友会発足承認と一本化された学友会の本格的運用開始。

⑤ 学生生活支援

学生の修学支援としての日本学生支援機構奨学金の貸与面接、松本大学独自の経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度における書類審査及び面接の適正実施。

同窓会賞、学長賞、地域貢献大賞など各種の学生表彰対象学生及び団体の募集及び審査選定の適正実施。

⑥ 生活指導等

新生を対象とした「交通安全講習会」「不正薬物使用防止講習会」の実施、新入学・進級オリエンテーションにおける鉄道定期券等不正使用禁止、アパート居住者へのゴミ分別徹底指導。

2) 現状の説明 <D>

① 松本大学課外活動に関する規定の見直し

「松本大学課外活動団体運営要領」「強化部及び重点部の遠征に係る旅費規程」「クラブ・サークル等の活動における学外指導者内規」「クラブ・サークル等の活動に関わる大学所有バス等の使用内規」「松本大学強化選手支援内規」についての見直しを実施、強化部及び重点部の遠征の際の旅費について、対象者の範囲を定めることで大学としての支弁範囲を明確化し、加えて大会等の移動手段である大学所有バスの利用ルール策定と申請手続きの明確化を図った。

また、年度の初めに強化部、重点部、クラブ、サークルの代表者に対する内規説明会を実施、人件費及び旅費関連費用が肥大化している現状と、直前申請による学外の運送業者へのバス手配とそれによる費用の増大と、ルールに則った利用申請による費用削減の協力を求めた。

② 部・クラブ・サークル・同好会指導者のマッチング

現指導者を対象に平成 28 年度に実施したアンケート調査の結果、11 名から寄せられた変更希望について教育学部を含めた他学部教員と個別の調整を実施した。

③ 国内危機管理対応マニュアル策定

松本大学版「国内版危機管理マニュアル」（案）の内容について、教育学部委員を交えた検討を実施した。現在の関連規定として「松本大学危機管理規定」「松本大学保安全管理規定」「災害対応マニュアル（学生用）」が存在しており、クラブ・サークルだけではなくアウトキャンパス・スタディ、ゼミやクラブの打ち上げ等、学生個人の旅行なども視野に入れるのかどうかなどの議論が出され、検討を継続することとなった。

なお、国際交流プログラムは 4 月よりスタートするため、海外版危機管理対応マニュアルは平成 28 年度第 11 回全学協議会にて承認、運用がなされている。

④ 学部学友会の一本化

臨時学生大会の承認事項に従い、教育学部新生を対象とした学友会説明会を実施、教育学部学友会の発足と役員のお募りをおこなった。「松本大学定期学生大会」において教育学部学友会発足が承認され学友会の一翼としての活動が開始された。

⑤ 学生生活支援

日本学生支援機構奨学金の貸与面接（定期貸与面接及び臨時採用面接）、松本大学独自の経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度における書類審査及び面接（第 17 期及び第 18 期）は、公示と募集期間の周知を文書によるメール BOX への投函と並行して教職員一斉配信メールにて複数回おこなった。

同窓会賞、学長賞、地域貢献大賞など各種の学生表彰対象学生及び団体の募集及び審査選定は、公示と募集期間の周知を文書によるメール BOX への投函と並行して教職員一斉配信メールにて複数回おこなった。

⑥ 生活指導等

各学部学生委員の運営協力による学年合同ゼミ、クラス等を場とした「交通安全講習会」および「不正薬物使用防止講習会」を企画、松本警察署への講師派遣依頼、同署警察官を講師とした講習会を実施した。

また、新入学・進級オリエンテーションにおける鉄道定期券等不正使用禁止、アパート居住者へのゴミ分別徹底について学生課員による指導を実施した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 松本大学課外活動に関する規定の見直し

「強化部及び重点部の遠征に係る旅費規程」では、旅費を支弁する選手、コーチ、マネージャー、選手の人数について、競技種目を勘案して定めた。

「クラブ・サークル等の活動における学外指導者内規」では、採用手続き、謝金を明確化した。

「クラブ・サークル等の活動に関わる大学所有バス等の使用内規」では、所定期間前迄の申請、最低運行人員を明確化した。

「松本大学強化選手支援内規」では、強化部及び重点部の国内・外の遠征旅費について、対象となる大会等の範囲を定めて大学としての支弁範囲を明確化した。

上述の規定及び内規について、部やサークルの代表者を集めての運用ルールと財政状況の説明会を開催した。

② 部・クラブ・サークル・同好会指導者のマッチング

文化系サークル、運動系サークル各1名の指導者交代を実現した。

③ 国内版危機管理対応マニュアル策定

クラブ・サークルだけではなくアウトキャンパス・スタディ、ゼミやクラブの打ち上げ等、学生個人の旅行なども視野に入れた暫定版の「国内版危機対応マニュアル」（案）の内容検討を継続することになった。

④ 学友会の一本化

教育学部学友会の発足、役員を選出、学友会活動を開始した。

⑤ 学生生活支援

日本学生支援機構奨学金、経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度における書類審査及び面接を適正におこなった。

同窓会賞、学長賞、地域貢献大賞など各種の学生表彰対象学生及び団体の募集及び審査選定を適正におこなった。

⑥ 生活指導等

- | | |
|---------------|----|
| ・報告があった交通事故 | 0件 |
| ・摘発された定期券不正使用 | 1件 |
| ・その他 | 4件 |

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 松本大学課外活動に関する規定の見直し

「強化部及び重点部の遠征に係る旅費規程」「クラブ・サークル等の活動における学外指導者内規」

「クラブ・サークル等の活動に関わる大学所有バス等の使用内規」

「松本大学強化選手支援内規」について、実情を踏まえた内容の見直しを実施したが、1年間の運用から見てきた不適切な部分について必要に応じた見直しをおこなう。

② 部・クラブ・サークル・同好会指導者のマッチング

昨年度に引き続き、学生課及び学生委員会より全教職員に働きかけをおこないマッチング（適正化）を促進させる。

③ 国内版危機管理対応マニュアル策定

頻発する災害、想定を超えた災害をすべて網羅した内容にすることは困難であるため、基本的な危機管理対応事項を盛り込んだ「国内版危機対応マニュアル」の策定を急ぐ。

④ 学友会活動全般の見守り

一本化された学友会活動全般の見守りと始動したばかりの教育学部学友会諸活動の支援。

⑤ 学生生活支援

日本学生支援機構奨学金、経済情勢悪化に伴う就学困難な学生への支援制度における書類審査及び面接の適正化推進。

同窓会賞、学長賞、地域貢献大賞など各種の学生表彰対象学生及び団体の募集及び審査選定の適

正化推進。

「スポーツ特待生」「災害被災学生の支援」などの諸審査の主管委員会、部署を明確にする。

⑥ 生活指導等

「交通安全講習会」および「不正薬物使用防止講習会」の継続実施による事故・違反者抑止を推進する。また、鉄道等定期券不正使用の禁止およびアパート居住学生によるゴミ無分別搬出による地域からの苦情を抑止するための新入学・進級オリエンテーションを機会とした注意喚起を継続して実施する。

＜執筆担当／全学学生委員会 委員長 矢崎 久＞

(2) 総合経営学部学生委員会

総合経営学部の学生委員会は、全学学生委員会の下部組織に位置付けられ、全学学生委員でもある主任1名と学部委員5名の計6名と学生課の職員によって構成されている。うち3名は全学学生委員会の委員であるため、学部内での定期委員会は開催せず、必要に応じて各委員に連絡を取ることでより調整を行った。

1) 当初の計画 <P>

- ① 交通マナーの向上に関する呼びかけ
- ② 学内における学生マナーの向上
- ③ SNSにおけるマナーの向上
- ④ 日本学生支援機構奨学金及び経済情勢悪化に伴う修学困難な学生への支援制度における面接

2) 現状の説明 <D>

① 交通マナーの向上に関する呼びかけ

2017年度に限らず、ここ数年間で総合経営学部の学生が交通事故の加害者または被害者となるケースが増加しており、中には悪質な行為と捉えられかねない事案も発生している。

② 学内における学生マナーの向上

引き続き、喫煙マナーや一人暮らしの学生のゴミ分別マナーといった、学生生活ならびに私生活におけるマナーに関係する事案が複数発生した。

③ SNSにおけるマナーの向上

本学部学生によるSNSへの不適切投稿が発覚したが、これは「本学全体の品位」を落としかねないものであった。

④ 日本学生支援機構奨学金及び経済情勢悪化に伴う修学困難な学生への支援制度における面接

例年と同様に、日本学生支援機構奨学金の貸与ならびに本学の経済情勢悪化に伴う修学困難な学生への支援に関して、面接を実施した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 交通マナーの向上に関する呼びかけ

交通事故防止に関連する呼びかけを行うとともに、1年次の基礎ゼミにおいて警察の方に来学頂き、薬物使用、防犯といったテーマとともに、交通事故防止にかかわる講演をお願いした。

② 学内における学生マナーの向上

喫煙に関しては引き続きマナーの向上を呼びかけるとともに、私生活におけるゴミの分別につい

ては新たに掲示物や配布物を作成し、一人暮らしの学生を対象に啓蒙を図った。

③ SNS におけるマナーの向上

当該学生には面談を通じて厳しく指導した。同時にインターネットリテラシーにかかわる講義で本事案を実際に取り上げてもらい、啓蒙を図った。

④ 日本学生支援機構奨学金及び経済情勢悪化に伴う修学困難な学生への支援制度における面接

各教員により多くの学生に対して詳細な面接を行うことができた。

4) 成果と今後の改善点 <A>

① 交通マナーの向上に関する呼びかけ

継続した学生への注意喚起を行うとともに、加害者である場合には十分な情報を得た上で、社会的責任を果たすべく対処を厳正に行う。

② 学内における学生マナーの向上

継続した学生への注意喚起を行うが、一人暮らしの際のマナーについても、より広い啓蒙活動を行う。また大学周辺の自治会等との定期的な意見交換を行う。

③ SNS におけるマナーの向上

SNS 上のすべての投稿をチェックすることは不可能であるため、継続した学生への注意喚起を行う。また入試広報室の職員と連携し、松本大学に関連する SNS 上の投稿において不適切なものを発見した場合にはすぐに連絡をもらう体制を整備する。

④ 日本学生支援機構奨学金及び経済情勢悪化に伴う修学困難な学生への支援制度における面接

引き続き学生生活支援制度の情報周知を徹底し、経済的な理由から休学・退学をせざるを得ない学生への支援を図る。

<執筆担当/学生委員会 総合経営学部主任 上野 隆幸>

(3) 人間健康学部学生委員会

人間健康学部学生委員会は、選任された学部主任および委員の教員4名から構成される。各学科より一名の学生委員（学部主任と他学科の委員）が全学学生委員会に出席し、定期的開催される全学学生委員会を活動の中心とした。

1) 計画<P>

学部学生委員会は、昨年に引き続き、学友会活動やクラブ活動等の課外活動の活性化、およびより快適な学生生活への支援を目的とし、平成29年度当初の計画を以下のように立てた。

- ① 学友会活動の支援
- ② その他（主に学生の生活支援）

2) 実績・現状 <D>

① 学友会活動の支援

- ・人間健康学部学友会は、執行部、学祭局、体育局、渉外局、および報道局より構成されており、各局員がクラスより選出されている。
- ・これまで人間健康学部学友会が単独で行っていた秋季体育大会が、4学部合同体育大会となった。また、卒業文集についても他学部との共同出版となった。
- ・学友会が一本化され、さまざまな活動が合同で実施されるようになった。

<関連行事>

- ・フレッシュマンフェスティバル (4/29)
- ・松本子どもまつり (5/3)
- ・学部バーベキュー大会(6/28)
- ・花火大会 (7/6)
- ・松本ぼんぼん (8/5)
- ・4 学部合同体育大会 (9/30)
- ・第 51 回梓乃森祭 (10/13~15)

② その他（主に学生の生活支援）

学生の生活支援として、以下の項目について実施した。

[奨学金支援]

- ・第 17 期経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援 (8 月)
- ・第 18 期経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援 (2 月)

[講習・セミナーの開催]

- ・薬物防止・防犯講習会の実施（健康栄養学科 12/22、スポーツ健康学科：12/22）

[その他]

- ・スポーツ特待生資格の継続審議 (8 月・3 月)
また、会議等で、事件・事故等の報告を行った。
- ・日本学生支援機構奨学金の継続審査における、認定要件の厳格化と、クラブの部長選出について意向調査をすることを学部教授会で報告 (4 月)。
- ・健康栄養学科の卒業生が、3 月の転居の際に大量の無分別のゴミをそのまま出し、地域住民の方に大変に迷惑をかけた件について学部教授会で報告し、注意喚起した (5 月)。
- ・クラブの部長について学生課で要望を伺い対処すること、日本学生支援機構奨学金の長期欠席者に対する「休止」の措置を厳格に実施していくこと、『経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度』について学部教授会で周知、報告した。(6 月)。
- ・学内での盗難が相次いでおり、学生に対する注意喚起、指導を学部教授会でお願いした (9 月)。
- ・6 号館周囲での壁当て・騒音について、部・サークルに対して注意喚起をするとともに、6 号館の壁と学内掲示板に壁当て禁止の貼紙をすること、学生が個人的に保険に加入している場合の証書の扱いについて検討することを学部教授会で報告した (10 月)。
- ・大学祭の反省、男女バレーボール部迷惑行為、学生駐車場、事件・事故報告等について学部教授会で報告した (11 月)。
- ・野球部及び女子ソフトボール部寮への大学からの補助額、義守大学との学生交流、国際交流センターとの連携等について、学部教授会で報告した (12 月)。
- ・経済状況悪化等に伴う修学困難な学生支援の対象者募集について、学部教授会で周知した(1 月)。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学友会活動の支援

- ・学部の枠を越えた活動が活発に展開され、その支援を行った。

② その他（主に学生の生活支援）

- ・学生が関与した事件・事故を教員の会議等でその都度報告し、注意喚起することで、事故防止に一定の効果があったと思われる。

- ・新村近隣に住む学生に対し、ゴミ出しのルールを守ることの周知徹底を掲示等により行ったが、今後も継続していく必要がある。

4) 次年度へ向けた改善・改革に向けた方策 <A>

① 学友会活動の支援

学友会活動が学生の自主的かつ主体的な活動となっており、必要な際には可能な限り支援を行って参りたい。

② その他（主に学生の生活支援）

- ・学内外でのマナーやルール（地域住民としてのマナーや遠征先での生活態度、また学内での施錠の徹底など）遵守の徹底を呼びかける。
- ・各種ガイドラインの整備。
- ・奨学金制度の周知。

<執筆担当/学生委員会 人間健康学部主任 福島 智子>

(4) 教育学部学生委員会

教育学部学生委員会は、選任された学部主任および委員の教員4名と学生課職員で構成される。主任と1名の学生委員が全学学生委員会に出席し、定期的開催される全学学生委員会を軸に、学部学生委員会運営を行った。

1) 計画 <P>

学部学生委員会を立ち上げるにあたり、主に以下の4点を行った。

- ① フレッシュマン・セミナーの計画と実施
- ② 学友会活動やクラブ活動の支援
- ③ 大学祭参加への方向性検討と実施
- ④ 教育学部学生委員会の学生支援体制の確立

2) 実績・現状 <D>

- ① 1年生のみの実施であった。初めてのことなので、教員が企画運営する形であったが、各セッションは学生企画で行った。
- ② 2018年度から軟式野球部、吹奏楽部の部長として教育学部の教員が担当することになった。また、学友会組織常任委員会へ教育学部の学生が参加することができた。
- ③ 大学祭では教育学部という特性を生かし、理科実験、子ども向けに手作り楽器体験、サスケ風アスレチック、人の感覚に作用する展示・実験、対人関係ゲーム、食育に関する調理の6つの店を出店した。当日は雨模様だったことが影響してか、小学生が少なかった。
- ④ 教育学部の学生委員の教員を紹介し、基本的にはゼミ担当教員が窓口になるが、相談しづらい場合など、学生委員の教員に相談できることを周知した。

3) 点検・評価<C>

- ① フレッシュマン・セミナー終了後すぐに来年度の方向性を話し合い、1・2年生が参加すること、2年生を中心に企画運営をさせ、2年生はキャリアアップ・セミナーとすることなどが決まった。
- ② 学友会組織を教育学部学生だけではなく教員にも周知し、理解と協力できる体制づくりをしている。

- ③ 近隣の小学校に教育学部の出店を PR し、多くの小・中学生に来てもらえるように宣伝をしている。
- ④ 学生委員の教員は、本人の了解を取って相談を受けたことを主任とゼミ担当に連絡することにした。

4) 成果・改善点 <A>

- ① 12月から1年生に働きかけ、実行委員を中心に準備を進めている。4月から1年生への説明や、しおりづくり、各セッションの企画運営を行った。
- ② 相談窓口を周知したことにより、友人関係の問題や家庭の問題など相談しやすい教員のところへ行き、悩みを相談できるようになり、ぎりぎりまで我慢をし不登校や退学という最悪な事態を未然に防ぐことになっている。

<執筆担当/学生委員会 教育学部主任 濱田 敦志>

(5) 松商短期大学部学生委員会

1) 年度当初の計画 <P>

松本大学松商短期大学部学生委員会の平成28年当初の計画は以下の通りであった。

- ① 学生の自主活動の支援
- ② 学生生活における健康・安全の促進
- ③ ルール・マナーの教育

2) 現状の説明 <D>

① 学生の自主活動の支援

i) 学友会活動の支援

松本大学松商短期大学部の学友会はおよそ30名で構成される常任委員会がリーダーとなって以下のようなイベントを行った。

a) 松商短期大学部学友会単独で行ったイベント

- ・ 新入生歓迎会 (4月6日)・・・短大生に対する新入生歓迎イベント
- ・ 夏季体育大会 (6月14日)・・・1~2学期間の特別学修週間において、第一体育館にて
- ・ 湘北短大リーダーズキャンプ参加 (8月23日、24日)・・・湘北短大校内：短大生16名(うち1年生5名)、教職員2名が参加
- ・ 秋期体育大会 (11月22日)・・・3~4学期間の特別学修週間において、信州スカイパーク体育館にて
- ・ 学友会常任委員改選 (11月)・・・選挙および互選により決定
- ・ 次期学友会リーダーズキャンプ (12月21日)・・・授業終了後、学友会役員と次期役員が集まり、次年度活動の構想などを相談
- ・ 「学友」の発行 (3月)・・・教職員や学生が寄稿

b) 松本大学総合経営学部および人間健康学部学友会と共同で行ったイベント

- ・ 3学部合同ウェルカムパーティー (4月6日)・・・おもにクラブ・サークルの紹介
- ・ 松本子どもまつり (5月3日)・・・地域の子どものための記念手形づくりとヨーヨー釣り
- ・ 花火大会 (7月6日)・・・学内での花火大会
- ・ 松本ぼんぼん (8月5日)・・・松本大学連として参加

- ・大学祭（10月14日、15日）・・・テーマは「A New Beginning ～トビラのその先は～」として開催された。昨年同様に、期間中には湘北短大生が来訪し、ダンスのステージ発表をするなどして、学友会メンバーと親交を深めた。
- ・焼き芋大会（11月6日）・・・多目的グラウンドにて
- ・秋まつり（11月15日）・・・新村保育園の園児やその保護者を招待してレクリエーションやゲームを実施
- ・クリスマスパーティー（12月19日）・・・地域の子供らも参加してコモンルームにて実施
- ・学友会合同リーダーズキャンプ（2月7日）・・・学部および短大の学友会役員が来年度活動について議論
- ・スノーボード教室（2月9日）・・・爺ヶ岳スキー場にて開催し、約30名が参加
- ・学友会新聞「Page.1」の作成（8月、12月）・・・主に学友会イベントやクラブ・サークル活動についての記事を掲載
- ・学友会ブログの運営（通年）・・・主に学友会イベントについて37の記事を掲載

ii) サークル活動の支援

平成29年度の短大部のサークルは以下の通りであった。

- ・バスケットボール
- ・バレーボール
- ・フットサル
- ・ファッション

9月8日には、長野県私立短期大学体育大会があり、バスケットボール、バレーボール、および、バドミントンのサークル員、計約30人が参加し、女子バレーボールと男子バドミントンが優勝、女子バドミントンが準優勝、女子バスケットボールは3位という好成績を収めた。

なお、大学部クラブ協議会に属する団体に短期大学生が所属する場合は、その団体に対してサークル連合の予算から分担金を拠出した。

iii) 他者理解、自己研鑽のきっかけ及び場の提供

学生が他者との関わりを通して、能動的で責任感や自覚のある活動をすることができるよう指導するため、以下のような研修会やイベントを行った。

- ・リーダー研修会（9月19日、20日）・・・1年生のゼミ長と副ゼミ長に対して、1日目をうみてらす名立（新潟県上越市）、2日目をラボランド黒姫（長野県信濃町）で実施した。ここで学んだことを、それぞれがゼミに持ち帰り、ゼミでフィードバックを行った。
- ・ウェルカムフェアでの学生スタッフ起用（3月24日）・・・約40名のボランティア学生が参加し、新入生の履修相談などにあたった。

② 学生生活における健康・安全の促進

学生の健康は健康安全センターが担当し、心理面では嘱託非常勤のカウンセラーもおり、さらに24時間電話対応の外部業者による健康相談も利用した。また、1年生に対しては本学保健師作成による資料を使って、各ゼミで禁煙講習も行った。

交通安全および防犯についての講習は入学直後のオリエンテーションの中で松本警察署から講師を派遣していただき実施した。年度末のオリエンテーションでは消費者生活センターの協力のもとネット詐欺など悪徳な商法について講習を行った。

③ルール・マナーの教育

ルールやマナーは入学直後の1年生オリエンテーション内で「松本大学キャンパスルールブック」を用いて伝えた。また、不正乗車などについては後期オリエンテーションや進級オリエンテーションの中で厳重に注意を与えた。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学生の自主活動の支援

学友会は、常任委員長に立候補して信任投票で当選した学生が突然辞退したことにより、急遽別の常任委員長を擁立するということから始まったが、何とか1年間頑張ってくれた。報道局や渉外局の活動がもっと広がるよう各局長にも問いかけ、特に渉外局では考房『ゆめ』の募集内容を各ゼミに伝達することも始めたものの、定着せずに終わった。学友会の各局等の活性化のためにも、教員を顧問として活動を見守ることなどが必要である。

サークル加入者は、卒業生アンケートに見る2年生のデータでは、前年度と同様に42%であり、在学生アンケートに見る1年生のデータでは「たいへん満足している」および「満足している」と答えた学生が、前年度37%であったのが今年度は40%と微増した。専門ゼミナールのプレゼンテーションの時間を少しいただいて、一部サークルのアピールをしたことも影響したのかもしれない。しかしながら、多くのサークルでもっと活発な活動になるための方策が必要である。

自己研さんの場としてのリーダー研修会では、ゼミへのフィードバックなどで自己の活動を振り返る仕組みができています。ウェルカムフェアのスタッフにもアンケートを取っているため、それをもとに何らかの振り返りをするようゼミ担当教員に協力をしてもらう必要がある。

② 学生生活における健康・安全

学生の健康や安全については一定の対策ができていると思われる。次年度からは薬物防止講習会も実施予定である。

③ ルール・マナーの教育

今年度も6月、2年生の学生に不正乗車の案件が発生した。一方、新村在住の本学学生が分別をしっかりとせずにゴミ出ししていることも報告された。引き続き、気を引き締めて指導していく必要がある。

④ その他

注文部数の減少に伴って、業者による卒業アルバムの制作継続が難しいという問題が顕在化した。議論の結果、2021年3月卒業生からは全員注文とし、費用は卒業諸経費として徴収することを入試要項にも掲載することとした。なお、単価は6000円を予定している。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

次年度に向けては次の項目について改善・改革を検討していく。

① 学生の自主活動の支援

多くの学生が学友会やサークルで活動するよう促進する。また、自己研さんによる自己の成長を認識させる。

② 学生生活における健康・安全の促進

③ ルール・マナーの教育

<執筆担当/学生委員会 短期大学部主任 川島 均>

2. 就職委員会

(1) 全学就職委員会

全学就職委員会は、平成24年度より新設された委員会であり、平成29年度で6年目の活動となる。3学部の就職委員会の主任及び大学院研究科の委員、及び事務局としてキャリアセンター職員が参加して構成された組織である。本委員会の目的は、各学部及び大学院研究科の就職活動支援と調整にある。

1) 年度当初の計画 <P>

全学就職委員会としては学部によって特色があるため、就職活動に関する具体的な計画は各学部に一任する。但し、各学部共通のスタンスとして、内定率の維持、就職環境の好転を受けた量と質の充実、多様化する学生への就職支援の充実を目指すこととした。

共同で行う就職支援としては、保護者就職説明会を学部は5月27日、短期大学部は11月25日に開催、学内合同企業説明会を、3月7日、3月23日、6月17日の3回開催、また、全学合同の企業研究会を、平成29年度は一人3社以上を目安に事前申し込み制をとり行うこととした。

2) 現状の説明 <D>

- ・キャリアセンターの利用状況は、履歴書添削についても原則として事前予約制としており、昨年度同様年間で2000名を超える利用があった。
- ・保護者就職説明会を5月27日に実施し、計165名(総経：総経20名、観光46名、人間：栄養46名、スポーツ53名)の参加があった。
- ・「企業・業界研究勉強会」の機会を増加した
- ・東京での合同企業説明会バスツアーへ計66名(総経：総経12名、観光12名、人間：栄養13名、スポーツ13名、短大：商1名、経情15名)の学生が参加した。参加した学生は、平均5社以上のブースを訪問し、長野県内では見られない大企業のプレゼンを見学するなど大きな刺激を受けた姿が目立った。なお、関東圏での就職を希望する学生や県外出身者の参加が含まれ、応募に発展する活動にも繋がってきている。この他、長野の合説バスツアーでは昨年度4台の大型バスの手配に対して、今年度は5台を準備し参加者数の増加に対応した。
- ・リクルートキャリアの開発担当者による講座をこれまで希望者対象に実施してきたが、今年度新たに通常ガイダンスの枠組みに導入し、全員に聴講する機会を確保、SPIの理解と準備について徹底した指導を行った。
- ・スーツの青山に協力いただき、リクルートスーツ準備にあたっての注意事項、スーツ着用のマナー、ルール等を解説頂く講座を実施した。
- ・学生が就職活動状況をメソフィアに入力することにより、学生・教員・職員の三者が応募状況を共有できるシステムを、今年度新たに導入した。
- ・「キャリア面談」のあり方について見直しを進めた。キャリア面談員の県外者の比率を減らし、新たに県内者を採用したことから、県内者の比率を高めた。

3) 点検・評価の結果 <C>

- ・保護者説明会の参加率は昨年と比べて増加しているが、個別面談希望者は参加者数の2割以下であることから、開催時期や内容等含めた検討が必要であり、参加人数をさらに増加させることを目的に、来年度は5月から10月開催に変更する予定である。
- ・就職活動を控えている学部3年生および短大1年生を対象とした「企業・業界研究勉強会」への参

加者数は昨年 1138 名(全 18 回)であったが、今年度は 1570 名(全 17 回)であった。今年度はガイダンスの時間を利用し、一人 3 社以上を目安に事前申込制としたことが参加人数増に繋がった。

- ・学内合同企業説明会を今年度は計 3 回実施し、参加合計人数は計 1016 名(第 1 回 3 月 7 日 : 472 名、第 2 回 3 月 23 日 : 385 名、第 3 回 6 月 17 日 : 159 名)であり、昨年度並の参加者となった。

4) 次年度に向けた対応 <A>

- ・学生自身に、エントリー企業や合説参加スケジュールを登録させることにより、学生・教員・職員の三者が応募状況を共有できるシステムを稼働させ、実際に学生の利用が始まった。今年度の登録件数のうち概ね 50%強について、学生自身が登録した情報となり職員の業務効率及び、正確なエントリー企業情報の取得に繋がった。次年度はさらに利用度をあげていきたい。
- ・外部システムへの接続により、本学宛てに来る求人を、インターネットを介して閲覧できるようになった(2019 卒生対象より)。これにより、これまで 1500 件前後だった大学宛求人が 3 月の時点で 7000 件を超える求人が対象となった。学生自身で、検索し該当求人を得る必要もあるため、利用の徹底と検索方法の工夫の指導が必要となる。
- ・企業情報の収集及び就職先の開拓については、引き続き積極的に行う。
- ・早期内定と内定辞退の危惧等にかかわる学生指導を徹底する。そのため、今後も内定獲得後に就職活動を継続したい学生のみではなく、ガイダンスや個別指導の中で学生全員に徹底させていく。

<執筆担当/全学就職委員会 委員長 根本 賢一>

(2) 総合経営学部就職委員会

総合経営学部就職委員会は本学部の教員 7 名(総合経営学科 4 名、観光ホスピタリティ学科 3 名)とキャリアセンターの 8 名の事務職員で構成され、全学就職委員会のメンバーとしては、成(総合経営学科)と八木(観光ホスピタリティ学科)が参加した。本委員会活動の主な目的は、本学部の就活生への状況に応じたよりきめ細かな就職活動支援である。

1) 年度当初の計画 <P>

平成 29 年度総合経営学部就職委員会の重点課題は、実際に就職活動を行っている学生一人ひとりに集中し、「きめ細かな就職支援体制を構築することで、就職率の大幅な向上と維持等」を目指ことであった。それを実現するための具体的な業務改善計画は、次の通りであった。すなわち、

〔計画 1〕まず 2・3 年生向けの就職活動関連の諸行事について徹底的な見直しを行い、より効率の高い就職支援体制を構築していく。特に「キャリア面談」(従来のキャリアカウンセリング)、夏期就職合宿、冬期就職活動支援講座、就職活動直前セミナー、保護者就職説明会等について再検討を行っていく。そして、本学部の就職活動支援にもっとも特化する形で成果を出していきたい。これは全学就職委員会との緊密な連携がきわめて重要な事項であることを認識し、働きかけをしていきたい。

〔計画 2〕本学部就職委員会では、学部の特徴をふまえ、公務員(警察・消防・役所など)への就職試験対策を強化していく。引き続き次年度も、大変厳しいとは思いつつ、10 名以上の公務員の輩出を目指していきたい。やってできないことではない。とくに、公務員対策講座などとの連携を図り、優秀な学生について積極的に支援体制を構築し、目標の成果を達成していく。

〔計画 3〕クラス担当教員との密接なコミュニケーションによって 4 年生の状況と動向等をより細かく把握する。クラス担当教員には月末毎に「就職活動進捗状況確認シート」の提出を依頼しているが、受け持っている就活生に何らかの進捗が見られた場合には、教職員と学生の間で速やかに連絡が

取れる体制を構築していく。とくに、このキャリア形成のクラス制は就職支援を目的に新たに作られた体制で、従来専門ゼミとは異なり、より就活生へのきめ細かな支援が可能になると思う。この体制はできる限り長く続けていきたい。また、就活生には学生ポータルを活用してもらい、このツールを用いることで、就活生の状況把握に役立てていきたい。

〔計画4〕大学教育における出口の重要性を学部全教員が共通認識を持ち、引き続き、上記のキャリア形成クラス担当のみではなく、学部全体の就職支援体制の構築、とりわけ学部・学科内の全教員による就職支援体制を構築していく。たとえば、就職活動関連の諸行事に、就職委員のみならず、他の教員も積極的に参加するよう依頼・誘導をしていく。

2) 現状の説明 <D>

上記の当初の計画に対する主な改善の実施状況は、次のとおりである。

〔計画1〕に対しては、3年生に集中している就職関連諸行事の開催について、根本的な見直しが見せられている時期にきていると認識している。とくに、キャリアセンターの事務職員においては、3年生対象の就職関連諸行事に多くの時間と労力が捕らわれ、実際に就職活動を行っていて、マンパワー的にもよりきめ細かなケアが必要な4年生に対する支援が疎かになるおそれもある。そして、各々の行事に対し、従来開催してきたから開催するという認識ではなく、より効率的に就職率を向上させるという重点課題に照らし合わせ、精査していくべきであろう。しかしながら、ほとんどの行事はその開催の必要性和成果面から本年度も開催されることになった。このような行事の開催の有無に対する議論は本学部就職委員会だけでは限界があり、引き続き、全学就職委員会にて議論・検討を重ねていくべきである。

〔計画2〕に対しては、委員会内に専門の担当教員をおき、公務員志望の就活生への積極的な支援を行っている。たとえば、担当教員が公務員試験対策の講座を週1回開設し、試験対策のきめ細かな支援を重ねてきている。しかしながら、公務員試験には一般企業への就職活動とはその性格が少し異なり、とくに科目筆記試験に重点があり、本学部におけるこれまでの対策だけでは高いハードルになっているのも現状である。結果として、本学部の10名の就活生が公務員職（長野県警3名、新潟県警1名、松本市役所（嘱託）3名、安曇野市役所1名、越谷市役所1名、天龍村役場1名）に就いた。今後も公務員関係の就職に一層、工夫を重ねて行きたい。

〔計画3〕に対しては、ゼミ担当教員から月に1回、定期的に就活生の状況を把握し、就職活動進捗状況確認シートを送付していただいている。このシートに基づき、委員会として就活生一人ひとりに対するきめ細かな就職支援の基礎資料として大いに活用している。また、日頃よりゼミ生の状況変動に対する情報を逐次共有している。

〔計画4〕に対しては、教授会と学科会議等を通じて、本学部における就職関連状況を詳細に伝え、学部教員全員で就職活動支援に対する共通認識をもてるようにし、就職関連行事にも就職委員やキャリア形成の担当者ではない教員も興味をもち、参加するよう依頼・誘導した。また、さまざまな形(担当科目の受講生、クラブの学生等)で就活生に、就職活動に関して積極的に声をかけ、関わっていただけるように依頼をした。

3) 点検・評価の結果 <C>

平成29年度には、当初の計画に沿う形で、「きめ細かな就職支援体制を構築することで就職率の大幅な向上と維持等」を強力に進めてきた。たとえば、前述したとおり、キャリア関連科目、就職合宿、そして4年生のための各種就職講座(直前セミナー、学内就職活動対策講座)など多様なチャネ

ルをつうじて、「きめ細かな就職支援体制を構築することで就職率の大幅な向上と維持等」に努めてきた。こうした取り組みの効果が着実に目に見える形で現れたと思っている。しかしながら、就職活動というのはあくまでも学生の自主活動であることなどから、学生自身が大学卒業後のキャリアを真摯に考えることこそ、就職実績の向上への近道と考え、今後もさまざまな創意工夫を重ねて最大限支援していきたいと思っている。各種就職関連行事について、学生への積極的な告知などにより、前年度と比べて参加状況も大きく改善しつつある。

なお、今年度は全学就職委員会において「キャリア面談」のあり方について見直しの議論を進めているが、今後は他の委員会とも連携を深めながら、「大学全体としてのサポート体制の検討」を進めていくことが重要になってくるものと思われる。しかしながら、次年度以降も対処すべき課題は少なくない。

そして、学部だけではなく、全学のレベルでの取り組みが必要なこととしてメンタルに問題がある就活生に対する特別な支援をどうするかという課題である。

なお、平成29年度の総合経営学部4年次生（3月卒業生）の就職状況（下記の表を参照）については、就職率が98.0%となった。これを学科別に見ると、総合経営学科（就職希望者80名、就職内定者79名）が98.8%、観光ホスピタリティ学科（就職希望者71名、就職内定者69名）が97.2%であった。これは就職希望者151名の中で3人だけが就職できなかったことを意味する。これは下記の表でもわかるように平成23年度から見ると、きわめて高い就職率を達成していることになる。今後、地域経済の動向を見極め、地域企業のさまざまなニーズに積極的に応えられるような体制と活動を行っていき、このレベルの就職率を維持していくことが重要であると思っている。

総合経営学部4年次生（卒業生）の就職率の推移

年 度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
就職率 (%)	92.9	94.5	93.2	96.5	99.4	98.8	98.0

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

次年度より全学就職委員会が最終意思決定機関として機能するため、学部就職委員会は全学就職委員会の決定を忠実に実行していくことが重要となる。その上で、以下の計画を全学就職委員会に上程する予定である。

① すべてのクラス担当者に対するサポートの提供

総合経営学部内でクラスを担当する教員に対し、公式・非公式を問わず、学生の就職活動をサポートする情報を提供する。特に承諾書の取り扱いについては安易な提出をしないよう要請するとともに、企業との承諾書提出にかかわる締め切り日の延期交渉など、個別企業ごとの情報を提供する。

② キャリア支援科目の見直し作業の継続

前年に引き続き、2・3年生向けの就職活動関連の諸行事について徹底的な見直しを行い、より効率の高い就職支援体制を構築していく。特に「キャリア面談」（従来のキャリアカウンセリング）、夏期就職合宿、冬期就職活動支援講座、就職活動直前セミナー、保護者就職説明会等について再検討を行っていく。

③ 総合経営学部学生の就職活動の情報収集と細かいサービスの提供

学部内の各学生の就職活動状況を正確に把握し、キャリアセンター職員の相談・面談のみならず、必要に応じて就職委員との面談の場を設けるなど、より学生の実情や心情に即したサービスを提供する。

<執筆担当/就職委員会 総合経営学部主任 成 蒼政>

(3) 人間健康学部就職委員会

1) 年度当初の計画 <P>

平成 29 年度、人間健康学部就職委員会では 11 回の部会を開催し、これまでの積み上げをもとに、学生たちの就職活動に対する意識を高めていくための講義や各種希望制の講座等を計画した。また、「就職内定時期の早期化」を目指して、早い段階からの就職活動を学生たちに促す一方で、昨年度からは特に、“安易な”進路決定を強いることなく、学生が自らの進路や将来についてじっくりと考え、悩み、その上で“納得した”進路決定をするための支援を目指し、学生たちの希望と就職先のマッチングを重視するようにしてきた。具体的には、ゼミ教員との連携やキャリア面談等を通して多様化する学生のニーズや状況等を把握することに務め、内定後の企業選択・決定の相談等にも必要に応じて対応する等の活動を重視した。

しかし、納得した進路決定のためには、学生たちの就職に対する意識を高め（特にスポーツ健康学科においては、数年来、3 年生対象の夏季就職合宿、就職対策講座、もしくは就職活動直前対策講座のいずれかへの参加をゼミ教員と連携して強く促すようにしている）、早い段階から就職活動を始めることが欠かせない。それは、より多くの求人がある時期に活動を開始することにより、選択の幅は広がるであろうし、上述のような時間を確保することが可能となると考えられるからである。

このような目的意識のもと、これまでと同様、就職活動の支援を活性化することを目指した。

2) 実績・現状 <D>

平成 29 年度、人間健康学部就職委員会が行った主な就職支援に関わる活動（学年別に列挙）は以下のとおりである（表も参照）。

	前期（4～9）	後期（10～3）
2 年	キャリア面談（5～6 月）	キャリアデザインⅠ（2 年・必修）
3 年	キャリアデザインⅡ（3 年・必修） 夏期就職合宿（9.6～9.7、9.14～9.15） 保護者就職説明会（5.27）	就職支援ガイダンス 企業・業界研究勉強会（10 月～1 月） メイクアップ講座（12 月～1 月） 就職対策講座（12.24、12.25） 就職活動直前対策講座（2.20） 合同企業説明会（3.7、3.23） キャリア面談（2 月） 東京・長野合説バスツアー（3 月）
4 年	合同企業説明会（6.17）／単独企業説明会 就職活動状況調査（ゼミ担当） 個別履歴書添削相談・個別面接練習・集団面接練習 キャリア面談（必要者のみ 8～9 月）	

① 4 年生に対しての就職支援

- ・ゼミ担当による就職活動状況調査の徹底（キャリアセンターとの連携）
- ・合同企業説明会、及び単独企業説明会への参加促進

- ・未決定者対象のキャリア面談の義務化（8月～9月）

② 3年生に対しての就職支援

- ・前期必修講義「キャリアデザインⅡ」、後期「就職支援ガイダンス」
- ・キャリア面談（2月）
- ・各種希望制講座の実施（主に夏季就職合宿（①コース 9/6～7、②コース 9/14～15）、12月就職対策講座（1回目 12/24、2回目 12/25）、2月就職活動直前対策講座（2/20※今年度は1回のみ開催）
- ・保護者就職説明会の計画・運営

③ 2年生に対しての就職支援

- ・後期必修講義「キャリアデザインⅠ」
- ・キャリア面談（5月～8月）

3) 点検・評価の結果 <C>

① 就職支援

2年生後期より必修講義「キャリアデザインⅠ」、3年生前期の必修講義「キャリアデザインⅡ」、及び後期の「就職支援ガイダンス」といった講義を通して、常日頃から自己のキャリアを考えるための機会を提供した。いずれも例年並みの高い出席率であった。

また、継続して夏季就職合宿、1月就職対策講座、及び2月就職活動直前対策講座といった各種希望制講座への学生の参加を、ゼミ担当より強く促してもらうようにしたため、多くの参加者を得た。

なお、これらの講座は3年生の参加者にとって、就職活動を終えた4年生の先輩学生から体験談を聞き、就職活動に向けたアドバイスをもらえる貴重な機会となっている。また、スタッフとして参加した4年生にとっても、自らの就職活動を振り返り、内定先の企業を深く知り、内定先に対する愛着や誇りを感じることでできる貴重な機会となっているようである（アンケート結果より）。

② 就職状況

人間健康学部卒業生の就職内定率は99.3%（就職内定者150名（就職希望者151名）、学科別：健康栄養学科100%・スポーツ健康学科98.9%）、と継続して高い数字を維持している（過去3年間、平成28年度99.4%、平成27年度98.8%、平成26年度98.2%）。なお近年は、健康栄養学科では、従来どおりの専門職種（栄養士・管理栄養士）に加えて、歯科管理栄養士の募集・採用が増加している。また、スポーツ健康学科では、専門職種（運動指導・医療福祉分野、及び教員等）に加えて、金融業界への採用が顕著に増加するなど、多様な進路選択が実現されている。

これらは、開学部以来の先輩たちの経験から就職活動のノウハウ等が蓄積されつつあり、在学生の就職活動に対する高い意識が定着してきている成果でもあると感じている。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 就職先の開拓

両学科共に、各学科の専門に関する分野でのさらなる就職先の開拓に力を入れていく必要がある。特に健康栄養学科においては、30年度に開学となる長野県立大学の管理栄養士養成課程も視野に入れながら、キャリアセンター職員と連携し、各専門領域の教員や就職委員による企業訪問等を積極的に行っていく必要もある。

② 「就職内定時期の早期化」と「納得した進路決定」の両立

平成 29 年度当初の計画にもある通り、「就職内定時期の早期化」と「納得した進路決定」の両立を引き続き目指していく。そのためにも、就職活動への意識を高められるよう、より一層努力と工夫をしていき、より多くの求人がある時期の活動開始を促していくようにしたい。

なお、近年になって内定後の決定を急がせる企業が散見される。よって、学生たちが「納得した進路決定」を行うために、内定後における企業選択・決定の相談等にも必要に応じて対応していく。

＜執筆担当／就職委員会 人間健康学部主任 齊藤 茂＞

(4) 教育学部就職委員会

1) 年度当初の計画 <P>

教育学部は今年度より新設された学部である。現在は 1 年生のみ在籍しており、就職についてもこれからの 4 年間を見通しての取り組みとなる。初年度の今年度は、教育学部として 4 年間の就職支援をどのように行うのか意見交換を行い、教職と一般就職の支援について検討することとした。

全学就職委員会において、大学全体の就職支援活動の実態を把握し、組織的な取り組みを理解した上で、教育学部として今後どのように学生の就職支援を進めるか方向性を明らかにすることを目標とした。

2) 現状の説明 <D>

教育学部就職委員会を開催した。教育学部教員 2 名とキャリアセンターの職員 3 名が参加し、教育学部としての就職支援の在り方の意見交換を行った。内容は①「教育学部就職委員会」と「全学就職委員会」の運営についての情報共有、②キャリア系科目についての確認、③各種講座について④本学の就職・進路に関わるルールについて等、検討及び情報共有を行った。

さらに、「最近の就職の流れと動向」についてキャリアセンターから説明があり、今後の教育学部の就職委員会の運営について意見交換を行った。

教育学部として教職が主軸となるが、一般就職との関係や切り替えの時期などについて意見交換を行った。

3) 点検・評価の結果 <C>

教育学部として、教職が主になるが一般就職を希望する学生への支援に課題があることが確認できた。その点今後キャリア支援センターとどのように関わっていくのか、さらに検討していく必要がある。また、学部で進める部分と全学で進める部分のすみわけと連携が今後重要となることが確認された。

教員の力をつけながら、一般就職の流れも意識して進めていく「就職支援」が必要であろう。基軸は教職におきながら、個別の学生への対応を行うことが確認された。「松大模試」や教員採用試験の情報提供などは教職支援センター主体で行っているが、一般就職を希望する学生への支援が今後重要となってくる。

今年度の教育学部就職委員会では、一般就職の学生への支援についての課題が明らかになった。そのためにキャリアセンターと教育学部との連携を強化する必要がある。また、学生支援においては、ゼミ担当教員等との連携も重要であることも確認された。

4) 次年度に向けた対応 <A>

教育学部は 3 年生で教育実習（小学校）、4 年生で副免許の教育実習がある。教員採用試験は 4

年生の7月頃から始まり結果が明らかになる時期との関係で、就職活動をどのように行うかが難しい。学生の就職希望を早めに集約し、教員を目指すことと一般就職の関係を整理していく必要がある。

＜執筆担当／就職委員会 教育学部主任 小林 敏枝＞

（５）松商短期大学部就職委員会

就職委員会は、キャリアセンターをはじめとする各事務局と教員の連携を図り、進路支援カリキュラムの作成・実施を行う組織として設置され、平成29年度においては、委員長1名、主任1名、委員4名、事務局3名の計8名で構成され、17回会議を設けて、進路支援に当たった。

短期大学部における進路支援は多岐に渡っており、これは大きく分けて、①キャリア系講義、②インターンシップ、③面接練習および就職相談、④キャリア面談、⑤資格取得、⑥ゼミ担当教員による個別指導という6つから構成されている。これらの進路支援のうち、特に、①キャリア系講義のシラバス作成から始まる講義運営や、②インターンシップの実施、③④の面接練習・相談・キャリア面談については、「就職委員会」および「キャリアセンター」がその中心的役割を担っている。本学キャリアセンターが収集した情報は、キャリア系講義内で学生に周知徹底される。これは、紙ベースのみならず、学生全員が所有するIT端末へも配信される。なお、キャリアセンター内では、さらに細かい情報や、卒業生の就職活動報告書を整備し、学生はこれらの豊富な情報をいつでも閲覧可能である。最新の情報は、就職委員会で逐次把握するとともに、学生の応募状況や就職内定状況等の情報をすべての教員・事務局と共有することで、状況に即応できる体制を構築している。

1) 年度当初の計画 <P>

経済情勢の上昇傾向が継続した平成28年度においては、松商短期大学部学生の就職状況も引き続き好調に推移し、内定率は100%とこれ以上ない高い数値となった。平成29年度においても引き続き経済情勢の好転が見込まれるものの、就職選考会解禁の6月への前倒しが継続されることに伴い、昨年に引き続き学生の負担増加が懸念された。このような情勢を踏まえ

- ① 2年生の就職活動支援については、平成28年度に引き続き、就職相談・面接練習機会の増加、就職委員会からのゼミ担当教員に対する積極的な情報提供、キャリアセンター職員による企業開拓、情報整理等、様々な支援を展開することとした。また、「キャリアクリエイトⅢ・Ⅳ」を引き続き必修科目として実施し、「キャリアクリエイトⅢ」においては、業界・業種研究、マナー研修をはじめとする実践的な就職活動支援を、「キャリアクリエイトⅣ」においては、早期離職防止を目的とする社会人としての必須知識の習得を狙った講義を展開することとした。
- ② 2年生後期において内定を得ていない学生に対するヒアリングおよび個別相談を昨年度同様、2回行うこととした。なお、平成24年度より原則として全学生の保護者に対し、就職委員会から就職活動状況を伝える書面を6月に発送することとしている。さらに、8月、11月には不活発な学生の保護者のみに書面を送付し、保護者と学生に就職問題に真剣に取り組むことを促す取り組みを継続して行うことにした。
- ③ 1年生に対しては、フリーター等で満足してしまうような学生数をより減少させるため、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイトⅠ・Ⅱ」を引き続き必修科目とし、「キャリアクリエイトⅠ」で「現代社会の理解」「働くことの意味」「高等教育機関で勉強することの意味」「学ぶことの意味」「本学で学ぶことの意味」などについて考えさせる取り組みを継続し

て実施し、目的意識の明確化と就業意識の形成を促すことにした。

- ④ 12月から1月にかけてキャリアセンター主催で行われる「業界研究勉強会」への参加を促すこととし、2月には、従来どおり集団面接講座を実施することとした。
- ⑤ 「キャリアスタンダードⅠ・Ⅱ」においては、就職活動のうち、筆記試験対策に特化した内容の講義を実施することとし、進路支援に万全を期している。
- ⑥ 保護者への就職活動状況についての情報提供を行い、保護者も学生と共に就職問題に取り組むことを促す。

2) 現状の説明 <D>

およそ次表のような対応を行った。

	1 学期 (4~6)	2 学期 (6~8)	3 学期 (9~11)	4 学期 (11~2)
1 年	キャリアクリエイトⅠ (キャリア教育)		キャリアクリエイトⅡ (就職指導) キャリアスタンダードⅠ (試験対策)	
	社会教養テキスト配布 数学：e-ラーニング*	社会教養 模擬試験	キャリア面談 企業・業界研究勉強会 集団面接講座 職場見学会(松本市) 保護者説明会 東京・長野合説バスツアー (3月)	
2 年	キャリアクリエイトⅢ (就職指導) キャリアスタンダードⅡ (試験対策)		キャリアクリエイトⅣ (キャリア教育)	
	合同企業説明会(6.17)／単独企業説明会 就職活動状況調査(ゼミ担当) 個別履歴書添削相談・個別面接練習・集団面接練習 キャリア面談(必要者のみ8~9月)			未内定学生対応

キャリアクリエイトⅠ (1年・必) : 現代社会の理解、働くことの意味、学ぶ事の意味等

キャリアクリエイトⅡ (1年・必) : 3月スタートの就活に向けた実践的知識の修得

キャリアクリエイトⅢ (2年・必) : 業界、業種研究、マナー研修 実践的就職活動支援

キャリアクリエイトⅣ (2年・必) : 早期離職防止、社会人としての必須知識習得

キャリアスタンダードⅠ : 筆記試験対応

キャリアスタンダードⅡ : 筆記試験対応

① について

2年生の就職活動支援については、平成28年度に引き続き、就職相談・面接練習機会の増加、就職委員会からのゼミ担当教員に対する積極的な情報提供、キャリアセンター職員による企業開拓、情報整理等、様々な支援を展開した。なお、2年次の必修科目として、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイト」のうち、Ⅲ・Ⅳを実施した。「キャリアクリエイトⅢ」では、業界・業種研究、マナー研修、講演など就職活動にあたり必要な知識の習得を目指すとともに、具体的企業情報の提供を行った。

② について

「キャリアクリエイトⅣ」においては、就職内定者教育を強化することとしつつ、就職活動が遅い未内定学生に対しても当初計画通り、ヒアリングおよび個別相談を2回実施するなど、卒業間際まで就職支援を行えるようにした。

③ について

1年生の就職活動支援については、本学のキャリア教育の中心科目である「キャリアクリエイト」のうち、Ⅰ・Ⅱを実施し、「キャリアクリエイトⅠ」で現代社会の理解、働くことの意味、学ぶことの意味などについて考えさせる取り組みを継続して実施し、目的意識の明確化と職業意識の形成を促した。これら「キャリアクリエイトⅠ」の必修化は、本学学生の「就業力」と「学士力」の向上に資するものであり、目的意識を持って積極的に就職活動に取り組む態度を育成するものである。

④ について

「キャリアクリエイトⅡ」においては、1年次3月にスタートする就職活動に向けた実践的知識の習得を目指した内容の講義を実施した。これにより、就職活動期にスムーズに移行することが可能となる。さらに、1年次2月には、全学生を対象として、本学教職員を面接官とする集団面接講座を実施した。

⑤ について

正規科目以外には、本年度で3年目となる、キャリアセンターが主催「業界研究勉強会」への参加を短大1年生に促したが、これは多様化する進路先に対しての理解をより一層深め、ミスマッチの解消を狙うことが目的である。さらに、本年度から松本市が主催する「職場見学会」への参加を学生に促した。これは、本年度中に2回実施され、それぞれ5名前後の学生が参加した。

⑥ について

保護者に対しては、就職委員会から就職活動状況を伝える書面を6月に発送した。そして、8月、11月には不活発な学生の保護者のみに書面を送付し、保護者と学生に就職問題に真剣に取り組むことを促した。

3) 点検・評価の結果 <C>

2年生に対する支援については、まず、昨年度に引き続きキャリアセンターを利用する学生の数が増加した点である。これは、キャリアセンターの取り組みの成果でもあるといえよう。

内定率については、学生の就職希望先企業・業種の多様化に対応するよう積極的に学生に働きかけた結果、平成27年度の99.5%、平成28年度の100%に引き続き「98.6%」となった。この結果は、経済情勢が好調に推移していることを背景とした地域企業の旺盛な採用意欲に後押しされたところが大きい。1年次から引続くキャリア面談や業界研究、マナー研修をはじめとするキャリア支援プログラムとともに、ゼミナール教員による手厚い個別指導により、不安解消とサポートを充実させた成果であると考えている。

また、基礎学力の高い学生から低い学生まで多様な学生の入学に対応するため、入学前教育を活用して『社会教養』等のテキストを配布し、また、数学にはeラーニングも実施して入学前から基礎学力量向上に力を入れ、1年次の早い段階から一般常識・基礎学力の模擬試験を行い、効果測定を実施している。これらの取り組みがここ数年の非常に高い内定率に寄与していると考えられる。

一方で、平成29年度のインターンシップ参加者は4名と減少の一途をたどっており、改革が求められる点である。この点に関しては、前節でも触れたように松本市主催の「職場見学会」や、長野県主催の「産学官連携インターンシップ」への参加を促すなど新たな試みも行われたが、インターンシ

ップの単位化を含めたより具体的な議論を行う必要がある。

また、最重要課題は学生の就職活動の活発化にある。学生を「求職カードを提出した形式的な就活生」とするのではなく、「就職活動を積極的に行う実質的な就活生」とすることが求められる。平成29年度においては、内定率こそ98.6%とこれ以上ない結果となったものの、進路未決定者のうち就職意思のないものが若干名いることも事実である。従前よりの課題でもある進路未決定者の減少対策についてより深い議論を展開する必要がある。

4) 次年度に向けた対応 <A>

次年度は、日本経済が好調を維持し、それに合わせて雇用環境のより一層の改善が継続すると予想される。しかしながら、平成30年度においても、就職選考会解禁は6月となることが決定している。事実上の就職活動開始時期は平成30年3月と変更がないものの、さらなる就職活動の早期化（内定時期の早期化）が予想される場所である。

これらの状況を見据えながら、インターンシップ参加者の減少という問題に対して、インターンシップの単位化を含めたより具体的な改革案の早期構築を目指す予定である。

最も重要な課題として挙げた学生の就職活動の活発化については、就職活動が遅い未内定学生に対して卒業間際まで就職支援が行えるようにし、特に未内定者への個別のヒアリングの実施回数を増やし、個々の事情に合わせた就職支援を行ってきたが、この成果も着実に表れているため、平成30年度も継続していく予定である。

なお、本学学生の中には集団面接、集団討論で埋没してしまう者が多いと思われ、その対策として従来同様に集団面接の面接練習を行うこととした。これによって就職活動の不安を軽減することを目指している。

また、平成30年度より、就職委員会の組織を残しつつ、従来、就職委員会が行ってきた業務（科目運営等）が本格的にキャリア教育センターに移管されることとなる。これは、キャリア教育と就職支援が現状の就職委員会の活動内に混在し、教員と職員の役割分担が不明確になることで、様々な問題が顕在化してきていることに対する対応である。すなわち、単位認定科目でありながら職員が中心となる科目、事実上就職活動支援の内容でキャリア教育科目として単位認定されている科目等があり、授業内容の見直しと教職員の職務内容の棲み分けが必要になってきた。そこで、本学のキャリア教育と就職関連科目について見直す観点から、就職委員会が行ってきた科目等をキャリア教育センターに移管し、キャリア教育の面から、キャリア教育センターが行うキャリア教育と就職委員会が行う就職活動支援の棲み分けを行うことにしたのである。そこで、次年度は、徐々に授業内容の見直しを行うとともに、就職委員会の本来業務と考えられる就職活動支援の充実を図っていく予定である。

<執筆担当/就職委員会 短期大学部主任 木下 貴博>

II. 研究推進及び管理部門

1. 研究推進委員会

1) 役割 <P>

研究推進委員会の目的は、本学教員の研究活動の支援であり、そのための研究資金の配分について学長に進言することと実際の研究活動実施の支援を委員会は担っている。しかし、研究資金として本学が支援できる金額には限度があるため、教員各人が外部資金を獲得して研究を実施することが望まれる。大学教員の研究活動のための外部資金には、科学研究費補助金を初めとし種々の公的、あるいは民間の補助金があり、教員それぞれが積極的に外部資金の獲得を目指すことが望ましい。しかし、科研費に代表される競争的外部資金は採択率が低く、さらに実績を重視した審査が行われているのが現状である。したがって、これら外部の競争的助成金の獲得のための基礎となる実績をあげる目的で、個人研究費や学術助成金の名目で可能な範囲の研究費を配分し、学内の研究体制を積極的に支援することが本委員会の使命である。

大学教員には、それぞれの専門領域における最新の高等教育を実施する能力と、それを支える研究の推進が求められている。当委員会としては、これらの要求に本学のすべての教員が応えることができるよう、必要とされる研究が滞りなく遂行できる支援制度を維持するとともに、時代と共に変化する要求に合わせて必要とされる改変を継続していく必要がある。

2) 活動目標の実施状況 <D>

- ① 私学事業団経常費補助金特別補助「大学間連携等による共同研究」を積極的に利用するように、学内に積極的に広報を行った。
- ② 過去の実績を問わず、次年度以降の科研費申請の準備になるような研究を支援するための「萌芽研究」の枠組みを昨年度から学内の学術研究助成にも作ったが、今年度もこの枠組みでの募集を行った。
- ③ 平成 29 年度に COC 事業において独自の判断で設定した「地域志向研究の助成」が終了することをうけ、平成 30 年度に限定した対応として、地域志向研究分野についてはこれを継続すべく研究推進委員会において予算枠を設け、研究助成費として募集を行った。

3) 点検・評価 <C・A>

- ① 新しい方式による科学研究費の審査が導入され、今年度は新規に 5 件の研究が採択された。継続中の研究が 5 件あるため、松本大学、松商短期大学部全体で 10 件の研究に対して科学研究費による助成が行われていることとなった。本学においては近年科学研究費の採択数が減少する傾向にあったが、今年度を機に今後科学研究費採択数の増加をめざしたい。その一策として科学研究費への応募数の増加をめざすため、科学研究費の審査体制や若手研究者に対する助成の公募方法などが大きく変わることを学内に周知した。また、平成 29 年 8 月 4 日（金）開催の全学 FD・SD 研修会において、久留米大学分子生命科学研究所の児島将康先生を講師として、「科研費の採択を目指して～申請書のどのような点に気をつければよいのか?～」という講演会を開催した。
- ② 前項の科研費申請の申請者を増やす方策として始めた萌芽研究には本年度も応募があり、予算査定の後 9 件が採択された。研究成果が科研費申請につながることを期待したい。

- ③ 科研費以外の外部資金に関しては、専門分野ごとに状況が大きく違うので、部局ごとに適切な情報収集に努め、各教員に応募を促していく必要がある。
- ④ 平成 25 年度から 5 年にわたり行われた COC（地 [知] の拠点整備事業）の一環として、地域志向の教育・研究・社会貢献活動費用の助成がなされた。平成 29 年度は COC による地域志向教育研究として 18 件の申請が採択され、COC の助成のもと各種活動が実施された。実施状況でも述べたが、平成 29 年度で COC 事業が終了することから、これまでの教育活動や研究の継続には COC に代わる支援が必要であるとして、研究推進委員会による地域志向の研究助成と、教育企画推進部会による地域連携に基づく教育活動の支援を行うこととした。平成 30 年度は地域志向研究助成が 8 件、地域連携に基づく教育活動支援が 10 件採択され、これら地域を志向した研究に対する助成数は前年度を維持することができた。一方、「学内研究助成は教員一人につき 1 件とする」という学内ルールがあることから、この間 COC 事業により維持されてきた地域貢献、地域の活性化等に関わる教育・研究活動の経済的裏付けについては、松本大学の理念や使命・目的とも深く関わることから、今後学内のコンセンサスを得て新たな支援体制を組み立てていく必要がある。

＜執筆担当／研究推進委員会 委員長 木藤 伸夫＞

（1）発明管理部会

1) 年度当初の計画・本年度の活動状況 <P・D>

本部会は、平成 28 年 8 月 1 日に施行された「松本大学知的財産管理委員会規程」に基づいて設置され、松本大学及び松本短期大学の教職員等が創造した発明等の取扱を明確にし、発明等を行った教職員等の権利を保障し、知的財産権の保護及び活用を図ることにより、本学における学術研究の振興及び社会貢献に寄与することを目的とする。発明管理部会は、上記規定に基づき、本学における職務発明等に関する事項を審議するため設置され、研究推進委員長が部会長を務める。

①本年度は教職員からの申請が無かったことから、発明管理部会は招集されなかった。

2) 点検評価・来年度の事業計画 <C・A>

- ① 本学教職員による学内外における多彩な活動において、特許法、実用新案法、意匠法、あるいは著作権法等の申請に値するシーズはあると思われるが、教職員が申請方法等に対して疎く、手続きを煩わしく感じるためか、規程制定後本学からの発明等の申請はいまだ行われていない。
- ② 上記状況をふまえ、次年度以降まずは教職員に対する本規程と、本学におけるサポート体制の周知を徹底する必要があると思われる。
- ③ さらに、研究推進委員会による学内における学術研究の奨励と本部会の活動を一体化させ、研究成果に関連する知的財産権の保護や、研究成果に基づく特許、実用新案等の申請を積極的に行わせ、実績を積み上げる必要がある。
- ④ 本学からの助成により遂行された事業、研究に加え、受託・共同研究であっても、本学施設を用いて行われた活動の成果として規定に定められた創造的な成果が得られた際には、もれなく申請を行うよう本規定の学内周知をはかる必要がある。

- ⑤ 研究推進委員会が所管する範囲において、発明申請の可能性が見られる研究課題や成果に注意を払い、担当教職員へ申請を働き掛ける必要があるのかもしれない。

＜執筆担当／松本大学発明管理部会長 木藤 伸夫＞

（２）研究誌編集部会

研究誌編集部会は大学院研究科長、総合経営学部学部長・両学科長、人間健康学部学部長・両学科長、松商短期大学部学部長・両学科長を委員として運営した。事務には管理課・総務課があたった。

1) 年度当初の目標 <P>

これまで松本大学で発刊してきた「松本大学研究紀要」と「地域総合研究」に加え、今年度は新たに「教育総合研究」を創刊した。全ての研究誌の発刊を研究誌編集部会が管轄する。

2) 目標の実施状況 <D>

- ① 「松本大学研究紀要」、「地域総合研究」、「教育総合研究」の3誌の原稿募集、編集出版を行った。「松本大学研究紀要」には原著論文4編、研究ノート6編、調査・事例報告1編、教育実践報告3編の計14編を掲載した。「地域総合研究」には、原著論文7編、研究ノート1編、調査・事例報告1編の計9編を掲載した。また、創刊号となった「教育総合研究」には、原著論文7編、研究ノート5編、調査・事例報告3編、教育実践報告3編の計18編を掲載した。
- ② 創刊号となった「教育総合研究」には、教育学部の教員を中心として多数の論文が投稿され、上記のように18編もの論文、報告を掲載することができた。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）<C>

- ① 平成29年度の編集体制で明らかになった問題点を改善すべく、各研究誌に編集責任者をおくなど、査読体制の再構築と査読の手順を改め、平成30年度以降の研究誌発刊を行うこととした。
- ② 形式査読に関しては、既に文章化されていた「査読の手順・流れについて」を現状に即した内容に修正し、次年度に向けて周知徹底を図った。さらに、各研究誌に編集責任者をおくことで査読体制を充実させ、論文の質保障を担保した。しかし、査読者や編集責任者の指摘に対する著者の受け止め方は様々で、専門分野により査読者が指摘できる内容には限界があるとの認識から形式査読に落ち着けた経緯がある。いわゆる論文には文系理系を問わずその構成や記述の仕方等の形式については一定の原則があると思われるが、その認識の統一や意識改革が必要なのかもしれない。
- ③ 教育学部の創設に伴い新たに赴任された教員の増加もあったことから、論文投稿規程や査読方法などの周知に対する指摘があった。上記で述べたような対応をとり、次年度以降さらなる研究誌の内容充実を図る。

4) 次年度に向けて <A>

研究誌編集部会として3誌に増えた研究誌の質の低下を招かないよう査読体制等の強化を図ったが、今後の論文の投稿状況などを注意深く観察し、本学所属教員の活発な研究成果発表の場であ

る研究誌の充実をめざすことが望まれる。研究誌の質の維持と投稿数の増加という、一見相反する対応が求められるが、避けて通ることはできない。必要に応じて、さらなる編集体制の見直しが必要になるかもしれない。

＜執筆担当／研究誌編集部部长 木藤 伸夫＞

（３）松本大学出版会運営部会

1) 年度当初の計画・本年度の活動状況 <P・D>

- ① 本年度は当出版会による出版希望が無かったことから、新刊の発行はできなかった。
- ② 特に文系学部の教員においては潜在的な出版需要があるものと考え、より簡便な出版手続きや、出版物の流通経路の確保などを検討する必要がある。
- ③ 既存の書籍についての販売、在庫管理等を行った。

2) 点検評価・来年度の事業計画 <C・A>

- ① 松本大学出版会による出版募集は行わず出版も行わなかった。教育学部の新設に伴って新たに赴任した教員もいることから、松本大学出版会の存在を広報する必要がある。
- ② 活動事業報告の出版と出版希望募集による出版の 2 系統の出版が混在しており、限られた予算で安定して定期的出版を続けていくために、今後計画を整理していく必要がある。また、出版物の質を担保するためには、出版希望についての選考や出版にあたって編集を行う業務分担を確立する必要がある。
- ③ 昨年度からの課題である在庫の確認整理は今年度も行わなかった。出版後一定期間を過ぎた書籍は著者に贈与するなどして在庫整理をする必要性や、情報を恒久的に保存する目的で書籍の PDF 化を図ってはどうかなどの指摘がなされているので、次年度対応したい。

＜執筆担当／松本大学出版会運営部部长 木藤 伸夫＞

（４）地域総合研究センター運営部会

地域総合研究センター運営委員会は、研究を司る部門の一つとして研究推進委員会のもとにおかれ、研究推進委員会委員が兼任、活動した。センターの研究員は従来通り本学の全専任教員であり、外部研究員として中野和朗、建石繁明の 2 名、さらに特別調査・研究員（松本市地域づくりインターン）については一昨年からの 5 名、昨年からの 2 名に、今年度新たに 4 名を加え活動した。

1) 年度当初の計画 <P>

平成 29 年度の活動計画は次の通りであった。

- ① 地域総合研究第 18 号の発行。Part I, II の 2 部形式を踏襲し、Part II はアニュアル・レポートとした。ただし、地域総合研究センターは出版を受け持つものであり、Part I の編集作業は研究推進委員会研究誌編集部会が行い、Part II は自己点検・評価委員会がデータの収集整理を行う。
- ② 外部団体等から大学に持ち込まれる、新規・継続を含めた受託事業（研究、共同事業、調査など）の受付窓口となる。また、教員個人の受託事業についても当センターがその受入窓口とな

り、受託費管理等の実務を担当し、報告書作成などの支援も行う。

③ 松本市と連携して実施する事業

(ア) [地域づくりに係わる松本大学との連携協力に関する協定]に基づき、地域づくりインターンシップ事業の一環として、以下の事業を行った。

- a) 人材育成（地区コーディネーター、職員等育成・研修事業他）
- b) 地域づくり・市民活動に関する研究集会事業
- c) 各地域への指導・助言
- d) 上記を実施するために必要とみなされた、調査研究

(イ) 観光ホスピタリティ・カレッジにおいて、企画立案を含めてその運営に主体的に取り組む。

(ウ) 講演会、シンポジウム、フォーラム等のバックアップ
(特にチラシ作成、報告集の作成など)。

④ その他自治体と連携して実施する事業

松川村、筑北村、生坂村、安曇野市などとの連携事業については、年度ごとに更新しつつその活動を継続している。

2) 活動状況 <D>

本年度の活動計画に沿って下記のような活動を実施した。

- ① 『地域総合研究第 18 号』 発刊
- ② 受託事業窓口業務

平成 29 (2017) 年度 受託事業一覧

	受託先機関	業務内容	期間	担当者
1	松川村	平成 29 年度「松川村観光振興支援業務」	H29.4.1～H30.3.31	山根 宏文
2	筑北村	平成 29 年度キラリ☆アクア健康教室	H29.5.10～H30.2.28	根本 賢一
3	生坂村	こたろう大学	H29.4.1～H30.3.31	犬飼 己紀子
4		筋力向上プログラム	H29.4.1～H30.3.31	田邊 愛子
5		通学合宿	H29.4.1～H30.3.31	廣田 直子
6	安曇野市	安曇野市子ども学習支援事業	H29.8.1～H29.9.30	尻無浜 博幸
7			H30.2.1～H30.3.20	
8	有限会社あづみの食品 (株式会社まるたか)	6次産業推進にかかわる研究開発業務	H29.4.1～H30.3.31	矢内 和博
9	齋藤農園	6次産業	H29.4.1～H30.3.31	矢内 和博
10	株式会社日健総本社	視機能に対するドナリエラ・バーダウィル摂取の影響	H29.4.3～H30.3.31	矢内 和博
11	松本市	地域づくりインターンシップ戦略事業	H29.4.1～H30.3.31	COC 戦略会議
12	国営アルプスあづみの 公園管理センター	健康ウォーキング事業	H29.4.23、4.30	田邊 愛子
13			H29.9.23、9.24	
14	安曇野市	親子プログラミング教室業務委託	H29.10.1～ H29.11.26	室谷 心

③ 地域との連携事業

松本市との地域づくりインターンシップ戦略事業 他

3) 点検・評価 <C・A>

- ① 受託事業については、今年度着手した受託研究取扱規程の見直し、および受託研究実施フロー、受託研究受入申込書、受託研究完了報告書の整備を早急に行い、これに則りスムーズで明確な活動を行った。
- ② 松本市と新たに締結した「地域づくりインターンシップ戦略事業業務委託」によって、今年度も新たなインターン生を本センター特別調査研究員として受け入れた。次年度もこれまでの特別調査研究員の継続に加えて、さらに若干名を新たに受け入れる予定である。COC 戦略会議等と連携し、インターン生の業務目的達成にむけて活動を支援する。また、その他事業についても必要なサポートを続けて行く。
- ③ 講演会、シンポジウム、フォーラム等に関しては、COC 戦略会議が主体となって行っており、連携しながら今後も必要なサポートを行う。
- ④ 松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトに関しては、今年度を一応の区切りとする計画であり、活動のまとめと成果の出版という業務を遂行する。

<執筆担当/地域総合研究センター運営部会長 木藤 伸夫>

2. 研究倫理委員会

1) 年度当初の目標 <P>

今年度も「松本大学研究倫理委員会規程」に則り、研究の倫理および不正行為に係わる基本的事項に関すること、研究者から申請のあった研究の実施計画の審査に関すること、研究に係わる個人情報保護に関すること、その他研究の倫理に関することを審議することを目標とする。

2) 目標に対するの実施状況 <D>

本年度、研究倫理委員会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて2名が参加した。

学長が指名する大学院及び各学部から選出された教員

山田 一哉、尻無浜 博幸、矢崎 久、河野 史倫、澤柿 教淳、飯塚 徹

研究に関する倫理的及び法的事項を総合的に判断するにふさわしい識見を有する者

増尾 均、福島 智子

一般の立場を代表する学外者

瀬川 格淳（専称寺住職）

a) 研究計画審査

2017年度に当委員会へ研究倫理審査申請のあった案件は以下のとおりであった。

<第16-03号>

研究者名：人間健康学部 専任講師 矢内 和博

研究計画名：視機能に対するドナリエラ・バーダウィルカプセル摂取の影響

研究の意義・目的：近年パソコンやスマートホンなどの液晶画面を長時間見ることが増え、視力

の低下や目の疲れなどを感じる事が多いと言われている。特にブルーライトなどは、眼の酸化ストレスとなることから視機能の低下が考えられている。微細藻類ドナリエラに含まれるβ-カロテンは、抗酸化食品として知られ、健常者にドナリエラ・パーダウィルカプセルまたはプラセボカプセル（カラメル色素（I）:セルロースを1:1）を経口摂取させ、視機能に対する影響を調査する。

研究対象者：60名

研究期間：平成29年4月1日から平成29年8月31日まで

※申請者の矢内和博専任講師から、平成29年10月6日に下記の変更点が申請された。メール審議の結果、平成29年10月13日付けで承認した。

■変更点：

研究者の追加 江原教授

研究機関の延長 平成29年8月31日まで→平成30年3月31日まで

<第17-01号>

研究者名：人間健康学部健康栄養学科 専任講師 長谷川尋之

研究計画名：身体活動量は首尾一貫感覚と関連する

研究の意義・目的：健康の保持・増進ならびにQOLの向上を目的とした栄養教育プログラムの開発を主たる目的とする。

健康保持能力を表す首尾一貫感覚（以下、SOC）を用い、対象者の健康行動（主として食事調査、身体活動量）との関連を明らかにすることで、栄養教育プログラムの立案に際し、アセスメント項目として利用可能になると考えられる。SOCを利用した個々に対応した栄養教育プログラム作成に繋がると考えられる。

研究対象者：50名

研究期間：承認日より平成30年3月31日まで

<第17-02号>

研究者名：人間健康学部健康栄養学科 専任講師 長谷川尋之

研究計画名：ジュニア競技者を対象に適切な成長と体力向上を目的とする栄養教育プログラムの開発

研究の意義・目的：成長期の競技者が適切な成長と競技力向上を意識できる栄養・食事の自己管理の習得を目的としたスポーツ栄養プログラムの開発を主の目的とする。

成長期の競技者では、勝利至上主義による過度なトレーニングにより適切な成長を妨げている可能性がある。一方で競技力向上を目指す上でトレーニングは欠かすことの出来ない要素であり、トレーニング量を確保できる体力向上や怪我の予防が現場では望まれている。

そこで、本研究では高校生を対象として適切な成長を意識するための「食育」と体力向上や怪我の予防を目的とした「スポーツ栄養サポート」を両立させた成長期競技者向けの栄養教育プログラムを立案、実施し、その効果を

検討する。

近年、競技者の栄養サポートの認知や必要性、需要は高まりつつあるが、多くの現場では栄養サポートの内容がわからない、こういった方に依頼をすればいいかわからないと言った声がきかれる。栄養教育プログラムの作成は認知度の向上とともに、現場栄養士の指針としてスポーツ現場の創出に繋がると考えられる。

研究対象者：50名

研究期間：承認日より平成31年3月31日まで

<第17-03号>

研究者名：人間健康学部スポーツ健康学科 教職センター 教授 小松茂美

研究計画名：保健分野の学習の成果（意識調査）から保健体育科教員の授業実践について考える

研究の意義・目的：小学校・中学校・高等学校で受けてきた保健分野の学習に関する意識調査から保健分野の学習への取り組みの意識や成果を分析し、保健体育科教員の授業実践のあり方を考え、本学の教員養成（主に保健体育科教員）の一助とする。

研究対象者：100名

研究期間：承認日より平成30年1月31日まで

<第17-04号>

研究者名：人間健康学部健康栄養学科 専任講師 長谷川尋之

研究計画名：競技現場における鹿肉利用の有効性に関する検討

研究の意義・目的：シカの抽出成分を飼料として与えた動物実験では持久能力の向上が報告された。シカ肉には脂肪燃焼の働きを助けるカルニチンが多く含まれており、持久能力向上に寄与したことが推察される。しかし、これまでヒトを対象とした研究はなく、食事や食品中に含まれる摂取量で同様の効果が得られるかどうかは明らかではない。

本研究はシカ肉の運動能力向上の機能性が、実際のスポーツ現場で活用することができるかどうかを明らかにすることを目的とする。

近年、シカによる自然環境の破壊や農業への悪影響が報告されており、毎年一定数の捕獲・屠殺が行われている。屠殺されたシカの一部は、加工処理されシカ肉として出荷されることがあるが、現在までに有効性を広く知られてはいない。シカ肉は高たんぱく質、低脂質の良質のタンパク源であることは明らかにされており、本研究の結果と併せて今後、スポーツ現場等での活用が期待され、環境問題及び競技者の栄養改善に繋がる。

研究対象者：10名

研究期間：承認日より平成30年3月31日まで

<第17-05号>

研究者名：人間健康学部健康栄養学科 専任講師 藤岡由美子

研究計画名：学生と災害時要配慮者の備蓄調査と備蓄支援

研究の意義・目的：災害時要配慮者とは、高齢者や特定疾患患者など避難生活に特別な配慮を要する人をいう。行政が災害時に備えて確保する病態用食品は全体の1%未満に過ぎず、災害時要配慮者は自分で備蓄しなければならないが、そのような指導は全国の16.9%の自治体でしか成されていない。本研究では災害時要配慮者の自助を支援するために備蓄調査と備蓄の方策を提案する。学生には災害時の管理栄養士の役割を理解させ、備蓄調査を通して自助の意識啓発を行う。

研究対象者：①松本大学：300名、鈴鹿医療科学大学：150名

②昭和伊南総合病院：30名、みえID（炎症性腸疾患）患者会：30名

研究期間：承認日より平成32年11月30日まで

<第17-06号>

研究者名：人間健康学部健康栄養学科 専任講師 藤岡由美子

研究計画名：介護食の開発と喫食調査

研究の意義・目的：長野県の平均寿命は男女共1位だが、健康寿命は男性18位、女性16位であることから健康寿命の延伸が課題となっている。咀嚼能力が高く栄養状態が良好だと健康寿命が長く、介護食の市場は拡大の一途を辿るが、高齢者に慣れ親しんだ郷土料理を利用した介護食は市販されていない。

我々は高齢者の咀嚼機能や食欲低下に伴う低栄養を防ぐために、長野県「味の文化財」に指定されたおやきの介護食を開発した。今年「創作おやきコンテスト」で優秀賞を獲得したおやきを継続的に対象者に提供し、喫食率、食事QOL、栄養状態や咀嚼機能が維持されたかどうか経過観察する。

研究対象者：①相澤病院サービス付高齢者向け住宅「結」本庄 利用者25名

②特別養護老人ホーム 真寿園 利用者25名

研究期間：平成30年4月1日より平成31年3月31日まで

<第17-07号>

研究者名：人間健康学部健康栄養学科 専任講師 藤岡由美子

研究計画名：管理栄養士養成過程におけるモデルコアカリキュラムの到達目標を用いた臨地実習の事前事後評価

研究の意義・目的：「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム」には、管理栄養士が活躍する何れの職場においても必要な各教科の教育内容（コア）と到達目標が列記されている。臨地実習では、学生が約50病院に分れて教育を行うことから、実習内容や評価方法をできる限り標準化して行うことが必須である。我々は、臨地実習における到達目標を達成するために、事前事後学習、実習課題、評価基準等を設定し教育を実践してきた。本研究ではその到達度を評価する。管理栄養士養成教育におけるモデルコアカリキュラムを利用した授業評価は、本邦初の報告となる。

研究対象者：人間健康学部健康栄養学科新4年生 約80名

研究期間：平成30年2月1日より平成31年1月31日まで

<第17-08号>

研究者名：教育学部学校教育学科 准教授 和田順一

研究計画名：Paraphrasing 技法の習得が Speaking 能力に及ぼす影響

研究の意義・目的：文部科学省が次期学習指導要領において Speaking の能力を発表とやり取りという項目に CEFR の指標に基づいて分類がなされた。Output に関しては文部科学省答申（2016,p.193）にあるように、「書くこと」や「話すこと」に課題があるという現状がある。そのため Communication Strategies が実際にどのように影響をするかを検討し、学生の Speaking 能力の向上を調査する。

研究対象者：16名

研究期間：承認日より平成30年2月5日まで

<第17-09号>

研究者名：教育学部学校教育学科 准教授 國府田祐子

研究計画名：論理的文章の書き方指導と学生の文章記述力の変化

研究の意義・目的：文部科学省は2020年度から「大学入学共通テスト」の実施において、記述式問題を導入すると発表した。この背景には、高等学校国語科において「文章の内容や表現の仕方を評価し目的の応じて適切に活用する」ことや「自分の考えを根拠に基づいて的確に表現する」ことに課題があるという指摘がある。（答申,2016,p.124）

大学入学後早い時期に論理的学習の書き方指導を行い、その指導内容および方法を検証し、学生の文章記述能力の向上を図る。

研究対象者：61名

研究期間：平成29年4月10日より平成30年2月20日まで

<第17-10号>

研究者名：教育学部学校教育学科 教授 小林敏枝

研究計画名：発達障がい児のバランス能力に関する研究

（下肢アライメント・土踏まず形成・足趾圧等とバランス能力の関係について）

研究の意義・目的：近年、遊びの変化や生活環境の影響などにより、日本の子どもたちの体力低下が懸念されている。障害のある・なしに関わらず幼児期は運動発達において重要な時期であり、この時期の基本運動の獲得が学齢期にも影響することはいうまでもない。

特に障害のある子どもたちの中には運動面の困難さがあり、幼児期に獲得されるはずの運動技能が未獲得であることや、基本運動の獲得が学齢期になっても未熟であるとの報告もある。運動面の困難さは見過ごされがちであり、運動発達への支援が遅れることもある。このような背景を踏まえて、障害のある子どもたちの運動能力の実態を明らかにすること。さらに、

姿勢や歩行能力に関係の深い「足裏測定」「下肢アライメント測定」を実施し、土踏まずの形成・足趾圧の分析、動きのぎこちなさ、運動の姿勢のアンバランスなどの実態を把握することを目的とする。さらに今回は、健常児の測定を行い、障がい児の実態との比較を行い、運動発達支援へのアプローチについて検討することを目的とする。

研究の意義については発達障害児の数は増加しており、特別支援教育に在籍する知的障害を含む発達障害児は、視聴覚障害や肢体不自由の約4倍いると報告され、様々な医療的介入が実施されている。医療的介入では、コミュニケーション、学習障害に焦点が当てられることが多いが、運動障害に着目した研究は少ない。今回はその実態を明らかにし、日常の保育・教育への介入を示唆する。以上のことから、障がい児の運動発達支援に貢献できる研究として意義がある。

研究対象者：障がい児30名、健常児50名

研究期間：承認日より平成32年3月31日まで

<第17-11号(第17-06号の再提出)>

研究者名：人間健康学部健康栄養学科 専任講師 藤岡由美子

研究計画名：介護食の開発と喫食調査

研究の意義・目的：長野県の平均寿命は男女共1位だが、健康寿命は男性18位、女性16位であることから健康寿命の延伸が課題となっている。咀嚼能力が高く栄養状態が良好だと健康寿命が長く、介護食の市場は拡大の一途を辿るが、高齢者に慣れ親しんだ郷土料理を利用した介護食は市販されていない。

我々は高齢者の咀嚼機能や食欲低下に伴う低栄養を防ぐために、長野県「味の文化財」に指定されたおやきの介護食を開発した。今年「創作おやきコンテスト」で優秀賞を獲得したおやきを対象者に提供し、喫食調査と嗜好調査を無記名のアンケートで行う。

研究対象者：①相澤病院サービス付高齢者向け住宅「結」本庄 利用者25名

②特別養護老人ホーム 真寿園 利用者25名

研究期間：平成30年4月1日より平成31年3月31日まで

<受理番号 第17-12号>

研究者名：人間健康学部スポーツ健康学科 准教授 山本 薫

研究計画名：持久のおよびレジスタンストレーニングが一般高齢者とマスターズアスリートの動脈スティフネスに及ぼす影響

研究の意義・目的：日本人の死因の第1位はがんであるが、同2位の心疾患と同3位の脳血管疾患患者の合計死亡者数はほぼがんと同並ぶ。これらの疾患は動脈硬化影響が大きい。2000年頃から運動の動脈硬化改善に関する研究報告が数多く出始め、ランニングやウォーキングなどの有酸素運動継続が、有酸素運動を実施していない同世代の男性の集団と比較して、超音波で測定した頸動脈の柔らかさを示す数値が高く、血管が柔らかいことが示された。一方、

異なる運動のタイプに抵抗を利用したレジスタンス運動(RE)がある。加齢と共に筋力低下や筋萎縮が引き起こされることは数多くの報告があり、要介護状態にさせずに健康寿命を延伸するためにも筋量増加に対して効果が認められている。しかし、動脈硬化に影響する血管の柔らかさに関しては低下させるか変化しないとの報告があるが十分な検討がなされていない。また、日本国内でマスターズ大会に出場する人々は日ごろからトレーニングを積んでいると思われるが、持久系トレーニングを主に積んでいる者とレジスタンストレーニングを主に積んでいる者について、高齢者で長年のトレーニング結果として現れる動脈スティフネスについての報告は少なく明確ではない。先行研究にて調べた介入結果と比較するとともにマスターズアスリートにおいては専門種目間（持久力系と筋力系）にて比較し、合わせて検討を加える。

目的：本研究は、前期高齢者男女を対象に、筋力と動脈スティフネス（血管の硬さ）の改善に影響を及ぼす筋力系および持久力系トレーニングの影響を明らかにすることを目的とする。

研究対象者：20名

研究期間：承認日より平成32年3月31日まで

b) 研究倫理教育について

- ・研究倫理教育の一環として、FDS委員会および研究推進委員会と下記講習会を共催した。
8月4日（金）16:50-18:20

「科研費を必ず獲得できる申請書の作成方法：どのような点に気をつければよいのか？」

講師：久留米大学分子生命科学研究所長 児島 将康 教授

c) 大学院生向けの研究倫理教育について

昨年度に引き続き、大学院生の必修科目である「健康科学特論」の第1回目に研究倫理に関する内容を導入した。また、日本学術振興会編集のe-learningシステムを受講させた。

d) その他

- ・研究倫理委員会にて審議する必要がある研究か否かについて研究者個人が判断できる指標として、「倫理審査が必要ない研究」及び「人を対象とする研究に関する倫理委員会の審査を要する研究かどうかを判断するためのチェックシート」を全教員に配信した。
- ・申請書等の関係書類を現在のRidocの人間健康学部のフォルダから、全学部の教員がアクセスできる研究倫理委員会のフォルダに移動した。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

a) 研究計画審査について

審議の際、すべての研究計画について規程・ガイドラインに照らした問題点の指摘とその解決策の例示を行った。委員長から、各申請者にそれらの点について修正を要求した。修正の確認に関しては委員会で委員長に一任した。委員長は、関係委員と申請書の適切な修正がなされたことを確認したあと、承認したというメールを全委員に配信した。また、修正審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

b) 教員・大学院生に対する研究倫理教育

研究倫理に関する最低限の教育・講演会を導入することができた。今年度から教職員に加えて大学院生・学生も含めて 34 名が参加した。また、大学院生は全員に、e-learning の修了証を提出させた。

4) 次年度に向けて <A>

次年度も研究倫理の厳格なる審査と研究倫理教育を推進していく。研究倫理教育に関しては、日本学術振興会の「科学の健全な発展のために -誠実な科学者の心得-」の e-learning 教育を広めていくことも検討課題である。

<執筆担当/研究倫理委員会 委員長 山田 一哉>

(1) 動物実験部会

1) 年度当初の目標 <P>

今年度の目標は、動物実験の審査を適切に行うこととした。

2) 目標の実施状況 <D>

本年度、動物実験部会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて 3 名が参加した。

動物実験等に関して優れた識見を有する者：山田 一哉、河野 史倫、澤柿 教淳、川島 均
倫理等の学識経験を有する者：福島 智子

実験動物に関して優れた識見を有する者：実験動物管理者 塚田 晃子

a) 動物実験審査について

本年度分と次年度分を含めて下記の 10 件の申請を審査した。

<第 17-01 号 (継続変更あり) >

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 教授 山田 一哉

研究課題：生化学実験 (健康栄養学科 2 年生後期)

研究目的：絶食時および高炭水化物食摂取後の血糖および血中脂質濃度の測定と代謝酵素遺伝子の発現変動を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野 公介助手、羽石 歩美助手、塚田 晃子助手

実験実施期間：平成 29 年 9 月～平成 30 年 1 月

使用動物：ラット (雄) 15 匹

<第 17-02 号 (継続変更あり) >

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 教授 高木 勝広

研究課題：インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングと作用機構の解析

研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する。

動物実験実施者名：健康科学研究科 田中みすず、林桃子

健康栄養学科 秋山奈々子、飯田幸恵、飯塚由奈 他に学部生 13 名

実験実施期間：平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

使用動物：ラット (雄) 50 匹 マウス (雄) 40 匹

<受付番号 第17-03号(継続変更あり)>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 准教授 河野 史倫

研究課題：骨格筋機能を決定する生理的要因とそのメカニズム解明

研究目的：活動歴や障害歴など骨格筋が経た前歴が骨格筋の適応性にどのような影響を与えるのか追求する。

動物実験実施者名：健康科学研究科 渡邊 敦也、増澤 諒

他に学部生13名

実験実施期間：承認後～平成30年3月

使用動物：ラット(雄)90匹

マウス(雄・雌)計104匹

<第17-04号(新規)>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 教授 江原 孝史

研究課題：5/6腎摘除慢性腎不全モデルラットの腎機能と骨代謝に対する長期的運動の効果

研究目的：慢性腎不全状態での長期運動と運動様式の違いが身体に及ぼす影響を検討する。

動物実験実施者名：日本体育大学体育学部健康学科 助教 田中さくら

実験実施機関：承認後～平成30年3月

使用動物：ラット(雄)24匹

<受付番号 第17-05号(継続変更あり)>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 教授 山田 一哉

研究課題：ホルモンと栄養素による遺伝子の転写制御機構の解析

研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野 公介助手、羽石 歩美助手、塚田 晃子助手、

他に院生4名、学部生14名

実験実施期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

使用動物：ラット(雄)50匹 マウス(雄)40匹

<受付番号 第18-01号(新規)>

動物実験責任者：松本大学人間健康学部健康栄養学科 教授 弘田 量二

研究課題：抗菌物質のアレルギー誘発効果と曝露影響評価

研究目的：別紙「松本大学動物実験計画書」を参照

動物実験実施者名：健康栄養学科 弘田量二、他に学部生8名

実験実施期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日

使用動物：マウス(雄・雌)計640匹

<受付番号 第18-02号(継続変更あり)>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 教授 山田 一哉

研究課題：ホルモンと栄養素による遺伝子の転写制御機構の解析

研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野公介助手、羽石歩美助手、塚田晃子助手、

他に院生2名、学部生16名

実験実施期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日

使用動物：ラット（雄）50匹 マウス（雄）40匹

<受付番号 第18-03号（継続変更なし）>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 教授 山田 一哉

研究課題：生化学実験（健康栄養学科2年生後期）

研究目的：絶食時および高炭水化物食摂取後の血糖および血中脂質濃度の測定と代謝酵素遺伝子の発現変動を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 浅野公介助手、羽石歩美助手、塚田晃子助手

実験実施期間：平成30年9月～平成31年1月

使用動物：ラット（雄）15匹

<受付番号 第18-04号（継続変更あり）>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 准教授 河野 史倫

研究課題：骨格筋機能を決定する生理的要因とそのメカニズム解明

研究目的：活動歴や障害歴など骨格筋が経た前歴が骨格筋の適応性にどのような影響を与えるのか追求する。また、それらの変化を裏付けるヒストン修飾変化を明らかにするため、遺伝子ノックアウトやノックダウン、薬剤を適宜組み合わせることで検討を行う。

動物実験実施者名：健康科学研究科 増澤諒、大沢育美、金野遼太郎、他に学部生9名

実験実施期間：承認後～平成31年3月

使用動物：ラット（雄）36匹

マウス（雄・雌）計52匹

<受付番号 第18-05号（継続変更あり）>

動物実験責任者：松本大学大学院健康科学研究科 教授 高木 勝広

研究課題：血糖低下作用を示す食品成分のスクリーニングと作用機構の解明

研究目的：食物摂取後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する。

動物実験実施者名：健康栄養学科 伊東美月、内山茉南、片岡克斗、桐沢梨央、坂口綾菜、他に学部生11名

実験実施期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日

使用動物：ラット（雄）50匹 マウス（雄）40匹

b) 公私立大学実験動物施設協議会総会・研修会への参加

平成29年6月2日に開催された公私立大学実験動物施設協議会総会に河野史倫准教授が参加した。

動物実験に関する情報開示等

最新の規程・自己点検評価・実験動物の飼育数・教育訓練参加者数・動物実験部会委員構成、承認された計画数、公私立大学実験動物施設協議会による外部評価の結果をホームページ上で公開した。

d) 教育訓練

下記の日程で教育訓練を実施した。

平成 29 年 7 月 28 日 教育訓練（教職員・院生向け） 参加者 8 名

平成 29 年 9 月 26 日 教育訓練（学生向け） 参加者 73 名

e) その他

例年学内で行われている動物慰霊祭を、平成 29 年 5 月 24 日に挙行了した。塚田晃子助手が、実験動物に対する慰霊の言葉をのべた。

3) 点検・評価の結果（目標の達成状況）＜C＞

a) 動物実験計画について

すべての実験計画について審議の結果、規程・ガイドラインに沿った内容であったため、異議なく承認した。審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。本年度の実験に用いた動物数は、ラット 34 匹、マウス 79 匹であった。

また、今年度より、次年度開始の実験計画を年度内に審査することとした。

4) 次年度に向けて ＜A＞

次年度も、動物実験をより適正に実施できる体制を維持していくことが重要である。

＜執筆担当／動物実験部会長 山田 一哉＞

(2) 遺伝子組換え実験安全部会

1) 年度当初の目標 ＜P＞

目標は、遺伝子組み換え実験が安全に行われるように、遺伝子組み換え実験計画および実験施設の審査を厳格に行うこと、および規程等の改訂を行うことである。

2) 目標の実施状況 ＜D＞

本年度、遺伝子組み換え実験安全部会の委員構成を以下に記した。事務局からは総務課長を含めて 3 名が参加した。

遺伝子組み換え実験等に関して識見を有する者：山田 一哉、河野 史倫、澤柿 教淳、川島 均倫理等の学識経験を有する者：福島 智子

学長から任命された安全主任者：浅野 公介

a) 遺伝子組み換え実験計画の審査について

本年度は、下記の機関承認実験計画 4 件と機関届出実験計画 1 件と教育目的実験計画 1 件を審査した。また、次年度に向けて、機関承認実験計画 3 件と機関届出実験計画 2 件と教育目的実験計画 1 件を審査した。

＜第 17-01 号（機関承認実験）＞

実験管理者：健康科学研究科 教授 山田 一哉

実験課題名：高炭水化物食による遺伝子発現調節機構の解析

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物使用実験

実験期間：平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

実験目的：1) 高炭水化物食による糖質・脂質代謝系酵素遺伝子群の転写調節機構を明らかにする。

2) 各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウィルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第 17-02 号 (機関承認実験) >

実験管理者: 健康科学研究科 教授 山田 一哉

実験課題名: 新規転写因子ファミリー ZHX の生物学的役割の解析

場所名称: 分析機器実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験、動物使用実験

実験期間: 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

実験目的: 1) 新規転写因子ファミリー ZHX の機能解析と標的遺伝子の検索

2) ZHX ファミリー、グルコキナーゼ (GCK) 、Brd ファミリー、LacZ および EGFP 遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウィルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第 17-03 号 (教育目的実験) >

実験管理者: 健康科学研究科 教授 高木 勝広

実験課題名: 酵母の形質転換

場所名称: 共同実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験

実験期間: 平成 29 年 7 月 3 日～平成 29 年 7 月 24 日

実験目的: お酒の発酵等に用いられる麹菌 (*Aspergillus oryzae*) 由来のアミラーゼ遺伝子を、酵母菌 (*Saccharomyces cerevisiae*) に導入する。アミラーゼ遺伝子が導入された酵母はアミラーゼを分泌するようになることを確認する。

<第 17-04 号 (機関承認実験) >

実験管理者: 人間健康学部 助手 浅野 公介

実験課題名: 時計遺伝子と長寿遺伝子の発現相関は、糖代謝調節に関わるか?

場所名称: 分析機器実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験、動物使用実験

実験期間: 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

実験目的: 1) Sirtuin1 (SIRT1) と SHARP ファミリー (SHARP-1 および SHARP-2) 遺伝子に関わる発現調節機構の解析を行い、肝臓での糖代謝調節における両遺伝子群の発現相関を明らかにする。

2) 1) に挙げた各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウィルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第 17-05 号 (機関届出実験) >

実験管理者: 健康科学研究科 准教授 河野 史倫

実験課題名: 筋特性の発生・維持・変化に関わる分子メカニズムの追求

場所名称: 動物飼養保管室、動物実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験、動物使用実験

実験期間: 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

実験目的: 骨格筋への代謝的刺激、メカニカルストレス、神経活動がどのようなメカニズムで筋肥大や代謝特性の変化を引き起こすのかを追求する。

<第 17-05 号 (機関届出実験) >

実験管理者: 健康科学研究科 教授 高木 勝広

実験課題名: 血糖低下作用を示す食品成分のスクリーニングと作用機構の解明

場所名称: 分析機器実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験、動物使用実験

実験期間: 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

実験目的: 1) インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングし、その作用機構を解析する。

2) 各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウイルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第 18-01 号 (機関承認実験) >

実験管理者: 健康科学研究科 教授 山田 一哉

実験課題名: 高炭水化物食による遺伝子発現調節機構の解析

場所名称: 分析機器実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験、動物使用実験

実験期間: 平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

実験目的: 1) 高炭水化物食による糖質・脂質代謝系酵素遺伝子群の転写調節機構を明らかにする。

2) 各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウイルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第 18-02 号 (機関承認実験) >

実験管理者: 健康科学研究科 教授 山田 一哉

実験課題名: 新規転写因子ファミリー ZHX の生物学的役割の解析

場所名称: 分析機器実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験、動物使用実験

実験期間: 平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

実験目的: 1) 新規転写因子ファミリー ZHX の機能解析と標的遺伝子の検索

2) ZHX ファミリー、グルコキナーゼ (GCK)、Brd ファミリー、LacZ および EGFP 遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウイルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第 18-03 号 (機関届出実験) >

実験管理者: 人間健康学部 助手 浅野 公介

実験課題名: 概日リズム調節因子・メラトニンは血糖上昇ホルモンとして肝臓に作用するか?

実験種類: 微生物使用実験

実験期間: 平成30年4月1日～平成31年3月31日

実験目的: 肝におけるメラトニンによる糖新生系酵素遺伝子の発現調節機構を解析する。

<第18-04号(機関承認実験)>

実験管理者: 健康科学研究科 准教授 河野 史倫

実験課題名: 筋特性の発生・維持・変化に関わる分子メカニズムの追求

場所名称: 動物飼養保管室、動物実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験、動物使用実験

実験期間: 平成30年4月1日～平成31年3月31日

実験目的: 骨格筋への代謝的刺激、メカニカルストレス、神経活動がどのようなメカニズムで筋肥大や代謝特性の変化を引き起こすのかを追求する。

<第18-05号(機関承認実験)>

実験管理者: 健康科学研究科 教授 高木 勝広

実験課題名: 血糖低下作用を示す食品成分のスクリーニングと作用機構の解明

場所名称: 分析機器実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験、動物使用実験

実験期間: 平成30年4月1日～平成31年3月31日

実験目的: 1) インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングし、その作用機構を解析する。

2) 各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウイルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第18-06号(教育目的実験)>

実験管理者: 健康科学研究科 教授 高木 勝広

実験課題名: 酵母の形質転換

場所名称: 共同実験室、微生物実験室

実験種類: 微生物使用実験

実験期間: 平成30年7月9日～平成30年7月23日

実験目的: お酒の発酵等に用いられる麹菌 (*Aspergillus oryzae*) 由来のアミラーゼ遺伝子を、酵母菌 (*Saccharomyces cerevisiae*) に導入する。アミラーゼ遺伝子が導入された酵母はアミラーゼを分泌するようになることを確認する。

3) 点検・評価の結果(目標の達成状況) <C>

a) 遺伝子組み換え実験計画の審査について

すべての実験計画について審議の結果、規程に沿った実験計画であり、かつ、従事者が変更されるだけの継続実験であるため、異議なく承認した。それぞれ審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で伝達した。

4) 次年度に向けて <A>

本学では遺伝子組み換え実験を行っている研究者が少ないため、詳細にわたって実験計画を審査することができる。次年度も、このような体制で進め、安全に実験が行われるよう努めていきたい。

<執筆担当/遺伝子組換え実験安全部会長 山田 一哉>

Ⅲ. 入試広報部門

1. 入試委員会

(1) 全学入試委員会

本委員会は、大学院、総合経営学部、人間健康学部、教育学部、松商短期大学部の代表計 11 名および入試広報室の職員により構成されている。2017 年度は大学院代表が委員長を務めた。

全学入試委員会の役割は、①学生募集に関すること（オープンキャンパス、進学説明会、高校訪問など）、②入学試験に関すること（入試改革、入試問題の作成と確認、入試の運営など）、および③①②で全学的調整が必要な場合、各学部学科、または全学運営会議・全学協議会との連絡を行うことである。

1) 年度当初の計画 <P>

昨年度に引き続き、2017 年度（2018 年度学生募集）も総合経営学科・人間健康学部の両学科の定員変更や定員 1.15 倍問題への対応もあることから、厳密に入学者数を管理しなければならない。その点を勘案し、下記の項目の達成を目標とした。

① 入学定員変更に伴う対応

- ・総合経営学部総合経営学科定員 10 名増、人間健康学部健康栄養学科定員 10 名減、同スポーツ健康学科定員 20 名増の入学者定員の変更に伴い、各入試形態での定員数の見直しを早期に行う。

② 今年度入試改革

- ・各学部学科で入試戦略を練り直し、入試区分での科目等の見直しを行う。
- ・教育学部で導入された科目名を付した推薦入試問題を、他学部他学科でも利用するかどうかを検討する。
- ・強化部・重点部からの入学者人数についても詳細に把握する。
- ・松商学園高等学校との間で、入試に関するルールを明確にし共有する。
- ・入試科目の英語に外部試験を導入するかを議論する。
- ・短大を併願できるように学部的一般 A 入試と問題を共通化するかを議論する。
- ・後に続く入試の可否の判定に役立てられるように一般入試・センター入試の入学手続きの締め切り日を早める。

③ 高大接続入試改革への対応（次年度入試改革）

平成 33 年度新入試に対応するべく、様々な方策を講じる。

④ オープンキャンパスについて

オープンキャンパスの内容およびタイムスケジュールについて再検討を行い、参加者の分散化を図る施策を検討する。

⑤ その他

入試の運営の事故を防ぐ。一般入試問題の出題ミスを防ぐ。

2) 現状の説明 <D>

① 入学定員変更に伴う対応

学科定員の変更に伴う各入試区分の募集人員について決定した。

② 今年度入試改革

- ・総合経営学部の A0 入試は 1 次選考に模擬授業と確認テストを追加すること、教育学部は

談を1次選考に繰り上げ、模擬授業及び確認テストを1回の実施とすることになった。また、短期大学部は、海外留学参加・外部英語試験取得を必要条件とすることで、筆記試験(小論文)を免除し、留学支度金を支援するA0入試制度を導入することになった。

- ・総合経営学部推薦入試は、指定校を除く全ての推薦入試において文章理解を実施することの確認がなされた。
- ・一般入試において、地歴教科において「世界史B」科目を追加することが確認された。
- ・教育学部の推薦入試の問題は人間健康学部や総合経営学部では共有しないこととした。
- ・強化部・重点部については以下を募集人員の目安とすることの確認がなされた。
硬式野球部(総合経営学部：12～13、スポーツ健康学科：個別対応)
女子ソフトボール部(総合経営学部：個別対応、スポーツ健康学科：10)
男子サッカー部(総合経営学部：4～5、スポーツ健康学科：5)
陸上部(総合経営学部：2 2)
※他の部活は個別対応とし、その場合は各学部長が主導・判断するものとする。
- ・松商学園高校との間で受験目的の模擬授業を廃止し、募集人員及び条件を明確にした入試方針を共有した。
- ・英語外部試験利用については、本年度利用は見送り次年度以降の利用に備え、学科ごとに利用の必要性、対象入試区分、条件などを検討することとした。
- ・一般A入試を学部共通とする併願入試について、しばらく様子を見ることが確認された。
- ・入試問題検討部会からの提言により、一般A入試「国語」に試験的に記述式問題を導入することとした。

入試日程の再確認がなされるとともに、以下の進行上の取り決めが確認された。

【出願書類受付】期限必着(消印有効ではない)とする。

【合格通知】

発表日当日に学内掲示板に掲出するとともに合格通知を郵送することとする。ホームページはあくまでサービスという位置付けとする。

今年度と同様、総合経営学部で不合格通知と編入案内を出すかは状況判断とする。

【入学手続】

締切日は入金期限とし、書類の遅延は認める。

年内入試の合格者から入学金等の延納が希望された場合、締切日を12/25とする。守られなければ合格を取り消す(短大を除く)。

一般A入試・センター利用I期入試の合格発表後の手続期間が短くなるため、入学手続き書類の中から連帯保証人をなくす。

【補欠合格】

一般A補欠には2/27(一般B入試+2営業日)、一般B補欠には3/20までに連絡がなければならぬ旨を通知書に明記する。

一般入試・センター利用入試の入学手続締切日の翌日から補欠合格者に電話連絡をする。ただし、その当日19:00までに返事がなければ、次の補欠合格者に連絡する。

補欠合格者が切れたときに、不合格ラインから新たに補欠合格者は出さない。

③ 高大接続入試改革への対応(次年度入試改革)

平成 33 年度新入試に対応するべく、数ヶ月間にわたって、改革案を練り上げてまとめた。

④ オープンキャンパスについて

本年度の開催概要、人員配置についての確認がなされた。

⑤ その他

・教務課の長期履修制度の規定制定に伴い、HP で社会人向けに情報公開していくこととした。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 入学定員変更に伴う対応

総合経営学部、人間健康学部、松商短期大学部においては、全学科で定員を満たすことができたが、教育学部は入学者は増えたものの定員を 2 年連続で割り込んだ。

② 今年度入試改革

- ・松商学園高等学校との間では、あらかじめ合意したルールの運用ができた。
- ・強化部・重点部入試についても、あらかじめ設定した内容での運用ができた。
- ・一般 A 入試で導入した文章題について、特に混乱は見られなかった。
- ・日程的には、一般 A とセンター I 期の入学手続き後に、一般 B・センター II 期の受験日に設定できたことで、人数を読む上での改善が図られた。
- ・一方で、長野大学・諏訪東京理科大学の公立化、長野県立大学の開学により、特に総合経営学部では受験者層が明らかに変化しており、健康栄養学科でも一次手続き者が大幅に増加した。そのため、一般 B・センター II 期の入学手続き締め切り日まで入学予定者数の予測が非常に困難であった。
- ・今年度入試問題について、形式的な出題ミスの指摘があった。

③ 高大接続入試改革への対応（次年度入試改革）

- ・長期の議論の末、下記に示す成案が提案された。

<総合経営学部>

A0 入試は II 期まで実施し、自己推薦は実施しない方針であったが、日程的に実施が困難なため、自己推薦を試験内容や選考方法を変更し実施する方向にした。

【A0】

- ・提出書類として「活動報告書」を追加する。
- ・I 期の実施とし推薦前期（指定校・公募）と同時に判定できるようにする。
- ・II 期は実施しない。

【自己推薦】

- ・提出書類として「活動報告書」を追加する。

【指定校推薦】

- ・公募推薦と同様に、文章理解を導入する。

<健康栄養学科>

基本方針は本年度同様とする。

【A0】

- ・A0 説明会で、過去 5 年分の模擬授業と課題についての説明を行う。それに伴い、今後は過去実績を資料として蓄積し活用できるようにする（模擬授業で使用したパワーポイントデータの保存、課題のリスト化）。

- ・面接の質問項目は課題審査内容とは切り離し、アドミッションポリシーを始めとする学科理解の深度を確かめる内容とする。

<スポーツ健康学科>

【A0】

- ・「一般選抜方式」と「運動選抜方式」2方式で実施する。一般選抜方式は従通りの選考方法で行い、運動選抜方式は「運動能力テスト」と「プレゼン面接」、「書類審査」にて選考する。なお、この運動選抜方式は強化部・重点部入部希望者の試験ではない。

【指定競技特別】

- ・強化部、重点部、強化指定選手獲得のため、新しい入試として実施する。
- ・選考方法は「書類審査」「小論文」「プレゼン面接」とする。
- ・Ⅰ期を推薦前期と同時期、Ⅱ期を年明け（1月 or 2月）に実施する。
- ・各強化部、重点部と連携をとりながら詳細を詰めていくこととする。

<教育学部>

基本方針は本年度同様とするが、より受験されやすい入試にしていく改革方針の確認がなされた。

【A0】

- ・集団面接を廃止する。
- ・エントリーシートの記載内容の変更を行う。
- ・「学修計画書」及び「活動報告書」を提出書類に追加する。

<松商短期大学部>

【A0】

- ・エントリーシートの記載内容の変更を行う。
- ・年明けの受験機会増を目的とし、Ⅲ期、Ⅳ期を実施する。Ⅲ期、Ⅳ期についてのA0入試説明会は年明けの入試相談会等で実施する。また、Ⅲ期、Ⅳ期については選考方法も簡略化し、エントリー方式を廃止、出願時にエントリーシートに代わり、「プランニングシート」を提出させ、選考方法は書類審査、小論文、60分の面談とする。

【推薦】

- ・筆記試験導入は見送り、他大学の動向を確認し検討していく。

【一般】

- ・ABCともに面接試験を追加する。一般Aでは地方入試にも対応していく。
- ・面接を導入することにより、学部一般A両日受験者及び1日目受験との併願は出来なくなるが、別日での受験を勧めるなどして対応する。

④ オープンキャンパスについて

人数の割り振りや情報伝達などである程度の改善が見られた。しかし、予約型の体験講座等では、予約しなかった生徒が敬遠する傾向が見られた。

⑤ その他

形式的問題ミスについては事前に注意していれば、十分防げるものであった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

- ・2018年度問題もあるため、受験生に対して広く受験をしてもらい、その中からしっかりと選抜

できるよう、各学部学科で試験内容等、今後も検討していく。そのために、今年度の入試の内容を分析し、各学部学科で入試戦略を練り直し、それぞれの入試の定員の改訂と指定校等の見直しなどを行った上で、できるだけ早期に高校に提示する。

- ・一般入試問題のミスを防ぐために、年内印刷とそれに伴う作問スケジュールの前倒しと一部外注化を検討する。
- ・「沖縄出身者奨学金制度」に佐渡を念頭に離島も加え、「沖縄及び離島出身者奨学金制度」に拡張することとした。
- ・特待生資格試験について、推薦入学合格者でその後特待生資格試験を受験した者の成績が低迷しており、その底入れを図るためにも、受験料を5千円から1万円に値上げすることとした。
- ・松本大学・松商短期大学部の卒業生の子女に対して、入学金を半額免除するファミリー割引制度を導入することとした。
- ・強化部対象のスポーツ推薦入試等についても全学で導入するかどうかを検討する。
- ・人間健康学部と教育学部では指定校枠数について、基準値を超えている学生であれば枠数にとらわれずに人材確保を目指すため、人数ではなく、「複数名」と表記するかどうかを検討する。
- ・入学者定員の1.15倍問題にも注意を払いながら、同時に、5月1日時点での編入学生の定員を含めた収容定員における充足率にも留意し、定員割れとならないようにする。
- ・次年度オープンキャンパスでは予約型を廃止し、ミニ講義2本立て、または、体験講座とミニ講義を行うこととした。

＜執筆担当／全学入試委員会 委員長 山田 一哉＞

（2）総合経営学部入試委員会

総合経営学部の入試委員会は、教員6名と入試広報室の職員によって構成されている。

総合経営学部の入試委員会としては①学生募集関連と②入学試験関連の2つの業務になる。

1) 年度当初の計画 <P>

年度当初の計画は下記の通りである。

① 入学者の定員確保と学習意欲の有る学生の確保

昨年度の志願者は学科開設以来、両学科とも最も多かった。特にセンター試験・一般入試の志願者が多くそれに対応するため今年度は総合経営学科定員を10名増とした。

指定校については見直しを行い、県外校の指定校の廃止、県内校についても選別し指定校の廃止、指定校枠定員減の措置を行なった。さらに、A0入試、推薦前期・後期に筆記試験を課すことにした。これらは、志願者増に対する方策と学習意欲の有る学生を確保するための措置である。

② オープンキャンパスの充実

各学科の違いを明確にするために、総合経営学部のキャンパス見学会参加者を一同に集めて両学科の説明をすることにした。各学科の詳しい説明はリピーター対応の説明で行なう。参加者に学科のミスマッチなく、それぞれの学科を志望する参加者に的確に説明することが出来ることによりオープンキャンパスの充実を図りたい。

③ ミスのない入試運営

引き続きミスのない入試運営を実施することが出来るように、注意して対応していきたい。

2) 目標の実施状況 <D・C>

① 入学者の定員確保と学習意欲の有る学生の確保

〈総合経営学部〉

- ・ AO 入試、推薦前期・後期に筆記試験を課すことにした結果、学習意欲の有る学生が入学した。筆記試験を課したことは効果的であった。

〈総合経営学科〉

- ・ 指定校については見直しを行い、県外校の指定校の廃止、県内校についても選別し指定校の廃止、指定校枠定員減の措置を行なった。その結果、2017年の63名に比較して50名と13名の減となった。
- ・ センター試験・一般入試の志願者が多くそれに対応するため今年度は総合経営学科定員10名増としたが、一般入試 2017年の4名に対して27名の入学者、センター試験 2017年の1名に対して6名の入学者があり、両試験で28名の対前年増の入学者となった。

- ・ 志願者は各試験の合計で13.3%増(34名)であった。しかし、AOは志願者が11名減であった。減については、AO入試に筆記試験の導入がされたことが原因かどうかは定かでない。

〈観光ホスピタリティ学科〉

- ・ 指定校の志願者が62%増(16名)であったが推薦前期対前年18.1%で18名の減であり、一般B.Cの志願者が対前年38.7%で19名の減であった。
- ・ 志願者は昨年に比べ16名の減となったが、2016年～2012年の志願者数は138名～99名であり2017年以降大幅に増えている。

学科別入学者数の対比 (表Ⅰ)

総 経	2018年	2017年	観 光	2018年	2017年
指定校	50	63	指定校	43	27
推薦前期	1	6	推薦前期	4	22
後期推薦	1	3	後期推薦	4	4
自己推薦	0	1	自己推薦	2	2
AO I	3	4	AO I	2	9
AO II	3	0	AO II	6	6
一般A1	8	2	一般A1	6	6
一般A2	11	0	一般A2	7	2
両日受験	0	0	両日受験	0	0
一般B	6	0	一般B	6	1
一般C	2	2	一般C	1	1
センター I	4	1	センター I	5	1
センター II	1	0	センター II	1	1
センター III	1	0	センター III	0	0
留学生	1	0	留学生	1	0
合 計	92	82	合 計	88	82

学科別志願者数の対比 (表Ⅱ)

総 経	2018年	2017年	観 光	2018年	2017年
指定校	50	63	指定校	44	27
推薦前期	18	19	推薦前期	15	21
後期推薦	8	9	後期推薦	11	7
自己推薦	3	5	自己推薦	4	3
AO I	6	16	AO I	9	13
AO II	8	7	AO II	13	6
一般A1	62	30	一般A1	34	37
一般A2	44	26	一般A2	26	28
両日受験	34	17	両日受験	19	24
一般B	28	17	一般B	8	21
一般C	16	14	一般C	4	10
センター I	65	40	センター I	28	38
センター II	7	13	センター II	3	8
センター III	5	12	センター III	1	3
留学生	3	1	留学生	1	0
合 計	289	255	合 計	182	198

観光(指定校)にて1名辞退あり。

② オープンキャンパスの充実

総合経営学部のキャンパス見学会参加者を一同に集めて両学科の説明をすることにし、各学科の詳しい説明はリピーター対応の説明で行なった。これにより参加者に学科のミスマッチなく、それぞれの学科を志望する参加者に的確に説明することが出来ることによりオープンキャンパスの充実が図れた。

オープンキャンパス参加者の総計は、総合経営学科 221 名、観光ホスピタリティ学科 117 名であった。1 昨年度はそれぞれ 269 名、140 名であった。多少の減ではあったが入試には影響していなかった。リピーター変動もありオープンキャンパス参加者と受験者数は単なる比例関係には無いことも今後注意する必要がある。

③ ミスのない入試運営

今年度は入試問題等においてミスはなかった。

3) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 入学者の定員確保と学習意欲の有る学生の確保

昨年度の志願者は両学科とも最も多かったが、今後高校生の減少速度が年々加速するため学習意欲の有る学生の確保に向けて、一層努力し続けることが肝心である。

② オープンキャンパスの充実

次年度も総合経営学部のキャンパス見学会参加者を一同に集めて両学科の説明をすることにし、各学科の詳しい説明はリピーター対応の説明で行なう。参加者に学科のミスマッチなく、それぞれの学科を志望する参加者に的確に説明することが出来ることによりオープンキャンパスの充実を図りたい。

③ ミスのない入試運営

引き続きミスのない入試運営を実施することが出来るように、注意して対応していきたい。

<執筆担当/入試委員会 総合経営学部主任 山根 宏文>

(3) 人間健康学部入試委員会

平成 30 年 4 月、健康栄養学科には 82 名、(定員 70 名)、スポーツ健康学科には、109 名、(定員 100 名) が、入学した。

大学を取り巻く環境は、少子化の中、一層の厳しさを迎えている。長野県内においては、長野大学、諏訪東京理科大学が公立化に向かい、特に、平成 30 年度は長野県立大学が開学する。長野県立大学は、管理栄養士養成を含む食健康学科が本学健康栄養学科と重複する。よって、今後を見据えて、平成 30 年度入学生の定員は、健康栄養学科が 80 名から 70 名となり、それをカバーするために人気が高いスポーツ健康学科の定員を 80 名から 100 名へと変更した。

平成 30 年度は、上記の状況を見極めながら第一義的には定員確保を目指し、更に質の高い学生を獲得するために活動した。

1) 年度当初の目標 <P>

- ① 入試区分および高等学校の評定値と入学後の成績・移動状況とを分析し、指定校枠の選別と評定値の設定を行う。
- ② 年度当初から本年度入試に対する基本的考え方を各学科で共有しておく。
- ③ オープンキャンパスの学科説明や高等学校の先生に、新コース制度およびアドミッションポリ

シー「求める学生像」および必要履修科目を説明する。

- ④ 編入学受験者の増加を目指す。
- ⑤ キャンパス見学会や出前授業を効果的に運営する。

2) 目標の実施状況 <D>

① について

入試区分および高等学校の評定値と入学後の成績・移動状況とを分析し、指定校枠の選別と評定値の設定を行った。

例年通り健康栄養学科では、過去の管理栄養士国家試験合格結果を基に合格者の本学入試区分・出身高等学校での評定値・本学の管理栄養士必修科目での GPA、就職決定時期、全国模擬試験での偏差値等に関する詳細な分析を行った。その分析結果に基づいて、推薦入試の指定校・指定校評定値の見直しおよび公募推薦での基準となる評定値を変更した。また、高校再編に伴い高校の統合が進んでいることから、統合した高校について詳細な分析を行い、評定値を決定した。

スポーツ健康学科においても、これまでの入学者の GPA や異動に関する分析を同様に行い、その分析結果に基づいて、推薦入試の指定校枠・指定校評定値の見直しおよび公募推薦での評定値の検討、また、指定校枠・評定値についての検討および見直しを行った。入試区分による分析においては、指定校からの入学者の GPA が過去 4 年においても平均して安定して 2.0 を上回っていた。A0 入試、公募推薦入試においては、一般入試と比較して GPA が低い傾向が見られた。このことから、指定校からの入学者の増大は、質の安定と入学者数の確保において重要であると考えられた。

昨年度は、前半において多数の入学者を確保したこともあり、一般入試で多くの不合格者を出した。本年度は、入学者定員が 20 名増であったが、少しでも質が向上することを考え、A0 入試、推薦入試で合格者数を抑え、一般入試およびセンター入試での合格者数を増やすことを念頭に置き、取り組んだが、一般入試およびセンター入試での受験者数の伸びが低調であったことにより、109 名という入学者を得たが、満足の行くような選抜にはならなかった。よって、引き続き、数名を取るか、取らないかと言う判断が今後とも求められる。しかしながら、徐々にではあるが、進学校の中位、上位に位置する高校からの受験生が増えてきている現象が感じ取れると共に、進学校からの入学者の定着も感じられるようになって来た。

② について

両学科会議において本年度入試の方針について議論した。定員の確保が第一であること、その上で如何に質を高めてゆくかが重要であるかが確認された。また、本学科の志願者数を増やし、学力を担保した学生の獲得を目指す取組みの一つとして行われていた松商学園高等学校への特別模擬講義は廃止し、募集人員および条件を明確にした入試方針を設け、高校側に説明を行った。

健康栄養学科では、平成 29 年度よりコース制が始まったことを踏まえて、受験生に説明することが確認され、スポーツ健康学科では、学科定員に配慮しつつ、良い成績が期待される学生を積極的に取ってゆくこと、また、志願者の動向に応じて対応を審議してゆく方向性が確認された。また、松商学園高等学校からの受け入れ枠を増やすと共に、当該高校の教員と連絡を密に取り、入学希望生徒に対する指導をより一層強めていただくよう、協力をお願いすることが確認され、実施された。

③ について

健康栄養学科では、高等学校で化学や生物を履修していないため、良い資質を持ちながらも入学後の勉学についていけなくなるケースが見受けられる。そこで、高等学校入学時、あるいは入学後の可能な限り早い時期に健康栄養学科では、化学や生物を履修しておくことを生徒に説明した。平成 29 年度からコース制が導入されることから、取得可能な資格を含め、新制度の内容について学生への周知を徹底した。

スポーツ健康学科においては、健康運動指導士等の資格を取得する上で、物理等の基礎的な知識が必要となることなど、自分が目指す方向、取得を希望する資格によって要求されるものが異なることなどを説明した。

学部・学科のアドミッションポリシーを説明すると共に、求められる履修科目を説明した。

④ について

編入学受験者増加のため、オープンキャンパス等において編入学を検討している学生に対して、学科における学びの特徴や取得可能な資格等を分かりやすく提示説明することに務めた。健康栄養学科の編入学受験者は 2 名で、健康スポーツ学科では 1 名であった。

⑤ について

キャンパス見学会は 6 回実施した (6/25、7/23、8/6、8/20、9/24、10/9)。出前講義等の回数は以下の通りであった。模擬講義・出前講義：28 講座、学校見学における講義：5 講座、オープンキャンパスミニ講義：15 講座、オープンキャンパス体験講義：9 講座、高大連携の模擬講義 (岡谷東高校)：12 講座

3) 点検・評価の結果 (目標の達成状況) <C>

① について

入試広報室からの大手予備校における本学科に対する希望状況を念頭におきながら、入試区分と入学後の成績・異動状況とからの分析、また、各入試区分における歩留まり率を想定しながら選抜を行った。特にスポーツ健康学科においては 20 名の定員増への対応と共に如何に質を確保するかについても検討しながら選抜が行われた。結果、上位高からの志願者も増加し、入学者は健康栄養学科では定員より 12 名多く、スポーツ健康学科では定員より 9 名上回る比較的良好な結果となった。

② について

両学科共に年度当初から入試に対する基本的考え方を共有していたことにより、円滑に入試業務が行われた。

③ について

県内の教員に対する説明会を行った。昨年以上の教員が集まり、説明会の後も個別の質問が出るなど、良い反応が見られた。

④ について

編入学者は、健康栄養学科は 2 名、スポーツ健康学科は 1 名と両学科とも定員 5 名を満たすことが出来なかった。

⑤ について

健康栄養学科のキャンパス見学会 (授業公開を含む) 参加者数は 262 名、リピーターは 103 名であった。昨年度は参加者数が 353 人、リピーター 128 人であったことより、コアとなる生徒はそれほど変わらないが、参加者数が大きく落ち込んだことが分かる。これは、長野県立大学の

開学が大きく影響しているものと考えられる。

スポーツ健康学科では、キャンパス見学会（授業公開を含む）参加者数は291名、リピーターは116名であった。昨年度は参加者数が311人、リピーター84人であったことより、コアとなる生徒の増加が見られ、県内には同分野の学科もないことから参加者数の落ち込みは少ないことが分かる。

4) 次年度に向けて <A>

少子化、競合校の増大と言う状況下において、恒常的に定員を確保してゆくことが最重要課題である。その中においても如何に質を担保し、向上させてゆくかどうかについて目をそらしてはいけないと考えている。

次年度も精力的に本学・学部・学科のアドミッションポリシーおよびそれに基づく多様な情報をオープンキャンパス、高等学校等進路室訪問、高等学校および相談会場等において受験関係者に直接伝える機会を増やしてゆくことに努める。また、引き続き大学案内、募集要項、大学ホームページなどに加え、SNS など様々な媒体を通して広く内外に周知し、受験生や保護者、高等学校の教員が必要とする情報を精査した上で、正しく理解されるように工夫を凝らし、積極的な広報活動を通して認知度を一層高め、志願者増に結びつけるように取り組んでゆくべきである。

健康栄養学科では、AO入試における過去5年分の模擬授業と課題についての説明を行うこと、また、面接における質問では、アドミッションポリシーを始めとする学科理解の深度を確かめる内容とし、受験者数の増大を図る。

スポーツ健康学科では、受験者数の増大をねらって、AO入試の改革に着手した。強化部を対象とした入試の公募化、運動選抜入試導入の検討を開始し、次年度入試では順次可能な部分から導入してゆくこととなった。このことに伴い、新たな入試形態の整備および周知を図ってゆくことが望まれる。

5) 委員会業務内容等について

予備合否判定会議

- ・入学試験の合否について、学部長・学科長を交えて事前に「予備合否判定会議」で検討し、原案を作成することによって、教授会判定会議における審議に役立てた。

主な業務内容

- ・学部・学科教育理念・教育目標の入試要項への記入および説明による進路指導教員や受験生への本学の教育理念等の明確な提示と工夫
- ・アドミッションポリシーの高校教員および受験生等への徹底
- ・入試関係書類の誤記載防止への協力体制
- ・入学生選抜のための分析
- ・指定校および指定校評定値の見直し
- ・編転入学試験に伴う作問委員会への作問依頼
- ・編転入学試験受験者に対する単位の読み替え、及び入学後の卒業までの見通しの判断をし、その結果を当該受験者に伝達する
- ・入試実施ごとの教員担当業務についての割り振り依頼
- ・入試問題作成・校正・採点についての依頼
- ・入試当日の責任業務

- ・入学試験の実施・評価・合否判定会議までの進行
- ・次年度入試関連業務の検討事項の抽出
- ・キャンパス見学会・公開授業・出前授業・進路説明会の担当教員についての割振りと依頼
- ・キャンパス見学会での学科説明、A0 入試説明の検討と実施
- ・次年度入試変更案の検討と作成

＜執筆担当／入試委員会 人間健康学部主任 中島 弘毅＞

（４）教育学部入試委員会

教育学部は2017年度に新たに開設された学部である。2017年度入学者選抜試験（以下入試）においての各区分の受験者・入学者を調査し、2018年度入学生入試にどのように反映し、教育学部の魅力をアピールし、入学定員を充足していくかが一番の問題であった。

しかし、2017年度は1期生のみが在籍している状況であり、教育学部の内容を充実させながら魅力をアピールしていくという部分に難しさが見られた。魅力の一部として英語の中学校・高等学校教諭一種免許状を取得できるようにし、それらを活用し受験生にアピールしていくことも併せて検討された。

完成年度における学生の教員採用試験の受験率・合格率も考え、学生の育成と共に、入学区分による学生像を明確にし、今後の入試の方向性を考えていく。

1) 年度当初の計画 <P>

教育学部学校教育学科の入試委員はA0運営部会も含め年度内に移動がありながら、最終的には5名で構成され、ほとんど全員が新たに松本大学に異動してきたという状況で行われた。そのため、どのような入試が行われ、どのような人数が合格したのかという分析から始め、2017年度の入試、さらには高大接続システム改革を考慮した入試の方向性を考え下記の点について検討していった。

- ① 新入試区分（指定校推薦入試）の在り方
- ② 各入試区分で求める学生像
- ③ A0入試の内容の変更
- ④ 高大接続システム改革を視野に入れた入試改革

2) 状況の説明 <D>

① 新入試区分（指定校推薦入試）の在り方

昨年度の受験状況、入試状況を参考にし、指定校推薦入試を新たに設定し、2017年度に実施した。

② 各入試区分で求める学生像

教育学部で実施する入試で求める学生像について、どのような入学者を求めるかを明確にし、それに応じた入試の内容を検討した。

③ A0入試の内容の変更

上記②の検討に合わせ、A0入試に求められる学生像から、A0入試の在り方と内容を変更し、実施した。

④ 高大接続システム改革を視野に入れた入試改革

高大接続システム改革会議の最終報告（H28年3月）をもとに、今後どのように入試を変革し

ていき、今後それに沿いどのように入試を変更していくかについて検討した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 新入試区分（指定校）の在り方

指定校推薦入試は予定通り実施したが、この区分による入試については低調であった。より多くの学生に指定校推薦入試を受験してもらえる魅力発信が重要である。しかし、長野県内、並びに全国的な教育学部の状況として、国公立大学が第一希望である学生が多いため、どのように本学の指定校推薦入試を早い時期に決めてもらうかが問題である。

② 各入試区分で求める学生像

各入試区分で求める学生像を設定し、それらに応じた入試内容（推薦入試）を実施した。しかし推薦系の入試においては、前述の通り国公立大学が第一希望という学生が多く、指定校推薦入試と同様に、どのように推薦系の入試に学生を集めていくかが検討課題である。

③ A0 入試の内容の変更

各入試の学生像を考慮した A0 入試を実施した。

④ 高大接続システム改革を視野に入れた入試改革

高大接続システム改革を視野に入れ、今後の入試においての変更が検討された。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

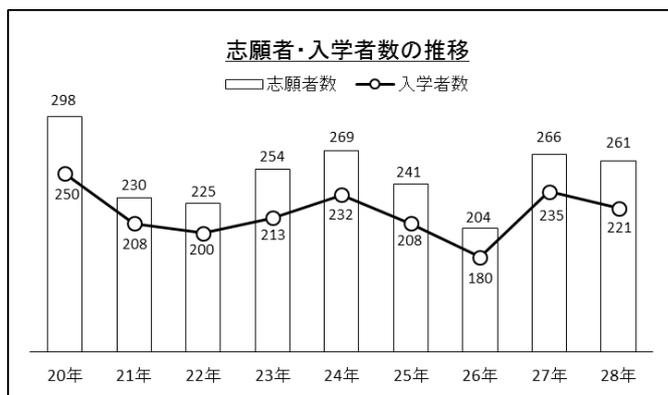
今年度の入学者は昨年より 7 名増えて 72 人となったが、定員充足まで 1 割不足している状況であった。先に述べた完成年度における学生の質保証や、教育学部の魅力発信等を検討しながら、各入試の在り方について検討していく必要がある。特に長野県内の高等学校に教育学部の存在とその魅力をアピールしていく方策について、より具体的にしていくことが求められる。

<執筆担当/入試委員会 教育学部主任 和田順一>

(5) 松商短期大学部入試委員会

1) 平成29年度当初の計画 <P>

本学の志願者数は以下のとおり 26 年度 204 人にまで減少し、その後 27・28 年度と 260 人を超え



るまで回復したが、この 2 年間は入学者数が 14 人の減となり、いわゆる歩留まりの面でやや悪化していると言える。県内高校生の進路状況を見る限り依然として、四年制大学進学志向の増大、根強い専門学校志向、高卒段階での好調な就職環境など、本学の学生募集にとっては厳しい状況が続いている。この状況における本学の課題は、四年制大学志向によ

る志願者減少分を、専門学校や就職を志向する層から如何に本学志願に結びつけていくのかということに尽きる。つまり、昨年度と同様、今年度の学生募集活動は、高校就職希望者および専門学校志願者に対する働きかけが、さらに重要になるということである。今年度も引き続き、高校生に対して本学の教育実績および就職実績における優位性を強くアピールして入学志願者 250 人・入学定

員 200 人の達成を目指す。

2) 平成29年度(平成30年度入試)の実績～現状の説明～ <D>

① 松商短大部入学志願状況

今年度を含む過去3年の入試区分別志願者数は次表の通りである。

入 試 区 分		特待生	推 薦	一 般	センター・留学	AO	計					
29年度 (30年3月末)	商&経営情報	経済支援	5	指定	143	A	20	センター	30	I 期	7	
		学業学力	5	一般	30	B	5	留学	0	II 期	12	
				自己	3	C	4	社会人	0		0	
	計		10		176		29		30		19	264 (入学218)
28年度 (29年3月末)	商&経営情報	経済支援	5	指定	133	A	17	センター	32	I 期	22	
		学業学力	4	一般	30	B	8	留学	1	II 期	6	
				自己	1	C	2	社会人	0		0	
	計		9		164		27		33		28	261 (入学221)
27年度 (28年3月末)	商&経営情報	経済支援	7	指定	137	A	17	センター	21	I 期	15	
		学業学力	7	一般	36	B	5	留学	0	II 期	12	
				自己	7	C	2	社会人	0		0	
	計		14		180		24		21		27	266 (入学235)

今年度の志願者数は昨年度から3人増の264人となり、年度当初の目標250人を3年連続で達成することができた。入試区分ごとの増減は表の通りであるが、昨年度と比べて今年度は、AO入試での減少分を指定校推薦入試で補ったという結果となった。志願者数では昨年度とほぼ同じ水準を維持できたと言えるが、一般入試、センター利用入試の歩留まりは昨年度と同様に低く、260人超の志願者数を維持しているにもかかわらず、入学者数は減少となった。

② 本年度入学試験区分別状況

入試区分毎の志願者・合格者・入学者数を過去3年で比較してみると次表のとおりである。

29年度 試験日	入 試 区 分	志 願 者 数			合 格 者 数			入 学 者 数		
		29年	28年	27年	29年	28年	27年	29年	28年	27年
11月4日	特待生(経済支援) (学業学力)	5	5	7	3	3	2	3	2	2
		5	4	7	2	0	1	2	0	1
11月12日	推薦前期(指定) (一般)	143	133	137	143	132	136	143	131	136
		26	25	31	26	24	31	26	23	31
12月9日	推薦後期(一般) (自己)	4	5	5	4	5	5	4	4	5
		3	1	7	2	1	7	2	1	7
12月9日	留学生(前期)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月15日	AO I 期	7	22	15	7	22	15	7	22	15
	社会人AO I 期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月4日	AO II 期	12	6	12	11	6	12	11	6	12
	社会人AO II 期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年 内 計		205	201	221	198	193	209	198	189	209
2月3・4日	一 般 A	20	17	17	17	17	16	7	7	10
3月2日	一 般 B	5	8	5	3	5	5	2	5	5
3月20日	一 般 C	4	2	2	4	1	2	3	1	2
2月	センター I 期	25	14	15	23	15	15	4	10	8
3月	センター II 期	3	15	3	3	8	3	2	7	0
3月	センター III 期	2	3	3	2	2	2	2	1	1
2月23日	留学生(後期)	0	1	0	0	1	0	0	1	0
年 明 け 計		59	60	45	52	49	43	20	32	26
総 計		264	261	266	250	242	252	218	221	235

年内実施の試験における志願者数も年明け実施の試験における志願者数も昨年度とほぼ同様であり、合格者数についてもほぼ同じ状況となった。しかしながら、入学者数については、年内試験で9人の増、年明け試験で12人の減となった。年内試験では、指定校推薦入試で12人の増、AO入試 I 期・II 期合わせて10人の減であり、年明け入試では、センター利用入試の3回で合わ

せて10人の減となった。

③ 特待生の状況

過去3年間の特待生の採用状況は以下の通りである。

	2018年度			2017年度			2016年度		
	推薦	一般/センタ	計	推薦	一般/センタ	計	推薦	一般/センタ	計
経済支援Ⅰ種	1		1	1		1	2		2
経済支援Ⅱ種	2		2	0		0	0		0
学業学力Ⅰ種	0		0	0		0	0		0
学業学力Ⅱ種	2		2	1		1	1		1
松商Ⅰ種	1		1	1		1	1		1
学力Ⅰ種	0	0	0	0	0	0	0	1	1
学力Ⅱ種	2	2	4	2	1	3	5	0	5
学力Ⅲ種									
沖縄Ⅱ種							1	0	1
留学生			0	1	0	1			
計	8	2	10	6	1	7	10	1	11

Ⅰ種	2	730,000	1,460,000	2	730,000	1,460,000	4	730,000	2,920,000
Ⅱ種	8	365,000	2,920,000	4	365,000	1,460,000	7	365,000	2,555,000
Ⅲ種									
免除額計			4,380,000			2,920,000			5,475,000

④ 志願者・入学者の出身地区別状況

過去3年間の志願者・入学者の出身高校地区別一覧は次表のとおりである。

県内外を合わせて志願実績のあった高等学校数は昨年度より10校の減であった。内訳を見ると中信地区で6校、留学生を含む県外で4校の減が大きかった。志願者数の全体は昨年とほぼ同じであったが、中信地区で昨年より14人減少、一昨年度から2年続けて10名を超える減少であった。この中信地区での減少分と県外の減少分を、今年度は、南信6人、北信9人、東信8人の増加で補うことができた。入学者は、中信地区での14人の減が大きかったが、それを北信で5人、

地区	29年			28年			27年		
	学校数	志願者	入学者	学校数	志願者	入学者	学校数	志願者	入学者
中信	15	121	106	21	135	120	20	147	134
南信	18	68	59	20	62	58	21	60	50
北信	20	52	34	18	43	29	17	38	34
東信	6	18	16	6	10	8	7	12	9
計	59	259	215	65	250	215	65	257	227
県外	5	5	3	8	10	5	8	9	8
計	64	264	218	73	260	220	73	266	235
留学	0	0	0	1	1	1	0	0	0
計	64	264	218	74	261	221	73	266	235

東信で8人の増加で補った。今年度は昨年度に引き続き、志願者、入学者ともに中信地区の落ち込みが目立つ結果となった。

⑤ 入学者の出身高校別状況

3年で本学への入学実績が5人以上であった高校は次表の通りである。上位校の顔ぶれは、1位が3年連続で松商高校、2位には昨年度大きく順位を落とした穂高商業が返り咲き、3位には常連校である田川高校と豊科高校が入った。また、今年度初めて東信地区から上田東高校が第6位に進出した。その一方で、一昨年、昨年とベスト3に入っていた美須ヶ丘高校は大きく順位

を下げ、ベスト10の常連であった、都市大塩尻高校が圏外となった。

30年度入学(29年)		
①	松商	25
②	穂高商業	16
③	豊科	13
	田川	13
⑤	諏訪実業	10
⑥	梓川	8
	岡谷東	8
	上田東	8
⑨	下諏訪向陽	7
	長野南	7
⑪	塩尻志学館	6
	赤穂	6
計		127

⑬	長野商業	5
	松本蟻ヶ崎	5
	松本美須々	5
	大町岳陽	5
	辰野	5
計		152

29年度入学(28年)		
①	松商	29
②	松本美須々ヶ丘	19
③	田川	18
④	塩尻志学館	10
⑤	赤穂	8
⑥	東京都市大学塩尻	7
⑦	豊科	6
	梓川	6
	下諏訪向陽	6
	諏訪実業	6
⑪	穂高商業	5
	岡谷南	5
計		125

⑬	松本筑摩	4
	松本第一	4
	岡谷東	4
	松代	4
	長野商業	4
	須坂商業	4
	計	

28年度入学(27年)		
①	松商	30
②	穂高商業	21
③	松本美須々ヶ丘	13
④	田川	10
	東京都市大学塩尻	10
⑥	塩尻志学館	9
	梓川	9
⑧	岡谷東	8
⑨	豊科	6
⑩	大町北	5
	下諏訪向陽	5
計		126

⑫	岡谷南	4
	長野南	4
	明科高校	4
	赤穂	4
	上伊那農業	4
	東海大学付属第三	4
計		150

3) 点検・評価の結果 <C>

今年度は志願者264人、入学者218人といずれも年度当初の目標を達成することができた。志願者数を入試別に昨年度と比べてみると、指定校推薦入試で12人の増加に対してAO入試で9人の減少となり、全体で3人の増加となったがほぼ昨年並みであったと見ることができる。

この志願者数に対して、昨年度と比べた入学者数は、年内試験で9人の増、年明け試験で12人の減となり、全体で3人の減となった。年内試験では、指定校推薦入試で12人の増、AO入試I期・II期合わせて10人の減であり、年明け入試では、センター利用入試の3回で合わせて10人の減となった。

年明け実施の入試全体での合格者に対する入学者の割合いわゆる歩留率は38%となり、昨年度の65%(一昨年度60%)を大きく下回り過去最低となった。3回実施の一般入試の歩留率は全体で50%であり、昨年度の54%(一昨年度74%)からやや低下した程度であったが、センター利用入試の歩留率は全3回の全体で32%となり、昨年度の72%(一昨年度45%)から大きく低下した。とりわけ、センター利用のI期では、今年度%となり、昨年度の67%(一昨年度45%)を大きく下回った。

平成23(2011)年度から始めた高校時代の専門資格の取得状況に応じた入学金割引制度、本学への兄弟姉妹入学者についての入学金割引制度の利用状況は、推薦入試段階で専門資格取得割引の対象者が12人(昨年度6人)、兄弟姉妹免除が8人(昨年15人)、一般入試段階(センター試験利用含む)で資格割引が1人(昨年2人)、兄弟姉妹割引が昨年同様の1人であった。また、平成27(2015)年度から、松商学園高校出身者に対しては入学金の全額免除を実施し、今年度は推薦入試段階で22人、一般入試段階で4人が該当した。資格割引の4月入学時申請が8人(昨年7人)あり、今年度の資格割引の対象者は計21人(昨年15人)となった。その内訳は、漢字検定2級12人(昨年9人)、英語検定2級1人(同3人)、日商簿記2級7人(同2人)、ITパスポート1人(同1人)であった。日商簿記検定2級については昨年度の大幅な試験範囲の見直しが今年度に一段落したことによ

る対象者の増加と見ることができる。

入学者の出身地区をみると、今年度は中信地区の2年連続の14人の減少が特徴的であった。この減少分を北信地区(5人)と東信地区(8人)の増加で何とか埋めることができたと思えることができる。中信地区の減少要因の一つとして松本駅前に進出した大原専門学校の影響、北信・東信地区の増加要因として県立短大の四年制化の影響と見ることができるかも知れない。

入学者の出身高校を見ると、昨年度大幅減となった穂高商業高校が9人増で上位に返り咲き、その一方で、松本美須ヶ丘高校が14人の大幅減となったこと、都市大塩尻高校が5人減の2人となり圏外となったことが特徴的であった。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

以下のグラフは、本学の志願者に対する入学者の割合を入学率として表したものである。これまでに述べてきたように、今年度までの3年間は本学への志願者数は260人超でほぼ一定と見ることができる。しかしながら、入学者数は、一昨年度235人、昨年度221人、今年度218人と通減してきており、その要因は、年明け入試における歩留率の低下と考えることができる。特に年明けの入試シーズンの早い段階で実施される一般A入試、センター利用入試第I期については、大幅な低下となった。したがって、来年度は、歩留率が非常に高い年内入試においてどれだけ志願者を集められるかが、本学の学生募集の最大の課題となる。上記グラフに明らかのように、入学率を80%と仮定するならば、定員200人を確保するためには年内の入試段階で志願者を250人とすべきこととなる。

また、地域別の学生募集活動としては、中信地区における志願者回復への取組が急務である。特に大原専門学校志願層の本学への取り込みが必要となる。また、同時に、北信・東信地区については、県短の四大化、長野大の公立化による浮遊層を本学に取り込むことが必要である。ここでのポイントは、本学における教育内容と学費である。これまで県短を志望していた層を本学に取り込むために、教育面では四学期制を活用した海外留学プログラムの充実、そのための「海外留学支援制度」の立ち上げ、さらにそのための入試である「留学支援型AO入試」の広報を拡充する。また、学費の面では、本学の持つ特待生制度を強くアピールして、公立短大よりも安い学費で学べることを高校生に積極的にPRしていく。また、ICTを活用した最新の教育手法、外国語を基礎とした異文化コミュニケーション能力育成教育、そしてそれらに基づくコアコンピテンス育成の教育(A・P事業)によって他の短大、あるいはビジネス系の専門学校と本学の教育内容の違いを鮮明に打ち出し、本学独自の「学びの多様性・専門性」を具現する教育システム「フィールド・ユニット制」とそれに基づく質の高い就職の実績をこれまで以上に強力にPRし、志願者増に結びつけていく。

長野県内の事務系・金融系の就職であるならば松商短大、という点を強力にアピールしながら来年度も入学志願者250名・入学定員200名の確保を目指す。

<執筆担当/入試委員会 松商短期大学部 山添 昌彦>

(6) 入試問題検討部会

本委員会は、全学入試委員長、入試科目担当者、学外作問委員および入試広報室の職員により構成されている。

1) 年度当初の計画 <P>

大学または各学部学科のアドミッションポリシーに則った

- ① 入試問題の出題方針の決定
 - ② 方針通りに入試問題が作成されたことの確認
- を行うことを目的とした。

2) 目標の実施状況 <D>

6月に部会を開催し、それぞれの科目担当教員と作題担当者に分かれて、アドミッションポリシー、出題範囲、難易度、構成などについて詳細な打ち合わせを行った。なお、国語には、文部科学省が推進している記述式問題を導入することとした。

11月に第2回部会を開催し、初稿原稿をもとに学内担当者及び、作題担当者による試験内容の確認及び修正が話し合われた。

3) 点検・評価の結果 <C>

原案をもとに、事務局および科目担当教員と作題担当者間で、内容が適切であるかどうか、誤りがないか等詳細にチェックを行った。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

今年度と同様に、部会を開催し、詳細にわたる打ち合わせのあと、入試問題の完成までの過程で、教員と作題者の間で綿密にコミュニケーションをとりながら、目的にあった誤りのない問題の作成を行う。

<執筆担当/入試問題検討部会長 山田 一哉>

(7) AO入試運営部会

本部会は、大学院、総合経営学部・人間健康学部・教育学部、および松商短期大学の代表計7名および入試広報室の職員により構成されている。2017年度は大学院代表が委員長を務めた。

1) 年度当初の計画 <P>

大学または各学部学科のアドミッションポリシーを確認し、ポリシーに則ったAO入試の内容を検討し、実際に入試を行うことを目的とした。

2) 目標の実施状況 <D>

7月に部会を開催し、各学科の教員がアドミッションポリシー、入試日程、入試内容を確認し、疑問点を明確に解決し、互いに情報を共有した。

3) 点検・評価の結果 <C>

各学科とも原案通りのAO入試を行う事ができた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

今年度と同様に、部会を開催し、詳細にわたる打ち合わせのあと、より良いAO入試を行う。今後のAO入試について、より良い方策があるかどうかを検討することとした。

<執筆担当/AO入試検討部会長 山田 一哉>

2. 広報委員会

本委員会の目的は、受験生・在学生・保護者・地域住民等に対して、本学で行われている教育・研究・社会貢献活動等についての情報を発信し、広報していくことである。

1) 年度当初の計画 <P>

日常的に大学ホームページの更新・充実を行うとともに、年4回、学報「蒼穹」を編集・発行する。その他、多岐にわたるステークホルダーとの良好な関係を築くべく、本学の情報を発信する。

2) 実施した活動の概要 <D>

蒼穹の記事の内容を、おもにメール会議で審議し、第127号～第130号を編集・発行した。特集として、「教育学部開設人間健康学部開設10年～松本大学 さらなる飛躍へ～」（2017年6月号）、「いよいよ本腰を入れる防災教育」（2017年9月号）、「内定状況にみる就職支援の成果」「勢いを増す本学のグローバル化」（2017年12月号）、「COCを締めくくるにあたって～採択から5年 補助期間終了へ～」（2018年3月号）とした。また、あづみのFMでの番組収録における担当教員の順番リストを学科ごとに提出してもらい、月ごとに学科順に担当者を振り分けていくこととした。

3) 点検・評価の結果 <C>

大学ホームページは随時更新を行っており、ほぼリアルタイムで大学の動きを伝えられた。「蒼穹」も、広報誌として大学の動きをタイムリーに伝えられた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

引き続き、大学ホームページでは、大学の諸活動や成果を可能な限り早くかつ正確に、「蒼穹」では厳選した活動情報をまとまった形で発信していく。

<執筆担当/全学広報委員会 委員長 山田 一哉>

3. 高大連携推進委員会

1) 平成29年度当初の計画 <P>

当年度の連携事業として、総合経営学部は県内商業高校を中心としたデパートサミット事業と飯田OIDE長姫高校との地域人教育事業、人間健康学部スポーツ健康学科は岡谷東高校との連携事業、松商短大は穂高商業高校との連携事業が予定されている。いずれも昨年度からの継続事業である。なお、新設の教育学部については、連携先となる高校および連携内容の検討を年度当初の計画とした。

2) 平成29年度の実績～現状の説明～ <D>

(1) 総合経営学部の取組

① デパートサミット（マーケティング塾・デパートゆにっと）

長野県商業教育研究会が主催するデパートサミットは、県内の商業高校や農業高校が連携して学ぶ人材育成を目的とした新しい形での高大連携教育である。その内容は、商品開発などを学ぶ「マーケティング塾」と、その成果を発表する年1回の合同販売会「デパートゆにっと」によって構成されており、本学が共催して2013年4月から実施されている。

今年度のマーケティング塾は、昨年度12月に始まった第5期の事業と、今年度12月に始まった第6期事業の一部として本学を会場として下記の通り実施された。

マーケティング塾の成果の発表の場として行われる「デパートゆにっと」は、本年度で第5回を迎えた。マーケティング塾に参加している学校も含め、毎年全国から先進的な取り組みを行う商

業高校も参加し、「全国高校生合同販売 デパートゆにっと」という名称で、このイベントは位置づけられている。昨年までの過去4回は、長野市の「ながの東急百貨店」で行われていたが、今年度は県内への認知度を高めるため会場を松本市に移し、「井上百貨店本店」で8月18日から8月20日まで開催され

マーケティング塾

		開催日	テーマ
第5期	第4回	4月22日	消費者行動とデザイン 経営戦略「リーダーとしての行動」
	第5回	5月27日	広報活動と表現 経営戦略「企画力・行動力」
	第6回	6月10日	販売マナー講座
	第7回	7月17日	開発商品の販売方法とプレゼンテーション
	第8回	8月12日	販売実践の進め方
	第9回	10月8日	マーケティング塾とデパートゆにっとの総括
第6期	第1回	12月23日	デパートサミットの理解と目標 第5期の活動報告
	第2回	2月12日	地域資源を活かした商品とブランドづくり リーダーとして必要なもの
	第3回	3月24日	ニーズを見つけたブランドデザイン ブランドの開発

た。県内 12 校と県外 3 校、松本大学支援会「ゆにまる」の学生が参加し、本年は特に松本市制 110 周年の記念イベントとして位置づけ、写真展も同時に催すなど、地域との繋がりをより深く持った販売会となった。

デパートサミットの取り組みを踏まえ、「デパートゆにっと」アンテナショップとしての「バレンタイン・スイーツ」は、松本大学が主催し、長野県商業教育研究会と井上百貨店が共催することで行われている。この販売会は、夏のイベント「デパートゆにっと」に対して冬のイベント「バレンタイン・スイーツ」として定着し、バレンタインデーを意識してよりターゲットを絞った販売会となっている。今年度の販売会は 2 月 11 日・12 日まで、松本大学の矢内ゼミ（栄養）・向井ゼミ（観光）・金子ゼミ（短大部）と「ゆにまる」、南安曇農業高校・松商学園高校・辰野高校・飯田 OIDE 長姫高校・長野商業高校・丸子修学館高校・穂高商業高校・諏訪実業高校の 8 校の高校生が参加し、(株)井上百貨店のアイシティ 21 の 1 階イベント広場で開催した。またこれに先立ち、2 月 4 日には同会場にて商品発表会を行った。この取り組みは「デパートゆにっと」で行われているアンテナショップでは最も規模が大きく、デパートサミットに参加していない高校生の参加も可能とするなど、より多くの高校生の学びの機会を提供することができた。

デパートサミット事業は、商品開発をはじめとしたビジネス活動を通して地域人材の育成に貢献してきている。しかしビジネス活動の学びの範疇は広く、当事業の参加生徒は、商業高校に限らず農業高校にも広がっている。そこで高大連携教育に活かすためには、ものづくりから消費までのビジネス活動の動きを俯瞰できる新たな教材の開発が必要であると考えて今年度は以下の通りその導入を試みた。

第 1 回マネジメント・ゲーム研修会 2017 年 7 月 16 日（日） 松本大学

参加者：高校教員 8 名 一般企業 3 名 松本大学学生 5 名

第 2 回マネジメント・ゲーム研修会 2017 年 11 月 25（土） 松本大学

参加者：高校教員 6 名 松本大学学生 4 名

題 名：「マネジメント・ゲームによるビジネス感性トレーニング」（公開授業）

参加者：南安曇農業高校生物工学科 動物バイテクノロジーコース 生徒 9 名

松本大学アシスタント学生 2 名

② 地域人教育

飯田 OIDE 長姫高校との高大連携事業は今年度、「まちづくり学習会」の一つである「コミュニティカフェ上土日和」の第1回イベントとして、2017年7月2日に上土・下町会館およびふれあいホールにおいて、水引作り体験・展示、上土看板しりとり、竹細工による水鉄砲作り、七夕飾りへの短冊の取り付けを行った。

(2) 人間健康学部を取組

① 健康栄養学科

今年度の健康栄養学科の高大連携事業は、以下のとおり、「高等学校の部活動に所属する生徒を対象とした体格改善を目的とする栄養サポート」に取り組んだ。

- ・岐阜県立中津高等学校水泳部及びサッカー部の栄養サポート

開催日時：2017年8月5日、8月29日、10月21日、12月9日

2018年2月3日、3月31日

参加人数：本学学生：4 生徒：水泳部5名、サッカー部30名

- ・松商学園高等学校サッカー部の栄養サポート

開催日時：2018年1月15日、2月5日、3月12日

参加人数：本学学生4名 生徒60名（2018年度から100名の予定）

- ・長野県立蘇南高等学校バドミントン部の栄養サポート

開催日時：2017年9月30日、11月4日、12月23日

2018年2月17日、3月27日／4月21日、6月9日（予定）

参加人数：本学学生：2名 生徒7名（2018年度から9名の予定）

② スポーツ健康学科

平成20年度に岡谷東高等学校との間で結ばれた連携協定にもとづき、今年度は右記のとおり実施した。

No.	開催日	対象		時間	教室	担当	授業科目名
1	6月19日	1年生	オリエンテーション	9:40~9:55	643	岩間	
			1時限	10:00~11:00	643	岩間	運動学
			2時限	11:10~12:10	643	齋藤	スポーツ心理
			昼食	12:10~13:00	カフェテリア	岩間	
			3時限	13:00~14:00	643	中島節	養護教育
2	7月18日	2年生	オリエンテーション	9:40~9:55	634	岩間	
			1時限	10:00~11:00	634	山本	トレーニング
			2時限	11:10~12:10	634	田邊	健康運動指導
			昼食	12:10~13:00	カフェテリア	岩間	
			3時限	13:00~14:00	634	犬飼	レクリエーション
3	9月12日	1年生	オリエンテーション	9:40~9:55	633	岩間	
			1時限	10:00~11:00	633	等々力	現代スポーツ論
			2時限	11:10~12:10	633	根本	健康運動指導
			昼食	12:10~13:00	フォレスト	岩間	
			3時限	13:00~14:00	633	江原	生活習慣病と予防
4	9月12日	2年生	オリエンテーション	9:40~9:55	634	岩間	
			1時限	10:00~11:00	634	中島弘	レクリエーション
			2時限	11:10~12:10	634	新井	スポーツ行政
			昼食	12:10~13:00	フォレスト	岩間	
			3時限	13:00~14:00	634	河野	宇宙生理学

(3) 松商短期大学部

① 大学授業チャレンジ型連携

高校の夏休み、春休みを利用して、本学教員の教育資源を活用した大学の経済・ビジネス系等の専門科目の受講および学食利用、教室移動等の具体的なキャンパスライフの疑似体験を通して、

高校生の勉学意欲および進学意欲の高揚を図ることを狙いとした連携である。

今年度は穂高商業高校(2年生 93名)との連携事業となった。

大学授業チャレンジ型連携 (2017年夏) 講義時間割

	1時限 9:40~10:40	2時限 10:50~11:50	3時限 13:00~14:00	4時限 14:10~15:10
7月26日 ()	マーケティング①(金子) 811教室	経営分析①(山添) 811教室	会計学入門①(香取) 121教室	経営学の基礎(飯塚) 121教室
7月27日 (木)	UD入門(広瀬) 811教室	会計学入門②(香取) 811教室	金融論入門(藤波) 232教室	心理学入門(中山) 232教室
7月28日 (金)	マーケティング②(金子) 523教室	経営分析②(山添) 521教室	キャリアクリエイト①(糸井) アンケート記入 232教室(15:00まで)	

大学授業チャレンジ型連携 (2018年春) 講義時間割

	1時限 9:40~10:40	2時限 10:50~11:50	3時限 13:00~14:00	4時限 14:10~15:10
3月19日 (月)	マーケティング③(金子) 232教室	ブライダル入門(小澤) 121教室	会計学入門③(香取) 121教室	UD入門②(広瀬) 232教室
3月22日 (木)	心理学入門②(中山) 121教室	医療事務入門(浜崎) 232教室	銀行論入門(藤波) 232教室	松商短大の学び(金子) 閉講式(+香取) 232教室

② 高校授業グレードアップ型連携

穂高商業高校においてすでに日商2級レベルに達している3年生徒を対象として、本学教員(香取・山添)が同校に週1回出向いて日商1級レベルの「会計学」「原価計算」の講義を行う取組であり、高いレベルの学習への意欲促進を狙った連携である。今年度は4月17日から1月22日の間で、毎月曜日10:20~12:10に全24回実施、参加生徒数は3年生16名であった。

高校授業グレードアップ型連携 2017

回	日程	科目	担当
1	4月17日 月	商業簿記・会計学①	香取
2	4月24日 月	商業簿記・会計学②	
3	5月1日 月	商業簿記・会計学③	
4	5月8日 月	商業簿記・会計学④	
5	5月22日 月	工業簿記・原価計算Ⅰ	山添
6	5月29日 月	工業簿記・原価計算Ⅱ	
7	6月5日 月	工業簿記・原価計算Ⅲ	
8	6月19日 月	工業簿記・原価計算Ⅳ	
9	6月26日 月	商業簿記・会計学⑤	香取
10	7月3日 月	商業簿記・会計学⑥	
11	8月28日 月	工業簿記・原価計算Ⅴ	山添
12	9月4日 月	工業簿記・原価計算Ⅵ	
13	9月11日 月	工業簿記・原価計算Ⅶ	
14	9月25日 月	工業簿記・原価計算Ⅷ	
15	10月2日 月	商業簿記・会計学⑦	香取
16	10月23日 月	商業簿記・会計学⑧	
17	11月6日 月	商業簿記・会計学⑨	
18	11月13日 月	商業簿記・会計学⑩	
19	11月27日 月	工業簿記・原価計算Ⅸ	山添
20	12月4日 月	工業簿記・原価計算Ⅹ	
21	12月11日 月	商業簿記・会計学⑪	香取
22	12月18日 月	商業簿記・会計学⑫	
23	1月15日 月	工業簿記・原価計算ⅩⅠ	山添
24	1月22日 月	工業簿記・原価計算ⅩⅡ	

3) 点検・評価の結果 <C>

(1) 総合経営学部の取組について

マーケティング塾は高校側のニーズを尊重し、高校の授業では扱うことの難しい教材や指導法を

導入することで新たな学びを展開している。具体的には、グループワークやプレゼンテーションを多用し、生徒を主体とした生徒自らが考える授業の導入に取り組んでいる。教材の対象は商品開発にとどまらず、地域を知り、地域の資源を考え、地域の課題を考えるといった広がりのある学びとなり、また、農業高校生参加によって、ものづくりから流通までを広く考える視野の広い学びとなってきた。

(2) 人間健康学部取組について

岡谷東高校との連携においては以前に比べ高校性の受講態度が真剣なものとなり、大学の講義を受講する意味の浸透が見られる。2月2日には岡谷東高校主催の高大連携成果報告会が開催され、当該連携事業が学内外にアピールされた。また、同校より意欲の高い生徒の入学が認められた。しかしながら今年度の活動は、協定締結当初に想定していた連携事業のごく一部に過ぎず、今後、活動の幅を広げていくことが必要となる。具体的には、本学学生にとっての有益な活動である、高校生に対する運動指導体験、本学の教職課程履修者による高校授業の見学などが考えられる。

(3) 松商短期大学部取組について

今年度は昨年度の点検・評価を踏まえた改善・改革に着手した。チャレンジ型連携においては、本学の教育を高校性にPRする時間を設定し、また、グレードアップ型連携については、高校側と協議の上、受講する生徒に対して当初の受講資格であった日商2級等レベルを基準とする少数精鋭化を図った。また、松商学園高校とのチャレンジ型連携については、昨年度の同校教員との反省から、その実施について再検討の機会を持つべきところであったがかなわず、今年度事業は見送りとなった。その復活は次年度の課題である。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

昨年度と同様、高大連携事業は、政府の最優先課題の一つでもある「地方創生」の具体的取組として若者を地元に着させるための有効な方策とも言える。また、この事業は、高校生に対するキャリア教育という観点から大学の社会貢献の一つとも捉えられ、長期的に継続すべき取組である。したがって、長期継続が可能な実施体制の整備が大きな課題と言える。ここ数年の実施状況を見てみると、一部教員の負担が年々増大する傾向にあり、また、特定教員に対する担当硬直化により、各事業の長期的継続性に問題が生じる可能性も垣間見える。高大連携委員会の構成や事務局体制など現状の実施体制を踏まえてさらに強化を図ることが求められる。

各学部個々の事業については、それぞれに生じた課題に対して、担当者間で協議し改善策を検討することになるが、いずれにしても目先の結果にとらわれずに長い目で見て、参加する高校生、大学生にとって教育効果のより上がるような改善策が求められる。今年度は、昨年度まで実施していた松商学園高校との事業がすべて見直しとなっており、同校からの本学入学生の確保の観点も含めた再検討が必要な段階となっている。また、新設の教育学部については完成年度までを一応の目標として、今後の連携に向けて焦らず歩を進めていくことが望まれる。

<執筆担当/高大連携推進委員会 委員長 山添昌彦>

4. センター入試委員会

1) 年度当初の計画 <P>

センター入試委員会の平成29年度当初の計画は以下のとおりである。

① 受け入れ受験者数と試験室数の調整

昨年度は試験室が例年の7教室ではあったが、受験者数は520人と過去最高の昨年度並みであった。しかし、試験監督者は例年並みの人数であり、昨年度は割り当て作業は容易ではなかった。待機人員に関しても、前年度よりはよかったが少ない状況は改善できていない。一方で、信州大学からは受け入れ受験者数増員の検討依頼があり今年度の大きな課題である。

② 体調不良受験者への適切な対応

追試験を望まない体調不良受験者の対応を適切に行うための判断基準の明確化と別室試験室での安全な監督業務方法を検討する。

③ 適切な人員配置と効率的な運営

限られた人員を適切に配置し効率的に業務が遂行できる工夫を検討する。特に、警備担当者より受験生以外の来校者（特に本学在校生）への対応に苦慮したとの報告があり、ハードの整備などを含めた対策を考えていきたい。

2) 計画の実施・現状の説明 <D>

① 受け入れ受験者数と試験室数の調整

信州大学より、本学と松本歯科大学に対して今年度の受入受験者数増の要請があり、本学にて調整会議が開かれることとなった。これを受け、急遽本学のセンター入試委員会を開催して対策を検討した。本学の受け入れられる上限を確認したうえで調整会議に臨んだが、信州大学の要請の裏には、南信地区の試験場（飯田高校）担当に伴う大幅な負担増があることが明らかとなった。協議の結果、本学および松本歯科大学で可能な範囲で受入数を増やすことに同意し、信州大学の負担軽減に協力することとなった。その結果、本学試験会場では657席（前年度比137席増）に増やすことに決まった。試験室数は8室で割り当てることとしたが、その後、別室受験を希望する配慮者を受け入れることとなり、9試験室での運営体制を整えることとなった。

② 体調不良受験者への適切な対応

試験日がインフルエンザ流行期と重なることを予測し、健康安全センターに対策と事前準備、監督者会議での周知を依頼した。

また、予想していた追試験申請は発生せず、体調不良等による別室試験室の追加を要することもなく無事に進めることができた。

③ 適切な人員配置と効率的な運営

受入受験者数と試験室数が増えたことから、19の監督者グループを作成して各時間帯の受験者数に応じて各教室へ担当グループを配置する方法で割り当てを行った。今年度から教育学部教員も業務にあたることになったが、センター試験業務未経験者が多いことから、主任、副主任監督者から外すなどを考慮しながらの調整となった。また、これまで2科目試験室の中間時間帯に助監督を配置していたが、今年度は試験本部から要員を出した。連絡員についても各担当者が無理な態勢での業務とならないように配置および作業内容を見直し、簡略化と効率化を図った。

監督者会議とリスニング予行演習については、最初の会議を前年度よりも1週間早め、業務未経験者を中心に監督業務の解説映像DVDを配付した。特に教育学部では上映会を催すなど理解の促進に努めた。例年、問題冊子の受入と仕訳作業は学長執務室を借りて行っていたが、今年度は土曜日を実施したため学生センターを利用して実施した。

試験当日の監督業務に関して、今回は受験生の受験科目申請の手違いによって受験希望科目が

受験できなかったケースが数件確認された。試験室に受験できないはずの受験生が着席しているところを発見し連絡員が控室へ誘導する例などもあったが、適切に対処ができた。また、今回は、監督待機者は PHS での連絡がとれる状態であれば会議室での待機でなくてもよいこととして、監督者の負担感の軽減を図った。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 受け入れ受験者数と試験室数の調整

当初、信州大学からの要請は一方的なものであり、受け入れがたいという感があったが、調整会議にて先方の事情が明らかとなったことで、受け入れなくてはならないという認識が変わった。今後も地区の各校との連絡を密にして相互理解を深めて適切な運営ができるようにしたい。今回受け入れた 657 席は、今後も続くとみた上で、来年度以降の試験運営をより円滑に進めるための改善点等を検討していくべきと思われる。

② 体調不良受験者への適切な対応

予想していた追試験申請は発生せず、体調不良等による別室試験室の追加を要することもなく無事に進めることができたが、これも万全の体制が整っていることが前提となっている。

③ 適切な人員配置と効率的な運営

今年度は、監督待機者の会議室待機を任意としたが、会議室待機の方が混乱を招かないのではないかとの意見も寄せられていた。しかし、特に問題はみられなかったため、今後も少しでも監督者の負担を減らす方向で業務改善に努めていきたい。

細かな点では、大教室（524 教室）でのリスニング試験時に B 票を連絡員に手渡す場所を教室の後ろ出口ではなく前方出口が適しているとの指摘があった。全試験室一律にすべき点も多いが、各教室の状況に合わせた柔軟な対応が可能な部分は効率のよい方法を取り入れたい。

また、監督者会議にて J アラートへの対応方法について問い合わせがあったことを受け、J アラートや地震等の災害時の対応マニュアルを作成したことで、監督者は安心して業務にあたることができたようである。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 適切な人員配置と効率的な運営

次年度も試験室 8 教室以上での実施となることが予想される。事前研修の質向上、バランスを考えた監督者割当や連絡員等の配置、効率的な試験業務のための改善点の検討・実施に努める。

② プレテストの実施に向けた準備と運営

次年度は、新試験に向けたプレテストが始まる。試験の内容や規模を確認した上で、試験室の選定や監督者および連絡員等の配置、事前説明会等の準備を早期に進める必要がある。

③ 不測の事態への的確な対応

インフルエンザ罹患患者、配慮者、別室受験者等への対応や災害対策について、マニュアルの充実など万全を期すように努めたい。

<執筆担当／センター入試委員会 委員長 矢野口 聡>

IV. 管理部門

A：大学運営管理

1. 全学協議会

学長、副学長、各学部長・学科長並びに事務局長及び総務課長（書記）、学生センター長を構成員とする全学協議会は、最高決定権者である学長の下に設置された、学部横断的課題・事項に関する審議・決定を司る機関である。この間、短期大学部も含めた学部横断的課題・事項について審議・結論を得るとともに、各種報告事項についても適宜取り扱い情報の全学的共有化に努めてきている。

1) 年度当初の計画 <P>

今年度も、当該月に開催された全学運営会議（原則週1回開催）で事前に確認、整理された審議事項について慎重に審議し決定すること並びに、多岐にわたる報告事項について適切かつ適確に周知を図るべく努める。とりわけ、今年度（2017年）4月の教育学部・学校教育学科開設に関連する教育課程整備など関連する諸業務の円滑な推進及び、この間進めてきた諸規程の整備等に全学運営会議における検討を経て最終決定すべく取り組む。また、年度当初には予想していない事態や案件の生起、発生についても、適切な情報収集・分析と迅速な対応、解決に努める。

2) 計画の実施と現状の説明 <D>

年度当初の計画に基づいて、今年度もまた、8月をのぞく毎月一回、定期で計11回開催された。審議事項は、事前に全学運営会議における議論を経たものを中心に、全学委員会から各「担当」を経て上程されたものを含め、審議し結論を得て実施に移してきた。また、報告事項についても、事前に全学運営会議において扱われたものに加え、全学委員会等からのものも適宜取り上げ、情報の全学的周知・共有化が図られた。

今年度、本協議会で取り上げられ審議、承認された主たる事項について、以下、①学部横断的人事に関する審議と決定、②学則および各種規程の審議・承認と理事会への上程、③入試に関連する諸事項の検討・決定、④各種申請の調整・支援と遂行、⑤各種連携協定の審議・承認と締結、⑥その他、の6点にまとめ概述する。

① 学部横断的人事に関する審議と決定

- ・地域づくり考房『ゆめ』の補充職員人事
- ・女子ソフトボール部指導者人事
- ・教職センター嘱託専任教員の採用人事
- ・陸上部指導者人事
- ・地域健康支援ステーションの補充採用人事

② 学則及び各種規程の改正・改定・変更の審議・承認と理事会への上程

- ・研究活動における不正行為への対応に関する規程の一部改正
- ・松本大学国際交流事業に伴う危機管理対応に関する内規
- ・松本大学履修規程の一部改定
- ・松本大学松商短期大学部履修規程の一部改定
- ・松本大学総合経営学部進級に関する規程の一部改正
- ・松本大学人間健康学部進級に関する規程の一部改正
- ・松本大学教育学部進級に関する規程

- ・学校法人松商学園組織管理規程の一部改正
- ・松本大学における専門員に関する規程
- ・松本大学大学院特別研究員の称号付与に関する規程
- ・松本大学長期履修学生規程
- ・松本大学学業成績優秀者表彰規程
- ・松本大学松商短期大学部長期履修学生規程
- ・松本大学松商短期大学部学業成績上位者表彰規程
- ・松本大学および松本大学松商短期大学部の学則変更
- ・学校法人松商学園 上野奨学基金運営細則の一部改定
- ・赤羽奨学基金運用規程の一部改定
- ・松本大学上野奨学基金及び赤羽奨学基金の推薦に関する内規の一部改定
- ・松本大学科目等履修生規程の一部改定

③ 入試に関連する諸事項の検討・決定

- ・受験料二重払いの返金
- ・松商学園高等学校卒業生の入学金免除
- ・松商学園ファミリー割引制度の導入
- ・沖縄県および離島出身者特別奨学金制度の導入
- ・推薦入試およびA0入試合格者対象の特待生資格試験受験料の値上げ

④ 各種申請の調整・支援と遂行

- ・教育学部・英語教員免許課程設置に関する申請
- ・総合経営学科・健康栄養学科・スポーツ健康学科の収容定員変更の申請
- ・教職課程の再課程認定申請
- ・健康栄養学科の管理栄養士養成課程の定員変更の申請（厚生労働省）
- ・私立大学研究ブランディング事業の申請

⑤ 各種連携協定の審議・承認と締結

- ・株式会社コスモ、義守大学、麻績村

⑥ その他

- ・私立大学等改革総合支援事業への対応
- ・第2次中期目標・計画の策定、審議・承認を目指して検討
- ・平成30（2018）年度事業計画の策定、審議・承認
- ・平成30（2018）年度各委員会委員の選定と決定、委員長の承認

3) 点検・評価の結果 <C>

全学協議会は、審議・決定機関であって通常の業務遂行の任を負うものではないことから、必ずしも日常的な評価・点検には馴染まないと思われる。とはいえ、前述したように、諸規程の整備等通常あるいは日常的な担当事項については適宜、適切に対応してきたと判断している。くわえて、文部科学省による入学定員の厳格化に伴う各学部・学科の入試合格者数管理についても、多くの困難を伴ったものの、現時点でなし得る最善の解決策を提示し主導的に打開することができた。また、「第2次中期目標・計画」素案の策定、「平成30（2018）年度事業計画」の策定、平成30（2018）年度各委員会委員の選定と決定などについても、切迫した日程の中で集中的に取り組み審議、承認

へと導くことができた。

以上の例に顕著なように、全学的で緊迫した課題に対して、全体状況を把握、検討した上で、適切な解決策や方向性を提示し取組を促進することができたと判断する。

4) 次年度に向けた課題 <A>

上述した「第2次中期目標・計画」の1年目にあたる次年度に取り組むべき課題は、「平成30(2018)年度事業計画」にすでに盛り込まれている。長野県立大学の発足、長野大学や諏訪東京理科大学の公立化などが本学に与える影響に比べ、複数の看護学部(長野医療技術大学、清泉女学院大学)や「専門職業大学」の設立の動きを注視しつつ、それへの適切な対応を主導していくことが求められるが、本協議会がその主要な位置にあることは多言を要さない。したがって、そうした動向を遅滞なくチェックし、有効な対応策を迅速に講じていかねばならない。そのためにも、各方面に情報を求め把握に努め、それを踏まえた上で適切な方策を練り決定していくなど、積極的に議論を展開し学部横断的課題・事項に関する審議・決定機関として主導性を発揮していく。

また、今年度の入試状況について分析を深め、各種入学試験の定員管理の厳格化及び適切化を図ること並びに、新たな入試の実施に向けて主導的に取り組まねばならない。そのほか、次年度取り組むべき課題として、①次期認証評価(2022年)に向けた対応策の検討と遂行、②IR関連データに関する情報の周知を図りその活用の促進に努めるなどIR推進体制の実質化、③COC事業の後継事業について検討を進めるとともに、それらを束ねる統括部署の設置の検討、④収益事業の担当部署についての検討などもまた、次年度も継続的に議論し結論を得るべく取り組まねばならない。

報告事項については、不要不急のものは資料配付によって周知を図るなど省時間化を図り、その分議論時間を拡充すべく努める。

<執筆担当/副学長・人間健康学部長 等々力 賢治>

2. 衛生委員会

教職員の心身の健康の維持増進および安全な就労環境の整備を目的として平成28年度に衛生委員会を発足、今年度は2年目の活動を行った。

1) 年度当初の計画 <P>

今年度は、教職員個々の健康問題に迅速に対応していく他、

① 教職員の健康管理体制の充実

教職員ストレスチェック体制の整備

を掲げ、取り組む。

2) 今年度の活動実績 <D>

① 教職員の健康管理

- ・外傷や体調不良、心身の健康問題などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談し、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。
- ・教職員定期健康診断・教職員胃検診を実施し、精密検査・治療の必要な教職員に対する事後指導、生活改善が必要と認められる教職員に対する保健指導を実施した。人間ドック受診者は、受診医療機関での保健指導を受けているが、さらに結果に応じて保健師が保健指導を実施した。
- ・教職員の健康状況に応じて、医療機関と連携し、職務内容について検討を行った。

- ・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、ワクチン接種について保健指導を実施した。

② 感染症発生への対応

- ・学校医と連携し、希望する教職員に対し、インフルエンザ予防接種を実施した。また今年度から、接種料金の補助を実施し、接種日も回数を増やし、できるだけ多くの教職員が接種できるようにした。
- ・厚生労働省、長野県健康福祉部の指示のもと、出勤停止期間を決定し、教職員への周知を図った。
- ・インフルエンザの感染拡大が予想される状況に対し、抗インフルエンザ薬の予防内服を実施するようコーディネートした。
- ・インフルエンザの集団発生が確認された際、感染拡大を防止するため、一斉休校の措置をした。

③ 外部相談機関との連携

（株）ティーペック社と提携し、教職員の心身の健康問題に関する電話相談サービスを実施した。相談件数は、健康相談延べ40件、メンタルヘルス電話カウンセリング延べ20件で、メンタルヘルス面談カウンセリングは無かった。

④ ストレスチェックの実施

教職員のメンタルヘルス向上を目的として、産業医・保健師を実施者とし、ストレスチェックを実施した。結果に基づき、教職員それぞれのストレスリスク分析および部署ごと・学科ごとなどの集団分析を実施した。

高ストレス者に対しては、産業医面談の勧奨を行い、医師面談は不要とした教職員に対しては、保健師よりメンタルヘルス向上のためのシステムを紹介し、面談を実施した。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 教職員の健康管理

教職員健康診断の受診（人間ドックを含む）の受診率は100%には至っていない。受診勧奨だけではなく、労働者の義務として必須であることについて改めて理解を求めていくことが必要である。また、健康診断を受けていても、必要と診断された精密検査や治療を放置するケースもある。産業医とも連携し、引き続きサポート方法を検討して行く必要がある。

また、健康診断時に禁煙指導を実施したり、筋肉量を測定して運動習慣につなげるなどの工夫も取り入れていく必要がある。

② ストレスチェックの実施

実施2年目であり、大きな混乱なく実施できた。受診率も高く、昨年度とのスコアの変化でメンタルヘルスのセルフチェックができるようになった。一方、集団分析の結果について受診者で共有する機会がないため、個人の結果のみとなっている。今後は集団分析の結果についてワークショップを実施するなど、職場全体の意識を高めていけるような方策が必要である。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

① 教職員の健康管理体制の充実

教職員健康診断の受診率向上について、引き続き個別の受診勧奨に加え、所属長とも連携し組織的な対応ができるよう検討する。また精密検査等の事後指導についてもきめ細かくフォローしてい

く。

労働安全衛生法で規定された職場での受動喫煙の防止について、喫煙者への禁煙指導について検討する。

学内で実施する定期健康診断の項目の充実を図り、これまで実施していないオプション検査について導入を検討する。

② ストレスチェックの実施

今年度に引き続き、ストレスチェックを実施する。ストレスチェック実施後のフォロー体制について、産業医や協力医療機関も含め、より利用しやすい方法を検討していく。

＜執筆担当／衛生委員会 委員長 柴田 幸一＞

3. 自己点検・評価委員会

平成 29 年度（2017.4～2018.3）の委員会は、教員側では全学運営委員会メンバーに教育学部と短大部の学科長を加えた 9 名で、職員側からは全学協議会メンバーに管理課長、柄山、中田、嘱託の小穴を加えた 7 名の計 16 名で構成された。総合経営学部の学部長と短大部の学部長、両学部の両学科長の改選があった。総合経営学科を除き全て再選されたため、教員側の構成メンバーは総合経営学科長、新規に参画した教育学部からの 2 名の委員を除いて変わらなかった。

1) 年度当初の事業計画 <P>

今年度も、28 年度に実施した諸活動に基づいた 3 つの文書、つまり「アニュアル・レポート」「学生版アニュアル・レポート」「自己点検・評価報告書」をできるだけ早く完成させることが大きな目標となる。アニュアル・レポートは大学の管理・運営を PDCA サイクルに沿って点検・評価するときの D の部分に対応し、全教員・職員が執筆するパートも多いため、これを早期に発行できるか否かにより、組織力が試されることになる。

また、傘下に置かれた 3 つの部会「IR 推進部会」「認証評価準備部会」「コンプライアンス推進部会」が機能するように監督することも当委員会の任務である。

2) 平成 29 年度事業計画の実施状況 <D>

3 つの文書は、予定期日には間に合わなかったが、発行するという点ではその任務は全うできた。アニュアル・レポートは 11 月 30 日発行、自己点検・評価報告書は 10 月 31 日発行、学生版アニュアル・レポートは 1 月 31 日発行であった。

アニュアル・レポートと自己点検・評価報告書の発行順序が逆転しているが、これはアニュアル・レポートの方が執筆者が多く校正に時間を要したためである。初稿の段階では順序通りに、出来上がりつつあるアニュアル・レポートを参照しながら自己点検・評価報告書は執筆されている。自己点検・評価報告書は全学運営会議メンバーや全学委員長、職員側では課長クラスが、例年通り責任を持ってまとめた。

部会については、IR に関しては全学運営会議の直前に会議を持った。今年度は特に入試の定員確保と超過率に関する制限の問題があり、各学部で分析が行われていることを確認した。認証評価の準備に関しては、担当委員から状況説明を聞くに止まった。

3) 平成 29 年度事業計画の実施状況を受けての点検・評価 <C>

(a) アニュアル・レポート

昨年度に比べ 1 ヶ月発行が遅れた。毎年早期発行を方針としているが、今年度はそれが実現でき

なかっただけでなく、逆に遅れてしまった。何人かの原稿が揃わないばかりに、他の多くの方々の努力が報われないという状況が続いている。他の大学ではペナルティを課している場合もあるようだ。

(b) 学生版アニュアル・レポート

昨年度に比べ10日ほど早く発行できた。早まったとは言え、この結果を次年度の学生指導に活かすと言う点では殆ど意味をなさない。それでも記録としての価値は有しているので、継続することには意味があるが、手間暇掛けて発行するのだから最大限有効活用できるようにしなければいけない。

(c) 自己点検・評価報告書

ほぼ昨年と同時期の発行になった。第三者評価を受けるときには6月には発行できているのであるから、それができないというのは怠慢だと言われても仕方が無い。執筆依頼や提出期限をもっと早くする等の対応が必要かもしれない。

4) 次年度に向けて<A>

3つの報告書の発行は、それぞれに重要な意味を持っており、データに基づいた本学の経営指針を示す基本となる文書である。この意味では、本学教職員が必ず目を通すべき必読の資料でもある。こうした位置付けを全うできるためには、早期発行という原則が貫かれなければならない。各教職員にとっては「年度末のルーチン作業」となるように、その方策を次年度も模索する必要がある。

I Rの位置付けに対しては、基本方針策定の土台となる客観的データを収集し、分析することであり、激動する高等教育情勢の中にあつて最重要の課題であると認識している。3回目の認証評価受審に向けては、怠りない準備が欠かせない。

<執筆担当/自己点検・評価委員長 住吉 廣行>

(1) I R推進部会

教員側は自己点検・評価委員会メンバーと同じく9名であるが、職員側では2名の管理職とデータにアクセスできる6名が加わっているため、計17名からなる部会となっている。

1) 年度当初の事業計画 <P>

最近の入試において入学定員をめぐる規制が厳しくなっている。私立大学においては、入学者の確保は経営基盤の安定性に直結するため、失敗は許されない。従って、この分野におけるリサーチは当面の最重要課題となっている。

2) 平成29年度事業計画の実施状況 <D>

各学部・学科毎に過去の入試データを取り揃え、学部長や学科長を中心に入学試験対策に必要な分析を加え、それらが判定会議などにも活用された。

3) 平成29年度事業計画の実施状況を受けての点検・評価 <C>

当面の入試対策が前面に出ているため、同じ学部・学科のデータは参照しようとしていたが、他学部などのデータまで網羅できてはいなかった。ある高校の卒業生という視点では、全学部のデータが利用できるため、学部の枠を超えた取り組みが求められる。

4) 次年度に向けて <A>

今年度を引き続き、入学試験に向けてのリサーチが重要になってくる。文科省からは高大接続改

革ということで、大学入試制度が2020年度から変更されることになっているため、これをも見据えた取り組みが必要となってくる。前年度の限界を超えるべく、学部横断的な分析を行う必要もある。

入試以外でも必要な分野があれば、積極的にIRとして取り組み、新しい方向性を打ち出していくために、分析結果を活かしていく。

＜執筆担当／IR推進部会長 住吉 廣行＞

（2）コンプライアンス推進部会

1) 取組の概要 <P>

学校法人松商学園コンプライアンス推進規程に基づき、大学内にコンプライアンス推進部会を設置している。部会長は学長であり、委員として研究科長、学部長、事務局長、総務課長、管理課長が配置されている。年度初めの合同教授会、定例教授会、職員会議等を通じて全学的にコンプライアンス精神の醸成と啓発に努めていく。

また、研究倫理委員会の主導により、「研究活動における不正行為への対応に関する規程」、「公的研究費の管理・監査のガイドライン」の遵守の徹底について継続的に取り組む。

2) 取組みの実施 <D>

4月2日開催の合同教授会において、議題として「コンプライアンスについて」を挙げ、全員に「学校法人コンプライアンス推進規程」と「学校法人松商学園コンプライアンス行動規範」を再配付し学長から説明がなされ、全学的にコンプライアンスについての意識向上を図った。

また、管理棟（4号館）の教職員の通路、事務局長室入口に「学校法人松商学園コンプライアンス行動規範」を掲示している。

研究倫理に関しては、「研究活動における不正行為への対応に関する規程」、「公的研究費の管理・監査のガイドライン」も配付し、全教員から署名入りの確認書を提出してもらった。

更に、平成29年8月4日に久留米大学から児島将康教授を招聘し、科研費の採択に向けた研修会を実施し、その中で研究倫理の重要性について研修した。参加者は教職員64名（学外7名）であった。

3) 点検・評価 <C>

これまでの継続的な取組により、コンプライアンスに対する意識は全学的に高まっており、コンプライアンスに関するトラブルは発生していない。また、事務局の出納業務や研究費の用途等については、内部監査室による日常的な伝票の精査と定期的な科研費に関する監査を経ており、適正な処理がなされている。

また、平成29年8月4日に開催した前述の研修会では、「研究には大前提として「倫理」が不可欠である」ことを確認することができ、大変有意義なものであった。

4) 今度の課題 <A>

コンプライアンス意識の啓発に対する取組を継続的に進め、常に個々の意識レベルの向上とその維持に努めることが大切である。これまでの取組を継続しつつ、観点を変えた講習会、研修会の開催についても積極的に検討していく。

＜執筆担当／コンプライアンス推進部会 柴田 幸一＞

(3) 認証評価準備部会

当部会は、次回の認証評価に対応するため、今からその動向を分析し、必要な対策を模索することを目的としている。今年度は教員側では総合経営、人間健康、短大部の代表各1名と学長、事務局側では事務局長と総務課長が入って、計6名で構成された。

1) 年度当初の事業計画 <P>

2020年度に計画している3度目の認証評価受審に向け、事前の準備を進める。その過程で、必要な改善事項が見つければ、それについての対策を計画的に進める。

2) 平成29年度事業計画の実施状況 <D>

担当委員を全学運営会議に招請し、現状についての認識を披露していただいた。その時点で、早速文書の書き方等一、二の問題点を指摘され、今から改めることが可能な点があることを共有し、全学に徹底した。

3) 点検・評価の結果 <C>

これまでの日常性に慣れてしまっているため、新しく変更されているはずの内容でさえ無意識のうちに従来型の文書表現になってしまっている場合をいくつか発見した。今後は適確に表現することを申し合わせる事ができた。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

3サイクル目の認証評価を受審した大学が出てくるので、情報を収集しながら、万端の準備を整える。

<執筆担当/認証評価準備部会長 住吉 廣行>

4. 人権委員会

人権委員会には、ハラスメント防止部会と個人情報保護部会の2部会があり、それぞれの部会を運営している。委員会の構成メンバーは、教員が各学部学科から10人、職員は学生課・教務課・管理課・情報センター・キャリアセンターなどの各部署から10人の合計20人である。教員は、ハラスメント防止部会と個人情報保護部会の2部会を共に担当しているが、職員の方は両部会に分かれて担当している。

1) 年度当初の計画 <P>

- ① 全学教職員を対象に研修会を実施し、人権教育についてさらに意識を高める。
- ② 人権問題についての相談業務を行う。

2) 現状の説明 <D>

- ① 人権委員会およびハラスメント防止部会・個人情報保護部会は必要に応じて不定期の開催となった。
- ② 相談業務を4件行った。適切かつ速やかに問題解決することができた。

3) 点検評価の結果 <C>

- ① 全学教職員を対象に研修会を実施する予定であったが、残念ながら講師候補者の予定が合わず実施を見送らざるを得なかった。
- ② 平成29年度の相談業務は4件である。この4件の内訳は、学生からが1件、教職員からが3件であった。いずれも速やかに相談に応じ適切な対応をとることにより、正式な申立には至らず

解決することができた。人権意識の向上および問題意識の共有がなされているためスムーズな対応ができた。

4) 次年度への改善改革に向けた方策 <A>

- ① 今年度は研修会を行えなかったため、来年度はこれを実施し、全教職員に積極的な参加を働きかける。
- ② 人権問題に対する地道な活動から、速やかな委員会への連絡・相談が行われている。今後もこれらが維持できるよう人権問題についての理解を深め、そして健全な教育・研究・学習・労働環境のもとで学生ならびに教職員の学ぶ権利と働く権利の確保を図らねばならない。

<執筆担当/人権委員会 委員長 増尾 均>

5. 健康安全センター運営委員会

センター長を中心に学生・教職員の健康問題や、健康の維持・促進に組織的に取り組んできた。

1) 年度当初の計画 <P>

今年度は、昨年度から継続して学生・教職員個々の健康問題に迅速に対応していく他、

- ①心肺蘇生法の普及
- ②健康教育の充実

を掲げ、取り組んできた。

2) 今年度の活動実績 <D>

① 学生の健康管理

- ・外傷や体調不良、心身の健康相談などに、まず保健師が対応し、必要があればセンター長である医師に連絡・相談して、応急処置、相談に対するアドバイス、医療機関へのコンサルトなどを実施した。
- ・教職員と連携し、心身の健康状況に問題を抱える学生に関する相談に対応し、ケアカンファレンス、保護者面談への同席などを実施した。また必要に応じ、継続的に医療機関を受診している学生に関しては、主治医との面談も実施した。
- ・週2回、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士がカウンセリングを実施した。
- ・学生定期健康診断を実施した。受診率は高い水準を維持している。再検査の指導、精密検査の指導、心身の健康問題に関する保健指導、また地域健康支援ステーションの協力も得て、希望する学生に対して栄養指導を実施した。
- ・学校感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査を実施し、抗体価の確認と、感染予防のためのワクチン接種について保健指導を実施した。
- ・体育大会、オープンキャンパス、入学試験などに伴い、それぞれの管轄部署からの依頼を受け、救護対応を実施した。
- ・学生センター連絡会に参加し、学生に関する情報共有と、対応についての検討を実施した。

② 学生への健康教育

総合経営学部、人間健康学部健康栄養学科、短期大学部、また地域づくり考房『ゆめ』、女子ソフトボール部からの依頼に基づき、「禁煙について」「新しい創傷ケアについて」「実習・実験中に起こるケガへの応急手当について」「学校感染症について」「熱中症の対応について」「こどもに多いケガへの対応」に関する健康教育および資料の提供を実施した。

③ 心肺蘇生法の普及

- ・総合経営学部両学科、学校教育学科、地域づくり考房『ゆめ』からの依頼に基づき、AEDの使用法を含む心肺蘇生講習会を実施した。

④ 感染症発生への対応

- ・学校医と連携し、強化部（硬式野球部・ソフトボール部）・重点部（陸上部）の学生に対し、インフルエンザ予防接種を実施した。
- ・厚生労働省、長野県健康福祉部の指示のもと、出席停止期間を決定し、学生への周知を図った。
- ・インフルエンザ発症の連絡を受けた場合、ゼミ担当や部・サークル活動の責任者への報告、濃厚接触者に対し感染予防のための保健指導を実施した。
- ・水痘感染の報告があったため、学科教員に感染拡大防止に関する周知を行った。

⑤ 安全な学習環境の整備

食物依存性運動誘発アレルギーのため、エピペン®を携帯している学生の入学に伴い、教職員を対象としてアナフィラキシーショック発生時の対応について講習会を実施した。

⑥ 外部相談機関との連携

㈱ティーパック社と提携し、学生・教職員の心身の健康問題に関する電話相談サービスを実施した。

⑦ 長野県大学保健管理担当者会議の発足

長野県内の大学保健管理を担当する職員に個別に連絡し、情報共有、知識・技術の向上、県内での連携を目的とした担当者会議を発足した。

初回は松本大学にて開催し、国公立大学2校、私立4年制大学4校の保健師・看護師が出席し、学生健康診断の状況、ストレスチェック実施状況、日常業務についての質疑応答などを実施した。

また次回からは、県内短期大学および高等専門学校の担当者の参加も呼びかけ、県内でのネットワークを確立していくこととなった。

3) 点検・評価の結果 <C>

① 学生の健康管理

学生定期健康診断時に、受診学生全員に保健師（外部委託保健師を含む）の事後指導を実施している。集合健診であるため、個別の対応を要するものについては、後日健康安全センターへの来室を促し、フォローアップに努めているが、年度内に来室できない学生も数名いるため、ゼミ担当教員等と連携を図っていきたい。

また精神面に関しては、カウンセリングルームを開室し、臨床心理士のカウンセリングを実施している。学生の来談経緯について、53%は自発的に希望し、47%はゼミ担当教員・親・健康安全センター保健師の勧奨により来室している。来談理由は、異性も含めた人間関係、教員との関係、家庭環境因、就職活動、勉強、精神疾患等とさまざまであった。

② 学生への健康教育

禁煙・創傷ケア・感染症などについて健康教育を実施している。正しい知識の普及には一定の効果が認められるが、知識の定着や生活の中での活用にはまだ課題も多い。また講義後年数が経つと、忘れてしまっていることも多いため、継続的に教育していけるシステムが必要である。

学生の入学時には、「松本大学健康手帖」を配布し、応急手当や日常の健康管理について解説しているが、冊子型式での配布のため、緊急時に有効活用できていない実態がある。より利用しやす

いウェブサイトへの変更を検討する。

③ 心肺蘇生法の普及

総合経営学部（総合経営学科・観光ホスピタリティ学科）、学校教育学科1年生全員、考房『ゆめ』メンバーを対象に心肺蘇生法講習会を実施した。

学生から、定期開催の希望もあり、2年生以上に対する講習会の実施が課題である。

また、教職員への普及が進んでいない状況であるため、来年度は教職員向けの講習会の実施も検討する必要がある。

④ 感染症発生への対応

インフルエンザについては、学生から67名の感染報告があった。集団発生には至らなかったが、学内での感染が疑われる事例があった。また水痘に関しては、学生からの事後報告となってしまったため、迅速な感染予防対策をとることができなかった。幸い二次感染は確認されなかったが、オリエンテーションについて再検討する必要がある。

⑤ 安全な学習環境の整備

アレルギーを持つ学生の増加や症状の重症化に伴い、アナフィラキシーショックへの対応が必要なケースが増加している。アナフィラキシーショックに対しては、一刻も早い処置が必要であるため、学生が所属している学科だけでなく、全教職員がエピペン®の使用方法を理解しているよう講習を継続実施していく。

⑥ 外部相談機関との連携

㈱ティーパックと連携している電話相談サービスの利用者は、月平均5～6名にとどまっている。サービスの周知方法について、現在リーフレットの配布としているが、その他の方法についても検討していく。

⑦ 長野県大学保健担当者会議の組織化

学生支援については、本学だけではなく、他大学とも事例検討等を通して理解を深めていく必要がある。また県内には一人で勤務している大学も多く、大学保健全体の知識・技術向上の観点からも、県内担当者会議の組織化を図っていく。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

今年度と同様、学生それぞれの健康問題に対して迅速に、また的確に対応していくために、さらに組織的な運営を目指していく。

① 心肺蘇生法の普及

引き続き学生への講習を実施していく。2年生以上の学年での実施も検討していく。また教職員向けの講習も実施していく。

② 健康教育の充実

学生が利用しやすいよう、健康手帖のウェブ化を図る。

③ 長野県大学保健担当者会議の組織化

全国大学保健管理研究集会での検討事項やシンポジウムの内容などを、研究集会に参加できない大学担当者とも共有し、県内の大学保健のレベルアップを目指す。また健康診断や健康教育・学生対応などについて情報共有を図り、本学学生への対応がよりの確に実施できるようにする。

<執筆担当/健康安全センター運営委員会 委員長 江原 孝史>

B：施設管理

1. 施設管理センター運営委員会

1) 取組の概要 <P>

平成 29 年度において、次の施設整備に取り組む。

- ① 第 2 期校舎照明 LED 化工事
- ② 第 3 駐車場造成工事
- ③ 野球グラウンド LED 投光器設置工事
- ④ 総合グラウンド人工芝補修工事
- ⑤ 3 号館学生食堂（ラウンジ）補修工事
- ⑥ 教職センター移設整備工事

2) 計画の実施 <D>

① 第 2 期校舎照明 LED 化工事

4 号館、5 号館、6 号館、7 号館、第一体育館の照明を平成 29 年および平成 30 年の 2 カ年計画で実施することとした。

② 第 3 駐車場造成工事

平成 29 年 12 月、競争入札の結果、松本土建株式会社にて工事を発注した。造成工事は予定通り順調に進み、平成 30 年 3 月 28 日に引渡しとなった。駐車台数は最大 85 台で遠隔操作のゲートシステム（非接触型）を採用した。

③ 野球グラウンド LED 投光器設置工事

硬式野球部の夜間練習時間の確保のために、これまでも夜間照明の設置を検討した経緯がある。近年、安価で効果的な LED 投光器が開発されたため、今回の設置計画を進めた。

④ 総合グラウンド人工芝補修工事

総合グラウンドの造成から 10 年が経過したため、人工芝の一部補修を行った。併せて、テニスコートの人工芝補修も手がけた。

⑤ 3 号館学生食堂（ラウンジ）補修工事

3 号館 4 階（最上階）学生食堂（ラウンジ）の雨漏りの補修工事と床の改修工事を行った。

⑥ 教職センター移設整備工事

教務課に置いていた教職センターの業務拡大を受け、7 号館 2 階に同センターを移設する工事を行った。

3) 点検・評価 <C>

① 第 2 期校舎照明 LED 化工事

総事業費は 8,700 万円であり、平成 29 年の支払額は約半額の 4,650 万円であった。教室については使用状況に合わせて、夜間工事の形をとった。全体として順調に進行している。

② 第 3 駐車場造成工事

本工事の機会に既存の第 1・2 駐車場のゲートシステムも第 3 駐車場に合わせて、非接触型のシステムに変更した。総額 6,650 万円の工事となった。第 3 駐車場の土地購入費用と造成費用に長野県と松本市から交付を受けた補助金の一部を充てた。

③ 野球グラウンド LED 投光器設置工事

本工事はLED投光器を18台設置するものであった。総額810万円の工事であり、水銀灯の夜間照明の設置に比べ、安価でありコストパフォーマンスや使い勝手も良いものとなった。

④ 総合グランド人工芝補修工事

全体で480万円の工事費であった。今後は計画的に全面張替えを行う時期を想定した予算組みが必要である。

⑤ 3号館学生食堂（ラウンジ）補修工事

460万円の工事費であった。屋根の雨漏りの箇所の特が困難なため、屋上の全面的な防水工事となった。床材はコルク版から長尺シートに切り替えた。

⑥ 教職センター移設整備工事

平成30年度から7号館2階の学生の自習室に教職センターを移設することとし、整備費用は250万円であった。自習室については、8号館の自習室を使用することでカバーした。

4) 今後の課題 <A>

今後、老朽化が進む1・2号館（特に設備関連）の修繕を効率的に進める工夫が大切である。また、フォレストホール、第一体育館、機械棟の屋上の防水補修工事も早急に対応する必要がある。また、平成29年度に計画した平成30年度の大きな事業である9号館建設工事を確実に進め、学生の厚生施設の拡充を図る。

更に、平成29年度に新たに策定した第2次中期目標・計画に基づき、大学全体の施設設備の充実の視点から計画的に取り組んでいく。

<執筆担当/施設管理センター運営委員会 委員長 柴田 幸一>

2. 危機管理委員会

(1) 環境保全部会

1) 年度当初の計画 <P>

学内におけるエネルギー利用の合理化や資源利用の適正化を進めること、もしくは、その活動を支援することを通じて、①学内の環境活動を進め、②高等教育機関として環境配慮の人材育成に努めることを部会の目的とした。

2) 今年度の活動実績 <D>

① について

- ・古紙・段ボール等の資源回収は障がい者就労支援事業所の第2コムハウスと契約して発生量に合わせて回収している。また、エコ・キャップは常時学内で回収する専用の箱を設置している。
- ・学内の行事の際、資源回収、環境保護の観点に留意するように働きかけている。
- ・太陽光発電を導入して3年が経過し、契約電力量を上回る状態は回避できた。併せて大学全体の1年間の電気使用量は概ね現状維持であり、電気料については太陽光発電含め、前年比200万円を超える節減ができた。

② について

- ・障がい者就労支援事業所回収前作業として、主に学内のコピー用紙、新聞紙等を中心に、学生による整理作業の協力を呼びかけ実施している。
- ・部会を構成する教員が中心となって省エネ及び環境配慮にかかる情報を全学生へ向けて提供した。

3) 点検・評価の結果 <C>

- ・部会の活動が十分に共有できないままであった。
- ・学生活動の支援や体制づくりは、教職員一体となって相互に連携をとりながら進めている。さらなる学友会との連携強化を図る。

4) 改善・改革に向けた方策 <A>

今年度は、これまでに取組まれてきた活動を基調とし継続的に進めることとした。改めて、環境学に詳しい教員が部会に携わり指導を仰ぎながら本部会における取組みが展開される方が効果的である。

<執筆担当/環境保全部会長 尻無浜 博幸>

(2) 防災防犯対策部会

1) 活動方針 <P>

本部会は、自然災害を想定した体制整備、防災訓練の計画と実施、また学内の防犯体制整備を目的としている。自然災害を想定した体制整備は本学だけに留まるものではなく地域社会との関係性の中での取り組み、構築を主眼におきながら計画するものである。

2) 活動内容 <D>

① 防災訓練の実施（7月と11月）※11月においては新村地区との合同訓練

実際発生に近い設定による防災訓練を試みる観点から、新村地区における第一次避難場所（町会公民館）と指定避難場所（松本大学グランド）との避難経路の確認と本学学生の役割の検証を2年継続して行った。7月は講座を中心とした地区合同の防災勉強会を行った。

② 防災士養成講座（日本防災士機構）開講

10月21日（土）22日（日） 受講者107名（一般94名・学生13名）

③ 防災対策先進地視察 松山市消防局地域防災課

6月29日（木）～7月1日（土） 愛媛大学防災情報研究センター訪問
主に防災士のフォローアップ組織運営、研修内容の情報収集

④ 「松本大学及び松本大学松商短期大学部 防火・防災に係る消防計画」精査

3) 結果と評価 <C>

① 防災訓練の実施（7月と11月） 11月においては新村地区との合同訓練

訓練によって地区の期待と学生の対応との違いが明確になった。その改善に繋がる姿勢が学生側には見られるようになった。

② 防災士養成講座（日本防災士機構）開講

認定試験に3人の不合格者がでた。受講者は増加傾向にある。ある自治体は自治体独自の取り組みとして養成講座に人材を派遣するなど団体、会社などへの普及が図られつつある。

③ 防災対策先進地視察 松山市消防局地域防災課

防災士養成において資格取得後のフォローアップが皆無だったため松山市の事例を参考にしながらその組織化、研修内容を実施する。

④ 「松本大学及び松本大学松商短期大学部 防火・防災に係る消防計画」精査

精査によって防火防災の運用を検証している。管理課主導で進められている。

4) 改善・改革に向けた方策 <A>

防災士の養成は、平成 30 年度から正課内授業で取組みを検討中で防災に関わる本学の取組みが地域社会の牽引役になっていくことを目指す。さらなる学生を巻き込んだ災害時の資源となり得る取組みを構築するものである。

<執筆担当／防災防犯対策部会長 尻無浜 博幸>

第3部 事務部門の点検・評価

I. 全学的事務部門

1) 事務部門の課題 <P>

(1) 学生数の増加に伴う学生食堂棟の増築計画

平成29年度入学生から教育学部の1学年分の学生数が増加した。また、既存の総合経営学部、人間健康学部の2学部4学科の入学定員を見直し、平成30年度から入学定員を20名増（総合経営学科：10名増、健康栄養学科：10名減、スポーツ健康学科：20名増）とした。今後の学生数の増加に伴い、学生レストランの席数の不足が生じるため、既存のフォレストホールの拡張工事の検討に入った。

(2) 第3駐車場の確保と造成工事

前項の記述の通り、学生数の増加に伴い、新たな学生駐車場の確保が課題となってきた。平成29年4月、大学の近隣の空き地を購入し、平成29年度内に造成工事を行う計画を立てた。

(3) 教育学部中高英語免許の課程認定

平成32年度から実施される新指導要領における小学校英語の教科化に対応し、教育学部において、平成30年度から中高英語免許課程を設置する計画を立て、文部科学省に課程認定の申請を行うこととした。

(4) 教育学部AC（アフター・ケア）教員審査

教育学部学校教育学科の設置認可申請に沿った教育を推進するため、所定のAC教員審査に対応し、教員組織の再整備を進める。

(5) 「COC補助金事業」の最終年度

平成25年に選定された文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC補助金事業）と日本私立学校振興・共済事業団特別補助金「未来経営戦略経費」の取組の最終年度を迎える。それぞれの事業の成果に係るエビデンスを整理し、所定の最終審査を受ける準備を進める。

(6) 他大学とのSD活動

平成28年12月に十文字学園女子大学と、平成29年2月に共愛学園前橋国際大学と「大学関連携協定」を締結している。今後は共同SD等に取り組んでいく。

(7) 事務局体制の強化

大学職員の業務は管理部門、教学部門、学生生活支援部門まで非常に多岐に亘っている。現在の職員の年齢構成を考慮し、将来に向けて事務組織を段階的に強化していくため、中堅にあたる専任職員の採用に取り組んでいく。

(8) 財政基盤の強化

財務の健全化維持のために、全学的に入学定員に見合った入学者を確保することで財政基盤を強化し、メリハリのある予算執行に努めていく。また、教育学部開設初年度の平成29年度入学生は入学定員80名に対して65名で定員充足率は81.3%であった。平成29年度学生募集の喫緊の課題は、教育学部学校教育学科の入学定員80人の充足である。学生募集の基本方針に沿って、指定校推薦入試で目標とする人員を確保し、その上で一般入試に臨むことができるように、教育学部を挙げて入試広報室と連携しながら高校訪問等を展開する。また、平成28年度末に長野県と松本市から交付を受けた補助金3億円を教育学部の運営に資する特定資産扱いとし、特色ある教育

の推進のために有効に活用する。

2) 実際の実績 <D>

(1) 学生数の増加に伴う学生食堂棟の増築計画

平成 29 年 7 月開催の理事会において、フォレストホール拡張工事計画が承認され、具体的な設計に着手した。本学のこれまでの校舎の設計を踏まえ、株式会社教育施設研究所に設計管理業務を委託することとした。施工業者の競争入札を経て、平成 30 年 2 月、戸田・ハシバ・松本土建特定建設工事共同企業体に発注することとし、同 3 月に着工した。平成 31 年 3 月の竣工を予定している。工事名称は建築確認申請を経て、「9 号館建設工事」とした。

(2) 第 3 駐車場の確保と造成工事

平成 29 年 12 月、競争入札の結果、松本土建株式会社にて工事を発注した。造成工事は予定通り順調に進み、平成 30 年 3 月 28 日に引渡しとなった。駐車台数は最大 85 台で遠隔操作のゲートシステム（非接触型）を採用した。

(3) 教育学部中高英語免許の課程認定

文部科学省教職員課との事前相談を経て、平成 29 年 3 月に申請した中高英語免許課程は、同 9 月の補正申請の後、同 12 月に認定された。

(4) 教育学部 AC（アフター・ケア）教員審査

平成 29 年度に設置した教育学部学校教育学科の AC 教員審査を平成 29 年 11 月に申請し、12 月に適格の判定を得た。

(5) 「COC 事業」の最終年度

平成 25 年に選定された文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC 補助金事業）は、5 年間の事業期間を経て、平成 29 年度に終了した。今後は信州大学を実施大学、本学と長野大学が連携大学の形態をとっている「COC+補助金事業」として継続していく流れである。

(6) 他大学との SD 活動

平成 28 年 12 月に十文字学園女子大学と、平成 29 年 2 月に共愛学園前橋国際大学と「大学関連協定」を締結している。平成 30 年 2 月、大学行政管理学会の研究会が共愛学園前橋国際大学で開催され、本学から学長、事務局長と 4 名の職員が参加した。

(7) 事務局体制の強化

事務局体制の強化に向け、学校法人松商学園の事務職員の公募に本格的に着手した。理事会において、事務職員の強化のための採用計画について上程し承認を得た。平成 29 年度においては、教務課に中堅の専任教員を 2 名採用した。平成 30 年度の異動人事を含め、今後、全体のバランスを図りつつ、計画的に採用人事を進めていく。

(8) 財政基盤の強化

平成 29 年度学生募集の喫緊の課題は、教育学部学校教育学科の入学定員 80 人の充足であった。平成 30 年度入学者数は 72 名で入学定員の充足率は 90%であった。平成 29 年度において長野県と松本市から交付を受けた補助金 3 億円については、教育学部の人件費を中心に有効に活用した。総合経営学部・人間健康学部・松商短期大学部は、いずれも入学定員を上回る学生を確保することができた。また、文部科学省や私学事業団の競争的補助金の獲得により、大学全体として収支

バランスのとれた運営ができた。

3) 取組に対する評価 <C>

(1) 学生数の増加に伴う学生食堂棟の増築計画

平成 30 年 3 月に既存のテラスの解体工事を終了し、4 月 24 日に起工式を行い建設工事がスタートした。本学の敷地内での工事のため、学生への周知と安全確保が肝要である。HP に建物の構成が分かる動画をアップし、学生への周知を図った。また、毎週開催することを基本としている 9 号館建設工事定例会議において、学生に対する安全確保や授業・行事に対する配慮を依頼し、その都度確認しながら工事を進めている。

(2) 第 3 駐車場の確保と造成工事

新たに造成した駐車場の呼称は第 3 駐車場とした。本工事の機会に既存の第 1・2 駐車場のゲートシステムも第 3 駐車場に合わせて、非接触型のシステムに変更した。第 3 駐車場の土地購入費用と造成費用に長野県と松本市から交付を受けた補助金の一部を充てた。第 3 駐車場の利用に際しては、学生委員会と学生課で検討し、自動車の安全な走行ルートを示す等、近隣住民に配慮した運用の下で利用を開始した。

(3) 教育学部中高英語免許の課程認定

平成 30 年 4 月から中高英語免許課程を設置が認定されたことを受け、平成 29 年 12 月からの募集活動において本免許課程設置の周知に努めた。今後は、小学校教諭、特別支援学校教諭に加え、3 種類の教員免許を取得できる時間割上の工夫も求められる。

(4) 教育学部 AC (アフター・ケア) 教員審査

平成 30 年 4 月に新たに着任する教員の授業科目の配置、及び教育学部開設時からの担当科目の変更等を調整しながら当初の設置計画を的確に履行していく。

(5) 「COC 補助金事業」の最終年度

平成 28 年に受審した中間評価における 2 つの指摘事項 (①地域に関する新たな全学的な必修科目の設置、②健康維持・増進活動の効果を確認できるエビデンス) について、COC 戦略会議と関連委員会の連携により的確に対応する。

(6) 他大学との SD 活動

学内における SD 活動はもとより、十文字学園女子大学、共愛学園前橋国際大学、県内大学との SD 活動について、大学設置基準の改正により規定された内容に照らし、継続的に取り組んでいく。

(7) 強化

平成 30 年度に向けて事務局体制を更に強化していくためには、新たな人材を得る採用人事、法人内の人事異動、若手中堅職員の昇進人事等を並行して進めていく必要がある。

人事異動を絡めた OJT による人材育成を推進するために、専任職員、派遣職員、パートタイム職員の職域についても再点検していく必要性も高まっている。各部署の実情を踏まえ、段階的に取り組んでいく

(8) 財政基盤の強化

今後も教育学部学校教育学科の入学定員 80 人の充足が課題である。指定校推薦、一般推薦、AO 入試、一般入試、センター試験利用入試のバランスを見直し、推薦入試での人員確保に努めていく。総合経営学部、人間健康学部、短期大学部においては、定員超過率を試算しながら適切な学

生数を確保し、大学全体として財政基盤の安定化の維持に取り組んでいく。

4) 次年度の展開に向けて <A>

(1) 学生数の増加に伴う学生食堂棟の増築計画

9号館の仕様は、1階：COMMONルーム、2階：レストラン、3階：演習室・会議室、研究室、事務室とした。COMMONルームは学生の自主学修やラーニングCOMMONズ機能をもたせ、学生の学修を支援していく。2階部分のレストランは約200席を想定し、運営は外部業者に委託していく。3階の仕様は将来の大学院拡充構想に対応できる環境整備を想定している。

(2) 第3駐車場の確保と造成工事

第3駐車場（駐車台数85台）については、学生の自動車通学の様子を見ながら、既存の第1・2駐車場のフル活用と併せて、効率的な運用に努めていく。アクセス道路は狭隘な生活道路であるため、これまで以上に利用者の安全運転を促進していく。

(3) 教育学部中高英語免許の課程認定

教育学部学校教育学科の小学校教諭、特別支援学校教諭、中高英語教諭の3種類の免許課程を学生募集に活かしていく。また、本学教育学部の特長として、英語教育に力を注ぐ方針を高校生にPRしていく。

(4) 教育学部AC（アフター・ケア）教員審査

開設時の教員の人員構成をベースとし、完成年度後の教員組織のあり方について時系列的に捉えながら検討を進め、具体的な対応に繋がる基本方針を固めていく。

(5) 「COC補助金事業」の最終年度

COC補助金事業の下で活動の幅を広げてきた地域連携活動（教育研究分野・実践活動分野）の今後のあり方について、組織、予算、成果の点検等の観点から具体的に検討していく。

(6) 他大学とのSD活動

大学設置基準の改正におけるSDの規定に照らし、大学運営幹部の教員（学長・研究科長・学部長）が参加する学内SD研修や他大学と連携したSD研修を積極的に企画し、実施していく。

(7) 事務局体制の強化

教務課の組織改変から検討した。専任職員の補充によるマンパワーの向上、教職センターの分離による業務の効率化、会計担当の配置により出納業務を集約することによる業務改善等に着手していく。また、他の部署の人員構成についても見直しを進め、年度途中においても適宜対応していく。

(8) 財政基盤の強化

入学定員、収容定員に見合った学生募集こそが財政基盤の強化の根幹である。また、休学者・退学者は財務状況を直撃するため、これまで以上にその予防に教員と連携して取り組んでいく。学費収入に続き、帰属収入の大きなウェイトを占める補助金の内、殊に特別補助金の確保については全学的な対応を迅速に検討し、具体的な成果に繋げていく。

<執筆担当/大学事務局長 柴田 幸一>

II. 総務課・管理課

[はじめに]

総務課・管理課の業務は多岐に亘るため、業務遂行には、幅広い大学運営に関する知識が必要である。直接的に学生との接点を持たない業務が多いが、機械的に事務処理をするのではなく、その背景に学生がいることを常に念頭に置き、幅広い視点をもって業務に当たることが大切である。

総務課・管理課の事務処理の基本事項を再点検し、大学の全体的な動き、各委員会・各会議の動き、教員の教育研究活動等について正確に理解したうえで、個々の立場で考え工夫し、一人ひとりが配慮の行き届いた実務の遂行に心がけたい。

また、加速度的に変化が進む高等教育政策、刻々と変化する本学を取り巻く環境の変化に関心と危機感を持ち、新たな発想により本学の揺るぎない永続性の確立に向けて前進していかなければならない。

1. 総務課（総務・会計）

1) 基本計画 <P>

(1) 電子データ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓（仕事の効率を上げるために）

- ① サーバー上のデータの整理および共通化をさらに進めると共に、不必要なデータの削除を進める。
- ② 書庫・書棚の整理・整頓及び倉庫の使用者について再配分を進める。また、8号館の増設に伴い、新たに鍵が増えることが予想されるため、鍵類の分かりやすい管理にいつそう努める。

(2) 定例会議・各種委員会への対応

- ① 各学部教授会、委員会開催に向けた事前配付資料の定型化を進める。
- ② ペーパーレス会議の利用促進を図り、蓄積された電子データの保存と閲覧権限等取扱のルールを整備する。

(3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ① コスト意識をもって予算の執行にあたる。
- ② 消耗品の節約に今後も継続して努める。
- ③ 修繕工事では、原則相見積りを取って交渉材料とし、経費節減にいつそう取り組む。
- ④ 環境保全部と連携しながら、更なる光熱水費の節約に努める。

(4) 規程の整備

- ① 未整備の規程について継続的に整備を進めるとともに、各規程間の整合性の再点検を進める。
- ② 規程、内規、規則・基準等の取扱い及び管理方法について明確化する。
- ③ 「松商学園規程管理システム」が適切に運用されているか検証を進める。

(5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ① 補助金に関する広範で正確な情報収集に努める。特に、「私立大学等改革総合支援事業」に係る調査票の内容を精査し、得点アップに向けて体制の見直しを積極的に行う。
- ② 学内分掌を念頭に置き、教員と職員の連携を拡大し、新たな補助金申請を模索する。
- ③ 補助金申請の根拠資料の整備について再点検する。

補助金の申請に当たっては、申請要件並びに根拠資料の整備状況を複数の担当者で確認し、正確な補助金申請をこれまで以上に心がけた。

(6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ① 老朽化が進む短期大学部棟の改修工事を始め、構造物の大規模修繕について、計画的かつ効率的に進める。
- ② 学内全体の照明器具のLED化工事の推進
- ③ 教育学部の学生及び、教員の増加に対応する駐車場の整備。
- ④ バスの運行管理

(7) 各種調査・アンケートへの対応

- ① 社会に対する影響力の強いものについては、組織的に対応し情報を共有していく。
- ② 全学的にデータの一元化・共有化を進め、各調査間で整合性の取れた回答ができるようにする。

(8) 後援会

- ① 後援会の予算規模に照らし、学生活動の有効な支援方策について検討を進めてもらう。
- ② 資格支援センター運営部会の検討も踏まえ、奨励金の予算を減額させたことを点検・評価してもらう。

(9) 認証評価への対応

- ① 機関別認証評価の第三サイクルを視野に入れ、情報収集に努める。

2) 実際の取組み <D>

(1) サーバー上のデータ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓

- ① 事務サーバーのクラウド化に伴い大型のサーバーを導入した。これに併せ、フォルダの整理・統合を実施し不要文書の削除を進めた。
- ② 書庫の保管スペースの確保を目的として、外注による保存書類のデータ化を進める。鍵の管理については、マスターキーの利用を促進する。

(2) 定例会議・各種委員会への対応

- ① 各学部教授会及び委員会等の資料の定型化を進めるため、資料の様式を統一した。
- ② 全学部の教授会及び総務委員会でペーパーレス会議を導入し運用を始めた。引き続き各委員会での利用を促進する。

(3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ① 日常会計の証憑書類について、特に物品購入の会計書類として、見積書・納品書・請求書の三点セットを整えることを全員で推進し、取引業務の公正性を担保するために、総務課員による検品の徹底を進めた。
- ② 使用数の多いものについてはまとめて発注を行うなど、単価を下げる工夫に取り組んだ。
- ③ 予算の執行に際しては、金額の多少に拘わらず、可能な限りあい見積もりを取り、経費節減につながるよう、業者との交渉を行った。
- ④ 老朽化により破損した照明設備を順次LED器具に交換する工事を実施した。

(4) 規程の整備

- ① 認証評価第三サイクルの受審に向けて、現行規程の改正、新規程の制定を進めた。
- ② 規程等の検討は全学運営会議で行い、全学協議会で審議・承認を得る手続きを明確化した。
- ③ 「松商学園規程管理システム」を全教職員に周知し、活用してもらえるよう推進した。

(5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ① 文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団（私学事業団）の各種補助金に係る情報を収集し学内に周知した。「私立大学等改革総合支援事業」については、全学運営会議において調査票の評価ポイントを全員で点検し、得点アップにつながるよう取り組んだ。
- ② 競争的補助金の獲得に向けて、教員と職員の協力体制により申請業務を進め、最終的に次の補助金を獲得することができた。特に、「私立大学研究ブランディング事業」は昨年不選定という結果を受け、教員と職員と連携しつつ計画書全体を見直した結果、今年度は選定されるにいたった。

・「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC）」（5年目）	18,500千円
・「 〃 （COC+）」（3年目）	8,740千円
・未来経営戦略推進経費（SD 大学職員力向上）（5年目）	6,000千円
・「大学教育再生加速プログラム（AP）」（2年目）	23,000千円
・「私立大学研究ブランディング事業」（選定）	39,000千円
合計：	95,240千円

（6）教育研究施設設備および環境の整備

- ① 学内の構造物の改修工事については、中・長期的な修繕計画の策定が必要であるため、過去に行った大規模改修工事棟のデータ及び、将来必要となす修繕のデータ化を行える専用のソフトウェアの導入調査を実施した。
- ② 照明器具のLED化について、年次計画で進めており、本年度は、短期大学部エリアの改修工事を実施する。
- ③ 教育学部の学生及び、教員の増加に対応するため、第3駐車場の土地の購入と駐車場整備を行った。
- ④ バスの運行管理

今年度のバスの運行状況は次表の通りであった。（2泊3日で3日を占有した場合は3とカウント）

	大型バス	中型バス	マイクロ	ワゴン車	レンタル			計	
					大型	中型	マイクロ		
クラブ活動	123	88	29	11	17	3	5	276	
教育	OCS	15	24	65	48	3	4	2	161
	その他	23	6	26	17	16	1	0	89
入試・総務等	9	10	18	29	10	0	21	97	
計	170	128	138	105	46	8	28	623	

（7）各種調査・アンケートへの対応

- ① 文科省、私学事業団の公的調査に不整合を生じることなく適確に回答できるよう、基本データの一元管理に努めた。
- ② 公的調査および意義ある民間機関の調査・アンケート等に対応した。

（8）後援会

- ① 役員会及び総会の円滑な運営に努めた。また、8号館と併せて整備された第二体育館及び第二部室棟の備品等の整備として200万円の補助がなされた。
- ② 検定・資格取得に対する奨励金は減額しつつ、他の学生生活動への支援が積極的になされた。

(9) 認証評価への対応

- ① 第三サイクル受審に向けた意見交換回答に参加し、情報収集を行った。

3) 取組に対する点検 <C>

(1) サーバー上のデータ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓

- ① 総務課・管理課のフォルダを分割することで、役割が明確になるとともに、アクセスしたいフォルダを探しやすくなった。
- ② 印刷物のデータ化に着手し、書庫の整理を進めることができた。鍵の管理については、マスターキーの活用により、煩雑さが解消された。

(2) 定例会議・各種委員会への対応

- ① 様式の統一化により効率的な流れを作ることができた。
- ② 全学的にペーパーレス会議の導入が進み、各委員会での利用も多くなっている。また、使用するコピー用紙とトナーの消費は、確実に減少している。

(3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ① 見積書・納品書・請求書等の証憑書類の不備が減少し、監査指摘を大幅に減らすことができた。
- ② 施設の経年劣化による消耗部品の交換が増加傾向であり、計画的な発注などによる経費節減がいっそう必要である。
- ③ 相見積もりを取れない場合でも、業者からの提案を鵜呑みにすることなく、価格交渉を必ず行うよう心がけている。
- ④ 全館LED化に向け、未整備箇所すべてについて校舎単位で複数社から提案、見積もりを取り、実施に向け具体策を講じた。電気料については太陽光発電により前年比 200 万円を超える節減ができたが、灯油代については値上がりに加え、冬季の気温が前年より低かったことにより、100 万円程度上昇した。

(4) 規程の整備

- ① 規程集のシステム化により、書式の統一化には一定の目途をつけることができた。
- ② 新たに整備する規程等については、規程、内規、規則・基準などの扱いにするかを全学運営会議で検討して進めることとした。既存の規程等についても、新たに整備する規程と同様に再点検が必要である。

(5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ① 文科省と私学事業団がジョイントした「私立大学等改革総合支援事業」における補助金交付基準は、個々の大学の大学改革に対する取組状況に応じて傾斜配分する特別補助金の割合がますます高くなる傾向にあり、実質的には競争的補助金に近い形に変化してきている。平成 29 年度においては、タイプ 1 は大学、短大ともに獲得し、タイプ 2 は大学では獲得できたものの、短大では基準値に及ばなかった。
- ② 各種競争的補助金は、新規の募集が減りつつあり、さらに申請要件が年々厳しくなる傾向にある。なるべく早く情報をキャッチするよう心がけ、要件が満たせるよう素早く対応していくことが必要である。
- ③ 申請要件並びに根拠資料が確実に整えられているかを複数の担当者で確認することを徹底し、後追いとなることがないように、正確な補助金申請を行なう。

(6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ① 学内の建造物の改修工事につて、専用のソフトウェアの導入調査を実施したが、本学に見合うソフトウェアが見つからなかった。
- ② LED化工事を実施したことで、電気使用料の減額が見込まれる。
- ③ 第3駐車場の造成により、85台の駐車スペースを確保した。
- ④ バスの運行管理

クラブ活動では強化部の遠征、試合での使用が多く、学生だけでなく用具なども運ぶため大型の使用が多くなっている。教育活動ではアウトキャンパス・スタディ（OCS）での使用が多い。OCSでは大型よりもむしろ小さい型の頻度が高いがこれはゼミで活動や少人数クラスで行われているからであろう。入試に関連して、他にはオープン・キャンパス等が目立つ。ここでは参加者の送迎に使われており、多方面への対応が必要となるため、畢竟レンタルに頼らざるを得ない状況にある。

(7) 各種調査・アンケートへの対応

- ① 多岐に亘る公的調査および民間機関の調査・アンケートに対して効率よく対応できるよう、さらに情報共有が必要である。
- ② 自己点検・評価報告書の「エビデンス集」でほとんどのものをカバーできる。各種調査・アンケートは当該年度の5月1日を基準日としているため、学校基本調査、学校基礎調査等と並行して進める。

(8) 後援会

- ① 国際大会・全国大会への支援は例年より少なかったが、その分フォレストホールや学生の commonspace の設備整備などの環境整備に対応してもらった。
- ② 活発化する学生の課外活動の支援及び長期化・多様化する就職活動支援をさらに拡大してもらう。

(9) 認証評価への対応

- ① 第三サイクルの評価内容について、まだ具体的な項目等が公表される段階ではないが、適切に情報収集を行った。

4) 今後の取組みに向けて <A>

(1) 電子データ及び紙ベースの保存書類の整理・整頓

- ① サーバー上のデータの整理および共通化をさらに進めると共に、不必要なデータの削除を進める。
- ② 印刷物のデータ化をさらに進め、書庫の整理・整頓にいつそう務める。また、データ化した資料の活用方法について検討を行う。
- ③ マスターキーの利用に伴い、鍵の管理体制の見直しを進める。

(2) 定例会議・各種委員会への対応

- ① これまで教授会資料作成は一人の担当者が行っている。集中している業務を他の職員も対応できるように汎用化する。
- ② ペーパーレス会議の導入により効率化された手間とコストを検証し、費用対効果を見える化する。

(3) 適正な会計処理の遂行と予算管理および節約

- ① 引き続きコスト意識をもって予算の執行にあたる。
- ② 文具等の消耗品について、再利用できるものはなるべく再利用するなどの呼びかけを行い、無駄を減らす工夫を行っていく。
- ③ 修繕工事は今後も増加が見込まれ、長期的な計画を立てることで経費節減にいつそう取り組む。
- ④ 全館LED化とあわせ、 陽光発電の増設効果の検証と、電気等の使用状況を分析し、状況によっては新電力の検討も始める。

(4) 規程の整備

- ① 未整備の規程について継続的に整備を進めるとともに、各規程間の整合性の再点検を進める。

(5) 特別補助金および競争的補助金の獲得

- ① 補助金に関する広範で正確な情報収集に努める。
- ② 学内分掌を念頭に置き、教員と職員の連携を拡大し、新たな競争的補助金を模索する。
- ③ 補助金申請の根拠資料が確実に整備されているか、再点検する。

(6) 教育研究施設設備および環境の整備

- ① 学内の構造物の老朽化対策について、担当者の記憶に頼ることなく、適切な投資計画を策定できるよう、修繕記録、将来に見込まれる修繕計画を行えるソフトウェアを引き続き調査し導入する。
- ② 学内全ての照明器具のLED化を勧める。LEDの器具に変更するための費用は、電気料金10年分で回収できる見込である。
- ③ バスの運行管理
バスをレンタルする場合、運転手も含めてとなるためどうしても費用が嵩む。また大型車は燃料費や高速料金も割高になるため、何らかの工夫も必要となってくる。常にクラブ員全員移動ではなく、主力だけの場合も考えるなどもあって良いのではないかと。いずれにせよ、サイズ、頻度など多様な視点からの見直しが必要になってくるであろう。

(7) 各種調査・アンケートへの対応

- ① 社会に対する影響力の強いものについては、組織的に対応し情報を共有していく。
- ② 全学的にデータの一元化・共有化を進め、各調査間で整合性の取れた回答ができるようにする。

(8) 後援会

- ① 教育学部生の増加に伴う収入の増加と活動の増加を見込みつつ、学生活動により有効な支援方策について検討をしていただく。
- ② 引き続き公務員講座への支援を行うこととし、その効果の点検・評価を行う。

(9) 認証評価への対応

- ① 引き続き、第三サイクルに向けた情報収集に努める。

総務課の業務はここに掲げた項目以外のものも多々あり、その内容も多岐に亘るため、総務課は効率性を重視し適正に業務を遂行し得る組織でなければならない。

＜執筆担当／総務課長 松尾 淳彦＞

2. 管理課

地域の地（知）の拠点として松本大学における研究や教育、地域連携活動の特色や成果を学内外に知らせて継続させる事が大学のブランド形成につながっている。

研究や教育に携わる教員や学生、院生にとって有益となる外部資金情報を迅速にかつ効果的に紹介して、研究資金を獲得するだけでなく、成果の知的財産化につなげる役割が委員会事務局には求められる。

また、専任・嘱託・派遣という雇用形態の特性を踏まえつつ、事務局員の力量を向上させるためのSD活動の強化、労務管理や作業、職場環境の改善、メンタルヘルスへの配慮など外部専門機関と連携を図ることも重要になっている。

1) 課題 <P>

(1) 外部資金の獲得に向けて

- ① 私学事業団、文部科学省をはじめとして他省庁や各種財団の公募情報を Ridoc で系統的に案内を継続する。
- ② 教員の研究成果についても、学会発表や受賞などを HP 等で発信し、更なる資金や委託業務の獲得につなげる。
- ③ 大学への間接経費の効果的な執行について事務局内でたたき台を検討する。

(2) 産学連携、知的財産権の保護

- ① 研究室の研究成果による特許や製品化にあたっての商標登録、ライセンス化について研究推進。委員会の意思を反映させて、関係機関や企業との折衝を進める。

(3) 教職協働につながるFD・SDの発展

- ① 学生の学修成果・研究成果に直に接し理解することで、学生の成長ぶりを教学面から教員と共有するため、卒論発表会、修論発表会に参加するよう職員に働きかける。
- ② 社会が求めるニーズや学生の就業環境の変化を職員が敏感に捉えるため、教員と協力してキャリア教育を進める体制の確立を図る。

(4) 働きやすい職場づくり

- ① 有休消化の推進、労災や交通災害などの防止活動、メンタルヘルス向上につながる学内での連携など、職場や現場に即したシフトの検討や、業務の把握に基づいた外注化の検討などを行う。

2) 平成 29 年度の実践とまとめ <D・C>

(1) 外部資金の獲得

- ① 平成 26 年度より Ridoc 共有ファイルにて各種機関などからの公募情報を適宜掲載しており、平成 29 年度も継続的に実施した。
- ② 科研費等の外部資金の獲得増加に向け、獲得の顕著な実績を持つ外部講師を招聘し研修会を実施した。

第 6 回目となる「教育研究発表会」は 3 月 5 日、6 日に実施され 32 件の研究発表が行われた。事務局では、抄録集の編集と発表時間管理などの運営を担当した。

- ④ 研究資金の採択にかかわる間接経費は、日本学術振興会の科研費への外付けのみが認められており、他の省庁、企業、財団の補助金には間接経費が認められていない。研究費の経費執行に伴う、領収書などの証憑書類や出張記録、アルバイト名簿などはコンプライアンスの視点で精

度を上げる必要があり、今後も事務部門での確かつ系統的な処理と管理が求められる。こうしたマンパワーを伴う業務遂行には間接経費が必要である旨を今後とも提起する必要がある。

(2) 産学連携、知的財産権の保護

① 松本大学を主会場に『2017まつもと広域ものづくりフェア』を開催した(2010年以降8回目)。フェア期間中は天候にも恵まれ、延べ13,800名の来場者は、企業、団体等による展示・デモンストレーション・多様なものづくり体験教室コーナーを楽しんだ。

目玉となるものづくり体験教室コーナーには、46種類のメニューが用意され、その数と内容が充実していることに参加者の満足度は高い。

参加者へのアンケート調査によると、来場者の大多数が松本大学での継続開催を望んでいる。

② 知的財産権取得の取組

大学への委託業務として行われた研究者個人の研究成果に基づく知的財産権については、発明管理部会において管理を行っている。

(3) 事務局職員の能力開発を推進して、教職協働の実行、事務局内の連携を強化する

① FD・SD活動

専任教員・専任職員・嘱託職員・派遣職員については、FD・SD運営部会主催学内研修、外部機関主催のFD・SD研修会への参加を呼びかけ、多数の教職員が受講した。

またこの他、専任職員には、朝礼時の3分間スピーチ、月例の職員会議冒頭部分では旬のテーマによる研修を行っている。

② 資格取得など自己研鑽の取組

学内における防災意識高揚に向け、自衛消防業務講習会に6名が参加した。

また、大学行政管理学会に新たに1名が入会し、会員数は4名となった。学会発表に向けて、各自のテーマに取り組んでいき、さらに多くの職員の研修の場として位置づけていく。

(4) コンプライアンス重視の労務管理と職場環境改善

専任職員については時間外労働の削減、休日出勤に伴う振替休日取得を年度初めに呼びかけた。ストレスや長時間のパソコン作業などから慢性疲労やストレス性の疾病を誘発するリスクがあるためその対策が求められる。平成29年度においては、労災や通勤途中の事故に関して届出と発生はなかったものの、一層の事故防止のための注意喚起が求められる。

(5) その他の取組

① 「防災士養成研修講座」を行った。4回目となる本年では107名(本学学生13名、社会人94名)が受講し、資格取得検定試験には104名が合格した。松本市、駒ヶ根市、下諏訪町等自治体による運営協力(講師派遣、受講者取り纏め)が得られた。本学学生と社会人がグループワークを行い、事務局は運営補助を担った。今後、保護者や卒業生への浸透、後援会や同窓会との連携を図っていく。

3) 平成30年度への改善・改革に向けた方策 <A>

(1) 外部資金の獲得に向けた取組

① 大学の組織あげての公的補助である文部科学省、私学事業団補助項目に関しては、実施主体となる部門との情報や記録の共有と結果のフィードバックを行う。

② 科研費獲得に向けた分野を超えた学内における先進事例の共有や、各種財団、文部科学省以外

の研究志向の補助金についても適宜情報提供を継続する。

(2) 委託業務、産学連携のワンストップ化、知的財産権申請の支援

- ① 委託業務の内容掌握については、特に経費の取扱いについては、学内ルールに基づき適正な事務処理に努める必要がある。ややもすると、研究者が自ら獲得し、自らに帰属する研究資金であるといった意識のため、出張の事後報告や経費の個人判断に基づく執行などによる大学ルールからの逸脱が監査で指摘されており、十分な意思一致をはかる必要がある。
- ② 産学連携のクライアント側のニーズは多岐にわたっており、松本大学における窓口となる地域総合研究センター、地域健康支援ステーション、地域づくり考房『ゆめ』の相互の役割と強みを発揮するための事務局同士の緊密な連携も図る必要がある。

＜執筆担当／管理課長 赤羽 雄次＞

Ⅲ. 学生センター

平成 23 (2011) 年度から、大学内の各部署で様々な業務を経験し、総合職（ゼネラルマネージャー）としての人材の育成を目的とした若手・中堅職員・課長の定期的、計画的な人事異動を行っている。平成 29 (2017) 年度後期において、将来的な異動を想定して特に教務課の人員の拡充が行なわれた。学生センターの専任職員は同じ部署での勤務が長期化している職員も多く、一度に多くの異動があるとノウハウの継続が困難となるため、中・長期的な視野にたって計画的にジョブ・ローテーションを行なっていく必要がある。

また、本学では、開学以来、教職協働による大学運営を重視している。教員とともに大学の発展に寄与する人材となるべく、大学職員としての専門性と幅広い教養を身に着けるため、各種研修会への参加を積極的に促している。

1) 学生連絡会・相談員の役割の再点検 <P・D>

① 学生支援連絡会

平成 22 (2010) 年 12 月に立ち上げられた学生センター連絡会（学生課・教務課・キャリアセンター・国際交流センター・情報センター・健康安全センター・基礎教育センター・図書館の職員で構成）は、平成 25 (2013) 年度より若手職員の自由闊達な意見交換や情報共有の場として、「学生支援連絡会」に名称変更した。主な目的は従来と変わらず退学者の抑制、休学している学生の復学促進を主な目的としている。学生の抱える様々な問題や悩みに対し、事前に問題を把握し、深刻な事態に陥る前に学内における学生情報を共有し、関係部局およびゼミナール教員と連携しながら解決方法を見出すことで、一定の効果を上げてきている。また、休学が継続し退学へとつながるケースも多いことから、長期にわたる学生のケアにいかに関わっていくか、特に下記の3点について注意深く対応をとっている。

- a) 授業の出席状況と欠席理由の把握
- b) 悩みを持つ学生の気軽な相談窓口の設置
- c) 生活習慣が過度に乱れている学生の把握と改善に向けたアドバイス

また昨年、日程や内容について見直しを行なった新入生向けの「入学前セミナー」や「保護者説明会」は、昨年の反省を踏まえ、より効率的に計画を立てることができた。

② 学生相談員、ファイナンシャル・プランナー

平成 24 (2012) 年 6 月より、上記学生情報への対応策として学生がいつでも相談できる学生相談員の配置を行っている。学業や友人関係、クラブ・サークルのことなど悩みや相談がある場合、気軽に相談できるよう、カウンセラーの有資格者を中心にカウンター業務と並行して行っている。

また、経済的に修学が困難な学生に対して経済的な相談を行うため、ファイナンシャル・プランナーの有資格者の相談員を配置している。

<学生相談員>

キャリアセンター：片庭 美咲、松澤 久由

情報センター：伊藤 健

(相談員のサポート役：丸山正樹、田中雅俊)

<ファイナンシャル・プランナー>

教務課：上條 直哉

③ 授業料免除制度

休学・退学する学生の中には、経済的な理由によるものが少なくない、学内の制度として平成 21（2009）年度より「経済状況悪化に伴う修学困難な学生への支援制度」を設け、家計を支えている方の失職、破産、事故、病気、もしくは死亡等により、入学後、修学が困難となった学生に対し、授業料の半額を免除している。平成 29（2017）年度に採用された学生は、前後期合わせて 3 名であった。

また、全学生の 45.6%にあたる学生が奨学金を受給し、学費や生活費に充てている。ここ数年この割合は横ばいで推移しているが、就職してからの返済について、学生支援機構の方針が強化されており、次の受給者のためにも在学中からの学生指導の徹底が必要となっている。

2) 学生連絡会・相談員の役割の再点検 <C・A>

① 学生連絡会

学生連絡会は、原則月に 1 度の開催で、毎回 10 名程度の職員が参加している。各部署から持ち寄られた学生の情報を共有しながら、休学者・退学者が少しでも減少するよう、対策について議論を重ねている。また、それぞれの部署を超えて若手・中堅職員が問題意識を持つことの習慣化にもつながっており、連絡会の意義（原点）を忘れずに今後も継続して行きたい。

② 学生相談員

学生相談員は、学生の日常的な悩みを幅広く受けつけることを目的として設置されたが、相談を目的に訪れる学生はほとんどいないことが現状である。学生の悩みは、日常会話の中に見え隠れしており、相談員に限らず職員が窓口対応しながら、会話の中で感じた悩みに対しアドバイスをを行うケースがほとんどである。今後、FD 研修の一環として取り組んでいるキャリアカウンセリング等資格の取得や産業カウンセラーの資格取得の推進によって効果が上がることを期待している。

<執筆担当/学生センター長 赤羽 研太>

1. 教務課

平成 29（2017）年度当初の教務課は、総合経営学部、人間健康学部、教育学部及び大学院、松商短期大学部、教職及び資格取得の各担当を専任職員、嘱託職員及び派遣職員の計 14 名の体制で教学業務に従事した。後期からは異動及び職員体制の充実に伴う体制変更から課長の交代、専任職員 2 名と嘱託職員 1 名を増員し、年度末には 17 名体制となった。

1) 平成 29（2017）年度の基本計画<P>

平成 28（2016）年度の自己点検・評価を踏まえ、平成 29（2017）年度の取り組みを以下に掲げた。

(1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、各種規程等を整備した。実情を鑑み、不十分な点が生じた場合、各種規程等の整備を検討して行く。

(2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

運用方法や手続きの見直しは、定着するまでに課題等が生じてくることがある。平成 29（2017）年度の実施により検証を行い、必要に応じて修正していく。

(3) 教育学部開学に向けた準備

既存学部の教務事務経験者を配置換えし新学部の担当にしたことによりスムーズな業務を行うことが出来た。次年度以降、学年進行によりさらに業務量が増えることとなるが、業務を想定し進めていく。

(4) 大学教育再生加速プログラム（AP）採択に伴う取組

前年度は、コンピテンスやルーブリックの確定など「ディプロマ・サプリメント」に記載する内容の準備が中心となり、「ディプロマ・サプリメント」の素案策定が進まなかったため、次年度さらに検討を進めていくこととした。

(5) 全学共通教養科目の検討

平成 29（2017）年度の開講により課題や問題が浮かび上がった場合、共通教養センター運営部会と連携し、検討を重ね、平成 30（2018）年度の開講科目に反映していく。

(6) 教学改革の推進

次期認証評価に向けた具体的な道筋の作成や準備を始め、取組を推進していく。

2) 課題に対する取組 <D>

(1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、下記の規程等の整備を行った。

(新設)

- ①「松本大学長期履修学生規程」
- ②「松本大学松商短期大学部長期履修学生規程」
- ③「松本大学学業成績優秀者表彰規程」
- ④「松本大学松商短期大学部学業成績上位者表彰規程」

(改正)

- ①「松本大学履修規程」
- ②「松本大学松商短期大学部履修規程」
- ③「松本大学総合経営学部進級に関する規程」
- ④「松本大学人間健康学部進級に関する規程」
- ⑤「松本大学教育学部進級に関する規程」
- ⑥「松本大学科目等履修生規程」
- ⑦「松本大学上野奨学基金及び赤羽奨学基金の推薦に関する内規」

(2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

全学教務委員会及び関係部署と連携し、前年度見直した下記の項目について計画に従って実施した。

- ①入学式前々日に開催する「入学前セミナー」（キャリアセンターと協働）
- ②入学式後に開催する新入生「保護者説明会」
- ③履修登録期間の変更（開講前登録）
- ④補講申請方法の変更
- ⑤進級に関する異議申し立て書の作成（新規）
- ⑥「特別学修週間」の設定（短期大学部）

(3) 教育学部の開学

平成 29 (2017) 年度に新入生 65 名を迎えた。予定通り教員も全員が着任し、設置計画に基づいた講義運営を行い、フレッシュマンセミナーも実施した。新任者が多かったため、教務主任となった学科長と連携しながら、積極的に教務委員会運営を行った。

(4) 大学教育再生加速プログラム (AP) 採択に伴う取組

昨年度進行が遅れていた「ディプロマ・サプリメント」について、素案の検討を進めた。また、学生の学修成果の振り返り、いわゆる「e-ポートフォリオ」の整備に向けて「Glexa」と「メンフィア」とのデータ共有を、業者を含めて議論を重ねた。

また、計画調書に基づき、AP フォーラムを 3 回実施したほか、AP 外部評価委員会及び外部評価・助言委員会を初めて招集し、開催した。

(5) 全学共通教養科目の開講

ここ数年に亘る議論を経て、今年度から四年制大学においては共通教養科目として開講した。

(6) 教学改革の推進

次期認証評価に向けて、新シラバスの検討を開始した。第 3 期認証評価においては「内部質保証」が大きなテーマとなっており、その対応の一つとして成績評価基準の明示やルーブリックの作成等が求められると言われている。他大学の先行事例を示しつつ、全学教務委員会において検討を進めた。

「グローバル化への対応」を推進するため、11 月下旬から 4 回ネイティブの非常勤教員の協力を得て「English Café」を開催した。また、TOEIC 対策を目的とした「e-ラーニング」システムを次年度より導入することを決定し、教育学部入学予定者に先行して利用を開始した。加えて、全学協議会において英語等の科目のクラスサイズを原則 20 名以下とすることを決定した。

さらに、学事歴の見直しとして、現在の 90 分 15 週の講義日程を 100 分 14 週あるいは 105 分 13 週に変更することも今後の課題として提案した。本件は全学的に大きな影響があるため、教務案としてメリット、デメリットを示しつつ、全学運営会議で話題としてもらうこととした。

3) 課題に対する点検 <C>

(1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

長期履修学生規程は大学院では制定されていたが、学部及び短期大学部では「松本大学長期在学計画学生制度に関する内規」をおいていた。この内規は在学期間が長期にわたる学生の救済的措置とされ、運用も曖昧であったことからこれを廃止し、大学設置基準に沿った制度として、新たに制定した。成績優秀学生の表彰については、実態としては行われていながら、規程として整備されていなかった制度を整備したものである。その他の改正についても、実情に合わせて規程等を見直した結果である。

(2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

「入学前セミナー」について、従来キャリアセンター主管による 2 月に開催していた「集合セミナー」と教務課主管による 3 月に開催していた「プレオリエンテーション」を、4 月の入学式直前に協働で開催し、重複する内容や来学回数を減らしたことで、新入生の負担を減らすことができた。また、「保護者説明会」も、入学式当日に実施したことで、保護者の負担感が減少したと考えられ、アンケートでも批判的な内容は見られなかった。

履修登録期間の変更は、初回講義までに一次登録を行い、一週目の講義を踏まえて履修変更で

きるよう、期間にゆとりを持たせたことで事務サイドでの履修確認が丁寧に行えた。

その他に見直しを行なった事項についても問題は生じておらず、適切に運用がなされている。

(3) 教育学部の開学

「学校ボランティア活動」等、計画に基づいて新たな取組みを着実に実施した。実施に際しては、児童とのかかわり方について受け入れる学校側の考えと学生のイメージが異なっていたことから一部の学生から不満の声も聞かれたものの、この反省を活かして地域社会との連携を密にし、今後開講される「地域活動実習」「学校インターンシップ」等につなげていく。また、不本意入学等から、初年度に9.2%に当たる6名が退学した。本学部の特性を踏まえつつ学生支援を行っていく必要がある。

(4) 短期大学部大学教育再生加速プログラム(A P)採択に伴う取組

昨年度課題としていた「ディプロマ・サプリメント」の素案作成に向けて検討を重ね、原案としてまとめることができた。一方、「Glexa」と「メソフィア」のデータ共有については、技術面と費用面で着地点を見出すことができず、当初計画を断念せざるを得なかった。今後はそれぞれのシステムで住み分けて活用することとし、コンピテンス評価等については、最終的に証明書発行にかかわることから、「メソフィア」に整備することとした。

(5) 松本大学全学共通教養科目の開講

今年度から開講された共通教養科目であるが、現段階では特段の問題は生じていない。履修登録期間を変更したこともあり、クラス分け等もスムーズに行なわれた。

(6) 教学改革の推進

当初の目標としては新シラバスに記載する項目等について一定の方向性を見出したいと考えていたが、議論は深まらなかった。これは「内部質保証」が具体的にどのような対応を取ることが「質保証」したことになるのか、多くの教職員にイメージがつかめなかったためと思われる。厳格な成績評価基準の設定やルーブリックの導入などが広まりつつあるが、その他の事例の収集や、「本学の考える質保証」とは何かを議論することが今後必要であろう。

「English Café」は、参加者へのアンケートの結果「今後も参加したい」との回答が多数を占めたため、次年度に向けて定期的に開催することを決定した。「eラーニング」システムについては、本格稼働が始まってから、利用状況やその後の成績変化などを検証していく。

4) 課題に対する改善 <A>

(1) 教務に関する諸規程・諸規則の整備

全学教務委員会と連携し、各種規程等を整備した。今後も継続的に点検を行い、実情との不整合等が生じている場合には、その都度各種規程等の見直し及び整備を進める。

(2) 教務関連事項の運用方法や手続き書類等の見直し

運用方法や手続きの見直しは、定着するまでに課題等が生じてくることがある。今後も継続的に検証を行い、必要に応じて修正するとともに、学生の利便性向上に向けた改善に取り組む。

(3) 教育学部の学年進行に伴う対応

教育学部の学年進行に伴い、3年次の教育実習に向けた準備など、業務量がさらに増えていくことが予想される。教職センターとの連携を密にしながら、綿密に準備を進めていく。

(4) 大学教育再生加速プログラム(A P)採択に伴う取組

APフォーラムや外部評価委員会を計画に基づいて着実に実施していく。「メソフィア」の整備が進んでいることから、4 学期制の実施に伴う評価を前期から開始していく。「ディプロマ・サプリメント」発行機能が整備されたことから、運用に向けた諸設定及び検証を進める。

(5) 全学共通教養科目の検討

今後も継続的にクラスサイズの適正化や休講・補講の連絡の徹底等、講義運営について検証を進めていく。課題や問題が浮かび上がった場合には、共通教養センター運営部会と連携しながら検討を重ね、翌年度の開講科目に反映していく。

(6) 教学改革の推進

次期認証評価は 2022 年度に受審予定であり、2021 年度の実績に基づいて審査が行われることになる。そこに対応していくためには遅くとも 2020 年には新たな体制をスタートさせなければならない。FD・SD 委員会と連携して情報収集を進め、教職員と情報共有を図りながら、具体的な対応策の検討や準備を推進していく。

「グローバル化への対応」については今後も継続的に推進していくとともに、それぞれの取り組みについての成果を検証し、活用方法の工夫や利用を促していく取り組みを続けていく。

<執筆担当/教務課長 赤羽 研太>

2. 学生課

<現状>

本学は「教育・研究を通じた地域社会への貢献を目標としている」ことをミッションとして掲げ、社会で行われる実際の事業に学生を関わらせることで、地域住民との繋がりを持てるよう学生への支援を常に心がけている。それぞれ、学部別の担当を配置しながら、窓口対応、奨学金や各種契約等の事務手続き、共通の企画、全学行事の事務を遂行した。また、教育学部が設置され、より多くの学生を巻き込んで取り組むことを重視した。

1) 年間計画 <P>

(1) 学生の指導に関する事項

- ・学内での生活全般
- ・危機管理対応（事故・事件の対応）
- ・病気、怪我、体調不良等の相談、対応（健康安全センターとの連絡）
- ・日常の生活マナー指導（喫煙、交通・駐車違反、不正乗車、歩きスマホ、下宿生のゴミ出し等）
- ・松本警察署生活安全課及び交通課との連携
- ・長野県中信消費生活センターとの連携

(2) 学生証、通学証明書、JR学割証の発行に関する事項

- ・JR線および上高地線における通学定期等、各種証明書等の発行

(3) 学生の課外活動等に関する事項

- ・学友会、クラブ協議会、サークル連合への支援
- ・強化部、重点部、強化指定選手への大会手続及び支援
- ・寮生活の指導・健康状況、会計状況、生活状況相談
- ・松本子どもまつり、松本ぼんぼん参加申請、企画、引率等

- ・全国私立短期大学体育大会への参加申込、宿泊手配、引率（今年度は参加せず）
- ・長野県私立短期大学体育大会への参加申込、引率
- ・学部及び短期大学部の体育大会等への協力、支援
- ・各種リーダー研修会への助言、支援
- ・新村音楽祭・新村地区運動会への支援と学生派遣協力
- ・新村地区あたらしの郷協議会への協力
- ・各種発刊物への企画アドバイス
- ・湘北短期大学等他大学との交流会（リーダー研修会・大学祭交流）
- ・アルバイト情報の提供、掲示物等

（４）大学学友会の一本化および会則の見直し等

今年度教育学部が設置されるにあたり、学部の学友会を一本化し活動に取り組んだ。それに伴い、若干の会則の見直しも行った。また、教育学部の学生にも積極的に取り組んでもらえるよう、行事等の参加を働きかけた。次年度以降は、学友会執行部へも多く関わりを持たせるようにしていきたい。

（５）大学祭をよりアカデミックさを強調しながら成功させる

昨年度 50 回目の節目として開催し、今年度は新たな 1 年として企画・運営面での充実を図る。資金的にも後援会や同窓会から補助金を提供していただき、学部間や教職員、同窓生や地域をより多く巻き込んだ企画・運営をはかる。

（６）修学支援に関する事項

- ① 「経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度」
- ② 「日本学生支援機構の奨学金」
- ③ 「松本大学同窓会奨学金」
- ④ 「地方公共団体・民間育英団体」
- ⑤ その他

（７）障がいをもつ学生への支援

新たに教育学部が設置され、8 号館が建設されたことから、バリアフリー等の課題も合わせ、障がい者への配慮等を検討していくこととした。

2) 活動内容 <D・C>

基調 教職共同へのアプローチ

（１）学生生活の広がりに対応した支援業務

① 修学支援（奨学金、緊急支援制度他）

全学生の 4 割強にあたる 826 名（院生含む）が日本学生支援機構奨学金の貸与を受けており、親元の経済事情を反映した相談が日常的に増加している。返還誓約書の早期提出など事務が煩雑となる一方で、奨学金の月額変更や緊急、応急貸与の個別相談にきめ細かく対応するべく課員の業務水準をあげるための研鑽につとめた。（別表参照）

2015年～2017年の奨学金受給学生数・比率

	学生数 (3/31 現在)			奨学金受給学生数・比率		
	2015年	2016年	2017年	2015年	2016年	2017年
総合経営	724人	751人	726人	283人 39.1%	304人 40.5%	296人 40.8%
人間健康	734人	725人	694人	338人 46.0%	348人 48.0%	344人 49.6%
教 育	—	—	59人	—	—	34人 57.6%
大 学 院	10人	15人	12人	4人 40.0%	4人 26.6%	3人 25%
短期大学	382人	405人	438人	144人 %	146人 36.0%	149人 34.0%
合 計	1,850人	1,896人	1,929人	769人 41.6%	802人 42.3%	826人 42.8%

「経済状況悪化等に伴う修学困難な学生への支援制度」として、突発的な事態に対応すべく学費半額免除の制度を継続して行っている（前期・後期）。以前よりも経済状況が好転しているためか申請者は減少しており、採用者は前期1名、後期3名となっている。折角の制度なので、学生への更なる周知に努めていきたい。

また、学部のみ、スポーツ特待生制度の継続審査を前期および後期に実施している。今年度、学力基準（GPA 目標値：2.0 GPA 基準値：1.0 以上）を下回った学生はいなかった。

② 生活支援（マナー、社会人基礎力）

新入生には交通安全、薬物・防犯について松本警察署の協力を得て講話を実施し、知識の習得と一定の抑止効果を見せている。また、在学生オリエンテーションでは、全学部2年生を対象とした消費者トラブル防止講習会を開催し、ネットトラブル等の危険を呼び掛けている。

③ コミュニティ形成としての居場所づくり

社会の実践から学ぶことができる課外活動への期待が高まっている。コミュニケーション能力や社会性を身に付けるため、学友会やサークルを通じた人づくりを重視している。

総合グラウンドは学校法人松商学園の共有グラウンドのため、高校と大学から運営委員を選出し、授業優先の原則のもと本学サークルと高校部活動のすみわけを図っている。7号館1階のコモンルームは多目的空間として勉学、語らい、発表、食事サークル活動など平日はほぼ満席となりニーズの高さを示している。

④ 危機管理

学生たちが安心、安全に学生生活をおくるために事故防止や事故に対し健康安全センターとの連携で対応した。

(2) 強化部・重点部の支援

公式戦等遠征におけるバスの手配、宿泊費、旅費出張費等の会計事務を担った。

また、寮費の徴収、支払いや食事の管理等についてもサポートを行った。

(3) 学友会のサポート

体育大会、大学祭といった学友会主催のイベントで、担当する学生たちがいかに主体性をもって運営に携わることができるかを常に意識しながらアドバイスをを行った。その結果、学生たちが達成感を得て、自信を得ることにつながった。

松本大学学友会が発足し、常任委員会や臨時学生大会、及び会計処理、選挙活動のサポート全般を行った。また、会則の作成に当たっての支援を行った。

(4) クラブ協議会・サークル連合会議

クラブ協議会・サークル連合の会議（総会）は6月、8月、2月の3回に亘って開催し、各クラブの予算編成や決算報告を行った。また、昨年度は工事中のため使用できなかった第二体育館が新設され、第一体育館と合わせ利便性が図られた。各クラブが平等に使用できるよう調整会議を頻繁に行い、活動できるよう努めた。学生課はこれらの円滑な運営のサポートを行った。

(5) 大学祭「梓乃森祭」

梓乃森祭は昨年50回目の節目を開催し、今年は51回目の新たな一步を踏み出した。テーマは「A New Beginning ートビラのその先はー」とし、学祭局を中心とした学友会役員と学生委員による実行委員会を組織し運営にあたった。

前夜祭を含む3日間、模擬店やゼミ発表&展示を始め、ウッドデッキでの各種ステージ発表、第一体育館でのミュージックライブやダンスセレモニー等大いに盛り上げ、国際記憶円卓会議、重田みゆきさんの「インプレッションセミナー」にも多くの来場があった。また、短期大学部が毎年交流している湘北短期大学の学生25名が訪れ、学友会のメンバーとの親交を深め、湘北短大のサークルによるステージ発表もあり大学祭に華を添えてくれた。更に恒例になっているファッションショーでは、毎年コラボレーションしている松本理容美容専門学校と松本衣デザイン専門学校の学生たちが協力し、多くの来場者を魅了した。

今年も大きな事故やトラブルがなく終了したが、今後も皆で知恵を出し合いより多くの方に楽しんでもらえるような企画・運営に努めていきたい。

(6) 義守大学公式訪問団

学生を海外へ派遣する同窓会の資金提供を受け、学友会役員5名が3月5日（月）～8日（木）までの3泊4日の日程で、本学の海外交流協定校である台湾義守大学へ公式訪問した。同校の学友会に携わる学生と、日本語を学ぶ学生たちとの意見交換や交流を行い、親睦を深めた。見聞を広め、国の文化や習慣の違いなどを理解することで、今後の学友会活動に役立てるための有意義な時間となった。次年度以降も、協定校との本格的な学生交流によって、学生生活に国際的な視点を取り入れた意識が高まることを期待したい。

(7) 障がいをもつ学生への取組

車椅子で生活する学生に対して、駐車場を校舎の近くに作るなどの配慮を行った。

3) 次年度への課題 <A>

更なる現場事業の強化へ

- (1) 松本大学学友会が誕生したことで、学部間に考え方等の温度差が生じることも予想されたが、一人ひとりが自分の立場や役割を理解し行事等協力して行うことができた。今後も、短大部学友会との共同事業、学部全体で取り組む事業、学部独自の事業と、全てがバランス良く活動できるように配慮した支援が必要となる。
- (2) 学部・クラブ協議会と短期大学部・サークル連合会の組織を融合し、スムーズな運営体制を確立する。またクラブ活動がより活発化するために支援する。
- (3) 休日や学外で実施する体育大会において、一昨年度から外部看護師の派遣を要請しているが、

長野県看護協会に依頼する手間や経費が掛かるため、新たな策を講じる必要がある。

(4) 高等教育コンソーシアム信州の加盟大学とのネットワークを広げ、各大学祭の情報交換の場を設け、学生の交流が活発化するよう支援する。

(5) 学生生活の基盤を支える

① 学生の約4割にあたる奨学金貸与学生へのスムーズな手続きとともに、親身になった相談業務を行う。また、日本学生支援機構以外の奨学金にも幅広く学生に紹介できるよう情報収集に努める。

② 悩みを抱えている学生は、自ら学生課窓口に来ないため相談にのれる場面が少ない。そうした学生たちの悩みを聞く機会を捉えるべく情報収集等に努め、各部署との連携を密にする。

③ 障害者差別解消法の施行に伴い、合理的配慮をどのように進めていくか、さらに調査研究に努める。

④ 強化部、重点部、個人強化選手の支援を通じて、選手が活躍できる環境づくりに努める。

⑤ 寮費・食費をはじめとした課外活動費の適正化を部の指導者とともに推進する。

(6) 第3駐車場新設について

平成30年度4月より、新村郵便局前に第3駐車場が新設（85台分）され運用が開始される。30年度については「予備的」な位置付けでの運用となるが、学生には今まで以上に安全に配慮するように努めていきたい。

(7) 学生課職員のレベルアップ

① 学生課の仕事の範囲は広く学生と直接携わる場面が多いため、例え知識が浅くても、あるいは見聞が狭くても、学生の問いにすぐに答えなければならない場面が生じる。課内での情報交換を活発化し、お互いが日々の業務の中で研鑽し合い、常に「学生ファースト」の気持ちを忘れずに課員全員で質の向上に努めたい。

② 学生にとって最も身近な「社会人」であることを肝に銘じ、優しさの中にも時には社会の厳しさを指導・助言することも私たち職員の責務と考え、信頼関係を構築できる学生対応に心掛けたい。また、どの学生に対しても公平なサービスを提供できるように努めたい。

③ 引き続き、職員の標準化を推進し、異動があっても大丈夫なようにマニュアル等を作成し、円滑に事務を引き継げるようにする。

<執筆担当/学生課長 白澤 聖樹>

3. キャリアセンター

2017(平成29)年度のキャリアセンターは、就職活動及び就職活動準備をはじめとする学生のキャリア支援を目的とし、課長1名を含む専任職員3名、嘱託専任職員1名、派遣職員1名、嘱託職員3名の計8名により業務に従事した。キャリアセンターの業務は主に、①大学4年生と短大2年生対象の就職活動支援、②大学3年生と短大1年生対象のキャリア教育および就職活動準備支援、③企業との情報交換・情報収集、④保護者への情報提供、⑤就職委員会の運営、⑥キャリア面談の運営、⑦入学前教育プログラムの運営の大きく7つに区分される。

1) 当初の計画 <P>

(1) 大学4年生と短大2年生対象の就職活動支援

①各種相談対応	面接練習、履歴書・ES添削、窓口相談、ヒアリング
---------	--------------------------

②学内企業説明会の企画	合同企業説明会、単独企業説明会
③求人情報の収集と整理	求人票の受理、ハローワークの求人情報収集
④学生への情報提供	求人情報、合同企業説明会、公務員試験、編入・進学、採用試験状況等
⑤教職員間の情報共有・提供等	求人情報、就職活動進捗状況、委員会運営、行事開催
⑥就職支援ガイダンス	大学4年生、短大2年生
⑦進路未決定者対象ガイダンス	ハローワーク共催

(2) 大学3年生と短大1年生対象のキャリア教育の支援、及び就職活動準備支援

①ガイダンスの運営	キャリア形成Ⅱ(総経3年・前期分)
	キャリアデザインⅡ(人間3年・前期)
	就職支援ガイダンス(総経3年、人間3年・後期)
	キャリア・クリエイトⅡ(短大部1年・後期)
②各種講座の企画・運営	夏季就職合宿(大学)
	企業・業界研究勉強会(大学・短大)11～12月
	SPI&適性検査対策[リクナビ](大学・短大)
	就職活動用証明写真撮影会(大学・短大)1月
	就職対策講座(大学)1月
	就活直前セミナー(大学)2月
	メイクアップ講座(大学)
	自己分析&ES対策講座[マイナビ](大学)
	金融業界の就職活動(大学)
	キャリア・クリエイトⅡ(自己分析、メイクアップ、集団面接対策各講座)
学外合同企業説明会バスツアー(大学・短大)3月	
③インターンシップ	大学、短大、長野県産学官インターンシップ事業(大学・短大)

企業・業界研究勉強会とは：様々な業種に渡る事業所の人事担当者を招き、事業内容と併せて業種・業界の社会的な役割、説明を通じて、学生の企業研究や職業観の醸成に繋げるものである。

(3) 企業との情報交換・情報収集(求人依頼、企業訪問等)・ガイダンス等の協力依頼

①2017年度求人受理
②2018年度に向けた求人依頼
③企業訪問
④学内合同企業説明会・単独企業説明会の企画・運営
⑤ガイダンス等への協力依頼(授業での講演依頼、夏期就職合宿、企業・業界研究勉強会等)
⑥県内外における企業との情報交換会

(4) 保護者への情報提供

保護者説明会の企画・開催	大学3年生保護者5月、短大1年生保護者11月
情報提供と協力依頼	郵送による就職関連情報提供、進路決定向け協力依頼

(5) 就職委員会の運営と議事録作成

総合経営学部、人間健康学部、松商短期大学部、全学就職委員会

(6) キャリア面談の企画・運営

①入学前	全入学生に課題の解きほぐし、学びへの心構え等:2~3月
②大学2年生	5月
③就職活動前	就活に向けての準備・心構え大学3年生・短大1年生:2月
④就職活動中	課題をかかえる大学4年生・短大2年生:8~9月

・学年毎のキャリア面談の目的

【入学前】大学生活に向けての期待や前向きな目標意識の醸成、大学進学における疑問・不安の解消

【大学2年生】大学生活1年間を振り返り、学びへの動機付けと学生生活充実のための計画

【就職活動前の大学3年生・短大1年生】就職活動に向けて進路または就職活動に対する不安・疑問の解消と相談、就職活動の具体的な計画立案補助と意欲の向上

【就職活動中の大学4年生・短大2年生】学生個々の課題明確化と解決策の検討・相談、就職活動への積極的な取り組みとキャリアセンターの有効利用、不安解消と意欲の向上

(7) 入学前教育プログラムの運営 (大学、短大)

2) 現状の説明 <D>

(1) 大学4年生と短大2年生対象の就職活動支援

① 月別の各種相談対応 (2017/3/1~2018/2/28)

対応/月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	計
面接練習	11	119	127	57	52	23	14	15	27	23	5	1	474
添削指導	120	264	109	56	45	31	11	27	12	17	7	12	711
相談対応	75	113	72	98	72	41	42	67	43	39	16	12	690
ヒアリング	0	0	0	0	60	1	6	22	36	40	21	5	191
計	206	496	308	211	229	96	73	131	118	119	49	30	2,066

② 学内企業説明会の企画・運営

学内企業説明会 及び 開催年月日(曜日)	開催場所	参加 事業 所数	参加学生数						参加率 (%)
			院	K	T	N	S	短大	
合同 第1回 2017/3/7(火)	第1体育館&513教室	69		69	61	53	87	202	84.1
合同 第2回 2017/3/23(木)	第1体育館&513教室	72		53	48	53	49	182	68.6
合同 第3回 2017/6/17(土)	第1体育館	61		9	17	4	3	158	27.4
長野県中小企業団体中 央会 2018/8/5(土)	7号館1階コモンルーム	23		2	3	1	0	4	
単独 計35回開催	主に本学5号館		6	35	34	53	75	134	
	参加者中内定者数			5	3	12	14	11	

③ 求人情報の収集と提供：i)求人票の受付・整理・公開→大学：1554件、短大：1083件、ii)ハローワークの求人情報収集・公開、iii)「今週の求人情報」をのべ28回発行

④ 学生への情報提供：求人情報設置・配布、合同企業説明会案内、個別企業説明会案内、公務員試験日程の案内、過去5年間の就職状況、SPIテストセンター開催日程案内、編入学・大学院

- 進学試験案内、大学院進学情報、採用試験状況報告書の公開、新聞5紙・雑誌・書籍等の設置
- ⑤ 教職員間の情報共有・情報提供等：求人情報等を教員へ報告、就職活動進捗状況の教職員間共有、就職委員会の運営、各種行事開催（夏季就職合宿、就職対策講座、集団面接対策講座）
- ⑥ 就職支援ガイダンス

キャリア形成Ⅲ (総経4年・通年)	全体会(1回/月)での求人情報や説明会開催情報等の提供 ヒアリング(就職活動状況の調査)
キャリア・クワイエットⅢ (短大2年・前期)	集団面接、マナー、エントリーシート対策、筆記試験対策の各講座 OB・OG講演、求人等企業情報の提供
キャリア・クワイエットⅣ (短大2年・後期)	社会保険講座(労務管理、雇用・保険、年金制度等) 就職活動スタート講座、組織のマナー講座、講演会、ヒアリング

- ⑦ 進路未決定者対象ガイダンス（新卒応援ハローワーク松本との共催）

開催日：9/29(金)、11/9(木)、2/8(木)、3/5(月)、のべ参加者数：13名、内定者数：8名

(2) 大学3年生と短大1年生対象のキャリア形成および就職活動準備支援

① ガイダンスの運営

キャリア形成Ⅱ (総経3年・前期)	就職活動概要、採用試験概要、適性検査の受検、就職活動サイト活用 講演会、自己分析、企業研究、履歴書の作成、インターンシップなど
キャリアデザインⅡ (人間3年・前期)	同上
就職支援ガイダンス (総経3年・後期・人間3年・後期)	就職活動の具体的流れ、就職活動の進め方、自己分析、企業研究、 就職活用サイト活用、ビジネスマナー、エントリーシート作成法、 面接対策講座、SPI模擬試験、先輩体験報告会など
キャリア・クワイエットⅡ (短大1年・後期)	就職活動スタート講座、就職活動サイト登録、先輩学生・卒業生体験報告会、SPI対策試験、 適性検査の受検、一般教養対策試験受験、卒業生体験報告会、自己分析講座、 業種・職種研究会、企業研究・会社訪問心構え、集団面接対策講座など

② 各種講座等の企画・運営

夏季就職合宿 (大学)	池の平ホテル(立科町)・・・9/6(水)～9/7(木) 参加60名 池の平ホテル(立科町)・・・9/14(木)～9/15(金) 参加56名 内容:マナー講座・演習、自己紹介・自己PR演習、面接対策講座、 グループディスカッション体験、先輩学生相談、グループワーク
企業・業界研究勉強会 (大学・短大)	延べ1570名参加(総経280、観光176、栄養221、スポ149、商377、情367) 11月1(水)、6(月)、8(水)、13(月)、15(水)、16(木)、27(月)、28(火)、29(水)、30(木)、 12月6(水)、7(木)、13(水)、14(木) 全14回 参加事業所:(株)モリキ、トヨタカローラ南信(株)、キッセイコムテック(株)、(株)サンクゼール、 松本ハイランド農業協同組合、(株)ツルヤ、セキスイハイム信越(株)、(株)アクティオ、 日清医療食品(株)中部支店、(株)エラン、岡野薬品(株)、東洋計器(株)、長野県警察、岡谷 酸素(株)、日本郵便(株)、ホクト(株)、(株)デイリーはやしや、(株)長野銀行、(株)ライト光機製作 所、医療法人研成会諏訪湖畔病院、社会福祉法人平成会、(株)マルニシ、長野県庁、 (株)アステップ信州、(株)池の平ホテル&リゾート、(株)マイナビ

就職活動用証明写真撮影会	1月16(火)、17(水)、18(木)、23(火) 15時～19時 申込者数394名(大学217、短大177)、 費用2,000円(写真6枚+データCD納品) 協力:フォトエボーム
就職対策講座 (大学)	1回目12/24(日)… 1日コース38名参加(K3・T10・N10・S15) 午後半日コース38名参加(K6・T5・N8・S19) 2回目12/25(月)… 1日コース38名参加(K10・T9・N8・S11) 午後半日コース13名参加(K3・T3・N5・S2)
就活直前セミナー (大学)	学内 2/20(火) 46名参加(K13、T9、N2、S22)
メイクアップ講座 (大学)	学内 12/18(月)、12/19(火)、12/20(水)、1/19(金)各5限 100名参加(K12、T11、N48、S29)
自己分析&ES対策講座 [マイナビ](大学)	2/7(水)、2/13(火) 77名参加(K16、T24、N24、S12、商1)
金融業界の 就職活動セミナー (大学)	3/7(水)10:00～11:30 講師:田中紀夫氏 24名参加(K5、T5、N1、S13)
キャリアクエイトⅡ (短大)	自己分析講座 11/30(木)、12/7(木)、12/14(木)、12/21(木) メイクアップ講座 1/18(木) 実践マナー講座 2/8(木) 集団面接対策講座 2/14(水)、2/15(木) エントリーシート対策講座 2/23(金)
学外合同企業説明会 バスツアー	3/11(日)東京ビックサイト(東京)… 66名参加(K12、T12、N13、S13、商7、情15) 3/15(木)ビックハット(長野)… 144名参加(K29、T34、N16、S38、商3、情24)

③ インターンシップ

長野県産学官インターンシップ事業 事前説明会(大学・短大)	5/17(水)、5/18(木)、5/22(月)、5/23(火)各5限
	計71名参加(K21、T16、N10、S15、商7、情2)
事前説明会(大学)	6/15(木)、19(月)、21(水)各5限
	計71名参加(K20、T25、N2、S24)
	実施者8名(K2、T3、S3)
事前研修会の参加状況	基本マナー講座 7/3(月)、5(水)、6(木)
	計81名参加(K28、T12、N8、S27)
	事前マナー研修 7/19(水)、8/7(月)
	計64名参加(K28、T12、N2、S22)
短大	告知8/9(水:オリエンテーション時間内)、事前説明会:10/3(火)5限
	選考面接:10/18(水)、19(木)、事前マナー研修:11/7(火)
	実施者4名(商1、情3)

(3) 企業との情報交換・情報収集(求人依頼、企業訪問等)・ガイダンス等の協力依頼

①2017年度求人受理件数…大学:1554件、短大:1083件、②2018年度に向けた求人依頼数…約10000事業所、③企業訪問 2017/4/1～2018/3/31 訪問数:389事業所…求人依頼、前年度内定の御礼、卒業生の状況調査、学内行事参加依頼(下記④⑤)、④学内合同企業説明会・単独企業説明会への参加依頼、⑤ガイダンス等への協力依頼(授業での講演等依頼、夏季就職合宿、企業業

界研究勉強会等)、⑥県内外における企業との情報交換会参加

(4) 保護者への情報提供

① 保護者説明会の企画・開催

大学3年生保護者対象 保護者就職説明会 5/27(土)13:00～	説明内容:就職活動の流れ、各学部・学科の実績と傾向、管理栄養士国家試験の準備、健康運動指導士・教員採用、個別相談
	全体会/分科会:122組参加(K17、T34、N35、S36)、165名 個別相談会:21名参加(K3、T5、N6、S7) キャリアセンター見学:110名参加(K5、T35、N35、S35)
短大1年生保護者対象 保護者就職説明会 11/25(土)10時～15時	説明内容:就職実績と就職支援の内容、就職活動の流れ。 2年生就職活動体験報告、ゼミ担当教員との顔合わせと昼食懇談会
	全体会 10:00～12:30 98組参加(商46、情52) 個別相談会 12:30～ 24組参加(商10、情14)

② 郵送による就職関連情報の提供と、進路決定に向けての協力依頼

保護者説明会の案内 (大学3年生、短大1年生の保護者)	開催案内と出欠確認、個別相談希望伺い、 欠席者へ当日配布資料の送付
就職支援のお願い (大学4年生、短大2年生の 進路未決定学生の保護者)	6月・12月に保護者へ協力依頼(短大) 10月・1月・2月に就職支援講座開催案内(大学・短大)

(5) 就職委員会の運営と議事録作成

総合経営学部 (9回)	4/5(水)、5/9(火)、6/7(水)、7/6(木)、8/23(水)、9/29(金)、10/31(火)12/7(木)、 2/1(木)
人間健康学部 (11回)	4/7(金)、5/15(月)、6/7(水)、7/10(月)、8/28(月)、10/2(月)、11/6(月)12/11(月)、 1/15(月)、2/7(水)、3/19(月)
松商短期大学部 (18回)	4/12(水)、4/26(水)、5/10(水)、5/24(水)、6/7(水)、6/21(水)、7/5(水)、7/19(水)、 8/2(水)、9/27(水)、10/11(水)、10/25(水)、火、11/28(火)、12/13(水)、 12/21(水)、1/10(水)、1/24(水)
全学就職委員会	6/12(月)、10/31(火)

(6) キャリア面談の企画・運営

① 面談状況(面談総数:1,796名)

入学前	2018/2/26(月)、27(火)、28(水)、3/5(月)、6(火)、8(木)、9(金)、22(木)、28(水)、29(木)、30(金)
	合計646名(K98、T82、N81、S107、A65、商112、情101)
大学2年生	2017/5/13(土)、14(日)、20(土)、21(日)、28(日)、6/3(土)
	合計385名(K111、T101、N79、S94)
大学4年生 短大2年生	2017/8/7(月)、8(火)、31(木)、9/1(金)、19(火)、20(水)
	合計196名(K23、T32、N18、S53、商32、情38)
大学3年生 短大1年生	2018/2/1(木)、2(金)、5(月)、6(火)、7(水)、8(木)、9(金)、10(土)、13(火)
	合計569名(K83、T87、N87、S101、商101、情105)

② キャリア面談員の体制 面談員総数：26名（県内21名、県外5名）、法人契約：3事業所20名

(7) 入学前教育プログラムの運営

大学	入学前自己ワーク	1月送付→4/2(月)提出
	入学前キャリア面談	2/26(月)～3/30(金)
	入学前セミナー	4/2(月)～4(水)
短大	入学前集合セミナー	2/17(土)、3/24(土)
	入学前キャリア面談	2/26(月)～3/30(金)
	ウェルカムフェア	3/24(土)
	入学前セミナー	4/3(火)～4(水)

3) 点検・評価の結果 <C>

(1) 大学4年生と短大2年生対象の就職活動支援

① 就職状況（2018年3月卒業生）

学部名	学科名	卒業生	就職希望	就職者	就職率
総合経営	総合経営	83	80	79	98.8%
	観光ホスピタリティ	77	71	69	97.2%
	計	160	151	148	98.0%
人間健康	健康栄養	64	64	64	100%
	スポーツ健康	96	87	86	98.9%
	計	160	151	150	99.3%
学部 計		320	302	298	98.7%
松商短大	商	109	101	99	98.0%
	経営情報	111	106	105	99.1%
	計	220	207	204	98.6%
学部・短大 合計		540	509	502	98.6%

② 就職内定件数の月別推移（学部は進学者含）

学部/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
総合経営	10	34	29	21	16	21	4	5	8	4	6	6
人間健康	10	24	34	14	12	19	12	12	16	6	7	3
松商短大	15	29	41	48	17	14	10	12	14	5	5	0
計	35	87	104	83	45	54	26	29	38	15	18	9

③ 産業分類別就職者数（2018年3月卒業生）

産業分類/学科	総経	観光	栄養	スポ	商	経情	計	順位
農業	0	0	0	0	0	0	0	-
建設業	1	3	0	3	4	4	15	9
製造業	14	8	8	4	23	23	80	2
電気・ガス・水道業	2	3	0	1	2	1	9	12
情報通信業	4	3	0	1	1	4	13	10
運輸業・郵便業	3	1	0	1	0	2	7	13
卸売業・小売業	29	17	15	13	32	31	137	1

金融業・保険業	0	2	1	6	10	5	24	6
不動産・物品賃貸業	3	2	0	1	4	2	12	11
学術・専門技術サービス業	2	0	0	0	1	3	6	14
宿泊・飲食サービス業	2	6	2	6	3	6	25	5
生活関連サービス業	0	1	18	11	4	3	37	4
教育、学習支援業	1	1	0	18	1	2	23	7
医療、福祉	0	8	15	8	4	5	40	3
複合サービス事業	12	6	3	7	5	7	40	3
サービス業（その他）	1		1	1	4	5	13	10
公務	5	5	1	5	1	2	19	8
上記以外	0	2	0	0	0	0	2	15
就職者計	79	69	64	86	99	105	502	—

④ 出身者数と県内就職比率

学部名	出身別	県内就職	県外就職	計	県内就職比率
総合経営	県内出身	122	16	138	—
	県外出身	5	5	10	—
	計	127	21	148	85.8%
人間健康	県内出身	99	20	119	—
	県外出身	6	25	31	—
	計	105	45	150	70.0%
学部 計		232	66	298	77.8%
松商短大	県内出身	189	8	197	—
	県外出身	1	6	7	—
	計	190	14	204	93.1%
学部・短大 合計		422	80	502	84.1%

⑤ 進学者・編入学者数

進学・編入先/学科	総経	観光	栄養	スポ	商	経情	計
自大学院進学、大学編入	0	0	0	2	0	2	4
他大学院進学、大学編入	0	0	0	4	2	0	6
他専門学校・短大入学	0	0	0	1	0	1	2
進学者計	0	0	0	7	2	3	12

(2) 大学3年生と短大1年生対象のキャリア形成および就職活動準備支援

① 夏季就職合宿（学部生対象）参加状況の経年比較

	総経	観光	栄養	スポ	計	備考
2015年度	32	20	36	19	107	1泊2日、2回実施
2016年度	29	20	31	20	100	1泊2日、2回実施
2017年度	22	24	49	21	116	1泊2日、2回実施

② 就職対策講座（学部生対象）参加状況の経年比較＜半日コースを除く＞

	総経	観光	栄養	スポ	計	備考
2015年度	16	16	38	19	89	1日コース、2回実施
2016年度	13	19	18	26	76	1日コース、2回実施

2017年度	13	19	18	26	76	1日コース、2回実施
--------	----	----	----	----	----	------------

③ 就職直前セミナー（学部生対象）参加状況の経年比較＜半日コースを除く＞

	総経	観光	栄養	スポ	計	備考
2015年度	22	10	10	15	57	1日コース、2回実施
2016年度	10	5	4	21	50	1日コース、2回実施
2017年度	13	9	2	22	46	1日コース、1回実施

④ 企業業界研究勉強会（学部生・短大生）参加者数の経年比較

	開催回数	参加者数	対応状況等
2014年度	11	1005	はじめての試みで、教職員と企業担当者双方が説明を担当した。
2015年度	15	943	企業担当者を主な説明担当とした。
2016年度	18	1138	開催回数、参加企業数を増やした。
2017年度	15	1570	開催回数を抑えつつ、学生の事前参加申込を原則とした。

⑤ インターンシップ参加状況の経年比較

	総経	観光	栄養	スポ	商	経情	計	備考
2015年度	3	0	0	5	2	4	14	
2016年度		4	0	5	10	7	34	内 信州産学官連携：20
2017年度	3	4	0	4	1	3	15	内 信州産学官連携：2

(3) 企業との情報交換・情報収集（求人依頼、企業訪問等）

① 本社所在地を長野県内外別に分類した求人受理数（大学：1554件の内訳）

長野県本社の事業所求人：619件（約40%）、長野県外本社の事業所求人：867件（約60%）

② 長野県外に本社を置く事業所の求人受理数

東京都	神奈川県	埼玉県	千葉県	群馬県	山梨県	新潟県	富山県
392	59	35	19	13	39	104	19
石川県	愛知県	岐阜県	静岡県	大阪府	京都府	兵庫県	その他
10	58	16	17	50	19	17	68

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

(1) 就職活動支援に関して

① 各種相談対応について

2017年度も前年同様に、3月～5月の各種相談対応件数が1000件を超えた。2年前から添削指導を事前予約制にしたことにより、ある程度計画的に対応できるようになった一方で、事前予約したことにより翌日以降の予定が学生対応で埋まってしまいう事態となった。新年度は前年の就職実績に基く調査や資料作成等の多い時期であるが、そうした事務処理を後回しにせざるを得ない状況があり、蓄積した事務作業を残業や休日出勤によって処理しなければならない事態を招いた。次年度からは、ある程度事務作業と学生対応の業務バランスをとるため、特に新年度の時期に関しては事務処理等の時間を事前に確保した上で、学生の相談予約を受け付けることとしたい。

② 求人受理について

例年の求人依頼方法は、年1回購入する株式会社データバンクの企業情報を基に、約1万2千件の求人依頼文書を郵送し、返信のあった求人票について手入力を行い処理している。近年、求人件数が年々増加するのに伴い、求人受理～公開までの入力・印刷等の作業量が増えると共に、学

生への公開にも時間を要する点が問題となっている中、他大学の状況を調査したところ、WEB求人サービスの導入が近年急速に広まっていることが分かった。WEB求人サービスとは、全国の大学が共同参画して企業からの求人票を効率よく受け付け、迅速に学生へ公開するために構築されたシステムである。WEB求人サービスを導入することにより、大学内での求人票入力作業の負担軽減となるほか、学生への迅速な公開が可能となると考えられる。こうした理由から、次年度からのWEB求人サービス導入を図る予定である。

③ 障がい等の支援が必要な学生の対応

各種の障がいやメンタル面の支援が必要な学生対応への取り組みとして、今年度は日本学生支援機構主催の研修参加、就労移行支援事業者との意見交換、長野障害者職業センターへの訪問、信州大学学生相談センターへの訪問などを行ってきた。こうした交流や意見交換したことを活かし、次年度は具体的に相互が連携・協力して学生の支援に結び付ける段階へ進めたいと考えている。

(2) 就職活動準備支援に関して

① キャリア教育と就職指導との区分

これまで大学3年生と短大1・2年生に対して週1回開講されるキャリア支援科目の担当は、キャリアセンター職員が担っている。内容はキャリア教育と就職指導が混在しており、就職指導には一定の効果がある一方で、単位認定科目として適切に教職協同がなされるべき課題を抱えている。次年度以降はキャリア教育に関する内容を教員へ移行することを検討し、適切な教職協同をめざすほか、キャリアセンターの負担軽減を図りたい。また、その実現よって慢性的な残業過多の傾向を是正すると共に、より複雑で緻密になりつつある就職指導を強化し、インターンシップや企業訪問にも力を注ぎたい。

② インターンシップ

昨今、インターンシップの積極的な取り組みが大学に求められている一方で、本学は単位化していないこともあり、参加人数が例年少数であるほか、インターンシップを通じた企業との交流が少ない状況である。単位化に伴い担当教員が必要であることは言うまでもないが、受入企業の選定や企業とのコミュニケーションのため、キャリアセンターに一定の役割が必要だと考えられる。従って、大学としてより良いインターンシップを実現するためにキャリアセンターがやるべきことを整理し、次年度に向け具体的な取り組みを検討したい。

(3) 企業との情報交換・情報収集

① 企業訪問等

本学卒業生が長野県内に就職する割合は、学部が約8割、短大が約9割といった状況である一方で、その本社所在地が首都圏にある企業が少なくない。そのため長野県内に本社を置く企業へ就職する余地がまだ十分あると言える。しかし最近では大手就職情報サイトを通じた企業情報が主流となっており、地元企業を知る機会がなかなか無いのが実情である。インターンシップは低学年時に業種や企業を知る機会でもあり、早い段階から地元企業を知る機会にもなり得る。企業訪問を通じてこうした目標を企業と大学が共有し、地元企業が地元学生の職業観を育成し、具体的な就職にも繋がる仕組みづくりに取り組みたい。

② 求人情報源の分析

2017年度から学生が提出する進路決定報告書に求人情報源を加えた。これを今後分析し、実

際に学生が利用した求人情報源を把握すると共に、それを企業と情報共有することによって、企業と学生双方にとってより有効な情報提供に繋げたい。

(4) 保護者への情報提供

学生が進路を決定するための要素として、保護者の意見は大きな影響力を持っている。一番身近な立場からの意見は貴重である反面、過去あるいは個人のイメージで業種や企業を判別する可能性もある。例えば特定の業種について労務管理が改善しているにもかかわらず、過去のイメージだけで親が就職を反対する場合がある。保護者就職説明会等を通じて、今後は大学の就職支援に関する情報提供だけでなく、各業種・企業の実情を踏まえた進路選択のあり方や正確な情報収集などについても伝えることができると考えている。

(5) 就職委員会の運営と議事録作成

現状では就職関係だけで総合経営学部、人間健康学部、松商短期大学部、全学就職委員会と4つの委員会が存在しており、その全てにキャリアセンター職員が出席し議事録作成を担っている。議事の内容は若干の審議事項のほかは、ほとんどが報告連絡事項となっている。また、最終的な審議は全学就職委員会が行うこととしながら、全学部でも審議を行っている状況である。そのため、各学部の就職委員会及び全学就職委員会について必要性や方法、会議回数等についてより効率的な方策を目指し、議事を慎重に進めるメリットを考慮しつつ省略可能なプロセスを検討していきたい。

(6) キャリア面談の企画・運営

キャリア面談は、①入学前(2~3月)、②大学2年生(5月)、③就職活動前の大学3年生・短大1年生(2月)、④就職活動中の大学4年生・短大2年生(8~9月)と、毎年ほぼ全学生を対象に実施されており、その運営はキャリアセンター職員のみが行っている。特に①②については、年度末・新年度の繁忙期と重なる点や、就職指導というよりも学生指導の比重が大きい点もあり、今後の課題としてキャリア面談のあり方や具体的な運営等を検討したい。

<執筆担当/キャリアセンター 課長 中村 高士>

4. 情報センター

1) 年度当初の予定 <P>

○情報センターの主な業務は、下記のとおりとなっている。

(1) 教育・研究の支援

パソコン教室7室の整備、コンピュータ関連科目の講義補助、学生向けオリエンテーションの実施。

(2) 情報機器の維持管理

ネットワークおよびサーバー類の維持管理、パソコン教室の整備、教職員パソコンの管理、貸し出しノートパソコンの管理。

(3) 資格取得支援管理

各種検定試験の実施に関する学生支援および公務員試験対策総合講座の運営(前期のみ)。

(4) その他

外部講習会の実施(シニア大学PC講座他)

○2017年度当初に計画された情報センターの新規事業は下記のとおりである

(1) 学術・研究の支援

- ① パソコン教室の整備 332PC 教室の機器入替、ソフトのバージョンアップ、ネットワーク配線の全面入替およびシンクライアント方式へのシステム変更
- ② 情報機器の拡充（貸し出しノートパソコンの新規購入）
- ③ Web メール環境の構築
- ④ Wi-Fi 環境の構築（2号館のアクセスポイント増設）

(2) 情報機器の維持管理

- ① サーバー機器のデータセンターへの移行（2015年度より継続事業）
- ② Webメールの変更（office365）
- ③ 学務システムソフト（メソフィア）のカスタマイズ

(3) 資格取得支援管理

- ① 情報系科目と連動した検定試験（Word・Excel 他）の運営
- ② 教務課と協同で公務員試験対策講座の実施（前期のみ）
- ③ 奨励金制度の運営

2) 計画の実施・現状説明 <D>

継続する事業および新規事業は、ほぼ計画のとおり実施された。当初の計画、予算執行において計画の変更のあったものについて以下に記述しておく。

- ① PC 教室の機材入替は、入札を実施した結果大幅に予算の削減ができた。
- ② Webメールの環境構築により、学生すべてが office365 を利用できるようになった。
- ③ Wi-Fi 環境の構築は、昨年度は講義に支障をきたす場面も多く当初の計画通りには進まなかったが、原因が特定できたため、計画通りに改善した。

3) 点検・評価の結果 <C>

(1) 学術・研究の支援

学術・研究の支援対策として、情報機器の拡充を目的に、PC 機器をフロアに設置し学生の利便性を図ってきたが、設置する台数および場所に限界があり、今後は、個人で持つノートPCの普及に向けた方策が必要と考えている。この問題には課題があり、講義で頻繁に使用すること、レポート等の課題が定期的に出され、個人でノートPCを持つ必要性を学生自身が感じる必要がある。

(2) 情報機器の維持管理

2015年度より実施しているサーバー機器等のデータセンターへの移行を引き続き行ったが、学生ファイルサーバーの不具合が発生したため、2018年3月に情報センター内に戻している。現在、情報センター内にあるサーバーの9割以上をデータセンターへ移設し、該当機器については移行が終了し、災害・セキュリティ等に対する脆弱性を改善することができた。ただ、当初予定していた委託経費をやや超過する金額となっており、ホスティング、ハウジングとも無駄なスペースをなくし、効率のよい運用となるよう改善が必要となっている。

(3) 資格取得支援

年々資格取得試験の受験者が増加している。特に、学部の学生の受験者数が増加しており、教

員が講義の中で推奨していることが起因となっている。社会に出てからの基本的な読み書きそろばん力（PC 技能）を高めることの重要性をさらに理解できる方策を計画したい。

新規に始める検定試験等については、推進する教員と教務課からの要望で始まるケースがほとんどで、そろそろ情報センターと資格取得センターの役割を分離する時期にきているのではないかと。

4) 次年度への改善・改革に向けた方策 <A>

2018 年度は、学内のパソコン環境を Windows10 へ移行する本格的な年になる。ますます予算が増加する可能性があるため、下記の新規事業に加え、情報センターそのものの検証をしたいと考えている。

(1) 学術研究・教育の支援

- ① Wi-Fi 環境の再構築（AP スポット化による保守費用の見直し）

(2) 情報機器の維持・管理

- ① 学務システムのカスタマイズ（Mathfia）
- ② 321 教室シンクライアント化および PC 入れ替え
- ③ 仮想デスクトップシステムの研究
- ④ ハンディターミナルによる情報機器全般の管理化推進
- ⑤ セキュリティ対策の強化

(3) 資格取得支援

- ① 各種検定試験・資格取得試験の支援
- ② 奨励金制度の運営

(4) 情報センターの再検証

- ① フリーソフト活用状況
- ② 通信情報機器の管理体制の研究
- ③ 予算の範囲を検証する

<執筆担当/情報センター 課長 田中 雅俊>

IV. 入試・広報室

[組織と委員会]

入試広報室は入試委員会と広報委員会の事務部門を担当した。前者は学生募集活動及び入試業務、後者は大学広報業務を行っている。

人員構成は入試広報室長を含む専任職員4名、派遣職員2名の6名体制で活動した。

[職務分担]

専任職員は学生募集活動全般にわたり高校訪問、説明会・相談会、オープンキャンパスの企画・運営及び授業公開、高校生の大学見学受け入れ、学生組織マツナビの管理・指導、入試業務全般を主体となって担当した。

派遣職員は各種募集活動に係わる営業補助業務（オープンキャンパス、高校訪問、説明会等における各種ツール等の準備や来場者管理、アンケート集計管理）、出前授業等の教員手配、高校生個人情報データ整理、入試事務処理等の学内業務を主に行った。また広報関連業務としてパンフレット（大学総合案内、松商短期大学部ナビゲーション等）や大学広報誌「蒼穹」のディレクション及び取材、編集業務も担当した。

[ここにおける点検・評価]

ここでは、1. 学生募集活動、2. 平成30年度入試、3. 大学広報の3項目に分けてPDCAサイクルに沿った点検・評価を行う。

1. 学生募集活動

1) 平成28年度学生募集活動を受けての課題 <P>

県内私立大学の公立化に伴い、昨年の入学試験はこれまでと大きく変化した。特に社会科学系の総合経営学部総合経営学科では過去にないほどの志願があり、特に一般入試、センター利用入試で不合格者を多く出さざるを得ない状況であった。他の学部・学科については大きな影響は見られなかったが、健康栄養学科については平成30年4月の長野県立大学開学もあり、本学にも影響が出ると予想される。そうしたことから平成30年度入学者については募集定員の変更を行う。

教育学部については初年度入学者が65名と定員に達しなかったため、今まで以上の積極的な学生募集活動を行う必要があり、一般入試、センター利用入試重視から推薦入試、AO入試について昨年以上に重要視して取り組む。

松商短期大学部においては長野県立大学の4年制化に伴い、県立短期大学が募集停止になるため短大希望者の取り込みを積極的に行う。

また、平成29年度の学生募集重点地域はあくまでも長野県を中心に、山梨県、新潟県などの入学実績校を中心とした地域を主とする。

2) 重点を置いた活動とその結果 <D・C>

(1) オープンキャンパス及び高校生対象の公開授業

今年度のオープンキャンパスは5月から9月まで計6回と、3月末の春のオープンキャンパス、4月の短大のオープンキャンパスを入れると8回実施し、10月には授業公開を実施した。

オープンキャンパス、授業公開日を含めた高校生の参加者は下記の通りである。

2,186名（昨年度2,139名）、前年比2%増

・総合経営学科 累計274名（昨年度269名）、前年比2%増

- ・観光ホスピタリティ学科 累計 161名（昨年度140名）、前年比15%増
- ・健康栄養学科 累計 262名（前年353名）、前年比26%減
- ・スポーツ健康学科 累計 291名（前年311名）、前年比6%減
- ・学校教育学科 累計124名（前年56名）、前年の2.2倍
- ・松商短期大学部 累計576名（前年478名）、前年比21%増

以上の通り、全体ではほぼ昨年同数であったが、総合経営学部総合経営学科の入試の難易度が上がったこともあり、同学部内の観光ホスピタリティ学科希望者が増えた。人間健康学部健康栄養学科は長野県立大学の影響と、好景気下で資格系が敬遠されるという傾向からか、かなり減少した。スポーツ健康学科も、他県でスポーツ系学部が増えた影響が出ているのか減少傾向にあった。教育学部については2年目を迎え昨年より認知度が上がったためか昨年の2.2倍の参加者があった。しかしまだまだベースとなる人数は少なく、オープンキャンパスも含め県内外の高校生への積極的なアプローチが必要である。

（2）進学説明会・相談会

一般会場（ホテル等）での業者主催の説明会は長野県内を中心に山梨県、新潟県、静岡県、石川県、富山県、群馬県、沖縄県等全35回（前年61回）参加し、600名（前年602名）の高校生と面談した。昨年より費用対効果を考え参加会場を絞りこんだが相談人数はほぼ同数で効率的であった。

（3）高校での説明会・模擬面接、志望理由書の書き方講座

進学情報業者主催、高等学校主催併せて143回の説明会（系統別、個別相談、模擬面接、進路講話等）に参加し、昨年とほぼ同数の延べ2,140名と面談した。高校別、学年別の進路講演会等についても直接的な募集が可能であり効率的かつ効果的であったため、依頼があれば積極的に行った。

（他大学の実施は少ない）ただし模擬面接については、本学希望生徒が多い場合のみに絞り込んで参加した。

（4）高校での出前授業、模擬講義（高等学校主催、業者主催）

長野県内を中心に高等学校で実施した出前授業、模擬授業は年間52回、高大連携による模擬講義は年間39回であった。系列校の松商学園高等学校での連携授業は物理的な問題と、高校生や保護者に合格が約束されるとの誤解を招くという問題から今年度は実施せず、学部希望、短大希望者への説明会を行った。その他にオープンキャンパスでの模擬講義、体験講座を計97回実施した。出前授業については高等学校から直接依頼を受けられるよう本学ホームページ上で案内を行った。

（5）高校生の大学見学受け入れ（高校主催、業者主催）、一般の大学見学

高校生を中心に、中学生や一般も含めた大学見学を積極的に受け入れた。高校生対象は年間32回、延べ1,135人の高校生と引率教員を受け入れ、大学・短期大学の概要、本学の教育の特長、進路講話（大学進学の意味・目的、将来の仕事等）を各回とも実施した。また学内施設見学もM@tsu.navi（マツナビ）が中心となり毎回行った。直接アプローチできる非常に有効な機会であり、オープンキャンパスへの動員にもつながっている。

（6）進路講演会（進路講演・キャリア講演）

高等学校を始め中学校からの依頼を受け、進路選択やキャリア教育についての講演も行った。出前講義、進路講演会についてもWeb（ホームページ）上に掲載し、貴重な機会として受けられ

るように工夫した。

(7) 高等学校教員対象学生募集説明会

6月に行った高等学校教員対象学生募集説明会は、長野会場（TOIGO）19校21名、松本会場（本学）24校28名の参加があった。特に長野会場は、県内他大学の公立化による高校生を取り巻く環境の変化等のためか、昨年に比べ参加校が11校増えた。2018年度募集人数の変更や、入学者選抜試験内容の変更点等について説明した。高校側からは、試験の難易度、指定校推薦枠の有無についての質問が多く、個別相談の件数も増加した。

(8) 入試相談会

10月14日（土）、11月23日（木）、平成30年1月20日（土）、21日（日）の4日間入試相談会を実施し、一般入試、大学入試センター試験利用についての個別相談を受けた。

(9) 高校訪問

長野県内高等学校を中心に定期的な高校訪問を実施した。

4月中旬から5月上旬にかけて2016年度入学者選抜試験の結果についての報告、卒業生の就職状況等について説明をした。また、定員変更（総合経営学科10名増、スポーツ健康学科20名増、健康栄養学科10名減）の案内と共に、特に総合経営学部総合経営学科の入試状況について不合格者の多かった高等学校には詳細に説明し、次年度は若干の定員増をする旨伝えた。さらに、募集定員管理の厳格化や県内他大学の公立化等による影響について説明し、総合経営学科については指定校推薦数を減らさざるを得ない状況の理解を求めた。教育学部については偏差値50以上のいわゆる進学校が対象となるため、教育学部系統への進学数や進学先を確認し、併せて他大学への進学状況について確認した。

6月から7月にかけて指定校推薦の依頼に長野県内、新潟県、山梨県を中心に高校訪問をした。

9月には指定校を含む推薦入試出願見込み数の把握のための高校訪問を実施した。

11月、12月は教育学部の教員と長野県内進学校を訪問し、教育学部在学生の様子や学部の特長について詳しく説明し、一般入試、センター利用入試での出願を促した。

高校訪問全般を通して、更に訪問回数を増やす必要がある。また、教育学部については長野県内に限らず、新潟県、山梨県へは積極的に訪問し案内する必要がある。また、スポーツ健康学科の定員増に伴い、指定強化部の学生募集も計画的に実施する必要がある。

(10) 学生募集用ツールの制作

① パンフレット・チラシ等

- ・2018年度版大学案内パンフレット・2018年度版短大ナビゲーション
- ・オープンキャンパス告知チラシ・ポスター
- ・オープンキャンパス告知・入試相談会告知DMはがき
- ・公開クリニック2017年版チラシ
- ・松商短大16フィールド体験ツアーチラシ
- ・春のオープンキャンパス2018告知チラシ
- ・教育学部学校教育学科案内パンフレット（在学生紹介）

② 過去問題集

- ・2018年度受験者用 松本大学・松本大学松商短期大学部過去問題集

(11) 媒体等による募集広報活動

業者企画の進学情報誌（全国版）や Web 媒体は前年同様極力減らした。

① 進学情報誌・その他雑誌

情報誌 19 件、Web 媒体 3 件を実施した。

② 電波媒体（TVCM）

- ・松本大学・松商短期大学部イメージ CM（長野放送／月・金・日）
- ・オープンキャンパス告知スポット CM（5 月～9 月県内民放 2 局、新潟県、山梨県各 1 局）
- ・入試日程告知 CM（12 月～2 月長野県内 2 局、新潟県、山梨県各 1 局）
- ・あづみ野 FM ラジオ CM（年間）

③ 新聞・雑誌を利用した広告

長野県内及び新潟県、山梨県の各地元の新聞媒体により、オープンキャンパスの告知及び一般入試に合わせて入試日程告知広告を実施した。2018 年 1 月 4 日には信濃毎日新聞朝刊で松本大学、松商短期大学部の見開き 2 ページ（30 段）のイメージ広告を掲載した。内容的にもインパクトがあり広告効果はあったものと思われる。（2 年連続で信濃毎日新聞社の話題広告賞を受賞）

- ・オープンキャンパス告知（長野県、新潟県、山梨県）
- ・一般入試・センター利用入試の告知（長野県、新潟県、山梨県）

④ Web 媒体

本学ホームページでの情報発信にも力を入れた。入試広報室がスムーズに学内の情報を入手できるように全学広報委員会で徹底し、タイムリーな情報発信に努めた。

また、時代に適した見やすい画面デザインや、特に高校生への情報発信には不可欠となったスマートフォン対応のため、年度内に公式サイトをリニューアルした。

入試情報サイトについても、オープンキャンパス情報、学生募集要項の掲載、さらに Web 出願に伴う対応を行った。

さらに、継続して行っている入試広報室独自の「LINE」（ライン）は、登録者が 3,200 人を超え、イベントや入試情報の発信を行い、オープンキャンパスへの来場促進などに役立てた。

(12) M@tsu.navi（マツナビ）の育成

学生募集の支援部隊としての学生自治組織（ボランティア）マツナビは、今年度も多くの新入生の登録があり、オープンキャンパス、高校生の大学見学、高校教員対象学生募集説明会や新入生の入学前教育などの際に大いに活躍した。受付マナー、学部・学科内容の説明、施設の説明などセクション毎にセミナーや研修会を行い、マナーと質の向上に努めた。学生は大学・短大、学部・学科問わずに登録しており、お互いに他学部についての勉強会をするなど積極的に取り組んでいる。また、高校生の憧れの的にもなっており、大学・短大の志望理由になるほどである。

3) 次年度への課題 <A>

今年度の広報活動や学生募集については昨年とはほぼ同じ活動をしてきたものの、オープンキャンパスへの参加数は頭打ちになっており、特に人間健康学部に関しては減少傾向である。これは教育学部開設年度であったため人間健康学部の PR が薄くなった可能性も考えられる。

教育学部についてはオープンキャンパスへの参加者数は増えたものの、まだまだ絶対数が多いわけではない。特に対象となる層（進学校）の高校生のオープンキャンパスへの参加率は低く、さらに高等学校での系統別相談会や説明会の実施もほとんど行われないため個別の説明による募

集活動は難しく、学生募集の方法を変更する必要がある。また、教育学部の教員と同行し、教育学部進学者の多い比較的偏差値の高い高等学校を訪問したが、国公立を第一希望にしており、本学を第一希望にする高校生はごくわずかであったため、募集活動範囲を拡大し県外の高等学校にも積極的なアプローチが必要である。

人間健康学部については、栄養系、スポーツ系いずれも競争の激しい分野であり、再度PR、募集活動を強化しなければならず、両系統とも資格、免許取得を目的としていることから合格率等の具体的な数値と就職状況等をアピールすることが重要である。

松商短大については、県立短大の募集停止に伴う一時的な志願者の増加はあるものの、進学先を短大か専門学校にするという高校生は多く、就職率の良さや就職先を最大限訴求し専門学校との差別化をはかる必要がある。

また、大学進学予備校へ通う高校生も多いことから、特に教育学部系には有効である大学進学予備校への積極的アプローチも必要と考える。

総合経営学部の志願者が増えているのは好景気によるものと、他大学の公立化により県外からの受験生が増えた為、県内進学希望者が本学に集中した等の結果であり、学部自体の人气が上がったと喜んではいけない。更にPR材料を作る必要がある。

2. 平成 30 年度入学試験

1) 実施計画 <P>

昨年の入学者選抜試験の結果をもとに 2018 年度学生募集定員と、試験内容の変更を行う。

■総合経営学部

総合経営学部では総合経営学科の 80 人から 90 人への募集定員の変更と、AO入試に模擬授業と確認テストを導入、公募推薦入試に文章理解(筆記試験)を導入する。総合経営学科の 10 名の定員増は、推薦前期(指定校・公募)を 10 名増やし 40 名とする。併せて観光ホスピタリティ学科も 30 名から 35 名とし、自己推薦入試は両学科とも若干名とする。2017 年度一般入試での志願者が増えたため募集定員を若干増やす。

■人間健康学部

人間健康学部は募集定員を健康栄養学科で 80 人から 70 人と減らし、スポーツ健康学科で 80 人から 100 人と 20 名増やす。健康栄養学科の 10 名減については、推薦前期(指定校・公募)と一般入試C日程、センター利用入試Ⅲ期で減らす。スポーツ健康学科の 20 名の増については推薦入試(指定校・公募含む)で 15 名増の 50 名とし、一般入試A日程、センター利用入試Ⅰ期で若干名増員とする。

<2018 年度入試区分別募集人数>

	入試区分	募集人員	
		総合経営	観光 ホスピタリティ
推薦	推薦前期(指定校・公募)	40	35
	推薦後期	5	5
	自己推薦	若干	若干
AO	AOⅠ期	5	5
	AOⅡ期	5	5
一般	一般A	18	15
	一般B	3	3
	一般C	2	2
センター	センター利用Ⅰ期	8	6
	センター利用Ⅱ期	2	2
	センター利用Ⅲ期	2	2
その他	社会人	若干	若干
	外国人留学生前期	若干	若干
	外国人留学生後期	若干	若干
	帰国性	若干	若干
	編入Ⅰ期	3	3
	編入Ⅱ期	2	2
募集人員		90	80

	入試区分	募集人員	
		健康栄養	スポーツ 健康
推薦	推薦前期(指定校・公募)	28	45
	推薦後期	3	5
AO	AO(健康栄養)	5	—
	AOⅠ期	—	10
	AOⅡ期	—	4
一般	一般A	18	17
	一般B	3	3
	一般C	若干	2
センター	センター利用Ⅰ期	10	10
	センター利用Ⅱ期	3	2
	センター利用Ⅲ期	若干	2
その他	社会人AO(健康栄養)	若干	—
	社会人AOⅠ期(スポーツ健康)	—	若干
	社会人AOⅡ期(スポーツ健康)	—	若干
	外国人留学生	若干	若干
	帰国性	若干	若干
	編入Ⅰ期	3	3
	編入Ⅱ期	2	2
募集人員		70	100

■教育学部

教育学部は各入試区分で募集人数の変更をし、推薦前期（指定校・公募）で14名だったものを10名増やして24名とし、一般入試で33名だったものを24名、センター利用入試で15名から1名減らし14名とする。

	入試区分	募集人員	
		学校教育	
推薦	推薦前期（指定校・公募）	24	
	推薦後期	3	
AO	AO	5	
一般	スカラシップ	7	
	一般A	20	
	一般B	2	
	一般C	2	
センター	センター利用スカラシップ	3	
	センター利用Ⅰ期	10	
	センター利用Ⅱ期	2	
	センター利用Ⅲ期	2	
その他	社会人AO	若干	
	外国人留学生	若干	
	帰国性	若干	
募集人員		80	

■松商短期大学部

松商短期大学では入試区分での募集定員の変更をし、商学科、経営情報学科とも推薦入試（指定校・公募・自己推薦）の募集人数を70名から80名とし、一般入試、センター入試の募集人数を減らす。また、AO入試Ⅰ期、Ⅱ期ともに留学支援型AO入試を新たに加える。

	入試区分	募集人員	
		商	経営情報
推薦	特待生推薦	若干	若干
	推薦前期（指定校・公募）	65	65
	推薦後期	10	10
	自己推薦	5	5
AO	AOⅠ期	5	5
	留学支援型AOⅠ期		
	AOⅡ期	5	5
	留学支援型AOⅡ期		
一般	一般A	5	5
	一般B	若干	若干
	一般C	若干	若干
センター	センター利用Ⅰ期	5	5
	センター利用Ⅱ期	若干	若干
	センター利用Ⅲ期	若干	若干
その他	社会人AOⅠ期	若干	若干
	社会人AOⅡ期	若干	若干
	外国人留学生前期	若干	若干
	外国人留学生後期	若干	若干
	帰国性	若干	若干
募集人員		100	100

2) 入学試験の結果 <D>

<入試結果>

■松本大学大学院

研究科	専攻	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	競争倍率	手続者数	入学者数	充足率
		A		B	C	B/C		D	D/A
健康科学	健康科学	6	3	3	2	1.5	2	2	33.3%
	合計	6	3	3	2	1.5	2	2	33.3%

※留学生を除く

■松本大学

1年次入学生

研究科	専攻	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	競争倍率	手続者数	入学者数	充足率
		A		B	C	B/C		D	D/A
総合経営	総合経営	80	372	361	96	3.76	82	82	102.5%
	観光ホスピタリティ	80	343	331	98	3.38	82	82	102.5%
	小計	160	715	692	194	3.57	164	164	102.5%
人間健康	健康栄養	80	208	203	109	1.86	75	75	93.8%
	スポーツ健康	80	251	243	122	1.99	100	100	125.0%
	小計	160	459	446	231	1.93	175	175	109.4%

教育学部	学校教育学科	80	278	267	144	1.85	65	65	81.3%
	小計	80	278	267	144	1.85	65	65	81.3%
合計		400	1,452	1,405	569	2.47	404	404	101.0%

※留学生を除く

■編・転入学生

研究科	専攻	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B/C	手続者数	入学者数 D	充足率 D/A
総合経営	総合経営	5	5	5	4	1.25	4	4	80.0%
	観光ホスピタリティ	5	2	2					
	小計	10	7	7	4	1.75	4	4	40.0%
人間健康	健康栄養	5	3	3		3.0	1	1	20.0%
	スポーツ健康	5							
	小計	10	3	3	1	3.0	1	1	10.0%
合計		20	10	10	5	2.0	5	5	25.0%

※留学生を除く

■松本大学松商短期大学部

研究科	専攻	入学定員 A	志願者数	受験者数 B	合格者数 C	競争率 B/C	手続者数	入学者数 D	充足率 D/A
短期大学部	商	100	140	139	112	1.24	106	106	106.0%
	経営情報	100	149	146	130	1.12	115	115	115.0%
	合計	200	289	285	242	1.18	221	221	110.5%

※留学生を除く

3) 入学試験の評価 <C>

総合経営学科の合格者に対する志願者は3.76倍、観光ホスピタリティ学科は3.38倍となり過去最高の倍率となった。これは①日本の景気好調により社会科学系の人気高騰、②長野県高校生の地元志向上昇、③教育学部開設による相乗効果、④長野大学の公立化により推薦入試枠が減り、県外からの志願者増で県内の高校生がはじき出されたために本学が一番の地元進学先とされた、などの要因があるが、①④が大きなものではないかと考えられる。具体的には、指定校推薦を含む推薦入試、A0入試での志願者が急増した上、文部科学省の定員超過率規制もあり合格者数が抑えられたことにより倍率が高まった。これにより、これまで多くの学生を受け入れていた高校からの受験者を二桁で不合格にする結果になった。

また、健康栄養学科においては定員超過率の問題等から補欠合格者を一定以上は出せなかったこともあり、結果として歩留りが悪く定員割れとなった。

教育学部に関しては合格者144人に対して手続者65名という結果となり、国公立大学や歴史や実績のある教育系大学との併願者が多かったとみられ、入学辞退が年度末の3月28日までであった。全国的に教育系志願者が減ったという大手予備校のデータもあるが、新設という事もありまだ認知度が低い点や、実績がないというのが大きな要因と考えられる。広報的にもまだ充分とは言えず、

対象となる進学校（比較的偏差値の高い高校）に積極的にアプローチする必要がある。

松商短大においてはのべ 289 人の志願者に対して合格者 221 名、競争率 1.18 倍という結果であった。志願者は昨年より増えており、松商短大を第一志望にしている高校生が若干増えている要因もあるが、競争率が高かった総合経営学部の不合格者に対して松商短大への受験を促したことも多少は影響したと考えられる。

総合的にみて学部の入試は様々な要因から、判断が非常に難しい入試となった。

3) 入学試験の課題 <A>

2017 年度入試は外部要因により難しい判断をせざるを得ず、過去にない厳しい入試となった。定員超過率規制の影響も大きかったが、長野大学の公立化による県内の高校生の動向が予想以上に影響を及ぼした。今後も諏訪東京理科大学の公立化、長野県立大学の開学等様々な環境の変化があり、これが及ぼす高校生の動向への影響は、長野県内高校の進路指導担当教員も困惑するほど読みにくい状況になることは必至である。こうした環境下で安定した志願者の確保と、合格者の歩留まりをどう予想するかが課題である。

特に教育学部に関しては先ず志願者増を図る必要があり、受験者を 350 人から 400 人程度まで増やしたい。また一般入試、センター利用での入学者を定員の 70%確保するのはかなり難しいと思われるため、推薦入試、A0 入試において 40%程度の入学者の確保が必要である。そのためにも、対象となる県内中堅高校から進学校へのアプローチを更に強化し、推薦入試、A0 入試で確実にベースとなる入学者を確保したい。

総合経営学部においては推薦入試、A0 入試での厳しめの判断が必要になるが絞り込みすぎると一般入試、センター利用での歩留まりが読みにくいため、判断が難しく入試になることが予想されるため、計画的な対応を講じる必要がある。

人間健康学部についても同様で、定員超過率規制の影響の中での難しい判断が予想されるため、早い段階から綿密な分析の元、取り組みたい。

また、各高校の特徴をとらえた上で、DP（ディプロマポリシー）を前面に打ち出し、それを支える CP（カリキュラムポリシー）や担当教員のプロフィールなども交えた広報により、焦点を絞った学生募集展開など、新たな視点からの取り組みも求められている。

3. 大学広報

全学広報委員会の下、主たる業務は大学広報誌「蒼穹」の編集及び発行、大学公式ホームページの企画・運用・管理、報道各社への様々な情報発信（プレスリリース）を行った。また、報道各社との懇談会の開催、新聞等の媒体に掲載された記事の収集と管理も行った。

1) 大学広報の活動 <P・D>

(1) 大学広報誌『蒼穹』の発行

今年度も年 4 回（6 月、9 月、12 月、3 月、Vol.127 から 130）発行した。Vol.130 の文部科学省「平成 29 年度私立大学研究ブランディング事業」選定を受けでの事業展開に至った背景と今後の展望のように、毎号特集を設けてタイムリーな特色ある取り組みを紹介した。その他にも主な出来事や、研究室紹介、アウトキャンパス・スタディ、地域づくり考房『ゆめ』、地域健康支援ステーションの活動などを紹介した。大学関係者、学生の保護者、各自治体への配布はもちろん、高校訪問時には持参し進路指導室に配布した。

(2) 大学公式サイト（ホームページ）と運用

松本大学公式サイトについて約4年ぶりとなる完全リニューアルを実施した。最重要課題はモバイル環境の対応で、年間サイト閲覧者の約6割以上がスマートフォンやタブレットとなっている状況を踏まえ、ユーザーニーズを満たすとともに、SEO（検索エンジン最適化）のモバイルファースト施策にも対応した。また同時に、常時SSLを導入してセキュアなサイト運営を実現した。

さらに、様々な部署・事業におけるポータルサイトやWEBシステムの改修支援や運用相談などにも取り組み、急変していくインターネットサービスに、全学的な対応ができるよう管理を行った。

2) 結果と評価・今後の課題 <C・A>

規模拡大とともに学内の様々な活動も増え、プレスリリース（情報発信）も年々増えつつあるが今後は戦略的に媒体を効率よく利用する必要がある。報道各社とのコンタクトも幅広くする必要があり、全国媒体へのプレスリリースの必要性を感じる。

- (1) 大学広報誌『蒼穹』については、今迄通りの配布先はもちろんであるが、地域の大学として認知され選ばれる大学となるためには地域住民や高校生の保護者にも配布していく必要がある。ホームページ上でも閲覧は可能であるが何らかの方法で配布先を広げたい。
- (2) 大学公式サイト（ホームページ）はコンテンツも年々充実してきているが、グローバル時代に向けた英文サイトの立ち上げも早急に実施したい。

<執筆担当/入試広報室長 中村 文重>

第4部 文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の自己点検・評価

2017（平成29）年11月7日、文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に、本学が申請していた事業プランが選定され、今後5年間にわたって助成を受けることになった。前年度から始まった本事業は、各大学が将来ビジョンを明確にしつつ、研究をベースに事業を実施・推進し、「他に抜きん出た」ブランド大学に構築していくよう支援するものである。本学が申請した「地域の経済・社会、雇用、文化の発展に寄与する」ことを目指すタイプAには、123大学の応募があり33大学が（26.8%）、また、人文・社会系に限れば80大学から18大学が選定（22.5%）された。

本学の事業プランは、地元自治体・企業、医療機関などと連携して、健康づくりを企業で働く現役世代にまで拡げ、企業と従業員の健康リスクを軽減し、医療費や健康保険料の抑制・削減を図ろうというものである。また、関連するヘルスツーリズムを企画・実施して宿泊施設利用者を増加させることや、健康づくりに関連するソフトや機器類などの開発と、それらを商品とする事業化や起業なども視野に入れて取り組みを進め、総体として「元気な地域づくり」に繋がり、推進することを目指す。

以上、本学研究ブランディング事業の選定結果並びに目的を確認した上で、2017（平成29）年度の取り組みについて以下に述べる。

（1）年度当初の計画・目標 <P>

今年度の計画・目標は、提出した「平成29年度私立大学研究ブランディング事業計画書」に記載されているように、①エア・ウォーター(株)の従業員に対する各種測定と運動指導の実施及び医療費データの整理、②(株)池の平ホテル&リゾートの担当者と活動量計の個人設定及び指導計画の確認、③(株)池ノ平ホテル&リゾートの宿泊者に対する運動指導に関する聞き取り調査と結果整理、④松本市「健康経営研究会」加入企業の中から選定した協力企業の経営者と従業員に対する説明と理解、⑤全参加企業のメンタル面の不調による休退職者数の把握と整理、⑥松本市立病院の人間ドック担当者及び宿泊施設の梓水苑の責任者に対する本事業の説明と理解及び取組に関する合意、⑦松本地域のヘルスツーリズムに関する実態調査の企画・実施、⑧主として企業経営者を対象としたエア・ウォーター(株)と(株)池の平ホテル&リゾートの宿泊を伴う運動指導の体験ツアーの企画・実施、⑨次年度に実施する健康づくりと健康関連産業に関する公開講座の企画、⑩上記公開講座の告知を中心に、本事業に関する広報に適切に取り組む、⑪本事業に関するテレビ番組ないしはプロモーションビデオの収録・放映、など11項目について取り組み実績を上げていくことである。

（2）実施状況 <D>

当事業の年度当初の計画・目標は上記のとおりであるが、選定を受けたのが11月7日であったため、まずは、同月22日に開催された「平成29(2017)年度 第7回全学協議会」において、本学の申請案件が選定されたことを報告するとともに、推進・実施体制及び平成29年度内の取組について案を示し、審議、了承を得た。その後、12月7日と平成30年3月8日に、教員及び事務職員より選定した推進委員11名、協力員5人からなる「松本大学 研究ブランディング事業推進・実施委員会」を開催し、主として下記のような取組を進め成果とすることができた。

- ①選定前から試行的に行っていた、エア・ウォーター(株)の従業員に対する各種測定と運動指導の実 施及び医療費データの整理ができ、対象者が15名と少なくはあるものの、医療費の削減という成果を確認した。
- ②(株)池の平ホテル&リゾートの宿泊者に対する運動指導の取組態勢を整えた。
- ③次年度以降の本格実施に向けた人的補充・整備及び推進室の設置などに取り組み、その全てを整えた。
- ④事業計画に記載した各種測定機器類について、業者と具体的な選定・調整作業を進め、予定どおり購入することができたことにより、機器類の面でも実施体制を整えた。
- ⑤研究ブランディング事業キックオフ・シンポジウムの開催について、期日（平成30年5月24日（木）午後3時～）、内容（基調講演、パネルディスカッション等）などを決定した。
- ⑥本事業の核となる運動指導・栄養指導・メンタルケアの各分野の担当者間において、本事業について共通理解を図り、それぞれの任務と役割分担を明確にした。

（3）活動に対する点検・評価 <C>

- ①上述のように、事業推進・実施委員会を立ち上げ、次年度からの本格実施に向けて機器類や人的補充など実施体制を短期間に整備できたことは高く評価できる。
- ②研究部門本事業の核となる健康づくりに関する運動指導・栄養指導・メンタルケアの各分野の担当者間において、それぞれの任務と役割分担を明確にでき、次年度以降の研究をスムーズに行う下地ができた。しかしながら、当初予定していたヘルスツーリズムの実態調査については手が付けられず、次年度の課題となった。
- ③ブランディング部門本事業に対する全学的な理解、共有意識は必ずしも十分とはいえない状況にある。
- ④その他、申請書に記載したプロモーションビデオの作成については、推進・実施委員会で検討した結果、実際の塩津場面を収録して作成した方がよいだらうとの意見が大半を占めたため、次年度以降の課題とした。

（4）次年度に向けて <A>

次年度に向けては、上述した今年度未達成にであった点を点検し実施に移すとともに、「平成29年度私立大学研究ブランディング事業計画書」に記載した当初計画の遂行に注力する。その項目は、以下のとおりである。

- ①エア・ウォーター(株)・(株)池の平ホテル&リゾート両社の従業員に対する測定と運動指導の継続及び医療費データの整理
- ②新たに参加する企業従業員に対する体力測定と運動指導の実施及び活動量計データの整理
- ③松本市立病院の人間ドック利用者の中の運動の必要性を指摘された受診者を対象とする宿泊施設の梓水苑を利用した宿泊を伴う健康指導の実施
- ④③の結果を踏まえた他の医療機関及び松本市郊外浅間温泉の宿泊施設を対象とする本事業への参加要請の企画と実施
- ⑤応募した医療機関と宿泊施設に対する本事業の内容説明

- ⑥今次の取組を内容とするヘルスツーリズムの可能性に関する検討・研究
- ⑦本事業に参加した企業における「健康経営」の効果分析
- ⑧健康づくりと健康関連産業に関する公開講座の企画と実施
- ⑨本年度が事業の中間年であることを念頭に、研究・事業の実施状況及び、事業に関する周知と長野県内における認知度などについての情報収集と分析

<執筆担当/松本大学研究ブランディング事業推進委員会 委員長 等々力 賢治>

第5部 資料

I. 平成29年度委員会構成

平成29年度委員会構成

委員会・センター名称	目的等	委員 責任者	研究科	総合経営	人間健康	教育	短大学部	事務担当担当者など ()は兼任等職員	
								担当	兼任
理事会		Z 片倉						柴田	
常務理事会	0 常務理事会メンバー、各学部長	Z 片倉						柴田	
大学委員会	0 理事から召集 各：人事案件	Z 小島						柴田	
理事・大学連絡協議会	1 諮問：将来計画(定期会議)；人事案件	A 住吉	山田	増尾	等々力	川島一	糸井	柴田	
全学運営会議	2 諮問：規程整備/教職員評価関係	A 住吉						柴田	
衛生委員会	3 全学施設決定機関	B 等々力						柴田	
自己点検・評価委員会	4 3報告書発行	D 柴田	江原・進藤	安藤	安藤	安藤	安藤	柴田	
IR推進部会	6	A	山田	増尾	山田・山添・浜崎	山田・山添	山田・山添	柴田	
コンプライアンス推進部会	7	A						柴田	
認証評価準備部会	8	B+						柴田	
人権委員会	9	C	福島智	田中(浩)	福島智・大木	小島	伊東・坂塚	白澤・赤羽(雄)・赤羽(研)・白澤・伊藤・松島	
ハラスメント防止部会	10	C						白澤・赤羽(雄)・赤羽(研)・白澤・伊藤・松島	
個人情報保護部会	11	C						白澤・赤羽(雄)・赤羽(研)・白澤・伊藤・松島	
健康安全管理センター運営委員会	12 学生の健康管理、教職員も同様	D 江原	江原・進藤	安藤	江原・進藤	羽田	中山	藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
施設管理センター運営委員会	13 施設管理、施設貸出、パス・車管理	E 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
危機管理委員会	14 二つの部会運営と危機管理会議について対応	E 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
国際化推進委員会	15 省エネ・学内環境保全対応	E* 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
防災防犯部会	16 学内及び地域の防災・防犯	F 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
入試委員会	17 学生募集、入試運営	F 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
入試問題検討部会	18 試験問題の検討・策定	F 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
入試委員会	19 A.O入試の運営	F 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
広報委員会	20 広報戦略策定、パンフレット、書写発行等	F 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
高大連携推進委員会	21 高大連携、高大連携の推進	F* 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
センター入試委員会	22 高次研究、高大連携の推進	X 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
研究推進部会	23 外部研究資金獲得推進、助成費査定など	G 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
研究推進部会	24 外部研究資金獲得推進、助成費査定など	G 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
研究推進部会	25 3誌の査読、編集、発行	G 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
松本大学出版委員会	26 出版計画の策定、選定など	G 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
地域総合研究センター運営部会	27 教職員の地域連携窓口	G* 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
研究推進委員会	28 研究推進一般	H 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
動物実験部会	29	H 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
薄子子編換実験安全部会	30	H 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
教務委員会	31 カリ・履修・試験・成績管理等	I 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
共通教務センター運営部会	32 教務教育のCP上での位置付け、理念	I 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
キャリア教育センター運営部会	33 教務教育のCP上での位置付け、理念	I 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
資格取得支援センター運営部会	34 資格取得支援センター運営部会	I 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
基礎学力センター運営部会	35 基礎学力センター運営部会	I 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
教育支援推進センター運営部会	36 二つの部会を通して大学教育の改善を推進	J 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
教育企画推進部会	37 学部単位でのCP改善(個人対応も)	J 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
F・D・SD運営部会	38 F・D・SD運営部会	J 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
全学職働センター運営委員会	39 課業、4分野の部会	K 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
教員採用試験対策部会	40 教員採用試験対策部会	K 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
図書館運営委員会	41 図書館の管理運営、学生を主体に読書の奨励等	L 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
情報センター運営委員会	42 情報センターの管理運営、ソフトの導入等	M 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
国際交流センター運営委員会	43 海外研修、留学学生、国際交流促進等	N 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
地域健康支援センター運営委員会	44 運動と食を通じた地域連携の窓口	O* 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
地域づくり委員会	45 全学部学生の地域連携の窓口	P* 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
学生生活委員会	46 学生生活支援、奨学金、アルバイトを会社	Q 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
就職委員会	47 短大部に設置の部会(県短大協会対応)	Q 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
就職委員会	48 学生の就職活動支援、企業開拓	R 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
高大連携推進委員会	49 高大連携推進委員会	S 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
地域づくり委員会	44 地域健康支援センター運営委員会	S 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
地域づくり委員会	45 地域健康支援センター運営委員会	S 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
地域健康支援センター運営委員会	46 地域健康支援センター運営委員会	S 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
地域健康支援センター運営委員会	47 地域健康支援センター運営委員会	S 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
防災防犯部会	16 防災防犯部会	S 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	
再編協議定対立委員会	51 再編協議定対立委員会	T 柴田						藤本・白澤・岡・(鈴木(佳))・(小田切)	

○各学部が必要に応じて独自に開催する委員会や部会は、前に○学部を付ける。
○氏名の下線は各学部の主任を示す。

○全学委員会には、原則各学部から2名(各学科から1名)・担当学部長・担当事務職員
○各学部の事情で必要に応じて委員を補充することがある。
○*印の委員会等は機能的には表の部門もあるが、主に地域連携推進部会に属することになる。

Ⅱ. アンケート調査結果(平成29年度)

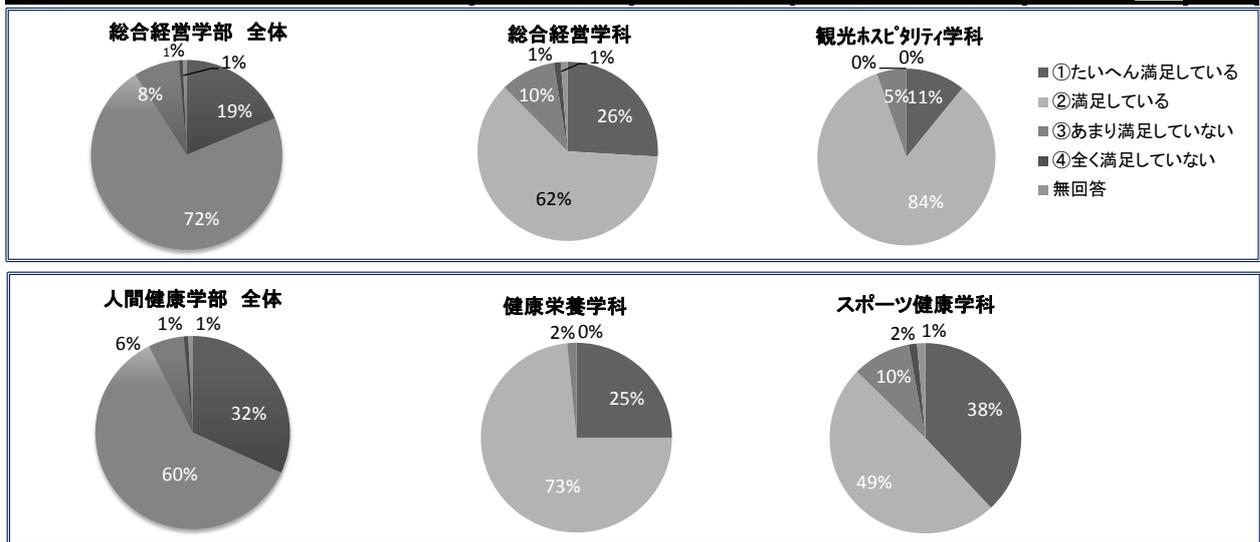
1.松本大学卒業予定者アンケート

質問1. 所属について

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
卒業予定者数	64	19	83	47	30	77	160	11	53	64	50	46	96	160
回収数	62	19	81	46	28	74	155	11	53	64	47	44	91	155
回収率	97%	100%	98%	98%	93%	96%	97%	100%	100%	100%	94%	96%	95%	97%

質問2. あなたは所属学部の教育に満足していますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	15	6	21	6	2	8	29	1	15	16	16	11	27	43
②満足している	39	11	50	37	25	62	112	10	37	47	24	11	35	82
③あまり満足していない	6	2	8	3	1	4	12	0	1	1	6	1	7	8
④全く満足していない	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1
無回答	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由
- 知識の活用が出来る場を用意してもらっているから
 - 経営をはじめとして、様々な分野について学ぶことができたから
 - 総合的に様々な分野を学べて良かった
 - 将来のために必要な知識を培うとともに、大事な仲間や先生方と交流を深めることができた
 - 優秀な教員が多かった
 - 様々な分野を学ぶ事ができたから
 - 学びたい事が多かった
 - 楽しかった
 - とても充実した講義が多かった
 - 先生と密接に関わる
 - 経営について幅広く学べた
 - 学びたい事や社会人になるにあたって必要なことを学べた
- ②の理由
- 学びたい事も学べたし、理解が深まったので 他4名
 - 地域の問題に対して、経済的な面などを学べたから
 - 満足している
 - 十分に自分の糧となる様なシステムであった
 - 生徒一人ひとりの意識には差異を感じるが、全生徒に分かりやすく講義をして下さったから
 - 経営についての授業が多かったから
 - 経済や販売などの知識を高めることができたから
 - 特に不満はない。就職もできたので感謝している
 - 地域に深く関わる事ができ、県内での就職がしやすくなる
 - 経営のことが学べた
 - 自分の興味のある講義があったから
 - 特に満足しない部分が無かった
 - 働く上で必要な知識が学べた
 - 地域とリンクした教育が良かった
 - 多くの資格が取得できる
 - 学びたい事を学ぶ事ができた
 - パソコン関係など総合的に学べた
 - 力を入れてやっているから
 - この学校で幅広いことを学ぶ事ができた。でも深く学ぶという学びがもう少しあった
 - 学びたい分野などを選択して受け付けてよかった
 - 経営について様々な分野を学ぶ事ができたから
 - 地域についての講義など経済、経営以外も学べる機会が多い
 - 大体良かった
 - 専門的な知識等を学ぶ事ができるから
 - 総合的に様々な事を学ぶことができたのでよかった
 - 先生方がとてもフレンドリーで、分からないところやアドバイスを聞きやすかった
 - 学びたい経営、心理学、労働について学べたから
 - 文系の部類に入ると思うが、数学を扱うこともあり、幅広く学ぶことができたから
 - 幅広い分野を学ぶことができたため
 - 教養、専門科目と、今後に役立つことを学べた
 - 経営のことだけでなく、様々な分野の勉強ができた

- ③の理由 ③の理由 もっと深く学びたかった。知識があまり付かなかった
不要な必修科目
あまり経営に関する講義がなかったので
作業のような勉強だった

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 ①の理由 自分が成長したと思えた
色々な分野を学ぶ事ができた
地域について学んだだけではなく、ゼミ活動や講義内で会うとキャンパス等で地域の活動を通して、地域についてより学びを深められたと感じているから
経営についてなど、あまり興味はなかったが、学んでみると活かせる場があると感じられ、良い勉強になった
- ②の理由 ②の理由 首都圏などと比較しても人とより深く関わることができ、卒業後も活かせる学びがあると思うから
様々な資格が取れ、先生もわからないことがあると聞いて答えてくれる。学生と向き合う先生が多いので良いと思った
基礎的なことから専門的なことまで幅広く学習することができた
アウトキャンパスが多くて楽しめた
山根先生がいたから
地域の事や観光のことなど、より多くの事を学べたから
地域に密着していたから
地域との関わりについて細かい事まで知れた
学校以外でも充実した生活を送れた
学びたいこと、興味のあることをしっかりと体験を通して学ぶ事ができたため
総経の先生方がみんな良い先生ばかりであった
めずらしい講義が多いから
良くも悪くも自分次第
社会福祉について学べた。心理についても学びたかった
自分のレベルに合っていた
先生方がとてもよい方々で楽しい4年間を過ごすことができた
友に大変恵まれた
自分のしたい専門分野の勉強ができるから
学部としての理念はしっかりとおさえていると思うので良いと思う
充実していたから
資格の勉強ができてよいから。もう少し観光分野を増やして欲しい
色々な事を知ることができた 他1名
比較的分かりやすかった
社会で働く知識などを学べた
学科にとらわれず、様々な業界の勉強ができたため。英語授業が豊富で良い
自分のやりたいことができる学部だった
地域の事から観光の勉強まで幅広く学ぶ事ができるので、これからの生活の中で活かせることを学べたと思うから 他1名
学業面で大きな変化があったわけではないが、人間としてのスキルは入学前より上がったと感じているため
充実したから
良い先生に恵まれた
幅広く学べることができ、進路が明確でなくても学習できるため
地域に出る機会等、実践を経験できる場が多かった

健康栄養学科

- ①の理由 ①の理由 忙しいが、学生としては充実した4年間だった
実習等、実践的な講義が充実していた
講義で学んだことを、地域活動などを通して、実践的に習得することができたから
大変なことの方が多かったけれど、充実した4年間でした。座学だけでなく、実習や実験も含め、営業学を学べて良かった
やりたい勉強ができたため
4年間内容の濃い学校生活を送れた
- ②の理由 ②の理由 先生方は丁寧教えて下さり、一つ一つ技術、知識を身につけてくれたのかなと感じている。もっと学外へ出る機会があると嬉しい。
実践的な知識が身につけられる時間がほしい
教員の方が親切
先生方の教育がとても熱心でよかった
先生方は分かるまで丁寧に教えてくれた
健康を、栄養・運動面から考えることができたから
多方面に通じる知識を得られたと思うため
専門的なことをたくさん学べた
- ③の理由 ③の理由 1年から3年の時は必修科目があり、ずっと学びたかった講義を受講できず、4年の時のみ受講が出来そうだったので、人数制限で受講できなかった。
難しいことかもしれないが、4年生を優先して授業を取れるようになったらと思う

スポーツ健康学科

①の理由 多くの事を学ぶことができ、実習などもあるから

運動指導を通じて、人の役に立ちたいと思った

4年間通して充実していたから 他1名

授業や実習がとても充実しているから

設備がいい

やりたいことができた 他2名

専門の知識を習得できたから

スポーツと栄養の両面から、健康について学ぶ事ができた 他1名

学びたいことを学ぶことができた 他4名

将来やりたいことが見つかった

将来に役立つ知識を深めることができた

机上のみでなく、地域に出て現場で必要となるスキルを身につけることができ、責任感も生まれた

人との関わり方を学べた

ちゃんとやればちゃんと身に付く

楽しいから 他3名

1対1でも教えてくれる

先生方との距離が近くて学びやすいから 他1名

先生達が良い人

目指す職業に向けての勉強ができた

学ぶことをこんなに楽しいと思える分野に初めて出会いました。これからも勉強することをやめません！

②の理由 スポーツや運動に対して、新たな関わり方、見方ができた

専門的な知識を学ぶことができたため

教授の教え方がうまい

他の学部では学べないことを学ぶことができた

トレーニングに必要な栄養面や機能科学面の知識を身につけることができた

トレーニング施設が充実していた

専門の授業がたくさんあり、すごくよい

最後まで面倒見てもらえた

学びたいことをしっかり学べた 他3名

運動や健康に関するヒントを十二分学んだと思うから

取りたい資格の授業がたくさんある

実践力が身につけられる

色々な授業がつながっていて、理解が深まる

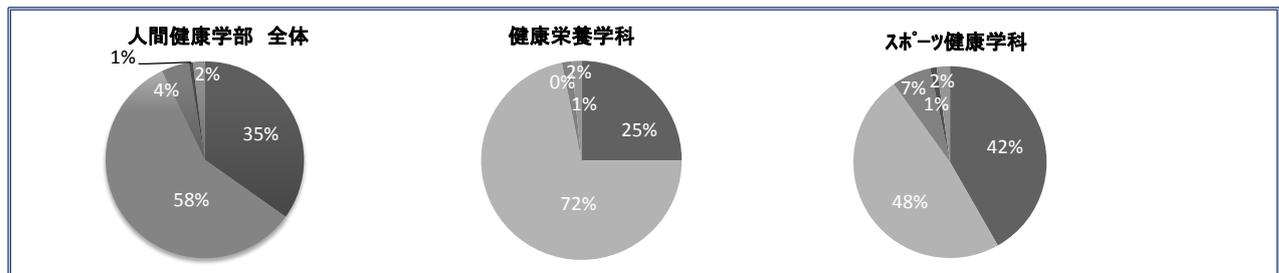
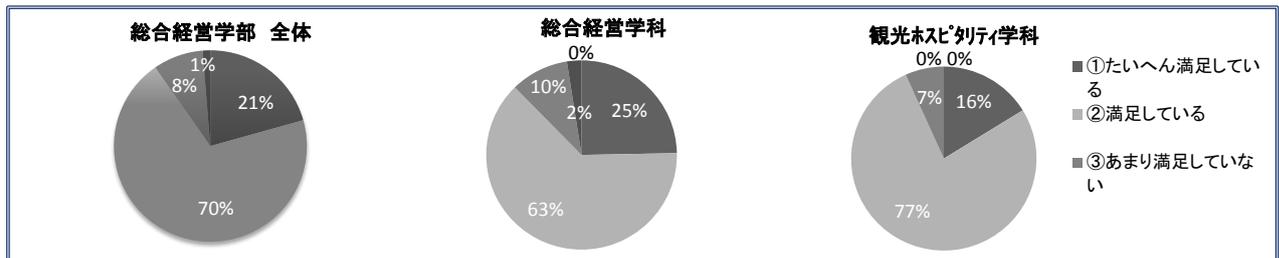
③の理由 学部といっても栄養との関わりはほぼなかった

健康に関する授業を増やしてほしい

よく分からないが満足できていないとおもった

質問3. あなたは自分が所属した学科の教育に満足していますか。

	総合経営学部						人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	16	4	20	9	3	12	1	15	16	16	22	38	54
②満足している	39	12	51	34	23	57	10	36	46	24	20	44	90
③あまり満足していない	5	3	8	3	2	5	0	1	1	5	1	6	7
④全く満足していない	2	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
無回答	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	2	3



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 社会に出て役立つ知識を習得できるから
 資格に対してのサポートが手厚く感じられたから
 自分がやりたいゼミ活動が出来てよかった
 自分の就きたいと思う仕事に役立つ知識を身につけることができた
 学びやすかった
 自分の興味のある事を学ぶことができた
 経営について知ることができた
 学びたいことができた
 勉強になる講義ばかりであったから
 カリキュラムが良かった
 経営について深く学べた
- ②の理由 経営だけでなく、マーケティングや社会常識も学べた
 経営について学べた 他1名
 満足している
 自分の為になったと感じている
 恩師とも呼べる教授に出会えたから
 経営についての授業が多くあるから
 自分の学びに対して、深めることができたから
 就職活動につなげられたため
 幅広い智識を教わったと思う
 総合経営ということで、マーケティングなど専門的なことから、就職した後の身の振り方などを幅広く学ぶ事ができた
 1年生から4年生までの間を過ごしてきちんと社会にでる知識を身につけられたから
 講義に満足している
 専門知識がより詳しく学べた
 資格の勉強ができた 他1名
 地域とリンクした教育が良かった
 経営、流通に関することを学べた
 この学校では幅広い事を学ぶことができた。でも深く深くという学びがもう少しあった
 経営について深く学ぶことができた
 しっかり基礎を学べた
 学びたい事を学べた
 大体良かった
 地域に関する知識を沢山学べたから
 先生がみんな優しくかった
 経営について学べることができた
 自分が学びたいと選んだことはきちんとできたと思う
 学びたかった経営、心理学、労働について学べたから
 経営学の他にも教育、心理、観光など広く学ぶ事ができたから。社会に出せる人材育成がしっかりとしているから。大学の特色である地域の学びがあるから
 専門的なことから心理学など、広く学ぶ事ができた
- ③の理由 深く学ぶ事ができた
 基礎だけでなく、発展した授業を受けたかった
 観光ホスピタリティ学科に比べ、教員の学生に対してのサポートが弱く感じた。入学する学部を間違えたと後悔している
 不要な必修科目
 もう少し難しい内容の勉強がしたかった

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 地域づくりについては良く思う
観光分野だけでなく、福祉関係や地域社会についてより深く学ぶことができた
学びたいこと、興味があることを体験を通して学ぶ事ができる
地域について学ぶ事ができた
福祉、色々な活動に参加できた
今後に繋がる勉強ができた
ホスピタリティなどが詳しく学べた
座学だけでなく、アウトキャンパス、また講義内での討論等を通じて積極的に学ぶ事ができたから
学びたかった資格の勉強ができ、それ以外でも視野を広くして学べる科目があつてよかった
- ②の理由 学科の教育についてはもちろん、4年間通して入学時よりも人として成長できたから
地域に焦点をあてた講義が多く、地域の魅力や勉強してみても始めてわかった課題点も見つかった。社会人になっても役立つ講義ばかりであつた
アウトキャンパスが多くて楽しめた
山根先生の教えを受けられたから
体験学習も多く、実際見て学べる事が多かつたから
指導方法がよかった
観光の様々な分野からの視点を見ることができた
授業の内容がおもしろいモノが多かつた
特に不自由がないから
旅行実務の資格を取得できてよかった
自分のレベルに合つていた
先生がとてもよかった 他1名
アウトキャンパスなど外に出る講義が多い
学科本来のことを学べたのでよかった
講義がしっかりしていたから
資格の勉強ができて良いから。もう少し観光分野を増やしてほしい
色々なことを知ることができた
様々な講義があつてよかった
科目に不満はない
松本だけでなく、他の地域の現状等を知ることができ、社会人になってからの活動として役立つ情報が多かつた
資格にそつた授業が充実してつてよかった
観光の勉強をしたいと思つて入学したけれど、幅広く学ぶ事ができたので、就職にも役立つた
実際に現地に向かう内容が多く、肌で触れる事ができた
充実したから
観光に興味があつたため、観光学について学べたり、学芸員の資格に関する学びも充実していたのでよかった
必要な資格が取得できた
もう少し難易度が高い内容でもよかった。様々な科目を学べたのがよかった
- ③の理由 学芸員資格の講義にもっと美術の科目があればよかった
自分から履修しないと最低限の知識しか分らない
観光ホスピタリティ学科として何か得たもの、自分の身になつたものがあるか考えると、正直人間関係などの具体性がないものになってしまう。
(資格をもっと取つておけばよかった)

健康栄養学科

- ①の理由 先生方は丁寧な教えて下さり、一つ一つ技術、知識を身につけてくれたのかなと感じている。もっと学外へ出る機会があると嬉しい。
実践的な知識が身につけられる時間がほしい
学内、学外、実習ともに大変なためになるものであつたため
専門知識をしっかりと学ぶ事ができたから
資格取得に向けて多くの知識を身につける事ができた
- ②の理由 学生へのフォローがしっかりしている。良い意味で教員が身近に感じられる
資格をたくさん取れたから
講義がきちんと受けやすい環境だつた
先生方の教育がとても熱心でよかった
先生方は優しく、丁寧に教えてくれるため
実習制度などの先生方のサポートが手厚かつた

スポーツ健康学科

- ①の理由 自分がやりたいことが見つかった
たくさんの仲間と一緒に学べたから
授業や実習がとても充実しているから
学びたい事を学べた 他3名
設備がいい
専門の知識を得る事ができたから 他5名
学習していく上で、自分のやりたいことや、やりがいが見つかった。また人としてとても成長できた
スポーツについてより深く学ぶことができたから 他1名
ゼミ担当の先生の手厚いサポート 他1名
机上のみでなく、地域に出て現場で必要となるスキルを身につけることができ、責任感も生まれた
先生との距離が近い。みんな仲が良い
望んだ先生のゼミナールに入ることが出来て、すごく充実した学生生活を送れました
普段生活していく中で活用できたりすることを多く学べました
今後も役に立つ知識を身につけられたから 他1名
楽しい、成長できる 他2名
授業の中で無駄と感じたものはなかつたから
体を動かしたり、学生同士のふれあいが多から楽しい
分からなかつたら教えてくれる
良い教員が多く、なんでも相談しやすい
- ②の理由 生涯を通して役立てる知識を身につけることができた
多くのことを学べるが、授業でもっと多く実習に行きたい
学ぶ環境がよかった
教員の教え方がうまい
とても良い先生が揃つている
就活で幅広い業種で面接した時、自分の学んだことを堂々と説明することができたから
様々な体験があり、すごく充実した
学びたい事をしっかりと学べた
より詳しくスポーツについて学べた
スポーツをしている人がより多くスポーツを通して交流を深めることを学べた
- ③の理由 学費に見合った講義が少なかつた
もっと実技を増やしてほしい

質問4. あなたが松本大学に入学した動機は何ですか。(いくつでも)

	総合経営学部						人間健康学部						合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①『オーダーメイド教育』という理念に共感した	3	1	4	5	1	6	10	1	1	2	5	1	6	8
②『地域に貢献する人づくり』という教育目標に魅力を感じた	20	7	27	10	6	16	43	1	13	14	11	12	23	37
③アウトキャンパススタディ・サポーターシステム等の新しい教育方法に惹かれた	8	2	10	5	3	8	18	0	8	8	4	2	6	6
④地域に関する科目が充実している	13	4	17	8	3	11	28	0	2	2	7	5	12	14
⑤コンピュータなど施設・設備が充実している	4	1	5	1	1	2	7	0	1	1	2	0	2	3
⑥良い先生がいる	5	2	7	9	2	11	18	0	4	4	7	7	14	18
⑦友達が入学する	3	0	3	5	0	5	8	0	0	0	1	0	1	1
⑧学生と教職員の距離が近い	6	4	10	5	4	9	19	3	9	12	11	10	21	33
⑨自宅から通学できる	27	8	35	19	14	33	68	2	11	13	13	16	29	42
⑩親、先生などから勧められた	8	4	12	14	14	28	40	1	15	16	15	17	32	48
⑪まだ社会に出たくない	9	3	12	7	3	10	22	2	4	6	2	1	3	9
⑫その他	8	3	11	9	10	19	30	3	17	20	12	13	25	45
無回答	0	0	0	1	0	1	1	0	3	3	0	0	0	3

【その他】

総合経営学科

県内就職に有利なため
 県外を止められたから
 心理について勉強ができるから
 学校推薦があったから
 県内だったから
 生活マネジメントなどの一般常識が学べると聞いたから

観光ホスピタリティ学科

県内就職に強いから
 部活動 他3名
 県内であった 他1名
 観光、福祉、地域の勉強ができたため
 資格(学芸員)
 すべり止めで入学した
 取りたい資格があったから 他5名
 県内就職に強いこと
 福祉の勉強がしたかった
 留学できるから
 消去法

健康栄養学科

資格が取れるから 他3名
 管理栄養士の資格を取るため(将来、県内での就職のため)
 オープンキャンパスの雰囲気
 栄養学科があったから
 県内唯一の管理栄養士育成校だったから 他5名
 学費が比較的に安い
 管理栄養士になりたかったため
 学びたい専門学科があったから
 栄養について学びたかったため
 場所が良かったため(新潟から遠くないこと)
 国試の受験資格が取れる
 地元だから

スポーツ健康学科

資格、健康運動指導士
 第一志望の大学に入れなかったから
 部活動 他1名
 関東で学びたい事が、長野でできたから
 滑り止め
 長野県内だったから
 スポーツについて学べると考えたから 他1名
 地域でスポーツに関わる4年制大学に入学したかったから
 一人暮らしがしたかったから
 勉強したい分野だったから 他1名
 松本山雅との連携
 取得したい資格が取れる 他6名
 他県に出るという条件を満たしていたから
 目的があったから
 教員になりたかったから

質問5. あなたが松本大学に入学した目的はなんですか。(いくつでも)

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①専門的学識を身につけたい	22	6	28	14	6	20	48	5	38	43	25	15	40	83
②教養を身につけたい	18	4	22	11	8	19	41	0	12	12	5	7	12	24
③地域について学びたい		6	27	10	7	17	44	1	4	5	5	5	10	15
④海外研修を経験したい	2	0	2	0	4	4	6	0	0	0	0	2	2	2
⑤資格を取りたい	8	8	16	14	16	30	46	6	42	48	26	36	62	110
⑥良い就職がしたい	24	10	34	9	7	16	50	1	15	16	12	9	21	37
⑦友人をつくりたい	11	1	12	5	1	6	18	1	7	8	5	3	8	16
⑧部活動を行いたい	3	1	4	11	0	11	15	0	1	1	13	12	25	26
⑨親元から離れて生活したい	3	2	5	2	2	4	9	1	6	7	4	7	11	18
⑩アルバイトを試してみたい	0	0	0	1	0	1	1	0	3	3	5	0	1	4
⑪自立できる社会人になりたい	7	4	11	16	6	22	33	0	5	5	9	4	13	18
⑫自分を見つけた(自分探し)	10	2	12	11	4	15	27	1	3	4	6	3	9	13
⑬その他	5	2	7	1	1	2	9	2	0	2	4	2	6	8
無回答	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0

【その他】

総合経営学科

指定校があったから
 大学という肩書きが欲しかった 他1名
 ボランティア(ゆめ)をしたい

観光ホスピタリティ学科

部活
 免許が取得できる。また県内にあるため

健康栄養学科

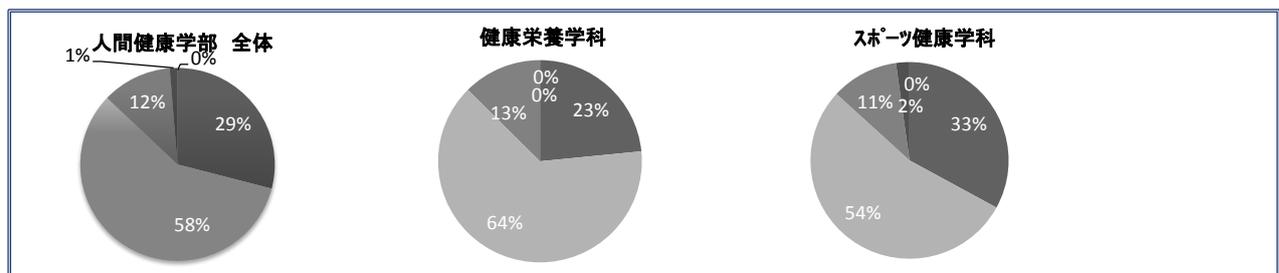
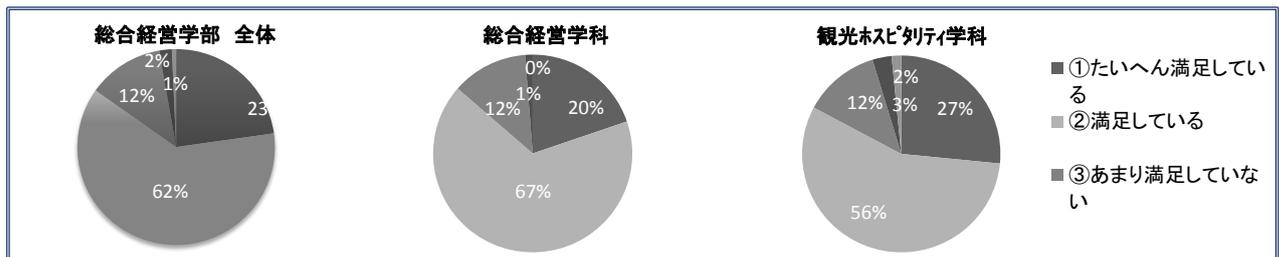
マツナビの活動に魅力を感じたから
 県内のことを知るため

スポーツ健康学科

教職課程
 地元だったから
 家から近い
 学びたい先生がいた

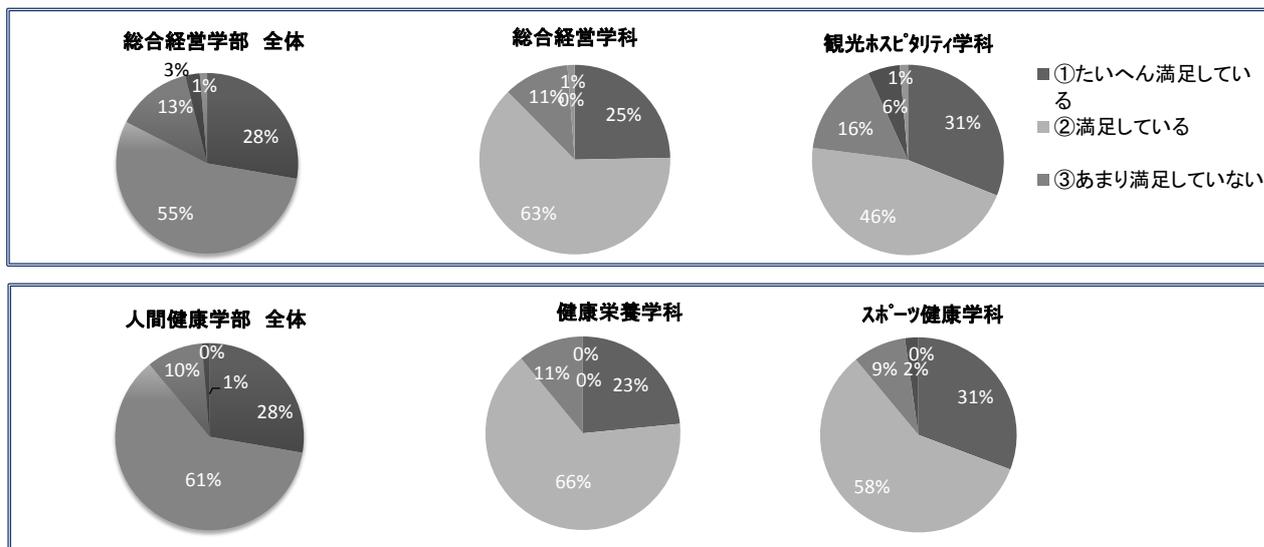
質問6. あなたは松本大学の4年間の勉学に満足していますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	12	4	16	12	5	17	33	2	13	15	12	18	30	45
②満足している	40	14	54	25	11	36	90	7	34	41	26	23	49	90
③あまり満足していない	9	1	10	6	2	8	18	2	6	8	7	3	10	18
④全く満足していない	1	0	1	2	0	2	3	0	0	0	2	0	2	2
無回答	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0



質問7. この4年間のあなた自身の生活に満足していますか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		
①たいへん満足している	16	4	20	16	7	23	43	3	12	15	12	16	28	43	
②満足している	37	14	51	18	16	34	85	7	35	42	28	25	53	95	
③あまり満足していない	8	1	9	7	5	12	21	1	6	7	7	5	3	8	15
④全く満足していない	0	0	0	4	0	4	4	0	0	0	2	0	2	2	
無回答	1	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	



質問8. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったことなど、感じたことを何でも自由に書いてください。

総合経営学科

難しいこともあったが、楽しめたので良かった
 先生方が良い人だった
 とても恵まれた環境で授業できて幸せだった
 学んでいて楽しく思えた
 素晴らしい恩師、仲間と出会うことができた人生の転換期となった時間だった
 全授業ほとんど出席できていたので良かった
 教授の方々や職員の方々など、学生に対して話しやすい雰囲気や相談しやすくてよかった。大学自体が歴史が浅かったということもあるが、アンケートなどを元に授業の改善を試みていることが伝わってきた
 地域に関する講義が多く、とても満足している
 コミュニケーションを通して授業を行えること
 自由に学ぶ事ができ、とても充実した学生生活になった
 社会に出てから必要になる知識や心構えを学べたことは良かった
 授業中の私語などが多かった
 1. 2年真面目だったことを後悔している
 基礎を学べたこと
 他学科の講義の受講についてハードルがあると感じた。もう少し他学部他学科受講をしやすくして欲しかった
 救済措置をしてくれたのは本当に助かった
 授業では使われない教科書を買わせないでほしい
 出欠席の管理をメソフィアで確認できるようにしてほしい
 学びたいと思ったことが学べた
 地域とリンクした授業が良かった
 もう少し学生に勉強させる雰囲気があっても良いと思う
 教授と学生の距離が近かったため、学習に取り組みやすかった
 分からない人はおいていくのではなく、分かるまで教えてくれる先生がいた
 社会に出る上で、学べることが多かった
 学生が地域と関われる機会が多いところ
 前まで祝日も登校しなければいけなかったが、最近は祝日も休みなで嬉しい
 幅広いことを学ぶ事が出来たが、一つを深く学ぶ事は出来なかった気がする
 それぞれ学科や学部ごとに決まりが違って、統一して欲しかった
 自由だった
 感じたことはほとんど勉強しなくても単位を取得することができるので、大学生活で勉強をする機会がなくなった。
 よほど夢や将来のための欲しい資格があるなどの強い気持ちがないと、勉強はしなくなるだろうと感じた
 興味が無い科目も取らないといけない時もあった
 講義にもっとしっかり出ればよかった
 授業がゆるく、単位が取りやすかった
 どの授業も為になるものが多かった
 先生がみんな優しくかった
 3・4年の時の授業の選べる幅が小さかった
 しっかりと勉強することができた。しかし私語が多い学生もいることがあったので、集中できないことがたまにあった
 地域についてたくさん知ることができてよかった。ただ授業の質がなんとも言えないものもあった気がする
 直接質問できなくても、受講票を通して質問等できたこと
 地域について学べた点は良かった。生徒のレベルに合った授業が多かったと思う
 教授との距離を近く感じられた。一方通行の講義ではないのが多くて頭に入りました。マイクや機械が新しいと講義が始まらないことが多々あった
 自分が入学した目的が、地域について学びたいということであったので、いろんな目標から地域について考えられ、関わりを持つことができたことが一番良かった
 カンニング多すぎる。不快。取り締まりも甘い
 良かったことは、分かりやすい教員が多かったこと。悪かったことはうるさい学生が多く、集中しづらい時が多々あった
 資格取得授業が充実していてよかった

観光ホスピタリティ学科

パワポが理解できないことがたまにあった
教科書のページを数え言わず、そのまま授業を進行して頭に入らなかった科目もあった
公欠が欲しい、実習や忌引きで休んだ時、何か対応を取る等、全体でルールを決めて欲しい
授業内容は良かったと思うが、それを受ける学生がスマホを操作するなどしており、授業環境は良いとは言えない講義も散見された
先生が細かい指導をしてくれた
ワークインフォメーション。社会人になるためには、3年時に行った方が良いと思う
考えてたことと違うことがあった
基本的には学びたい事を学び、自分の知識として蓄えることができた。押し付けがましい講義もあったが、それも知識として役立てたい
難しい授業も多かったが、やっていておもしろい授業や、良い先生が多くて楽しかった
たくさん体験をさせてもらった
意識が低い学生が多い
成長できた
おもしろい授業がたくさんあったのが良かった
地域との関わりが持てたことがとても良かった
補講が一気にやる日があるのでしんどい
もっと自分のやりたい事を早く決めておくべきだった
観光を名乗っているからには、実務試験を積極的に学ばすべき
全般を通して色々な面で成長できたと思うので、社会に出て活かしていきたい
90分以上講義を延ばすべきだと思う
割りと簡単に単位が取れてしまう
一生懸命頑張った
アウトキャンパスなど自ら体験する授業が多く、楽しく学べたと思う
長野県の観光について一般の人より多くの知識を持てた
しゃべり方が聞き取りにくかったり、パワーポイントの文字が小さい点を改善するともっと分かりやすい
授業を受けていて楽しい科目は少なからずあった
学びたかったことが学べた
ノートを取る時間がとても短く、テストで困ることがよくあった
先生との距離感が近かったことや、講義が多岐にわたっていたので、4年間充実した時間を過ごせた
授業中、しゃべっている学生が多いのに、全く触れない先生もいた
本学(学科)は必修が少なく、自分で計画を立て実行できる人にはとても良い大学だと感じたが、怠り癖があるような人には
4年生で泣くことになる大学だと感じた(もっと厳しくしても良いと思う)
良かったことは、アウトキャンパスやゼミなどの学生が進んで学べる環境が整っていることや、地域に関する授業の多さ
悪かったことは、講義に参加していないのに、単位がもらえている学生がいること(代理で受講票かいていたり)や、講義の受講態度の悪さ
新しいことがたくさんあり、学べた
学びたいと思えばそれに答えてくれる先生が多く、充実した学びができた。授業中に話をしている人がいることがあり、
座席指定ではそういった人から離れられなくて嫌だった
もう少し難易度が高くてよかった。資格試験前に苦労することが多かったので、普段の定期テストをもう少し難易度が高く、
課題等もあれば早くから知識の定着が図れたように思う。もちろん自らの努力不足もあるが、より充実した学びの環境に今後して貰えたら、
助かる学生も多くなると思う

健康栄養学科

栄養士、管理栄養士についてしっかり学べたのはよかった
知識とスキルの蓄えが同時にできたことが大変良かった。さらに実践がより充実できたら嬉しかった
大変さと反比例して1科目の単位数が少ないものがあった
実習や実験など、班での活動が多く、色々な人と関わることが多かったため、人間関係が築きやすかった
充実した教育と良い人間関係に恵まれ、楽しい4年間を過ごすことができた
授業でPCを使うことがあった。数をもう少し増やしてほしい。栄養くんが入っているPCの数がもう少しあればと思う
学外実習や山雅のスタ飯など、学んだことをいかしてチャレンジできるものが多く良かった
座学において、ただ聞いているだけの教養科目があるように感じた
とても熱心に指導して下さってよかった。丁寧に分かりやすい先生もいたが、先生の好きなところに力を入れていて、
もっとまんべんなく教えてほしい先生もいた
授業での雰囲気は勉強しやすく良かった。暖房が入らない部屋があり寒かった。直してもらえるとありがたい
今思えば力になったと思うが、2,3年の時はレポートが多くきつかった
授業が詰め込まれすぎて、忙しい時があった。1年前期に余裕があったため、分散してほしかった
やはり調理はある程度できないといけないと感じた(入学前、料理できなくてよいと言われたので)
実習や実験を通して体験することで身についた
授業でわからない事はすぐに先生に聞きに行けたり、自分自身で考える努力ができる環境だった
充実した設備で専門的な勉強ができた
一部の先生が私語を注意しないなど、環境が悪かった
教員によって授業内容に大きく差が出るなど強く感じた。生徒に教えようという熱意がとてつもない先生が多く、分かりやすかった
調理実習で色々なものを作って食べられたのが良かった。もう少し実習を行いたかった
栄養学科は常に必修科目があり、つめつめの講義が多いため、移動時間もあまりないと感じた。でも授業を通して多くの人と話し、コミュニケーションを
とることができた

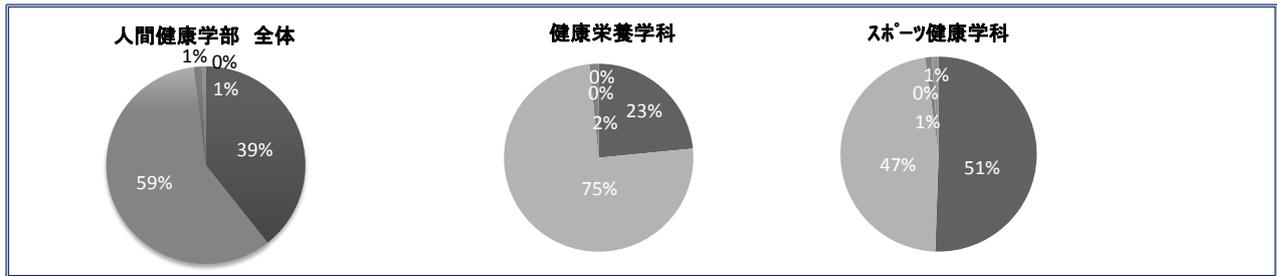
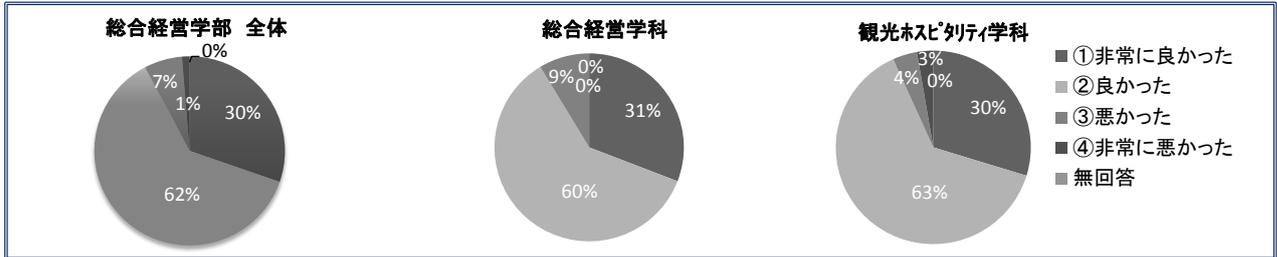
スポーツ健康学科

大学なので、この勉強がしたいと決めて入学すればモチベーションが高かった
専門的な知識を身につけることができた。就職先はそれらに直接関わりはないが、学んだことは社会に出ても活かしていけると思う
ゼミ活動で人として成長できた
先生との距離がとて近しい授業でよかった 他1名
人とのコミュニケーションスキルがついて、社会に出て困らないと思う
勉強の仕方を早く身につけるべきだった
大いに満足している
勉強をする環境が良かったと思う
学校に行き、授業に出ること、それは即単位に結びつく
自分の興味のある分野が学べて良かった 他1名
資格も取れたし、やりたい職に就くことができた。友人もたくさんできたし、とても充実していた
学びたいことを学ぶことができてよかった。まだ勉強し足りないところがある
他学部の先生の授業態度が悪く、印象的だった(運動物理学)
授業が終了時間の30分前に終了することがあって、不満だった。実習があつて身につけるものが座学よりも多かった
少人数の授業がとて良かった
実習を通して多くのことを学べた 他1名
夢をあきらめたことはすごく悪いと思った
授業を通じて外部の方々と関わることができるとても良い機会だった。もう少し話しても良いと思う
カリキュラムが重なっていて、受講できないものがあった
うるさい生徒への対応がいまいち。真面目に取り組む生徒が迷惑している
良い先生と、どうなのかと思う先生の差が激しい
大切な仲間ができた 他1名
もう少し基礎教養の授業と英語の授業があれば良かった
教職の単位が卒業単位に入らなかったのが少し大変でした
実習が多くて良かった
1~2年生時のゼミの活動が多すぎて辛かった。3~4年のゼミなら多くても分かるが
専門的なことを学ぶことができた 他2名
聞きたいことがすぐ聞けて良い環境だった 他1名
生きていくうえで必要な知識を身につけることができたと感じている
教科書を購入したがあまり活用できていなかった
養教の授業をもっと増やして欲しい(実践とか)
先生達が学生に対して教えてくれる姿勢、またきちんと向き合ってくれる姿勢がとて嬉しかったです
地域に実際に出て行き、人と関わることでその人達がどういことを求めているそれに対してどうすればよいのか考えることができて良かった
教室や図書館・駐車場の距離を感じた。駐車場前の混み具合は一般の方へも迷惑がかかってしまう
幅広い知識を身につけることができた
運動を通して仲間とのつながりや地域のつながりを確認できたし、なにより楽しく学べた
地域に貢献すること、社会に出て大切にしなければならないことを学べた
しっかり勉強する気になった
もっと勉強しておけば良かったです
資格が取れたから良かった
実技や実際に人に対して運動指導する場があり勉強になった
分からないことを質問するとすぐに返してくれる

質問9. 本学の教職員はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか、該当する番号を選んで、その理由も書いて下さい。

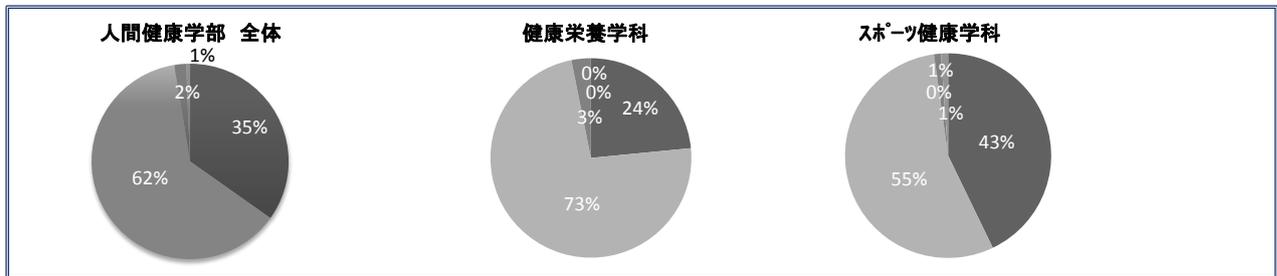
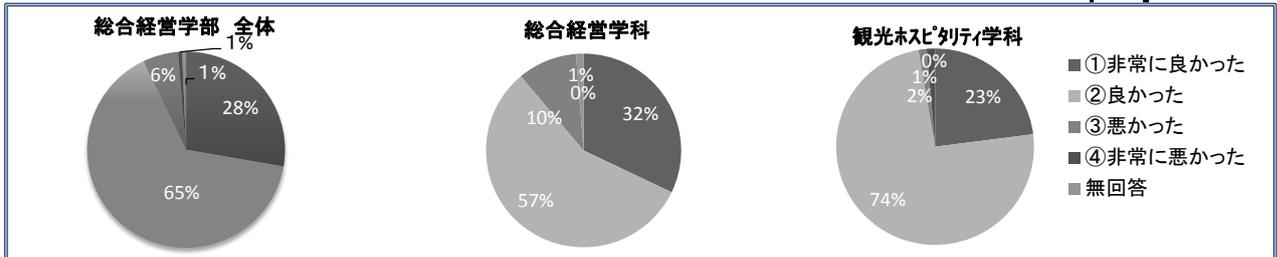
■教員

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	21	4	25	15	7	22	47	3	12	15	18	28	46	61
②良かった	34	15	49	27	20	47	96	8	40	48	28	15	43	91
③悪かった	7	0	7	2	1	3	3	0	1	1	1	0	1	2
④非常に悪かった	0	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1



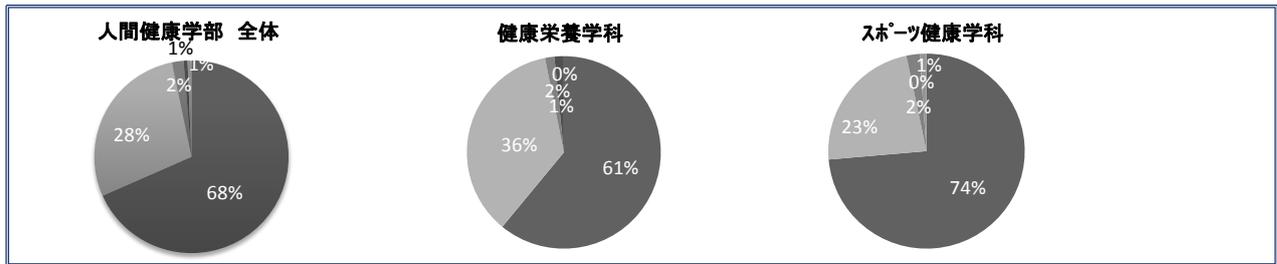
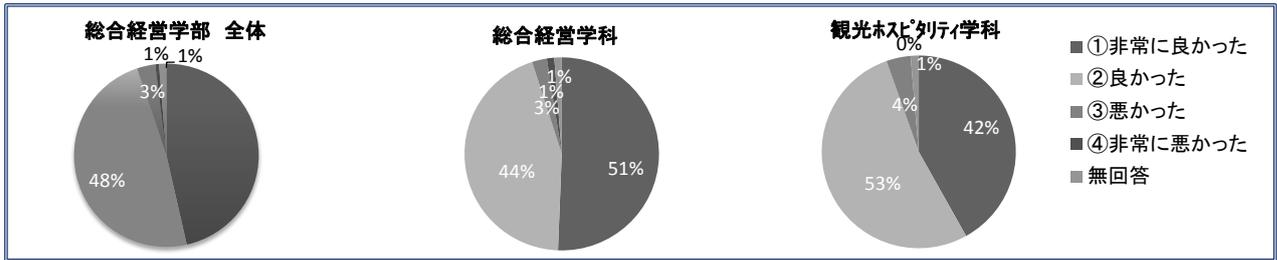
■職員

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	20	6	26	12	5	17	43	3	12	15	18	21	39	54
②良かった	34	12	46	32	23	55	101	8	39	47	28	22	50	97
③悪かった	7	1	8	1	0	1	9	0	2	2	1	0	1	3
④非常に悪かった	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
無回答	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1



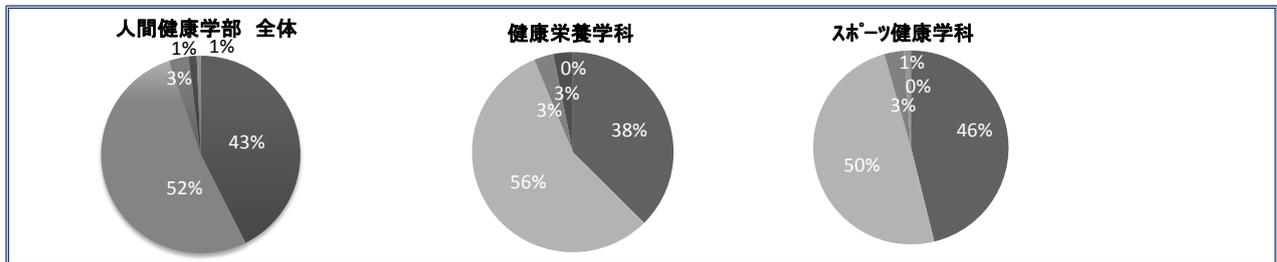
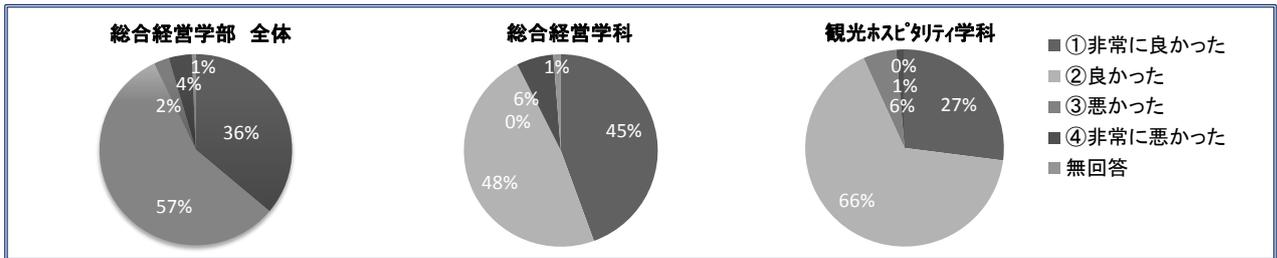
■ゼミ担当者

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	29	12	41	19	12	31	72	7	32	39	31	36	67	106
②良かった	30	6	36	25	14	39	75	4	19	23	14	7	21	44
③悪かった	2	0	2	1	2	3	5	0	1	1	2	0	2	3
④非常に悪かった	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1
無回答	1	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	1	1	1



■キャリア面談員

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	31	5	36	16	4	20	56	3	21	24	20	22	42	66
②良かった	26	13	39	27	22	49	88	7	29	36	25	20	45	81
③悪かった	0	0	0	3	1	4	4	0	2	2	2	1	3	5
④非常に悪かった	4	1	5	0	1	1	6	1	1	2	0	0	0	2
無回答	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1



【理由等】

総合経営学科

授業だけでなく、部活動や就職でもとてもサポートしていただいた
皆さんが自分の事のように相談などを聞いてくれた
良かった
皆さん丁寧かつ紳士的な対応を怠らないプロフェッショナルだなと感じたから
私のキャリアを考えアドバイスしてもらったから
キャリアセンターや健康安全センターの方は真剣に私の話を聞いてくれた
良かったことに関してはさほど関わりもなく、悪いとも良いとも判断できないのでプラスと考えた
親身になって学生に伝えようという姿勢が強く感じられた
相談に親身になって聞いたり、答えたりしてもらい、サポートに満足している
ゼミの先生やキャリアの面談員の方々は就職関係だけでなく、学校生活では大変お世話になった
生徒の気持ちを考えながら、講義をしていただいた
職員には怖い人が多かった
キャリア面談はとくに参考にならなかった
相談する生徒を悪く扱った人はいなかった。皆、真摯になってくれた
一人一人が親身になってくれるところが印象に残っている
キャリアセンターの方々はとても良かった
教員の学生に対する考え方に大きく差があり、あたりはずれによって、学生生活に支障が出ると感じた
まだ就職が決まっていない時に本当に親身になってくれて、いくつもの企業を紹介してくれた
キャリア面談員以外はそれほど関わったイメージがなかったため、これにしました
学生のことを考えてくれている
他学部の生徒に対して冷たい印象を受けた
教職員の方によくしてもらえた
就活でのサポートが充実していた
親身になってくれた 他1名
就活の時にどうすればよいか丁寧に教えてくれた
相談に対してしっかりとした態度、返答をくれた
親身になって接してくれることが多かった 他3名
就活の時に相談に乗ってもらえた
キャリア面では良くしてもらえて、無事就職できた
キャリアセンターなど就活支援がよかった
ゼミの担当先生には大変お世話になった
ばらけたのは人ごとの差が激しく、一概に言えないから
相談しても良い回答が返ってこなかった
良かったと思う
よくサポートしていただいた
キャリアの方には本当にお世話になって、相談も沢山聞いてもらった
大変素晴らしいかった
教員や職員の距離が近くて話しやすかった
ゼミ担当の先生はとても親身になってくれて心強かった
自分から話したいことを話しに行ったのはクラス担任くらいで、一番気軽に話せたことがよかったと思う
教員が良かった。キャリア面談では自分について振り返れてよかった
相談のしやすさは別として、きちんとした対応に好感が持てた。全体として、面倒見の良い大学という印象になった
親身に話を聞いてくれたから
自分はゼミに所属しており、何か困ったことがあった時にはいつでも相談に乗ってくれ、親身に考えてくれる先生がいてくれたのはとても心強かった
自分に合わない
親身になってくれる人ばかり
就活の際、県内の情勢を生徒より知らなかった。就活で使用する証明書の発効日当日に来たのに、「メンテナンスで使えません」と言われた。
貴重な一日を潰された。交通費も無駄になったため。

観光ホスピタリティ学科

専門のことについて学べた
長時間学生の目線に立てて接していただけたから
教員は講義以外の時間でも、分からないことがあったら聞いてくれる。職員窓口は最初分かりにくく、忙しそうで声掛けにくい
それぞれが親身になって相談に乗っていただいた
よく相談やお話をしてくれた。あまり頭の良くない自分に分かりやすい説明をしてくれた
どの人も寄り添って教えてくれた
教員やゼミ担当との距離が近いので、相談をよくすることができた
話をよく聞いてくれたり、アドバイス等もたくさんしてくれて、生徒に近づいて接してくれた
相談事など話しやすい環境だった
特に不自由なことがなかった
畑井先生ははずこい熱心に指導していただけた。キャリア面談は雑談で終わった気がした
相談に乗ってもらえた
職員の方が資格職についてサポートしてもらった
就活の際にとてもお世話になりました
自分の事ではないのにしっかりと話を聞いていただき、適切なアドバイスをしてくれた
どの先生方もとても良い人たちだった
相談に乗ってもらえる機会があり、お世話になった
ほぼ実習に近い講義もあったため、2、3年のキャリア面談はあまりためにならなかった
全体的に良い先生ばかりだったが、一部嫌な先生もいた
的確に色々指導して下さったのでよかった
学生生活で困ったことがあった時、助かった
真剣に話を聞いてくれた
相談しやすい環境があった
キャリアセンターの先生方には、4年生になってからとてもお世話になった
3年の時のゼミ担当者に大変助けられた
親身になって話を聞いてくれる人が多かった
問題解決に協力してくれた
親切だった
就活の際にはゼミの先生に大変お世話になりました
特にゼミの先生はとても親身になってくれてかなりお世話になった
悪くはないが、そこまで良くもない。教員、職員に関してはとても良い方もいたが、私と合わない方もいた。人間なので相性はあると思うが、
学生の手本となる様振り舞っていただきたい
就職やゼミ、教職関連で相談する機会が多かったが、毎回丁寧に対応したり、話をしっかり聞いていただいたりした印象が強い。
いつも助けていただき、感謝している
就活の際にとてもお世話になった
初めに紹介していたゼミ活動が自分達のやりたいことだったので、卒論は先生の課題をやらされたから
自分が悩んでいることに対応してくれるだけでなく、新しい考え方のエッセンスになる話などもできた。自分の考えを深めてくれる人が多かった
先生方と相談しやすい環境で良かった所もあるが、近い上に悩んだこともあった。学生に対して平等であってほしいと思う出来事が多くあった
卒論より深く取り組みたかったため、4年の前期から取り組んでみたかった

健康栄養学科

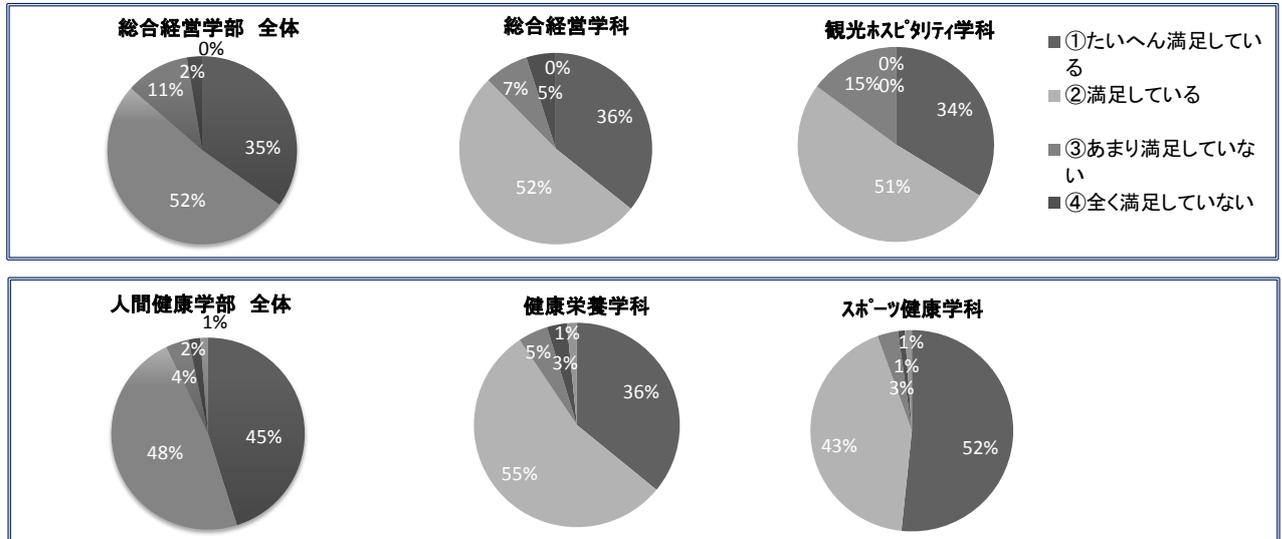
どの方もとても親身になってくれたのでよかった
困った時、苦しい時に声をかけて下さり、また顔を覚えていただける方もおり、大変嬉しく、よい学生生活になったと思っている
教員はほとんどの人が良いと感じた。職員の方にはいつも助けていただいた
私達に講義でもキャリアについて教えて下さった方に、逆に就職活動に不安を抱くような話をされたので
ゼミ担当の先生がとてもよかったので充実していた
悩み事や相談事を親身になって聞いてくれたから
キャリアセンターの方は本当に素晴らしい対応だった
親身に話を聞いてくれる方が多く、とても助かった
ゼミの先生は常に親身になって色々な相談に乗ってくれた。キャリア面談は勝手に未来を決めつけられ、嫌だと言った就職先に決められた。
大変だった上に翌々日が大切な実習でテストと実習の間が短く、ただでさえ準備等時間がなかったのに無駄な時間を過ごした
勉強方法について、様々なアドバイスをいただいた
丁寧に対応して下さいました。言っていることが二転三転して困ることがあったので、統一してほしい。
就職に関してはとても丁寧に指導して下さいまして納得のいく所に就職できてよかった
悩んでいる時、真剣に話をきいてくれ、問題解決につながるお話をしてくれる教職員の方が多かったため
個性を大切にはしてもらえなかった
親身になって生徒と向き合ってくれる職員、教員が多かった
現所属ゼミに入って、辞めずに大学を卒業しようと思えた
教員、職員は人による。ゼミ担当はいつも親身に相談を聞いてくれた
学生と近い距離でいてくれ、親身になってくれていた
キャリアセンターの方は、いつ行っても親身に話を聞いてくれて、心強かった
同じゼミの中でも扱いに差を感じた
教職と管理栄養士の資格取得を目指す学生へのサポートをもう少し充実してほしい
困った時は相談すれば解決までともに考えてくれた

スポーツ健康学科

生徒のことはしっかり見てくれていたような気がする
良いアドバイスをして頂いた
あまり参考にならなかった
相談をすれば丁寧に答えていただいた。特にキャリアの面談員の方には大変お世話になった
ゼミの担当の先生が、いつでも快く相談に乗ってくれた
どの方も親身になって相談に乗ってくれた。とても感謝している
親身になって相談に乗ってくれた 他17名
キャリア面談の方は親身になって話してくれて、素晴らしかった
自分自身を高めてくれた
距離が近く話しやすかったため 他2名
ゼミ担当の先生には、私生活から就職のことまでお世話になったから 他1名
特にゼミの先生には大変お世話になった。実習もたくさん経験させてもらい、やりたい職につくこともできた。相談した教職員の方がとても親切に話を聞いてくれた
ゼミ活動や就活の時、とても心強く充実していた
良い先生は良かったが、悪い先生もいた
公務員志望を考えていた時に、キャリア面談員に相談したら、自分の進路があいまいだった部分が確立されたから
将来のことについて真剣に考えてくださった
自分の悪いところを指導してくれた
学生課とうまくコミュニケーションが取れなかった 他1名
ゼミ担当の先生には様々なサポートをもらった
教務課、キャリアセンターはたくさん利用したが、その度に丁寧に丁寧に対応いただいた
先生によってはとても良く理解者になってくれたが、自分のことを理解してもらえない先生もいた
自分の話を聞いていただき、適切なアドバイスをもらえたから
全体的にアットホームな雰囲気であったと思う
どんな時も自分の意見を尊重してくださり感謝しています
勉強のことだけでなくあらゆる相談に乗って頂いた。もちろん叱られたり、あきれられたりすることもあったが、それでもご指導ご支援いただき感謝しています
このゼミに入ってよかったと思える担当先生でした 他1名
こんなに真剣に考えてくれるんだと本当に思った

質問10. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・情報センター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただいています。皆さんにとって事務職員の対応はどうでしたか。

	総合経営学部						人間健康学部					
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
①たいへん満足している	24	5	29	18	7	25	4	19	23	24	23	47
②満足している	30	12	42	18	20	38	6	29	35	20	19	39
③あまり満足していない	5	1	6	10	1	11	0	3	3	2	1	3
④全く満足していない	3	1	4	0	0	0	1	1	2	1	0	1
無回答	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1
合計												



【理由等】

総合経営学科

①の理由

分からない事などを丁寧に教えてくれたから
 事務職員の対応はどれも素晴らしかった
 困ったことが起きた時に、比較的早く対応してくれた
 サークルを作るにあたり、学生課には大変お世話になったから
 就職活動で大きな支えとなってくれた
 キャリアセンターの方々には本当にお世話になりました。面談練習の時に丁寧に指導してくれた
 困っていることには懇切丁寧に対応してくれた
 迅速、丁寧に对应していただいた
 学生生活を送る上で、欠かせないサポートを手厚くしてくれた
 本当によくしていただいた
 丁寧な対応でした 他2名
 優しい方が多くて助かった 他1名
 最高でした
 わかりやすくサポートしてくれた
 キャリアセンターは就活の際に大変お世話になり、自分の授業について一緒に考えてもらい、とても助かった
 困った時に何度も助けていただいた。キャリアセンターのスタッフの方は一人ひとりに合ったサポートをしていて、素晴らしいと思った
 対応がとても丁寧だった

②の理由

真摯に答えてくれた
 満足している
 皆さん丁寧かつ紳士的な対応を怠らないプロフェッショナルだなと感じたから
 まあまあ良かったと思う
 落し物を親身になって探してくれた
 丁寧だった 他1名
 詳しく教えてくれるところが良かったと思う
 提出書類にいくつか記入もれがあった際、一回一個ずつ訂正され、非常に手間取ったので、一回で全て指摘して欲しかった。
 また呼び出された際、担当者不在と追い返された。そこから呼び出された時はいて欲しかった
 それほど印象に残らなかったもので、これにした
 親身になってくれた
 就職活動ではキャリアセンターにお世話になった
 就活の手伝いをしてくれた
 良いサポートをしていただいた
 良かったと思う
 自動車での通学申請の書類について、対応してくれる人によって提出指定されるものが違って困った時があった
 しっかり寄り添ってくれて大変良かった
 優しく対応してくれていたと思うから

③の理由

一部で学生を不必要に焦らせる様な取り組みがあり、学生個人を理解しているのか疑問に感じる時があった
 キャリアセンター以外あまり利用しなかった
 補講日などの情報が遅いと感じる時があった
 あまり対応がよくなかった。適当にあしらわれることもあったので、しっかりしてほしい

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 本当によくしていただいて、気軽に足を運べたから
親身になって相談に乗っていただいた
優しく話やすい
丁寧に対応してくれた
対応が良かった 他1名
とてもよかったから
より良い道へ導いてくれた
就活の時に大変お世話になった
細かい所まで優しく親身に対応してくれた
真摯に対応していただけたから
ほぼ毎日通っていたが、自分の現状を話したら、何をすべきか教えてくれたり、協力してくれたりなどすごく助かった(キャリア)
話を真剣に聞いてくれた
担当者の良し悪しはあったが、全体的にはとても良くしていただいた
話をしっかり聞いてくれる。的確で迅速な対応してくれた
臨機応変に様々な手続きをしてもらった
複雑な手続きも職員の方がいたから助かった
- ②の理由 キャリアセンターでは色々アドバイスをいただいた
相談したら積極的にサポートしてくれたため
優しく対応してくれた
分からないことがあればしっかり聞いてくれ、詳しく教えてくれた
丁寧に対応していただいた 他1名
進路面でお世話になった
問題解決に協力してくれた
特にキャリアセンターにはお世話になった。色々相談に乗ってくれて感謝しかない
質問に丁寧に対応していただいただけでなく、顔と名前を覚えてもらって声をかけてもらえたのが嬉しかった
- ③の理由 学祭のときの対応が良くない
対応が良くない時があった
嫌な顔をされたことがある
態度があまり良くない人もいた
学生課以外はとても親切にくださった。一人除いて男女差別をするのはどうかと思った

健康栄養学科

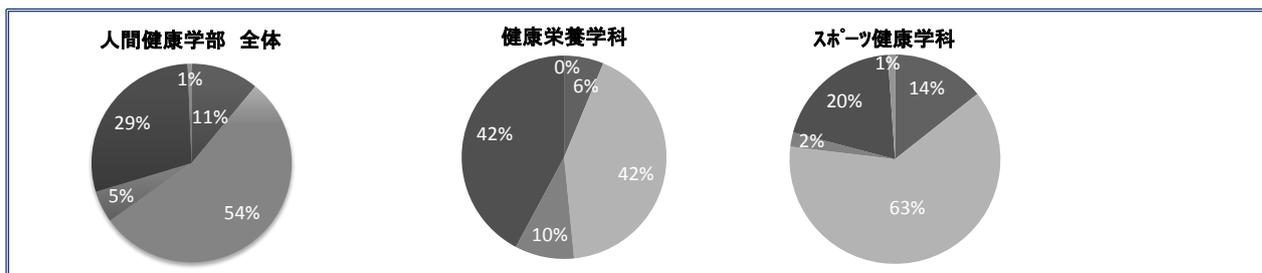
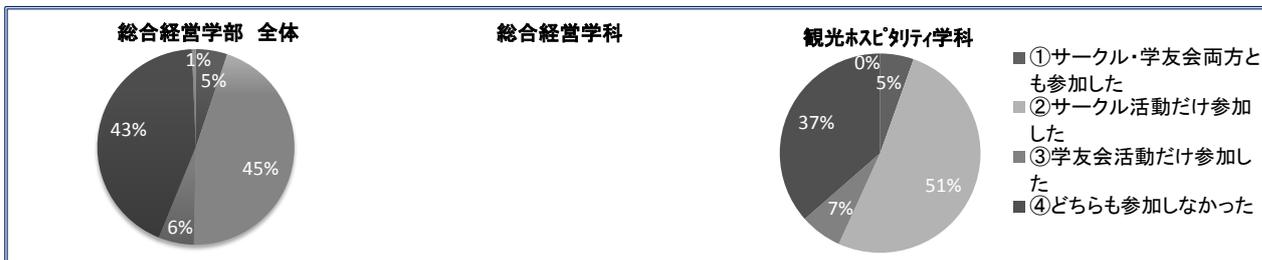
- ①の理由 就活の際はキャリアセンターにとても助けられたから
いつも優しく、困った時は対応していただき嬉しかった
とても親切に対応して下さった 他1名
特にキャリアセンターの方々には本当にお世話になった 他2名
情報センターの方が優しくかったです
パソコンが借りられたところがとてもありがたかった
いつ伺っても笑顔で丁寧、スムーズに対応してくれていて、こちらも安心した
優しく丁寧に教えてくれて、行きやすい所だった
丁寧に教えて下さった
- ②の理由 学校に行けない時、電話でも丁寧に教えてもらった
丁寧に教えて下さった。連絡が遅くなる事があったのが残念だった
休校になる時に連絡が遅いと感じたことがあった。遠方から来る生徒のことも考えてほしかった
キャリアセンターの方には就職のことで大変お世話になり、本当に感謝している
丁寧な対応だった
学生課はとても良かったが、教務が時々ひどかった
キャリアセンターの先生方がとても親身になってお話を聞いて下さった
- ③の理由 授業についての連絡がきちんときていないことがあったから

スポーツ健康学科

- ①の理由 私が理解するまで、細かく丁寧に教えていただいた
いつでも優しく教えてくれた 他2名
とても親身に丁寧に教えてくれた 他5名
どれも大学生生活を送る上でお世話になったため
学生生活全般において支えてもらった
すぐに対応してくれたため、良かった
自分が困ったことがあっても相談に乗ってくれた
わからないことを聞きやすかった
キャリアセンターの存在がとても心強かった。 他1名
親身になって話を聞いてくれた
職員によっては差があるが、全体の対応としてはとても満足
とても丁寧に説明してくれて、学校生活で助けられた
就活でキャリアセンターにとてもお世話になった
気軽に相談に行けるので良かった 他1名
大学生にもなって一つ一つサポートしてくれることはないと思う。すごく甘えていたが本当に感謝している。
- ②の理由 親切に対応していただいた 他4名
可もなく不可もなく、悪いところが見られなかったから
話しやすい
不明な点もしっかり解決して下さったから
笑顔で対応してくれた
教務課、キャリアセンターは、たくさん利用させていただき、とても助かった
分からない所を教えてもらった 他1名
雪の日は早めに連絡した方がよい
いつも明るく挨拶をして下さる方がいる
- ③の理由 学生メインのバーベキューや運動会で、役員の人の中に何も片付けなどしていない人がいたのに、参加者が強制的にやらされた
対応が人によって違う

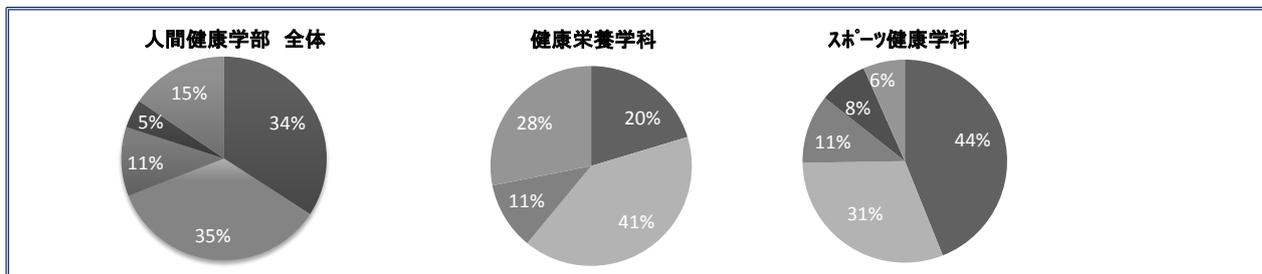
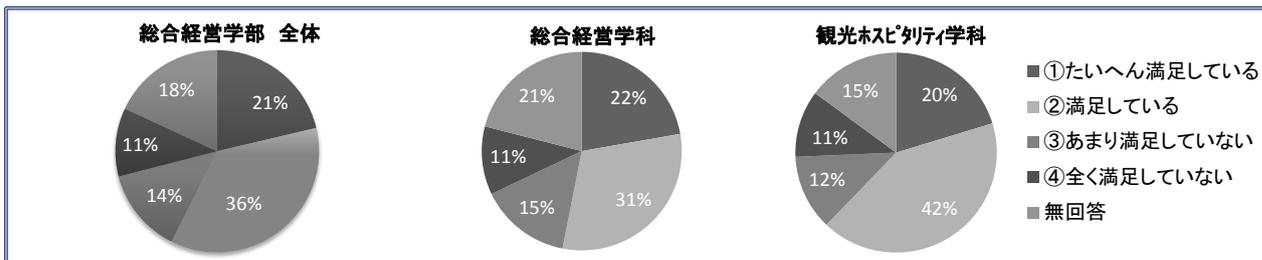
質問11. あなたにとってサークル活動や学友会活動はどうでしたか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①サークル・学友会両方とも参加した	3	1	4	4	0	4	8	1	3	4	8	5	13	17
②サークル活動だけ参加した	27	5	32	19	19	38	70	7	20	27	25	32	57	84
③学友会活動だけ参加した	2	2	4	4	1	5	9	1	5	6	2	0	2	8
④どちらも参加しなかった	29	11	40	19	8	27	67	2	25	27	12	6	18	45
無回答	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1



質問12. あなたはサークル活動や学友会活動に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	17	1	18	10	5	15	33	3	10	13	24	16	40	53
②満足している	20	5	25	18	13	31	56	4	22	26	12	16	28	54
③あまり満足していない	10	2	12	4	5	9	21	3	4	7	3	7	10	17
④全く満足していない	7	2	9	7	1	8	17	0	0	0	6	1	7	7
無回答	8	9	17	7	4	11	28	1	17	18	2	4	6	24



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 やりたいことができたので
自分の成長を感じられたから
やっていない友人からサークルの話を開け楽しんだ
自分の欠点、強みの発見ができ、とても成長できたと思う
サークル活動を通じ、様々な経験ができたから
サークルは知らない人、体験が出来たのでよかった
2年次から大学祭製作に携われた。学友会の役員もやらせてもらった
とても充実していた
3年間没頭できた
楽しみでみんな協力してできたことが思い出
コミュニティーが広がった
とても良い経験になった
人脈を広げられた
- ②の理由 満足している
体育館を使える時間が制限された
部屋が変わってオートロックではなくなったのは不便だった
今まで挑戦したことのないダンスに挑戦して、先輩達には本当にお世話になった
良い企画を多々してくれたので楽しめた
マイペースに参加した
打ち込めることがあることは良いこと
がんばってくれていたと思う
4年間サークル活動に力を入れてきて、人間的にとっても成長できたと思いました
みんな楽しかった
達成感とか協力して成し遂げるのがいいなと思ったから
学内外のイベントに参加して、充実していた
行っていないので分からないが、様々なサークルがあっておもしろいと感じた
- ③の理由 参加していない 他3名
リーダーズキャンプという名目で呼び出され、自分の部活に関係の無い話、意味の感じられない講義で一日を潰されるこちらの身にもなってほしい
サークルが思ったより少なかった
自分でサークルを作ろうとした時の対応がひどかった
一部だけ盛り上がっている
なかなか上手になじめず、活動するにも苦労があった。自分ではうまくできなかったので、少し後悔している
- ④の理由 所属してない 他2名

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 人間として成長できた
大変満足しているが、練習場所の融通がもっと効いてほしかった
自分達で立ち上げたサークルなので、思い出に残っている
よかった
楽しかった。大学一番の思い出となった
学祭に向けて自ら進んで活動に参加でき、充実していたから
- ②の理由 重点部のサークルに所属してあまりその他の活動には携わることができなかったけど、満足している
学友会員の自己満足的な催し事もあったと感じるが、全体的に良かったと感じる
一部を除き、良い人たちと巡り会えたため
色々な企画を立てた
友人ができた
実際に会員になって沢山のよい経験ができた
充実していました
上の立場になればある程度自由に動けるが、下の立場になるとしほりがある
文化祭のみ活動するサークルだったが、良い思い出を作れた
色々学べたと思う
自分からやってみようことにチャレンジできた
自分のペースでできた
- ③の理由 学友会がいかにせん私物化している気がする。対応が役所仕事のように、振り回されることがあった
きちんとなじめず、交流不足だったため
参加していた時期もあったが、時間が合わなかった
自分のスキルアップにはなったが、内論だけの活動だと思った
- ④の理由 学友会の活動については学生を巻き込むというより、自分達が楽しむ感じで嫌いだった
やってない 他1名
数が少ない
あまり活動に参加できなかったから

健康栄養学科

- ①の理由 仲間もでき、自分も成長できたと思う
地域づくり工房に所属し、様々な経験を得られたから
得るものが多々あった
先生方がとても良い方で、部員の仲間とも楽しく活動できてよかった
楽しかったため。また、他の学部、学科の人も仲良くなれたため
貴重な経験ができたと共に、学部学科学年を越えた仲間ができたため
施設がきれい
何もしない学生生活では決して得られないスキルを身につけることができ、色々な考えもできた。社会に出る前に周りの大人と関わって勉強になった
- ②の理由 冬の体育館が寒すぎる
急な予定変更や連絡ミスで体育館が使用できないことがあった
講義とかぶって参加できない時期もあったが、技能を磨くことにつながった
体育館の割り振りで、もっと使える時間を増やしてほしかった
- ③の理由 学友会は正直活動自体があまり楽しくなかった。自分が参加した時は既にコミュニティーができており、中に入ることができなかった
何か参加しにくい感じがあった
サークルは最初の1年で辞めた。思ったように活動ができなかったため
学友会という独特な空気が好きではなかった。物事を全て学友会のみで片付けてしまう印象

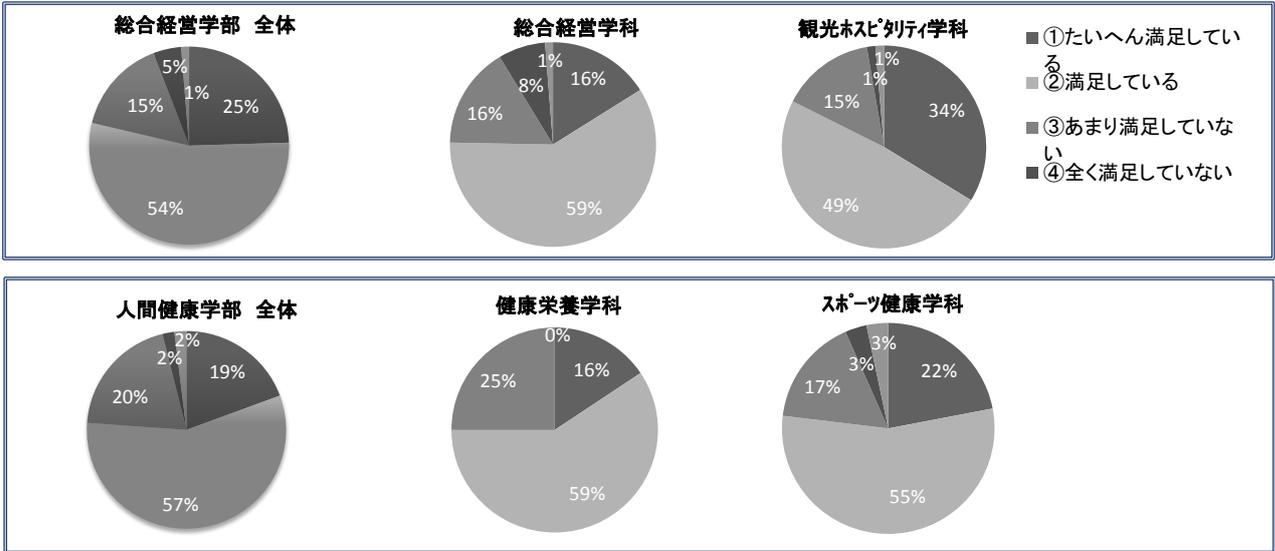
スポーツ健康学科

- ①の理由 とにかく自分を出せる場であった
他学部の知り合いがたくさん増えて、学生生活がとても楽しくなった 他1名
色々な方と出会い、交友や知識が広がった
新しいことにチャレンジすることができた
部活動、学友会どちらも充実できた
環境がとても良く、サークル活動に打ち込めた
楽しく技術も人間関係も身についた
共通の目標を持つ友人と楽しくできた
全国大会を毎年経験できた
練習はきつかったが、充実していた
4年間がとても良いものになった
自分の好きなことができてよかった
大きな大会に出場できた。仲間が増えた
納得いく結果で終わった
部活動で良い結果を残すことが出来たから
良い経験を出来たから
最高の友だちができた 他1名
たくさんのことを学べた
楽しかった
- ②の理由 他学部、他学年と関わりを持てた
楽しく活動できた
人数が増え、サークルの場所が少し狭いと感じた
部長を経験し成長できた
顧問の先生が一度も来てくれなかった
スポーツ大会で経験に対するハンデが大きすぎてつまらなかった
自分のやりたいことを出来たし、顧問の先生もとても親切にしていたため
学友会で過去年度との引継ぎがうまくいってないと思った
- ③の理由 活動があまりなかった
私が入った年のサークルがあまりよしくない雰囲気だったため
人が集まらないし、コーチも途中までいかなかった
部活動に対する価値感が合わなかった
新しい良い経験ができた
専用グラウンドがほしい
ケガで行かなくなってしまったから
- ④の理由 やっていない 他1名
やりたいものがなかった
自己満足がすぎる
サークルの先生が自分には合わず、うまくいかなかった

質問13. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、トレーナー室、体育館、教室、グラウンド、駐車場等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。

その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	12	1	13	17	8	25	38	1	9	10	10	10	20	30
②満足している	36	12	48	20	16	36	84	7	31	38	26	10	50	88
③あまり満足していない	8	5	13	7	4	11	24	3	13	16	7	8	15	31
④全く満足していない	6	0	6	1	0	1	7	0	0	0	3	0	3	3
無回答	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	1	2	3	3



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 資料の印象が便利だったから
 使いやすい環境が整っていた。Wifiが場所によって接続しづらい
 充実していたから
 自由に使えて良かった
 コンピュータ室はほとんど自由に使えたのでとてもよかった
 きれいだった
 空き時間にレポートやトレーニングができた
 コンピュータ教室のパソコンの機能も数も良かった
- ②の理由 駐車場を安くしてほしい
 すべてキレイだった
 満足しています
 常に万全な形を保っていたから
 充実しているから 他2名
 不満を言うなら、駐車場での駐車や駐車場外での駐車に対する指導や取締りをしっかりして欲しかった
 不満がないから
 数や設備がしっかりしていた
 不便なく利用できた
 あまり活用しなかったのに、好きな時に使えた
 コンピュータ室が使いにくい
 トレーニングルームは非常に良い
 多くの設備がそろっていたので良かった 他1名
 駐車料金がとても負担になっていた
 体育館を割りとして自由に使えることはとてもよかった
 駐車場が無料だったらよかった
 全体的に良かったが、駐車料が高い
 空いている時間などに施設の利用ができたのでよかった
 PC教室がとてもよかった
 パソコンの立ち上がりが遅いのがあったが、遅くまで稼働してくれているのは助かった
 授業の空きコマに使える場所が多くて助かった
- ③の理由 駐車場が使いつからなかった
 駐車場の料金が安い 他1名
 パソコンが古すぎる
 wi-fiがあまり機能していなかった
 利用しなかった
 休日等、一般学生がほとんど体育館を使用できなかったところ
 制約が多い
 駐車場が高くて、家から通える所を選んだ。意味を考えさせられた
 学生に対して駐車場が足りなくなってきた。また、駐車のカード(年間カードなど)使い回している人がいるので、申請しないで車登校している人がいる。
 これも駐車場が足りなくなる原因だと思う
 コンピュータの起動が遅い気がするため
 駐車場は無料でも良いのでは
- ④の理由 駐車場を無料にしてほしい 他1名
 駐車場が高すぎ。せめて登録なしで停めさせてほしい
 駐車場が高すぎる。プリペイドをなくし友達はその残高を発行してもらっていたのにも関わらず、自分にはしてもらえなかった。ただの差別にしか感じない

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 トレーナー室の設備が充実していた
パソコンは良かったです
使いやすい 他2名
コンピューター教室が良かった
広い量も多いので
環境が整っていると感じた 他1名
使わない施設も多かったが、充実していてよかったと思う
- ②の理由 比較的どこも気軽に利用できたから
学内ネットの接続環境があまり良くなかったが、それ以外は特に不満に感じていない
駐車場、ロッカー代がかかるのが……
良い機械が揃っている
まだ不便。特にメソフィア
部活等で使わせていただきましたが、よいと思った
駐車場が高い 他1名
利用しやすい環境だった
特に利用することがなかったのでわからないが、施設的にはきれいで良かった
充実していたと思う
PC教室の居心地がよかった
空いている時間に活用した
不自由はなかった
- ③の理由 駐車場が高い 他1名
wi-fiが見つからない所がある 他1名
体育館がほとんど使われていて、使いたい時にできなかった
駐車場の料金をもっと安くしてほしい
コピー機の不調、インク切れが多い

健康栄養学科

- ①の理由 教育学部の人数も増えるのに、駐車場が足りなくなると思う
充実した設備だった
- ②の理由 エクセル栄養くんを使えるパソコンがもう少しほしかった 他4名
6号館のパソコンの起動が遅い
暖房が効いてなかった時があったため、大変満足にはしませんでした
6号館のパソコンが古いので、新しいものにしてもらいたかった 他1名
駐車場は無料にしてほしかった
6号館にパソコンをもっと増やしてほしい 他1名
貸し出しのパソコンをもっと増やしてほしい 他1名
設備が使用しやすかった
教室などは授業で使っていないければ自由に使っていいので助かった。駐車場は使用料を取られるのが負担
お昼を食べられる所が教室以外ないから、禁止されるとキツイ(栄養科は授業がつまっていた、フォレストなど行く余裕がない)
- ③の理由 なぜ、栄養くんが6号館にないのか
駐車場の料金が高い
6号館のパソコンが少なくて不便だった。あとは良かった
エクセル栄養くんが入っているPCがもっとほしかったから
6号館から図書館(PC室も)遠い
栄養君が入っているPCがもっとあればと思った
駐車料金が高すぎる 他1名
栄養科ロッカーが狭い。着替え時間10分なのに、狭すぎて上手く着替えなどでできずに次の授業に間に合わない
駐車場で変な所に車を停める人がいた
学内で自分のPCを使っても、wi-fiの電波が悪かった。論文の検索などができず、学校のPCは他の人がゲームをしていて、利用できなかった

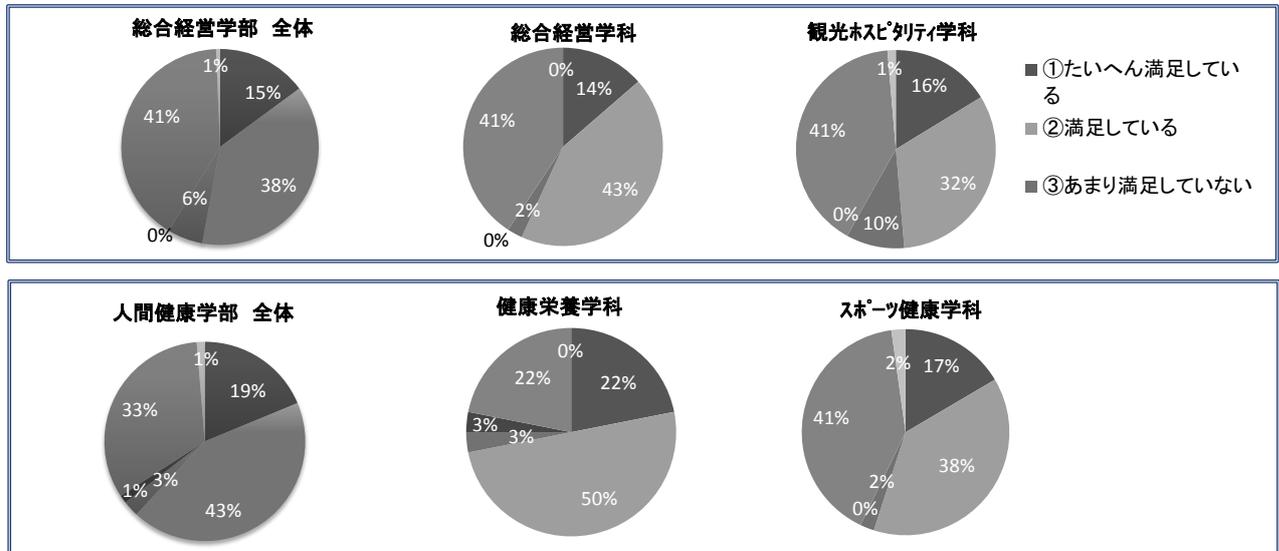
スポーツ健康学科

- ①の理由 駐車場のプリペイドカードがたまに反応しない時があった
駐車場の満車表示をもっと手前で分かるようにしてほしい
駐車場が高かった
とても充実していた 他1名
4年生になってからの施設も設備も最高になった。たくさん利用しました
教室がたくさんあったので、試験対策の時に使用できた
- ②の理由 利用しやすい施設だった
とてもきれいで満足していたから 他1名
パソコンがもっと便利になると嬉しい
wi-fiがあまりよくつながらない
駐車場に空車があるのに、満車だったりした 他1名
利用時間を伸ばしてもらえたら嬉しい。24時間使える施設
部活で体育館の使用について、当日急に使えなくなったのが困った
利用していた
コンピューターの数が多くて充実していたから 他1名
無料で使えるのは助かった
駐車場が高い 他6名
駐車場が少ない
トレーナー室が良い
体育館はガムを吐く人があるので、定期的に掃除をしてほしい
トレーナー室はたくさん利用させていただいた
トレーナー室は機械が充実していた 他4名
種類も数も豊富
駐車場のカウントをしっかりしてほしい
家のwi-fiが使えない時、本当に助かりました
- ③の理由 トレーニングルームを授業で使っていて、使用できない時がある
駐車料金が高い 他7名
駐車場を無料にしてほしい
駐車場が狭い
コンピューターが古い
養沢は言えないが、何箇所かキャバと生徒数が合っていない気がする
グラウンドは強化部以外にも使わせて欲しい
体育館をもっと自由に使用したい
パソコンの数が少ない
- ④の理由 休日に入れない
駐車場が高い
いつでも使えるようにしてほしい

無回答の理由 図書館の時間が短くて不便だった。自習室が欲しかった

質問14. あなたは各サポートセンター(基礎教育センター、国際交流センター、健康安全センター、地域づくり考房『ゆめ』、図書館等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	9	2	11	8	4	12	0	14	14	7	8	15	29
②満足している	22	13	35	10	14	24	5	27	32	15	20	35	67
③あまり満足していない	2	0	2	5	2	7	0	2	2	2	0	2	4
④全く満足していない	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	2
⑤利用していない	29	4	33	22	8	30	5	9	14	22	15	37	51
無回答	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	2	2



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 学びの場が充実していたから
真剣に話を聞いてくれた
ニュース検定の際にお世話になったから
ゆめにはとてもよくしてもらい、どの場所もみんなよくしてくれた
図書館で映画が見れるのはとても良かった
- ②の理由 あまり利用していないが、満足している
真面目に受けたなら、良い場になったのだと思う
不備なく利用できた
充実した活動ができた
図書館は利用していたが、他はあまり使わなかった
満足している
けがをしたとき、とても良い対応だった
教育センターで基礎的なプリントがあるが良かった
マガジン最高でした
一回利用してみればとても良い所だと思うが、その第一歩が踏み出しにくい、入りにくさがある
基本不満はないが、しつこく言うなら図書館がうるさい時がある(試験前とか)
企業の人と活動することで様々なことを学べてよかった
「ゆめ」は本当に入ってよかったと思ったから。多くの方と交流でき楽しかった
図書館で集中して勉強することができた
図書館は長い時間開館していてとても助かった。職員の方の対応もとてもよかった
- ⑤の理由 あまり機会がなかった
自分でやっつけていこうと決めていたから

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 ケガした時などに利用した
図書館が良かった
本がたくさんあった
自分から動く力があれば便利
就職試験前に、基礎教育センターで特に日野谷先生にお世話になった。数学が苦手でしたが、しっかりと基礎から教えていただき、ありがたかった。
日野谷先生を頼る人が多くいて、頼る理由も納得だった
- ②の理由 各テーブルで勉強ができる
健康安全センターの先生がとても優しくかった
サークルで国際交流センターを利用した
1年生から3年生まで、ゆめで活動し、充実していたから
健康安全センターでは自分の体調を気にくださり、助かり命拾いした
図書館での学習スペースが良かった
基礎教育センターにはよく行き、勉強の幅を広げてもらえてよかった
- ③の理由 もっと利用したかった
図書館の出入りに学生証が必要なため、入りづらい
- ⑤の理由 分からない
つまらなそう
あまり時間がなかった

健康栄養学科

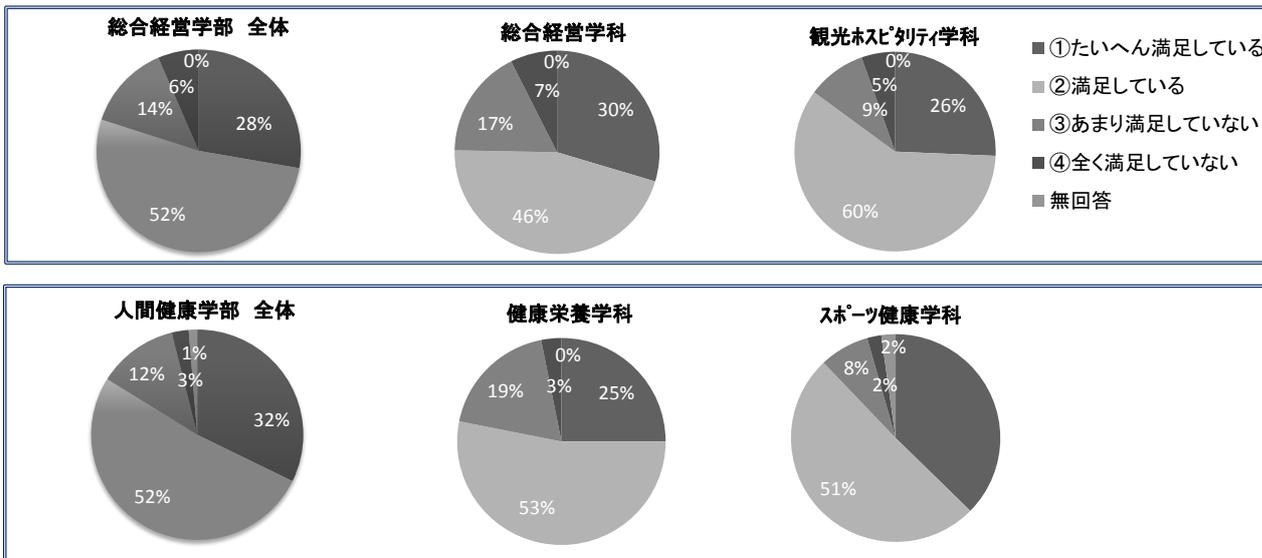
- ①の理由 図書館の個人スペースは勉強するのに大変よかった
図書館がとても勉強しやすい環境でよかった 他1名
ゆめの活動を通して、地域の人々と交流できよかった
脇本さん
- ②の理由 ゆめの活動に一時期参加していたが、やる気のある学生とない学生が混在していて、いつも頑張っている人がかわいそうだった
図書館は勉強しやすい雰囲気作りができてよかった
- ③の理由 活動が大変だった
健康安全センターで以前過呼吸になり利用したが、他の人の相談をしていて、すぐに対応してもらえず辛かった(座って待つと言われた)
先に来た順番では無く、体調が悪い人を優先してほしかった
- ④の理由 用がなかったから
- ⑤の理由 時間がなく、利用できなかった

スポーツ健康学科

- ①の理由 色々な先生方、職員の方が丁寧に接してくれた 他1名
やりたかったことをサポートしてもらえた
海外研修が良い経験になった
すぐ対応してくれた
- ②の理由 基礎教育センターには、一般常識を分かるように教えていただいた
あまり使う機会がなかった
2年の時に海外研修で国際交流センターにお世話になったから
海外に行った時、サポートしてもらった
基礎教育センターは一度入ってしまえば気楽だが、一度入るまでに勇気がある(もっとオープンな場所にしてほしい)
「ゆめ」からボランティアにも参加させてもらい良かった
自分たちが学生生活を送るにあたり、とても環境が整っていました
インフルエンザの時にお世話になりました
基礎教育センターでは就職試験前にお世話になりました
基礎教育センターは本当に良い
基礎教育センターは数学でわからないことを理解するまで教えてもらった
- ③の理由 あまり利用する機会がなかった
- ⑤の理由 利用したことがないため、わからない
特に気にしていなかった
利用する機会がなかった

質問15. あなたは生協のファーストホール、カフェテリア、購買に満足しましたか、満足できませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						人間健康学部						合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①たいへん満足している	21	3	24	13	6	19	43	1	15	16	16	18	34	50
②満足している	27	10	37	25	19	44	81	6	28	34	25	21	46	80
③あまり満足していない	9	5	14	5	2	7	21	3	9	12	3	4	7	19
④全く満足していない	5	1	6	3	1	4	10	1	1	2	2	0	2	4
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 美味しいものを提供していただいた 他3名
 安くて便利だから
 安くてまあまあ美味しい
 安い
 4年間を過ごして多く利用して不満がないので良かった
 必要な物はあった
 学食は安いのに量もたくさん食べれるから満足できた
 おばちゃんが優しくかった
 みんな良い人達だった
 品がよかった
 学食もお弁当も美味しかった
- ②の理由 品揃えがちょうど良かった
 満足している
 とても便利だった
 良く利用した。不満はない
 品数も多く、学生の大きな助けになっていたと思う
 友人達と一緒に食事ができて楽しかった
 何度も利用したのでとても良かったが、少し狭く感じた
 もう少し安いと良い
 空き時間の待機場所として利用できた
 低価格でお昼が食べられる
 教育学部が増えたので、もう少し広げたほうが良いと思う
 もうちょっと商品の種類がほしかった
 席をもう少し増やして欲しい
 いつもおいしい学食だった。もう少し料理のレパートリーが欲しかった
 教育学部ができて利用者が増えて食堂がいっぱいになってしまい、利用できなかった。でも品揃えは増えたと思う
 スタッフの方が優しくかったので、行くのが楽しみでした。食堂は席が足りず、食べるのが遅くなり慌てて食べたこともあるので、改善して欲しいです
- ③の理由 生協の購買の態度が少し良くない
 高い(学食)
 生協の購買が狭い 他1名
 狭い
 弁当のコスパが悪いと思った
 もう少し安いと助かる 他1名
 弁当が少なくて高い
 味がおいしくない 他1名
 購買で買ったグミ、チョコが溶けてくっついていてからはあまり買うことはなくなった
 スペースがもっと広がると良い
 少し高い
- ④の理由 生協の値段が高く、味がおいしくない
 味の質
 食べる席が少なすぎる。カップラーメンの品数が少ない。食堂のメニューがいつも同じ。お肉が脂ばかり。うどんはおいしい

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 皆さん接しやすい
品揃えがよかったです 他1名
美味しかったです
生協、フォレストを広げてほしい
安くて美味しい
安かった
生協で美味しいものをたくさん買った
便利だった
通常営業時間に生協に行っても嫌な顔せず、買い物させてもらえて助かった
- ②の理由 様々な面で利用できたから
特に利用していて不満はなかった
食堂の料理はとでも美味しいというわけではなかったが、値段相応という感じであった
よく食べに行かせてもらった
通い場として良い
顔を覚えてくれて話しかけてくれたりした
生協でいろいろ買ったから
買い物が充実していたが、量が少なかった
コーヒーメーカーがあると良い
美味しかった 他1名
お昼等に利用した
利用しなかったが、学生が沢山いたから
品揃え(食べ物)がもっとあると更に嬉しい
置けるなら、たばこが欲しかった
充実していて良かった
文具等も販売していて助かった
- ③の理由 学食がちょっと高い
ご飯高い。あまり美味しくない
商品を充実させてほしい
狭い
営業時間が短い
フォレスト1Fの販売が狭い

- ④の理由 高すぎる

健康栄養学科

- ①の理由 学食のお味噌汁はとでも美味しかった
社のドーナツが大変美味しかった
どの商品も美味しかったため
いつも元気に接してくれた
イベントもたまに行っていて、ほぼ毎日利用していた
- ②の理由 利用しやすかった
いつも食事を提供していただき、ありがとうございました
メニューをもう少し充実させてほしい
色々あったのはよかった
販売時間が9時から18時半くらいまでなど、長いほうが良かった
食堂の座席数を増やしてほしい
1限から授業がある時がほとんどなので、1限前に購買を開けてほしい 他1名
フォレストの利用時間を増やしてほしい
- ③の理由 お弁当が高い
生協は5限終わりまでやってほしい
短大側の学食のメニューは豊富だったが、6号館側のメニューは種類や栄養バランスの面に満足できなかった
種類が少ない
開店が遅く、閉店が早い
営業時間を長くしてほしい
- ④の理由 9時から5間の終わりまで生協を開けてほしい。
生協の中が狭すぎる

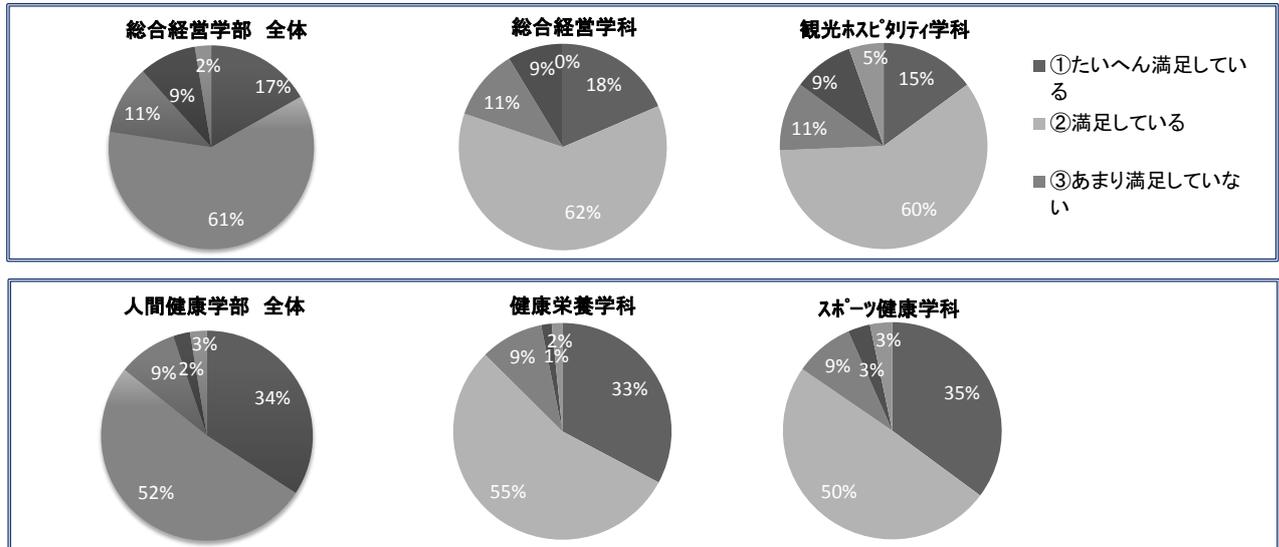
スポーツ健康学科

- ①の理由 親切に対応いただいた
朝早くに開けてくれる
色々な品があって満足した
昼食に利用していた。美味しかった
安い、おいしい 他1名
席が少し足りない
種類が豊富だった
美味しいものを提供してくれた 他1名
フォレストのメニュー数が少ない
レジの皆さんがとっても優しくかったです
店員さんが優しくかったです
- ②の理由 座席が少ない 他1名
生協が狭い
学部の新設にあわせ、これらも大きくしてもらいたかった
購買が広いとさらによい
よく利用していた
フォレストホールが広かったから
他の大学に比べると高い
近くにあって便利だった
美味しく満足しているが、昼食時座れなくて辛い
お昼はもう少し価格が安いとありがたかった
品ぞろえが豊富だから 他1名
広くして欲しい
営業時間を延ばしてほしい
美味しい 他1名
もう少しメニューが増えたらよい
充実していたので
生協の品数が多い。カップラーメンが多い
値段などは良いが、狭かったり席が足りないことが多い
- ③の理由 高い 他1名
少し値段が高い
時間が短くて不便と感じるが多かった 他1名
狭い
学食の種類が少ない
1学期の学食が酷すぎた。メニューが減って辛かった
- ④の理由 他大学に比べ、不便な点が多く規模も小さい
他に比べて高い

質問18. あなたは本学の行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、花火大会)についてどのように感じましたか。

その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	総合経営学部						人間健康学部							
	総合経営			観光ホスピタリティ			合計	健康栄養			スポーツ健康			合計
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	13	2	15	7	4	11	26	4	17	21	17	15	32	53
②満足している	37	13	50	26	18	44	94	6	29	35	21	24	45	80
③あまり満足していない	6	3	9	3	5	8	17	0	6	6	5	3	8	14
④全く満足していない	6	1	7	7	0	7	14	1	0	1	2	1	3	3
無回答	0	0	0	3	1	4	4	0	1	1	2	1	3	4



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 みんな楽しんでいた
思い出です
楽しかった 他3名
季節の行事を年間を通して楽しめたから
ほとんど運営の立場だったが、自分も楽しめた
学生が主体となって作ることが出来た
池崎を見れて良かった
充実していた
スポーツをやる機会がなかったのが良かった
- ②の理由 楽しかった 他6名
とても良かった 他3名
特に参加していませんが、活気があったと思う
普段会えない芸能人に会えたのは嬉しかった
学際的时间の割り当てがおかしい
大学祭はとても楽しかったので満足
良く計画してくれていたと思う
少し参加してとても楽しかった
もっといいお金の使い道があると思った。体育大会などは同じことのくり返しでもっと考えてほしい
学生生活がより楽しくなった
段取りが良いとさらに良かった
前夜祭等のゲストは毎年すごい
- ③の理由 連絡が遅い
普通
大学祭以外あまり参加していないため
参加までが少し面倒(体育大会)
- ④の理由 参加していない 他1名
イベントごとの規模が小さい
どのイベントもあまり参加しなかった
学友会などの主催者身内感がすごかった
大人数でのイベントが苦手だから

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 楽しかった
学祭はとても楽しい
学祭は有名人が来ておもしろい 他1名
- ②の理由 参加回数も少なく、出ていない
学生主体とたっている割には教職員等から指導が入り、学生との板ばさみになり難儀した
色々なゲストを呼んでおもしろかった
盛り上げることができた
多数で参加できる
参加しやすく、楽しかった 他1名
体育大会が学科などであったほしかった
良かったと思う
楽しい行事だが、興味ある人ない人の差が激しい
学生時代の思い出を作れた
あまり参加しなかったが、友人が楽しそうだったから
大学祭は大学生活で思い出に残っているイベントだから
参加人数がもっと増えれば楽しくなると思う。アンケートなどにした、希望が多いイベントを重点的にやれば良い
小規模ながらお金をかけて頑張っている
友達と思い出が作れた
- ③の理由 参加する人が決まっていたりしたので、もっと誰でも参加できるような取り組みが必要と感じているため
出る機会が少なかった 他3名
校友会の人たちだけの楽しみという感じがしてしまう
- ④の理由 花火等、前もって騒がしくなるなら回覧板回して告知してほしい
一部の人のみ
参加していない 他1名
日程出れない日が多い

健康栄養学科

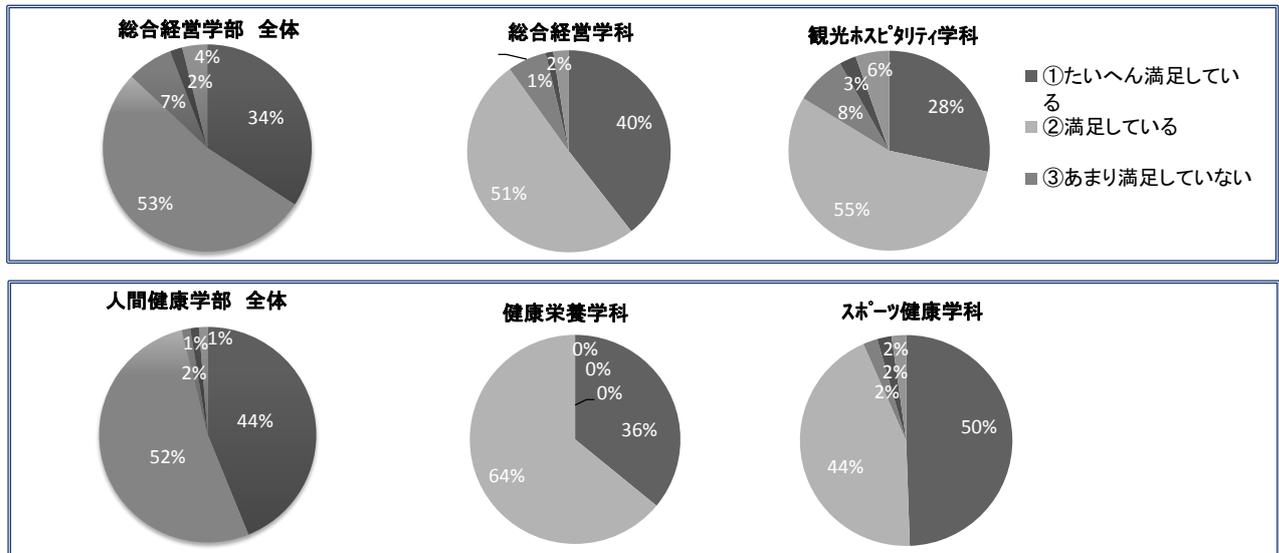
- ①の理由 とにかく楽しかった 他2名
イベントが多く、楽しめた。思い出を作ることができた
一つ一つのイベントが楽しめるように考えてくれていて、仲間と楽しめた
他学科の生徒と交流でき、楽しかった
- ②の理由 楽しませていただいた
参加者が少ない気もするが、イベント自体は良かった
学年によっては運営側の自己満足になっている時もあるから
とても素敵な思い出ができた
- ③の理由 お笑い芸人さんは毎年充実しているが、それ以外がいまいち
参加していないものも多いため

スポーツ健康学科

- ①の理由 おもしろい行事がたくさんある
校友会側として企画を立てたりもしたが、学生が楽しめるものだった
色々なイベントを企画してくれてとても良かった
参加・企画、どちらも楽しかった
色々な人と関われた
とても楽しかった 他3名
企画できてよかった
他学部と話をできてよかった 他1名
どの行事も楽しいものだった
大学祭が楽しかった
学生の良い思い出になった
景品がよかった
- ②の理由 校友会などが頑張ってくれていた
楽しかった 他2名
みんなが楽しめる行事だった 他1名
ほとんどが自由であったため、楽しめた
仲良くなれる機会が多いことはいいことだ 他1名
盛り上がって良かったと思う
体育大会のグループが、全員仲の良い人達ばかりで嫌だった
花火が良かった 他1名
毎回様々なものがあり、楽しめた
- ③の理由 参加をあまりしていない 他2名
一部、お金の無駄使いに感じるものがあった
興味がなかったから
一般学生はただ見ているだけという場面が多かった(前後夜祭)
- ④の理由 お金の無駄
1年の時参加させてもらったが、雰囲気が無理だった

質問19. あなたは卒業後の進路に満足していますか、満足していませんか。

	総合経営学部						合計	人間健康学部						合計
	総合経営			観光ホスピタリティ				健康栄養			スポーツ健康			
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	23	9	32	13	8	21	53	3	20	23	18	27	45	68
②満足している	32	9	41	27	14	41	82	8	33	41	25	15	40	81
③あまり満足していない	4	1	5	2	4	6	11	0	0	0	1	1	2	2
④全く満足していない	1	0	1	2	0	2	3	0	0	0	2	0	2	2
無回答	2	0	2	2	2	4	6	0	0	0	1	1	2	2



【理由等】

総合経営学科

- ①の理由 新たな挑戦に期待しか感じないから
 希望通りだったから 他1名
 自分の力でしっかりとつかんだので自信に繋がったし、明確な覚悟や意識を持っているから
 地元企業で福利厚生がしっかりとしているので満足しています
 就活などでしっかりサポートしていただいたので、希望する進路に進める
 自分では良いところにいった
 第一希望の所に就職できたから 他1名
 自分の進みたい所に行けた 他2名
 よい進路になった
 キャリアセンターに支援していただき、自分の良い所に進めた
 販売系の仕事に就けて良かったと思う
 満足のいく就活ができた
 思っていたよりも充実した就活を送れた
 キャリアセンターのサポート等が良く、希望する職の内定をもらえた
- ②の理由 まだ分からないがどうにでもなる
 良い企業に就職できた
 満足しています 他1名
 自分で決めた場所に就職できたから
 行きたい所へ行くことが出来た
 自分の見通しが見える職場に就けたと思う
 やりたい仕事に就けた 他1名
 自分が決めたことだから 他1名
 自分がやってみたいと思う職種だったので
 それなりの規模の会社に行けるため
 そこそこ良い
 自分の希望通りになったため 他1名
 自分のやりたいことができるから。そこから成果をあげることができればさらに満足
 そこそこの所に行けた
 自分に納得がいく仕事が見つかり、満足している
 まだ自分がどのように働いていくか分からないが、現時点では満足している
 就職先が決められて良かった
 地元の明るい企業に就けた
- ③の理由 就職活動が思った以上に上手くいかなかった
- ④の理由 まだ未定

観光ホスピタリティ学科

- ①の理由 ゼミの先生やキャリアセンターの人たちと相談して決めた道に満足している
自分のやりたいこと、夢に実現に近づけるため
第一希望の進路に進めたので良かったです 他1名
不安もあるが、がんばろうと思える
良い所にいける
就職できたから
就きたい会社だったから
本当にやりたいと思える仕事に出会い、入社が決まったので感謝している
学生生活の中で感じたことを反映させられると思う
- ②の理由 学びたいところで働ける
就活を始めた時期が遅かったが、最終的に満足できる進路に進めた
もう少し良い所に行けたと思った
勢いで決めた部分もあるので、これから満足できるようにしていきたい
良い進路へ進めたと自負している
キャリアセンターの人がよくしてくれた
進路相談をたくさんやってくれた
これからのことだからよく分からない
今のところ、良い会社そうだから
決まったから
周りと相談して納得した結果だから
地元で就職できました
就活を頑張れたことは感謝していますが、3年の時からもう少し自らが準備していればよかったと思う反省の気持ちもあります
- ③の理由 営業には就けたが、希望する業界ではない
自分のやりたいことかどうか分からない

健康栄養学科

- ①の理由 学んできた事を活かそうだから
自分の夢が叶った
第一志望に就職できた 他2名
希望していた会社に入社できた。就活もとても意味のあるものになった
自分が目標としてきた職業に就くことができるから
希望職種で地元就職できたため
希望していた会社に就けたため 他3名
自分の資格がいかせるので
- ②の理由 自分のやりたい事ができそうだから
社会人という不安と、国試に合格するかという心配
仕事があるという点で

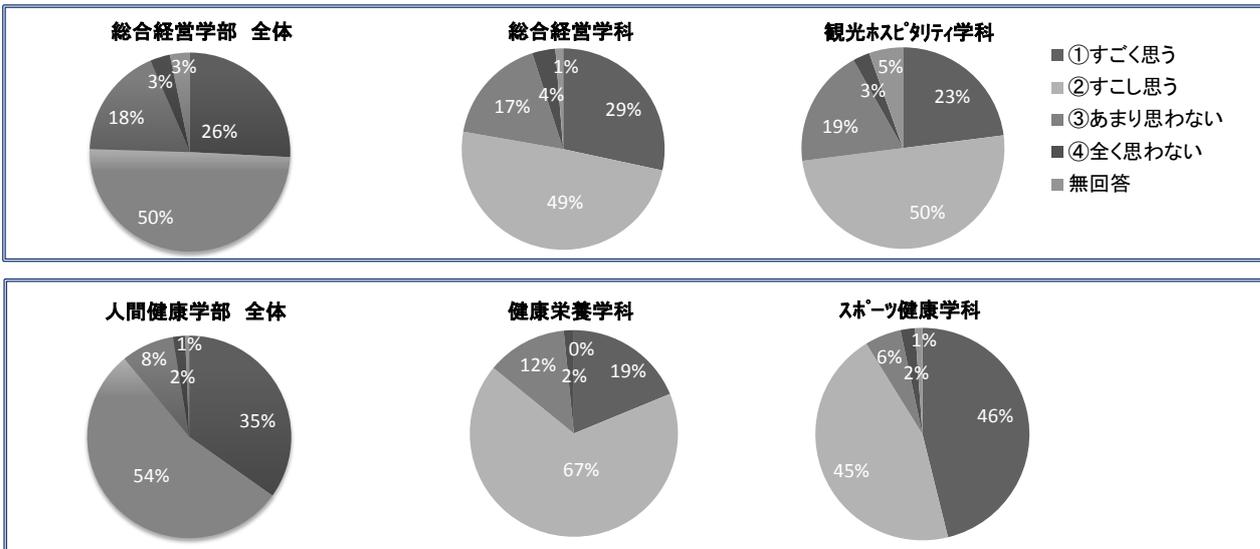
スポーツ健康学科

- ①の理由 自分の興味のある職に就けた
自分の意思だから 他1名

自分が就きたい仕事だったから 他5名
入学前から希望していた就職先に就くことができた
県内ではできないと思っていたスポーツを、子供達に教える仕事に就くことができたから
やりたいことが見つかった
自分のやりたいことができるため 他4名
良い所だから
夢を応援してくれる職場です
頑張ります
第一志望にいけた
自分の行きたい進路に決まった
- ②の理由 頑張ります
色々あったがとりあえず就職できたため
やりたいことが見つかった
少し不安がある
不安はあるが、夢実現の為頑張る 他1名
不安もあるけれど、やりたいことができそうなので
給料がいいから
資格を生かせる職場に進めた
大学入学前の夢とは違うが、人のために役に立てると思う
- ③の理由 まだ考え途中のため
- ④の理由 決まっていないので
- 無回答の理由 まだ未定なので

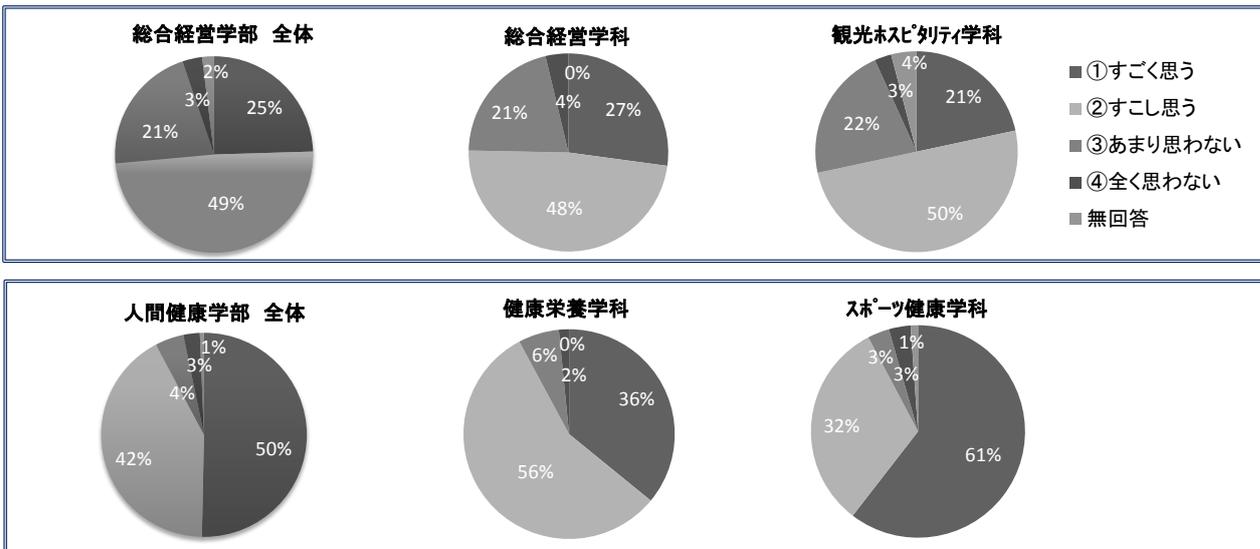
質問20. あなたは「松本大学」を誇りに思えますか。

	総合経営学部						人間健康学部						合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①すごく思う	18	5	23	12	5	17	40	3	9	12	18	24	42	54
②すこし思う	28	12	40	22	15	37	77	5	38	43	21	20	41	84
③あまり思わない	12	2	14	8	6	14	28	3	5	8	5	0	5	5
④全く思わない	3	0	3	2	0	2	5	0	1	1	2	0	2	3
無回答	1	0	1	2	2	4	5	0	0	0	1	0	1	1



質問21. あなたは「所属学部・学科」を誇りに思えますか。

	総合経営学部						人間健康学部						合計	
	総合経営			観光ホスピタリティ			健康栄養			スポーツ健康				
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		
①すごく思う	17	5	22	10	6	16	38	3	20	23	26	29	55	78
②すこし思う	27	12	39	20	17	37	76	7	29	36	14	15	29	65
③あまり思わない	15	2	17	13	3	16	33	1	3	4	3	0	3	7
④全く思わない	3	0	3	2	0	2	5	0	1	1	3	0	3	4
無回答	0	0	0	1	2	3	3	0	0	0	1	0	1	1



質問22. 松本大学をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。(例えば ①こんな授業があったらいい、②こんな制度があったらいい、③こんなところを変えてほしい等、何でも結構です。)

【意見・提案】

総合経営学科

今のままで十分
知名度やステータスにとらわれるのではなく、「自分にとって最も「らしく」いられるには？」ということを考えさせる場所になってほしい
ずるして出席する人をしっかりと注意抑制してほしい
語学教育をもっと手厚くしてほしい(近年のグローバル化が進んでいるから)
1年の時から、上の学年の講義を何個か取ればよいと思う
部活動の種類をもう少し増やしてほしい
駐車場無料化
学食を広げること、味を美味しく安くする
誇りに思える事を、学生一人ひとりに持つことが必要だと思う
転学部、転学科の制限をなくしてほしい。途中で自分の学びたい事が新たに出来た時、いつでもサポートしてほしい
駐車場が高い。教科書をそろえてほしい
喫煙する場所を変えたほうが良いと思う。今の場所だと見栄えが悪い
比較的人数の少ない大学なので、もう少し出来ることがあると思いました
カウンセラーの授業がおもしろかったので、心理学などを充実しても良かったと思う
出席の取り方を一律にしてほしい
他学部との交流の機会を増やしてほしい
ロッカーを借りるのにお金がかかるというのを無料で貸し出してほしい
総経なのに法律の2科目が必修は本当に意味が分からなかった。のわりに経営学の授業が少なかった
差別をなくせば良いのでは
出席点を全ての授業に
塾とかにある、一人で静かに勉強できる学習スペースが欲しい。図書館だとうるさい時がある。
基礎教育センターだと何か聞かなくてはいけなかなと思ってしまう
学部が増えたことにより、建物など設備の使用が増える
就活のフォロー
難易度の高い科目の創設
ワークライフバランスの授業はもっと深く数もあれば良いと思う

観光ホスピタリティ学科

学食をもっとよくしてほしい
安全保障や防衛に関する講義があったほうが良い。
授業時間(開始)が遅いと思う
学生から駐車場代は取らないほうが良いと思う。ただでさえ行きにくい立地にあるのに、
今後は考えると学生証で入れるようにし、行きやすい環境作りに力を入れるべき
ルールや制度をもっと教えてくれれば良いと思う
今のままで良いと感じられる
生協、学食、駐車場をもっと安くしてほしい
信州大学ともっと連携する
社会福祉士だけでなく、精神保健福祉も取りたい
無駄な電気を使いすぎな気がする(夜遅くまでのライトアップ)
駐車券をもっと安く、タダにしてほしい
授業料を安く。教室もきれいに
駐車場を無料にしてほしい
マナー・常識・思いやりがもう少しあればと思う
文化祭とかやったらいいと思う
パソコンの起動が遅い
県内就活が高い分、難しいだろうが県外の就活のサポートを充実させてほしい
同じ学科で仲良くなれる機会があまりなく、大学生活の楽しさに欠けた。勉強のやる気等にも友人関係は重要だと思うので、
コミュニケーションを取る機会をもっと増えれば良いと思う
喫煙所を教室から遠ざけてほしい。全面禁煙もあり
外部の講師による1日限定の授業(今後生活する時に役立つ話)
生協を広くして、学生委員会向けの部屋を作る
化粧室がほしい
自分が「学びたい」と思う気持ちにこたえてくれる方や、応援してくれる方が多かった。それが続くと良いと思う
学生と教員の距離の近さには、良くもあるが、悪い面もとても多いように感じる
定期テストの難易度を高めたり、課題もあっても良かったと思う

健康栄養学科

日曜日も学校が空いていたら嬉しい 他1名
要所要所で融通が利かない。なぜ栄養科にパソコン教室がないのか。栄養くんを使える部屋がほしい
学費の中で、授業で発生するお金が賄えるならお願いしたい
マナーを守る学生でありたい(喫煙やゴミ、駐車など)
他学科の人で、講義の終わるギリギリに来て出席のチェックをしている人がいて、試験も受けていたのが不快だった。
出席チェックの方法と管理を徹底してほしい
学費が高い
上高地線の電車の本数を増やしてもらえるとありがたい
成績優秀者に対し、もっと学費を免除する制度がほしかった
先生方ともっと話せる場所がほしい
全面禁煙してほしい

スポーツ健康学科

駐車場が高すぎる 他2名
部屋の鍵を借りるのが面倒
お酒を売ってほしい
地域の方々ともっと関わられる授業もあっていいのではないか
授業時間をもう少し早めてほしい
体育館の増築、施設を気軽に使えるようになればいい
駐車場を広くしてほしい 他1名
学費に合うサポートが少ない
本人次第な所も多い
駐車場を無料にする 他3名
運動について構造的なものを実践で学べたら良かった
トレ室にある機器の使い方を全部教えてもらえるような講義があれば良かった
トレーナー実習以外のアスリート向けのトレーニング実習の授業を増やすといいと思う
良い教員ばかりで本当に良かった
授業時間を早くしてほしい
もっと他大学との交流を深めた方がよい
現場実習の日数が増えたらもっとためになったと思う
就職支援の仕方において、非常に熱心で良いと思うが、誘導的な部分もあるように思う
十分良い
教養をもっと増やしてほしい
学食をもっと安くしてほしい
図書館でもっと勉強できるスペースがほしい。(会話OK、飲食OKなど分けて・・・)
防災士の資格をとったけど、その後の活動が何もない
学生が一人一人もっと明るく覇気があったほうが良いと思う
515などの後ろの席は狭く、全くスクリーンが見えない
大きい部屋が少ない
取りたい授業があったけど、単位の関係や必須の授業があって取れなかった
学生課に女性職員をもっと増やして欲しい
上高地線の時刻を気遣ってくれると嬉しい
健康学部があるから全面禁煙してほしい。
トレーニング室をOB・OGも利用できるようにしてくれたら嬉しい(日時時間指定でも良いので)
ゼミ室をもっと広くして欲しい。
一つのゼミがずっと場所(パソコン)を使ったりするから、もっと部屋が欲しい

質問23. 所属学部・学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。(例えば ①こんな授業があったらいい、②こんな制度があったらいい
③こんなところを変えてほしい等、何でも結構です。)

【意見・提案】

総合経営学科

今のままで十分
個人事業主や企業家などの知識を学べる講義があればいいと思う
授業を受ける態度の改善が必要だと思う
基礎だけでなく発展した授業科目を多くするべき
経営学科なので、実践的な授業があっても良いと思う
経営学部なのだから、起業のための授業があってもいい
もう少し学生に勉強をさせる雰囲気があると良いと思う
他学部履修の単位数を増やす
特に授業に不満はなかった
教室をきれいに使う心がけ。5号館は色々な人が出入りするので特に気になる
産業カウンセラーの筆記対策
卒論の書き方、テーマの考え方講座をやしてほしい
もう少し課外活動の種類を増やしてほしい

観光ホスピタリティ学科

もっとアウトキャンパスがあってもよいと思った
もっと学科ならではの授業をした方がよいと思う
現状でもよいと思います 他2名
もっとニッチな授業があっても良いと思う。一部の教員に負担を掛けすぎていると思う
観光にちなんだ学習ができるようにすべき
学科本来のことを学べたのでよかった
単位が足りない4年生にも好きな授業を受けられるようにしてほしい
英語科目の強化(観光)
1年の頃から教授との関わりのある授業を増やしてほしい
偏差値を上げる

健康栄養学科

栄養科が多すぎる6号館に栄養くんの入ったパソコンを入れてほしい 他2名
スポーツ学科、栄養科が互いの専門科目を学ぶ機会がほしい
もう少し栄養科が自習できるスペースがほしい 他1名
国試に合わせた授業を増やしてほしい
国試対策について、模試の誤文訂正が必須であるが、勉強の仕方は人それぞれである。実際誤文訂正がだたの作業になってしまうことがあった。
そのため、個人のやり方をもっと尊重すべきだと感じた
それぞれの授業で課題が出され、週に何枚もレポートをやらなくてはならない時もあれば、全くレポートがない時もあった。
教員同士話し合っって分散させてほしい
6号館のパソコンの起動を早くしてほしい
管理栄養士の国試対策で、各模試の解説を行ってほしい。自分で模試の直しをするだけでは適当にやってしまうひとがいると思うので、少しでもみにつけさせるために先生の解説を聞きたい

スポーツ健康学科

授業の時間をもう少し早くしてほしい
他大学の体育科のような授業と比較してほしい
24時間使える施設を
このままで良いと思う 他2名
スポ科常に追紙あり
健康運動指導士の授業も大切だが、トレーナー向けの授業も増やしてほしい
スポーツをする機会を増やしてほしい
せっかくある施設をもっと有効活用するべきである
現場実習の場所を複数行きかけた
現場でのスキルを身につけられる授業を増やす
十分良い
テーピングとかの授業があれば良かった
教員採用試験にゆとりを持ってのぞめるような計画
スポ科の野外活動的なものは、仲間が作れるいい場所だったと思います
縦のつながりが持てる機会が増えたらよい
授業時間は最低でも70~90分やってもらえると嬉しかったです
資格を生かせる実技的な講義を増やしてほしい
ゼミ室を作って欲しい→メインにゼミ活動するゼミだけで良い

2. 松商短期大学部卒業予定者アンケート

質問1. あなたの所属についてご記入ください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
卒業予定者数	15	94	109	16	95	111	220
回収数	11	80	91	9	82	91	182
回収率	73.3%	85.1%	83.5%	56.3%	86.3%	82.0%	82.7%

質問2. 授業全般を通して、良かったこと、悪かったこと、感じたことを何でも自由に書いてください。

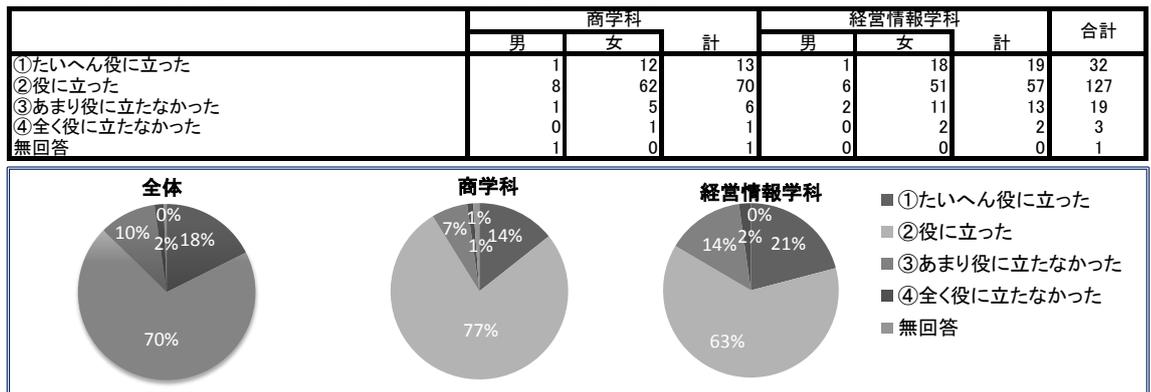
商学科

分かりやすかった。(他4名)
 レポートなどの提出課題を毎週提出していくうちに、自分で考える能力を培うことが出来たと思います。
 色々学べたことや自分の力が身に付いたので、色々な講義を受けてよかったと思う。(他1名)
 高校では学べないことが多くあって楽しかった。(他3名)
 レポート等、課題提出のある授業は内容がとても理解できました。
 自分のやりたいことが自由に選択できて良かった。(他1名)授業も厳しすぎずやることをしっかりやれば評価してくれるのはとてもありがたいです。
 自分の選択した分野を幅広く学べたこと。(他2名)
 教員との距離が近く、気軽に質問などをすることが出来た。(他3名)
 1年生の前期から様々な資格が取れるのはとてもありがたいです。
 メモ力が入学前よりも確実に上がって、パッとメモできるようになった。
 最初パソコンが使えなかったけど、先生方に優しく教えて頂きレポートでもパソコンを使う機会が前より多く出来るようになった。
 資格が沢山取得できた事。(他7名)
 一人一人の先生が分かりやすく丁寧に教えてくれた。
 私語のひどい授業でも先生が注意しなかったり、注意しても止めない人がいた。(他1名)
 役に立つ講義があって良かった。
 授業中の環境(室温・席)も過ごしやすく、落ち着いて勉強できた。
 課題などがたくさんあって良い勉強になったと思う。
 ユニットとかが理解しにくかったので、ゼミなどでサポートして欲しかった。
 全体的に座席指定ではない授業は私語が多く、環境が悪かった。
 指定席の方が集中して取り組めたのでよかった。
 場所によって寒い教室があった。
 成績表にはテストの点数が基準より取れていたのに、講義の担当の先生に伝えても単位がもらえていないことが悪いと思ったので、直していただきたいと強く感じた。
 同じ講義でも担当の先生によって教え方が違い、分かりやすい先生とそうでない先生の差が激しい。分かりやすい先生はプリントなどで難しいところの解き方を配ってくれたりしたけど、逆にそうでない先生は難しいところを1、2回しか説明しなかった。
 課題が少なかった！
 2年後期にも簿記の授業が欲しかった。
 レポートが紙だったり、グレクサだったり講義によって違ったので、できればどちらかに統一して欲しいです。
 就職に役立つ情報が豊富でよかった。(他1名)
 簿記に関しては山添先生の授業が分かりやすかったです。
 キャリアクリエイトが面倒だった。
 レポートや生活面など社会人に向けた準備ができるような授業だった。(他1名)
 専門用語で話す先生がいて分かりづらかった。
 メモをつけさせる授業(マーケティングや現代社会)が面白かったです。
 マーケティングやホスピタリティ、高校より深く簿記を勉強できたので良かった。
 様々な授業で色々な工夫をして教えてくれて分かりやすかった。
 クーラーと暖房を前の席の方も平等に調節して欲しいです。(他1名)
 マイクで話す時はへんな音が一緒に聞こえるので、マイクから離れて話した方が良いです。
 教科書をただ読んでいるだけの授業は理解しづらかった。
 うるさくなく教室が広がった。ただキャリアなどは教室が狭かった。
 ipadが壊れていた。
 121教室、232教室は前の席の方が寒い。
 広かったり人数の多い講義は話している人が多く、うるさかった。
 タブレットの貸し出しはそんなに活用する時もなく、PCの方が良かったです。
 司書課程を1年半とっていましたが、6限の6時半から8時の講義に通い続けるのは大変でした。
 大人数に対して教室が狭いこと。
 暑い日は飲料OKなど臨機応変な対応がよかった。
 90分間のうち途中休憩がある授業は好きだった。
 学生のレベルにあった学習法で分かりやすかった。
 プリントが多いと感じた。

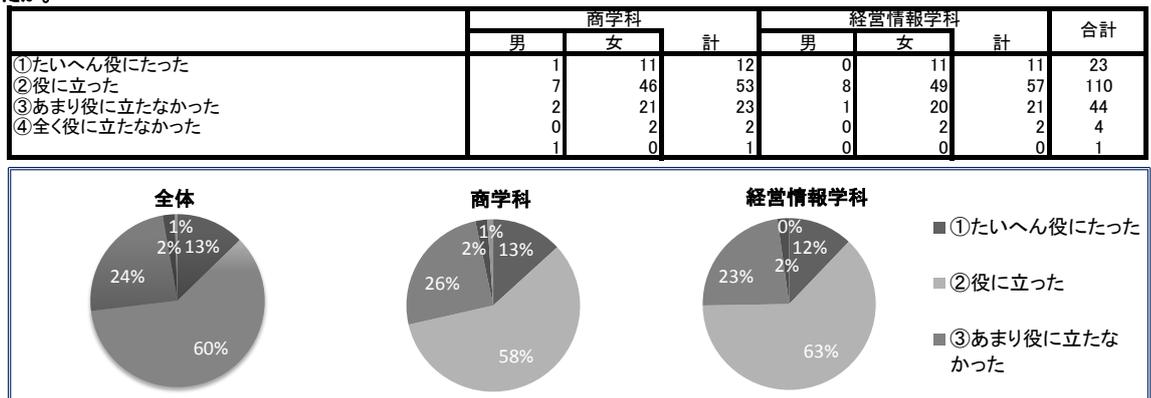
経営情報学科

ユニット制が面倒くさい。自分に必要のない教科をとることが少し大変でした。(他1名)
 基礎教育センターは非常にありがたかったです。もっと公務員試験を目指している人に宣伝すべき。
 ipadを使用した授業により、問題の答えあわせが効率よく出来た。
 授業中静かなときは本当に静かだが、うるさいときはかなりうるさい。
 キャリアクリエイトが春休みにまでやった割に、後半はやることのないような感じがしたので、少なくしてよいと思った。
 楽しい授業が多かった。(他2名)
 レポートの課題方法はいい勉強になった。
 全体的に良い先生が多くて良かった。
 とくに232教室なのですが、冬で前の席になった時がすごく寒かったです。暖房が上について大変でした。(他1名)
 検定に向けて沢山勉強ができ、様々な種類の資格が取れて良かった。(他8名)
 キャリクリの卒業した先輩からのお話は、5・6月に就職先が決まっていた先輩を7・8月に呼んで話を聞いても、「自慢かな？」という感じでした。
 遅い。こちらとしてはもっと早くに動けば・・・という後悔しか残らなかった。
 2年のキャリアクリは少し遅れていると思う。ある程度の人が内定をもらっているのに、「電話対応」とか何も意味がない。もっと早くやるべき。
 工夫されていて分かりやすい授業が多かった。(他1名)
 パワーポイントを使った授業が多く、分かりやすかった。(他1名)
 同じテキストを別の授業で配布することを止めてほしい。
 幅広く学べた。(他2名)
 先生たちに話しかけやすく、質問にも丁寧に答えてくださることが良かったです。(他2名)
 集中して講義を受けやすい環境だった。(他1名)
 図書館やものつくり教室で印刷が無料で、紙を持っていなくてもできたことが助かった。
 真面目にやるときとやらないときがあったので、ちゃんとやっておけば良かったと思うことがありました。
 学びたいものが学べたので良かったです。(他1名)
 夏場、短大生両学科合同の授業の時に暑しい、人口密度が多すぎて具合が悪くなった。
 3学期4学期などの短期間でやる科目は短すぎて、あまり頭に入っていない。
 スキルがたくさん身に付いた。
 講義の割に学費が高い。
 長いようで短い2年間でした。
 先生方が受講票を真剣に読んでくださって嬉しかった。おかげで不安がなくなりました。
 スライドを使っている授業のときにスライドの画面が薄くなって見え辛かったときがありました。ipadで授業の資料が見れるシステムは良いと思います。
 就職のサポートはかなり支えになり、感謝しかないです！でもキャリアクリの授業内容はワンテンポ遅かったかなと思います。
 でも本当に商短に入ってきたかなと思います。ありがとうございました。
 パソコンの速度が遅いことや止まるが多かったりして使いづらかった。
 授業の時にスクリーンを使って説明したり、メモ力を付けることができたので良かったです。
 2年後期の授業が少なかった。もう少し選択肢を広げて欲しかった。
 アクティブラーニングなど自ら課題を見つけて学ぶ授業が、ゼミ以外でもあったら受けてみたかったです。
 レポートやパワーポイントなどあまりやる期間がなかったのもっとやって欲しい。
 自分の可能性が広げられる勉強がいっぱい出来てよかった。
 企業や地域とつながることができるイベントや組織を増やしても良いと思う。
 空調がきくところときかないところがある。
 短大の授業はいろいろな分野を学ぶことからこの学校に入学しました。
 駐車場が教室から遠いのが苦だと思えます。
 司書科目の時間が遅いと思います。2時間近く通学にかかる学生もいるので改善をお願いしたいです。
 レポートが多い授業があったので、もう少し考慮して欲しいと思います。
 早口でしゃべる先生がたまにいるので、気をつけてほしいです。
 思っていたより忙しい時が多かった気がします。
 全体的にプラスになることしかない、良い2年間でした。
 ipadをほとんど使用しなくて紙だったので、ipadをもっと使えばいいと思います。
 受講人数が多い授業で座席指定ではないものときに、騒がしい人がいて迷惑だった。
 マナーや言葉づかいなど沢山学べて良かった。

質問3. 選択必修科目での出席レポートは、学生としてのあなたの能力を伸ばす役に立ちましたか。

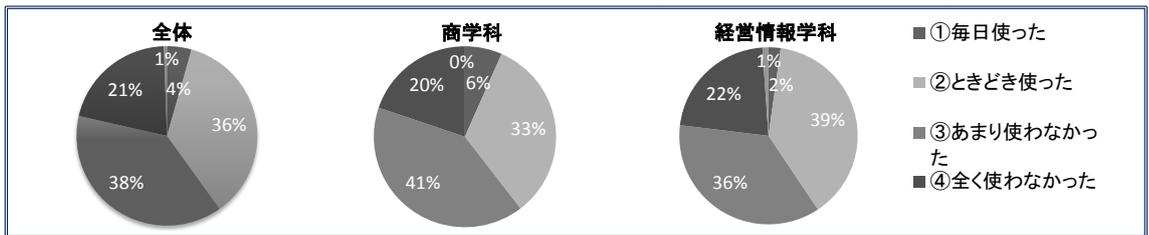


質問4. 1年次前期の「基礎ゼミナール」で学んだ、ノートの取り方、レポートの書き方等の初年次教育は、短大のその他の授業を学ぶときに役立ちましたか。



質問5. 配布されたiPadは学習に利用しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①毎日使った	3	3	6	0	2	2	8
②ときどき使った	4	26	30	5	30	35	65
③あまり使わなかった	3	34	37	3	30	33	70
④全く使わなかった	1	17	18	1	19	20	38
無回答	0	0	0	0	1	1	1



【理由等】

商学科

①の理由

グレクサなど(他2名)
語学学習
調べ物をする時に役に立った。(他2名)
動画視聴。
検定勉強。
授業でよく使った。

②の理由

調べ物をする時。
簿記の勉強のため。(他6名)
1年生のとき良く利用していたが、2年生ではほとんど使用しなかった。(他2名)
ipadを使う授業が少ない。
携帯やPCを使用したため。
英語の学習時に使用した。
メソフィアなどで使った。
家ではよく利用したが、講義ではあまり使わなかった。
専用アプリを使い、進める講義があった。
福祉の授業以外は使わない。
動画を見たり、PDFを見るときは使った。

③の理由

使う講義が少なかった。(他6名)
調べることしかなかった。
充電がすぐなくなるから。
重い。(他3名)
メソフィアしか見ていない。
タブレットが配布されるからPCは用意しなくて良いと言われたが、レポートが多いときはPCの方が良いと思った。
1年生のとき良く利用していたが、2年生ではほとんど使用しなかった。
スマホで良いから。(他2名)

④の理由

グレクサやメソフィアは携帯からみることができた。
学校のwi-fiが繋がらなかったから、ipadが使えなかった。
機会がなかった。(他1名)
スマホで良いから。(他2名)
最初簿記で使用したが、それもそのうちスマホがあればいらないと感じた。
壊れた。

経営情報学科

①の理由

電車の時間が長かったから。
調べ物をする時に、自分のスマホより新しいのでよく使っていました。

②の理由

調べ物をする時。(他1名)
検定前にはよく利用したが、それ以外では使う機会がなかった。
授業で使いました。(他2名)
課題プリントの答えあわせのために使ったりしました。
結局授業でほとんど使わなかった。ipadが紙の教科書代わりになるという話はなんだったのか。
持ち運びが大変だったので、自宅で時々使用した。
学校のwi-fiの電波があまりよくなく、使いづらいことが多かった。
簿記のときだけ使った。(他4名)
グレクサに授業の資料がのる科目数が限られていたため。

③の理由

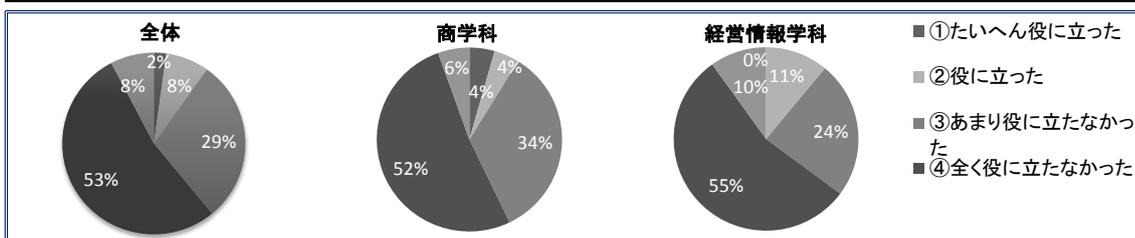
使う講義が少なかった。(他4名)
チャリクリで使う以外はほぼ使用しなかった。
スマホで用事が済むため。(他5名)
もらったものが元々壊れていて使いづらかった。
簿記の授業だけでしか使用しなかった。(他3名)
重かったし、反応が悪い。
ノートPCを持っていたためあまり使わなかった。(他1名)
家ではよく使ったが、学校では持ち歩くのが面倒だった。
wi-fiのある場所ではしか使えなかったし、授業のとき皆が一斉に使うので、入りづらかった。

④の理由

自宅にipadやパソコンがあったし、学校ではスマホを使っていたから。(他3名)
持ち運びはラクだったがパソコンの方が良かった。レポートが書けない。
1年の簿記の授業では使用したが、それ以降は使うことが無かった。
簿記以外では使わず、簿記でも結局紙を見るので使わなくても授業ができた。
学校のwi-fiの電波があまりよくなく、使いづらいことが多かった。
家で使えなかったため。

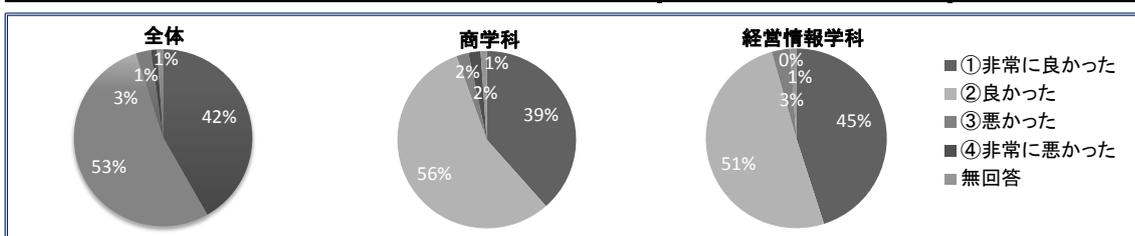
質問6. 携帯メモ手帳「EYE」は学生生活の中で役に立ちましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	1	3	4	0	0	0	4
②役に立った	1	3	4	0	10	10	14
③あまり役に立たなかった	5	26	31	2	20	22	53
④全く役に立たなかった	4	43	47	7	43	50	97
無回答	0	5	5	0	9	9	14



質問7. ゼミナール担当者はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか？

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	6	29	35	6	35	41	76
②良かった	4	47	51	3	43	46	97
③悪かった	0	2	2	0	3	3	5
④非常に悪かった	1	1	2	0	0	0	2
無回答	0	1	1	0	1	1	2



【理由等】

商学科

①の理由

進路に対して丁寧に教えて頂いた。
 親身になって対応してくれて感謝している。(他9名)
 就職等でいろいろアドバイスももらった。(他3名)
 向き合ってくれる。
 優しくかったです。
 悩みを聞いてくれた。
 卒論と一緒に考えてくれたりした。
 毎日のように顔を合わせ、色々話ができ良かったです。

②の理由

何かあって聞きにいった時は必ず答えてくれた。
 良い所もあるが、アドバイスする時にもう少し明確に答えて欲しかった。
 微妙だから。
 あまり相談していないが、優しくよい先生だった。
 就活中はいみせませんが、卒論については教えていただいたのでよかったです。
 学生のことをよく考える人だった。
 就活している時こまめに声を掛けてくださいました。
 可もなく不可もなく、普通。(他1名)
 どちらでもないという回答が合っています。ゼミ授業以外では全くといっていいほど関わらなかったです。
 就活の時相談しやすかった。(他2名)
 ちょうどいい関係性。
 アドバイスをくれたり、資料等を配ってくれた。
 卒論でお世話になった。
 無理なものは無理、できるものはやれとしっかり伝えてくれた。
 優しくかったです。

④の理由

差別がすごいし、自分のことしか考えていない。

経営情報学科

①の理由

常に学生のことを考えてくれた。(他1名)
 とても良いアドバイザーでした。(他5名)
 就職試験のことなど、とても心強かったです。先生がいなければ合格できなかったくらい力になりました。
 相談等にもしっかり耳を傾けてくださり、厳しくも愛のあるアドバイスのおかげで自分自身を奮い立たすことができました。
 就活や卒論のこととか色々聞けた。(他5名)
 気軽に相談でき心強かったです。(他5名)
 話しやすい先生だった。ゼミの時間もいろいろな事を学ぶことができました。
 体調や就活の事で相談に乗ってもらった。
 父親みたいに相談などしやすかった。
 優しくかったです。
 素敵な先生でした。
 就活で力になってくれました。
 山添先生で良かったです。
 就職の時すごく相談にのってもらったから助かりました。

②の理由

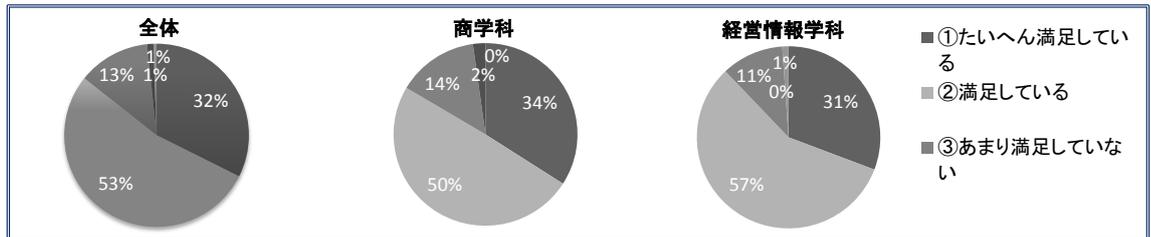
良いアドバイスももらったと思う。
 意見を隠すことはせず、はっきりと無理や大丈夫など言ってくれるので本音を言いやすかった。
 卒論など相談に乗っていただきました。
 どんなささいなことでも相談にのってもらい、とても助かったから。
 就職活動の時にお世話になりました。

③の理由

無関心な感じてした。

質問8. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・情報センター・総務課等があり、事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただいています。皆さんにとって事務職員の対応はどうか。

	商学科			計	経営情報学科			合計
	男	女	計		男	女	計	
①たいへん満足している	3	28	31	2	26	28	59	
②満足している	5	40	45	4	48	52	97	
③あまり満足していない	3	10	13	3	7	10	23	
④全く満足していない	0	2	2	0	0	0	2	
無回答	0	0	0	0	1	1	1	



【理由等】

商学科

①の理由

困ったときに親身になって考えてもらえたから。(他5名)
特にキャリアセンターには履歴書の添削、面接練習などして頂いたり、内定したときもとても喜んでくださいました。
特にキャリアセンターはサポートしてくれた。(他2名)
丁寧な説明と日々のあいさつが大変嬉しかったです。(他4名)
役員をした関係で学生課によく行きましたが、大変良くして下さいました。

②の理由

とても丁寧に対応してもらえた。(他1名)
どちらかというと満足しているが、気持ちの良い対応をして下さる職員さんもありましたが、口が悪く馴れ馴れしかった職員さんもいてそのときは不快でした。
わざわざ周囲に聞こえるくらいの大声で注意されたことがあった。
全体的に良かったが、たまに冷たい感じがかった。
一見怖い

③の理由

キャリアセンターはとても親切に対応してくれた。
学生課は対応があまりよくなかった。(他1名)
適当なところがあった。
たまに怖い先生がいた。優しく説明してほしい。
忙しいので話しかけづらい。

④の理由

学生課・情報センターに行っても冷たくて嫌だった。対応が適当である。
雪で運休して行けなかったのに、「来れませんか？」と遠い所に住んでいるのに聞いてきた。

経営情報学科

①の理由

一人一人にきちんと対応されており、抵抗無く話すことができた。
雑談したりフレンドリーに話して下さったので、安心感がありました。何かあったら助けてくれる人がいてくれると実感でき、不安なく学生生活を送れました。
学生課の方には奨学金のことで分からない所を丁寧に教えてもらった。
分かりやすく対応して下さった。
学生課では学割をとるときに、キャリアセンターでは就職活動中に親切に対応して下さった。
良い方たちはばかりでした。(他1名)
悩みや不安など聞いてくれました。
何度も行くと顔を覚えてもらい嬉しかった。

②の理由

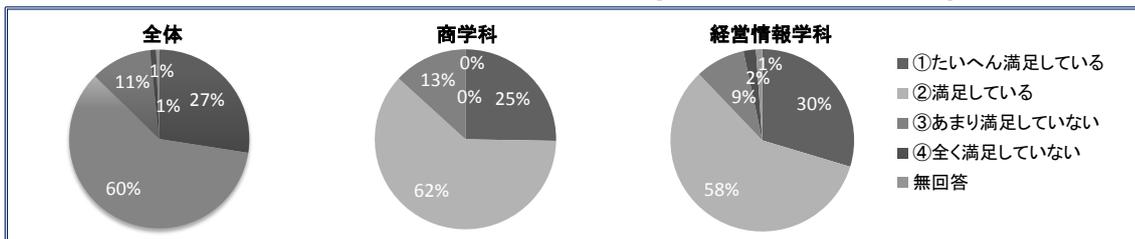
親切に対応してくれました。(他5名)
対応が早くて助かりました。
利用の機会が少なく、良く分からない。
満足はしていますが、たまに少し冷たい方がいます。
就職活動の時は、キャリアセンターのしらさわ先生にすごくお世話になりました。他の先生方の対応は良いと思います。
たまに上から目線で、それって嫌だと思っていた。
サポートの点ではすごくお世話になりました。対応については良い所と悪い所両方あります。
キャリアセンターの方にはすごくお世話になりました。(他1名)
就職で履歴書の書き方がありがたかった。
就活の時などお世話になりました。
たまに不機嫌な方もいましたが、丁寧に話を聞いて下さったので満足です。
場所によっては少し声がかけづらいところがありました。

③の理由

親切なところもあったが、冷たくされてもう行きたくないと思ったところがあった。
全体的に良かったが一人の職員が話を理解してくれず、大変苦労した。
学生課の一部の対応が良くなかったから。
キャリアセンター、卒業生からの情報ばかりだが、職員が独自に調べた情報とかはないのでしょうか。

質問9. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、体育館、教室、グラウンド、駐車場、7号館1階コモンルーム等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望などお気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	4	19	23	3	24	27	50
②満足している	6	50	56	6	47	53	109
③あまり満足していない	1	11	12	0	8	8	20
④全く満足していない	0	0	0	0	2	2	2
無回答	0	0	0	0	1	1	1



【理由等】

商学科

①の理由

設備が充実していて良かった。(他6名)
PC教室はとても満足している。課題やレポートの作成の時に役に立った。(他2名)
コモンルームには空きコマのとき利用している。(他1名)

②の理由

大学とは違い、少し古風な感じがして良いと思う。
人が多すぎます。
スポーツジムの初回の手続きが、期間が決まっていることを知らず使えなかった。
冷暖房が教室内の座る場所によって異なるのが気になったけど、その他は良かった。
両面印刷の時、うまくいかないコピー機があつて困った。
パソコンの数と机の数が足りなかった。
PCの調子が悪い時があつた。
教室は新たにテレビがついて見やすくなった。
学生証を忘れるとPC室を使うとき大変だった。
MOSが図書館のPCには入ってなかったのであればよりよいとおもう。(他1名)

③の理由

インターネット環境が良くないと感じた。
駐車場が遠すぎる。
wi-fiつなげると逆に重くなった。
PC教室も動作が重くて使いづらいときがあつた。(他3名)
駐車場が少ない。
寒い。
キーボードの見直しもして欲しい。
駐車料金が高い。
121、232教室の前のほうが寒い。(他1名)
コモンルーム狭い。
教室や廊下が寒い。(他1名)

経営情報学科

①の理由

体育館がきれい。
高校とは違い恵まれた環境で自分自身を成長させることができた。
設備が充実していて良かった。
コンピュータ室は自主学習としても利用させていただいたので、とても満足しています。(他1名)
教室やコモンルームは席数が十分にあり、不満はなかった。
一部の教室のスライドが見えづらい時があつた。
たまたまキーボードが何かの汚れで汚い時があり、きれいにしてほしい。
何不自由なく使えた。(他1名)

②の理由

駐車場が無料だとありがたかった。
パソコン室でもコピーができるようにしてほしい。
あまり利用していない。
ときどき机やイスが揺れるものがあった。
PCの起動が遅い教室があり、少し不便だった。(他2名)
コモンルームの机が汚れているときがあつた。
ものづくり教室や1号館ロビーのPCは授業中でも確実に使えたのでありがたかった。
コンピュータが教室や日によってとても動きが遅かったり、重かったりして講義に支障をきたしたりしたので。
PC室を利用することが多かった。
駐車場が広くてありがたかった。
たまたま机が足りないと感じた。(お昼時)
PC教室とても便利で利用しましたが、入口にはってある利用状況で確認しても中の状況が全く見えないので、本当に入ってよいのか不安な時があつた。
みんなで共有するスペースがあることは良いと思ったから。
2号館の教室が寒いときがある。
第2駐車場から出る時、フェンスがあるため車がきているか見えにくい。
駐車場は短大側にも作って欲しい。(他1名)
コモンルームはずごく臭い気がします。
冷暖房の改善があれば良いと思います。

③の理由

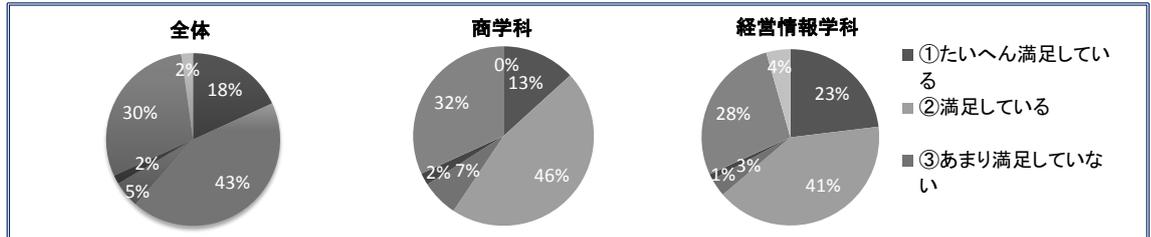
駐車場が遠い。(他1名)
駐車場が高かった。
駐車場のゲートから混んでいるときは学校の前の道路も全て渋滞しているが、何とかならないのか。
冬が寒い。(他1名)
パソコンの調子があまり良くない。(他1名)
wi-fiの環境が悪い。(他1名)

④の理由

パソコンの動作が遅い。

質問10. あなたは各サポートセンター(基礎教育センター、国際交流センター、地域づくり考房『ゆめ』、図書館、健康安全センター等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	2	10	12	3	18	21	33
②満足している	5	37	42	2	35	37	79
③あまり満足していない	1	5	6	0	3	3	9
④全く満足していない	0	2	2	0	1	1	3
⑤利用していない	3	26	29	2	23	25	54
無回答	0	0	0	2	2	4	4



【理由等】

商学科

①の理由

図書館はレファレンスコーナーがしっかりしていて、とても満足している。
 図書館の職員の方はとても優しかった。
 基礎教育センターの先生方にはとてもお世話になりました。(他1名)
 とても丁寧に接してくださった。
 基礎教育センターで朝の短時間毎日勉強できるのはすごく良かった。

②の理由

図書館が雰囲気良かった。(他3名)
 基礎教育センターの先生方に、勉強以外の文章構成や言葉使いを的確に直してくださり助かった。
 短期留学のときに国際交流センターで話をたくさん聞いた。
 基礎教育センターに行ったら、分かりやすく教えてくれた。(他3名)
 ニュース検定のときに役に立つことを教えてもらって良かった。
 静かな場所で勉強がしたい、資料を探したい、本を読みたい時によく利用した。
 図書館は個別の机があり、集中しやすかった。
 気軽に立ち寄りやすく、相談もしやすかった。

③の理由

利用のしかたが分からない。
 保健の女性是不親切だった。
 「ゆめ」はよく分からなかった。
 図書館以外は利用しにくい雰囲気があった。

⑤の理由

機会がない。(他3名)
 興味がない。

経営情報学科

①の理由

図書館が利用しやすくてとくに良かった。
 基礎教育センターにはとても満足している。公務員対策として通いましたが、先生方全員でサポートして下さるので行ってよかったです。もっとアピールすべき。
 話を聞いて下さり、一緒に活動したりできてとてもうれしかった。
 図書館では図書のほかにも、DVDやPCも利用できたから。
 基礎教育センターにはお世話になりました。(他1名)
 勉強させていただきました。日野先生ありがとうございます。
 勉強以上に得られるものや想いがたくさんありました。素晴らしい施設だと思います。
 図書館が寒いです。

②の理由

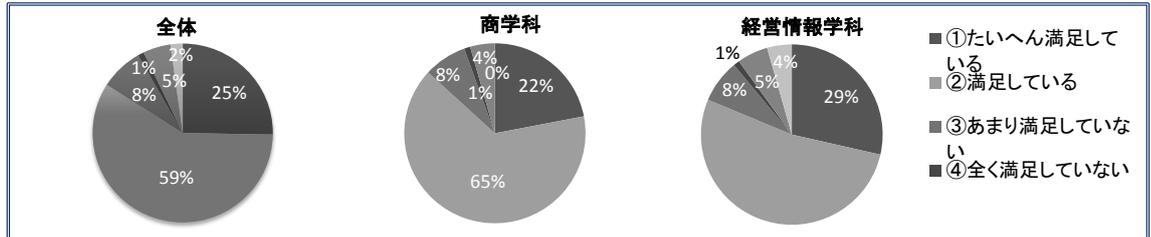
図書館は過ごしやすい空間だった。
 話しやすい人が多く、安心しました。
 図書館で映画が観れて良かったです。(他2名)
 図書館は自主学習で、とても集中できました。
 空き時間によく行っていた。(他1名)
 健康安全センターの先生におすすめの病院を教えてもらった。
 基礎教育センターにしか行っていませんが、丁寧に分からない所を教えてくださいました。
 図書館には特にお世話になりました。ただNDCの所蔵を増やして欲しいです。
 図書館は飲食できるスペースがあって良いと思います。

③の理由

図書館に小説が少ない。

質問11. あなたは生協のフォレストホール、ラウンジ、購買、ミニショップに満足しましたか。満足しませんでしたか。
その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	19	20	3	23	26	46
②満足している	7	52	59	5	43	48	107
③あまり満足していない	2	5	7	0	7	7	14
④全く満足していない	0	1	1	0	1	1	2
⑤利用していない	1	3	4	0	5	5	9
無回答	0	0	0	1	3	4	4



【理由等】

商学科

①の理由

ドーナツが100円均一で買ったのはとても良かった。
ラウンジの購買は値段も安くメニューも豊富でした。
購買をよく利用した。ミニショップの品揃えを増やしてほしい。
種類がたくさんあって良かった。
美味しかった。(他1名)
店員さんも優しい方ばかりだった。
家計簿をつけていたときは生協でもレシートが欲しいと思った。
品ぞろえが豊富。(他1名)

②の理由

営業時間が短い。
少し高いです。
イベントがあって良かった。
店員さんが良い人たちだった。
大学側の店員さんは少し対応が雑だった。
便利だった。(他1名)
美味しい。
7号館の開店時間を早めにしてほしい。フォレストと同じ営業時間が良いと思う。
フォレストとコモンルームと生協に置いてある商品が違う。
ミニショップはもう少し品物が欲しい。
7号館の生協の通路が狭いので少し広げて欲しい。
できればsuicaが使えると良い。

③の理由

短大から生協が遠い。
ミニショップが早く閉まってしまう。(他1名)
営業時間が短い。(他1名)
お昼は売り切れが多い。

④の理由

商品が少ないし、店も小さい。

経営情報学科

①の理由

生協にはいろいろあってよかった。
学食のメニューや購買の販売物がとても多く充実していた。
価格もリーズナブルでとてもよかった。(他1名)
学食はとても美味しかった。
もう少し値段を安くして欲しい。(他1名)
履歴書が高いと思います。
欲しい時にすぐ買って良かった。

②の理由

ちょっと狭いかなと思った。
お昼は良く利用しました。(他2名)
7号館はおにぎりなど食べ物が少ないときがあった。
10時30分くらいからフォレストホールの販売も始まって欲しい。
たまにくるドーナツ屋さんのドーナツが美味しかった。
あまり利用していないが、生協は少し値段が高いように感じた。
短大の購買の時間をもう少し長くしてほしい。
中華まんがないことが多くて悲しかった。
おなが空いた時に助かった。
文具が売っているので利用しやすかった。
セールが良かった。
生協の購買の方が少し冷たい対応で怖かったです。

③の理由

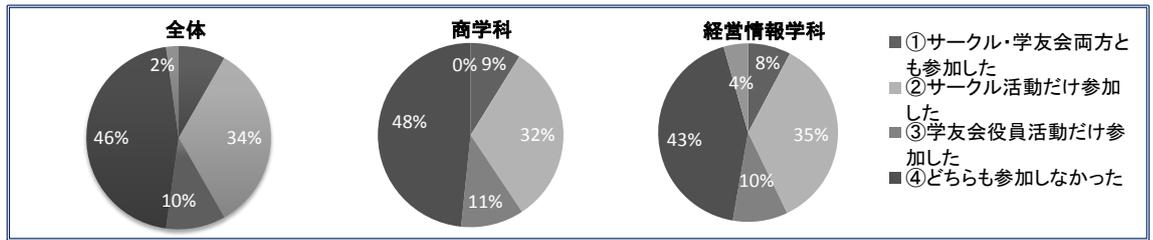
品数が少ない。(他1名)
高い。(他2名)
5限のあと購買が開いてないのが不便。(他1名)
コモンルームの購買の品数が少なすぎてすぐなくなる。
もう少し長い時間開いてほしい。

④の理由

高い。

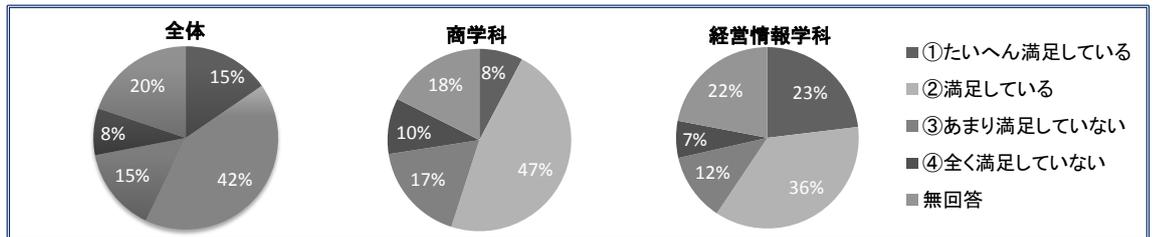
質問12. あなたはサークル活動や学生会役員活動に参加しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①サークル・学生会両方とも参加した	0	8	8	1	6	7	15
②サークル活動だけ参加した	1	28	29	5	27	32	61
③学生会役員活動だけ参加した	1	9	10	0	9	9	19
④どちらも参加しなかった	9	35	44	2	37	39	83
無回答	0	0	0	1	3	4	4



質問13. あなたはサークル活動や学生会活動に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	0	7	7	2	19	21	28
②満足している	2	41	43	4	29	33	76
③あまり満足していない	2	14	16	1	10	11	27
④全く満足していない	3	6	9	1	5	6	15
無回答	4	12	16	1	19	20	36



【理由等】

商学科

①の理由

楽しかった。
自分のペースで参加できたので満足しています。
ない力が身に付いた。
マツナビで学ぶことが多かったです。
大学の友だちもでき、高校からやってきたことも続けることができ良かった。

②の理由

国際交流センターのサークルでたくさんの留学生と関わることができて良かった。
楽しかった。(他1名)
サークルは練習に来てくれないメンバーが多く困ったことがありました。
学生会活動で貴重な体験ができ、人として成長できたと思います。
大変だったけど、自分のためになったと思います。
学生会の仕事と編入がかぶってしまい大変だった。
みんなで一つの目標を達成する喜びを感じられた。
趣味のあった仲間たちと意見を交換するのはとても良い時間だと思った。
学祭が楽しかった。

③の理由

サークルがもっとたくさんあればよかった。
代議だったけど、代議の立ち位置が分からず、参加すべきものとそうでないものの区別がいつも分からない状態だった。
学生会の渉外局の役員としての仕事がなかったのも、増やしてほしい。
最初は良かったですが、部活内でいざこざが多く、就活も近かったのもでそこまで充実してなかった。

経営情報学科

①の理由

サークルや学生会を通じて成長できた。
楽しかった。(他2名)
留学生と交流できた。
友人も増えた。(他1名)
短大生活が濃いものになったので、やって良かった。
文化祭楽しかった。
大きな大会も出れたし、大学生の方とも仲良くなれた。
就職してから必要なことを学べた。ホスピタリティの点ですごく成長を感じた。もっと全体的に組織をのぼしてほしい。
大学生生活でのサークルの思い出、友だちは大切な宝ものになりました。

②の理由

参加することが他の人より少なかったことが心残りです。
皆さんしっかり活動されていてすごいと思った。
楽しかった。
学祭が楽しかった。

③の理由

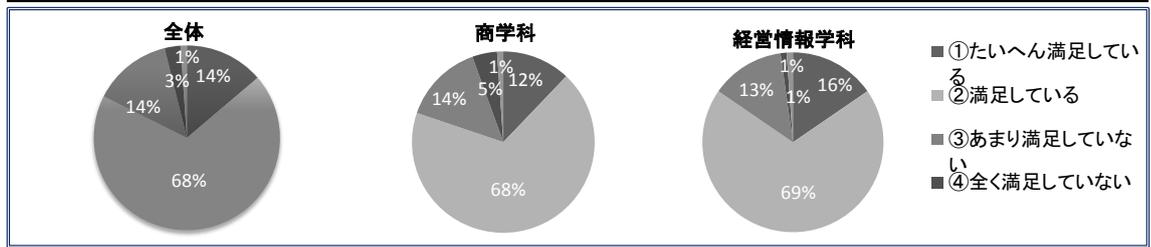
体育館の設置が不十分だった。
活動があまりできなかった。
人数が少なく、あまり活動できなかった。(他1名)
学生会ももっとやることを明確にして欲しい。
体育大会、学祭ともに企画が偏っていた。

④の理由

参加してないのでよく分からないが、要望が悪い。

質問14. あなたは本学の学生会行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、クリスマス会等)についてどのように感じましたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	10	11	4	10	14	25
②満足している	6	56	62	2	61	63	125
③あまり満足していない	2	11	13	3	9	12	25
④全く満足していない	2	2	4	0	1	1	5
無回答	0	1	1	0	1	1	2



【理由等】

商学科

①の理由

学生会を通じて友人が増えたため。
ゼミの活動が多かったため、協力し合うこともでき、交友関係も広がられた。(他1名)
皆が楽しめるような工夫がされているし、新しい一面をみることが出来る良い機会だった。
とても楽しかった。(他3名)
大学祭は自分の仕事に達成感が芽生えた。
季節ごとのイベントもすごく楽しかった。
2年生では企画をする立場だったので、両方の立場を経験できた。

②の理由

模擬店の場所をくじで決めるとがちょっと不満でした。
男が少ないのが嫌です。
楽しかった。(他2名)
楽しいイベントは心を盛り上げる。仲間との交流の場としてとても有効だった。
充実できた。
あまり参加しなかった。
大学祭のゲストがすごかった。(他1名)
大学祭は屋台しかない雰囲気があるので、カフェとかおぼけやしきとか取り入れるといいと思った。
大学祭に係として出たが、上の人の指示が無くやることもなかった。
大学側と交流できて良かった。
大学祭がよかった。
グダグダな場面が多かったけど楽しかった。

③の理由

卓球などの個人競技が欲しかった。
体育大会の日程を考慮して欲しい。週の真ん中は困る。
体育大会を2回もやらなくていいと思います。(他1名)
体育大会があまり好きではありません。
体育大会は秋は寒くて、待ち時間が長いと思った。

④の理由

体育大会には期待していたが、女性特有のルールで男性はやることなく楽しめなかった。期待はずれで残念です。
行きたくないから、行かなかった。

経営情報学科

①の理由

どのイベントも充実していて楽しかった。(他2名)
いい思い出になった。
新入生歓迎会は学校の様子が分かるからすごく楽しかった。
体育大会はいつも楽しみにしていた。
松本ほんほんはものすごく楽しくて思い出が増えた。
青春を感じた。

②の理由

とても楽しかった。(他5名)
体育大会は春のような種目で秋もやった方が良くと思う。秋のほうはガチ感が強くて怖かった。
あまり記憶にないが良かったとおもう。
短大生も松大生のはずなのに大学生しか参加できないプログラムがあり、残念でした。(他1名)
体育大会が年2回あったので、1回だけでよいと思いました。秋は寒かったです。
楽しく、学生自身が行事を運営することによって学べるものがありました。
みんなで楽しくやれる行事だったから。
交流できて良かった。
体育大会はグダグダ感があった。
もっと全体に対して声がけをしたり、アイデアを募った方が盛り上がり、楽しくなると思いました。
学祭のアーティストやゲストのチョイスがすごく良いと思います。
体育大会は私たちのゼミは女子しかいないのですが、ドッチビーなど男子が多い方が勝つのは当たり前だと思います。
歓迎会は事前に連絡して欲しいと思った。
学祭は屋台も多くて楽しかった。(他1名)

③の理由

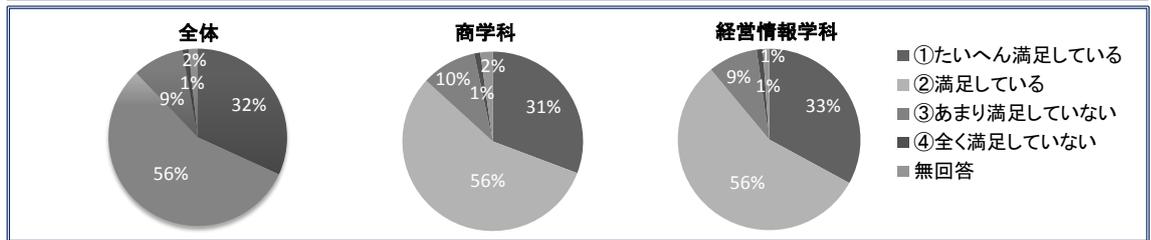
運営が楽しい行事になっていたと感じます。
冬の体育大会は場所の移動が大変と感じました。
クリスマス大会は学生が参加していないように見えるので、もう少し工夫した方が良くと思います。

④の理由

自由参加にしてほしかった。焼イモは良かった。

質問15. あなたは勉学、生活、進路を含めて、2年間の短大生活に満足していますか。満足していませんか。

	商学科			計	経営情報学科			計	合計
	男	女			男	女			
①たいへん満足している	2	26		28	3	27		30	58
②満足している	7	44		51	6	45		51	102
③あまり満足していない	1	8		9	0	8		8	17
④全く満足していない	0	1		1	0	1		1	2
無回答	1	1		2	0	1		1	3



【理由等】

商学科

①の理由

様々な資格も取れたし、たくさんのサポートのおかげで就職も決まりとても充実した2年間だった。(他1名)
とても充実していた。(他2名)
色々な考え方や知識、たくさんの人と話せたり先生方が面白く、進路にも満足しています。
校友会でよい経験も出来た。
行動することの大切さを学びました。
今までで一番充実して自分の力を伸ばすことが出来た。

②の理由

勉強以外でも自分自身についてよく理解できたと感じたため。
就職することができたため。
好きな事を学べるのは良いと思った。(他1名)
色々なことを学べ、資格も取得できた。(他1名)
充実して楽しかった。(他4名)
自分を見つめる良い時期を過ごせました。
良い経験になった。
少し短いかと思ったがとても楽しかった。(他1名)
検定に向けての勉強を頑張れた。
長野県内の授業はなかなか面白かった。

③の理由

入るゼミを間違えた。
自分の時間が足りない。
もっと資格を取ればよかった。
2年間あつという間だった。(他1名)
公務員対策講座があまり満足できる内容ではなかった。

④の理由

分からないことがそのままだった。

経営情報学科

①の理由

本当に多くの人と出会い、その中で自分自身を成長させられたから。
充実していた。
夢をかなえられたので短大にきて良かったです。
文句ないです。
いろいろな場面でたくさん学ぶことができ成長できた。(他1名)
楽しかった。
進路について自分の力の可能性を考えられる充実した2年間だった。
友だちや勉強・バイト・サークルどれも充実していて社会人になる前にたくさんのことが出来て良い思い出がたくさんです。
自分の取りたい授業をとり、資格もとれ、良い友人や先生に出会えてとても良い2年間でした。

②の理由

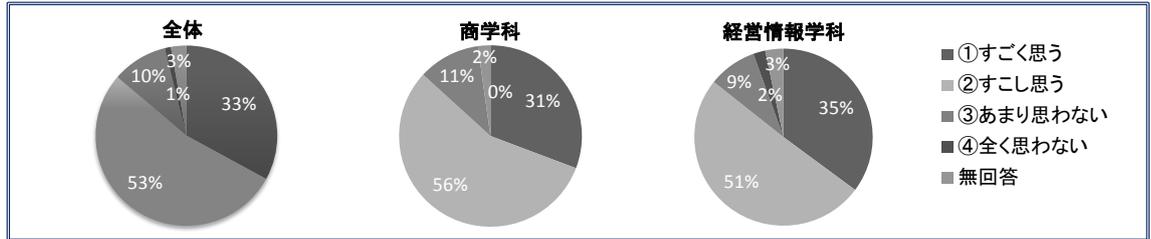
毎日が充実していた。(他1名)
すばらしい仲間と先生に出会えた。
楽しい授業が多かったし、友人とも楽しく過ごせた。
やりたい仕事に就けたので良かった。
単位をとるためにしっかり勉強できた。
校友会活動で濃いものになった。
楽しかった。
無駄な時間がなく、資格や就活について学び身につけることができた。
社会人になるための力をつけることができたと思うから。
もっと学生の時しかできないことをやっておくべきだった。
いろいろなことが学べた。
新しいスキルや検定を取得することができた。

③の理由

短大ということで2年しかないの、私からすると短かったし、忙しかったなと感じました。
この学校に来て良かったのか分からない。学校に不満があるわけではなく、私が間違えたと思います。

質問16. あなたは「松本大学松商短期大学部」を誇りに思えますか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①すごく思う	3	25	28	3	29	32	60
②すこし思う	5	46	51	5	41	46	97
③あまり思わない	2	8	10	0	8	8	18
④全く思わない	0	0	0	0	2	2	2
無回答	1	1	2	1	2	3	5



質問17. 松本大学松商短期大学部および所属学科をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

(例えば ①こんな授業があったらいい、②こんな制度があったらいい、③こんなところを変えてほしい等、何でも結構です。)

【意見・提案】

商学科

パソコンの調子が悪い日が多く、スムーズに学習が出来なかったので、改善するべきだと思います。
 歴史についてもっと詳しく学べるのがあったら良かったです。
 wi-fiの環境をもっと改善して欲しいです。
 4学期制がよく分からなかったの、前期・後期にして欲しいです。
 数学の授業があれば良いと思いました。
 部屋の温度を均一にしてほしい。
 課題をネット提出する際、提出できたとの完了のメッセージが送信されれば良いと思う。
 取りたい授業がかぶってどちらかを諦めることが多かった。(他1名)
 先生によって聞こえない人がいた。
 2年になると茶道や生け花、体育等の楽しめる講義がほとんどなくなってしまったので残念です。
 駐車場の料金を改善して欲しい。
 フォトショップをいかけた講義(イラスト作成など)。
 すべての講義を座席指定にしてほしい。
 ipadを使う講義を増やしても良いと思う。
 キャリクリで就活についての講義等をもっと早く実施して欲しい。面接などが終わってから実施されるのはもったいない。
 図書館の講義を受けていた。「NDC」の本を受講生がいつでも大勢見られるよう管理して欲しい。
 商学科と経営情報科に分かれている明確な理由が分からない。
 私はお葬式で出席できない日があり何日がありました。出席率で成績を見る授業もあるので、
 引き金がサボったと同じ扱いされるのは切ないし、やる気もなくなった。
 電車の時間に合わせて授業を終了して欲しい。
 ipadよりPCの貸し出しのほうが役に立つと思います。
 コープの食べ物はお昼時少ないので増やして欲しい。
 駐車場が遠い。1号館の方にも作って欲しい。
 ユニット制は必要を感じなかった。学びたくない授業をお金を払って聞く意味が分からない。
 資格試験に向けて短期集中の講座があって良いと思います。
 駐車場が少ない。
 1年のとき取れなかった授業を2年になってからも取りやすいと良い。

経営情報学科

就職にあたってオフィスの受け答えなどでシミュレーションできれば企業にいても落ち着いて受け答えができるのではと思った。
 秘書の講義も、電話の話し方も実際にやっていいと感じた。
 ユニットや卒業要件を理解することが少し難しかった。
 キャリクリはほとんど一般企業向けであり意味がなかったので、それ以外の公務員や進学向けのことをやってほしかった。
 もっとipadの授業での活用をしたほうが良いと感じた。
 もし冬のイルミネーションの電気代を学生の施設費から払っているのならやめてほしい。「見ていてもイライラする」という声が多い。
 大学ともっと仲良くなればよいと思う。
 商学科と経情のわかる意味があるのか。
 何をしに学校に来ているのかわからなかった。学校に来る意味を見出せない。
 公務員試験対策講座をもっと増やして欲しい。
 経情と商学科名前が違うだけで中身が一緒だったので、それぞれにあった授業もあっていいとおもいました。
 カリキュラムや卒業までに満たされなければいけない要件が多すぎる。
 また在学中で学期を分けるというのも分かりづらくるのでやめてほしかった。
 4学期制はあまりよくなかった。
 美術系や専門的授業があれば良いと思った。
 1年生のときは資格を取ることを中心に勉強してきたけど、就活において資格はあまり意味がないように感じた。
 キャリアクリエイトの授業でたまに「これやって意味があるのか？」と思うことがある。投資のテキストも学費から取られるのは嫌なので、
 いる人だけに配っていたら良かった。
 教室と廊下が寒い。
 ユニット制は必要なのかと思います。
 電車と授業の時間(特に帰り)を合わせて欲しいと思います。
 時間の有効活用や作業効率を上げるための方法を学べる授業が、社会に出るにあたり必要だと思った。
 2年間ともたのしかったし、自分にとって大切でした。ありがとうございました。
 学科の違いが分からない。
 1号館の吹き抜けのところにストーブが壊れているのか、あそこに置いてある意味がないと思うので工夫した方が良くと思います。
 短大は特に傷ついているところがたくさんあるので直した方が良くと思います。
 就活のための電話対応の仕方や手紙の書き方などを、4月の中旬にやるともうすでに電話をしていたりする人もいますので、
 もう少し早くやった方が就活に役立つと思います。
 1年生の授業でPC利用を増やしたらいいと思います。
 全学部合同でなくても地域とつながる授業を増やしてみる。例えば普段の地域の方のお手伝いなどを、
 地域で学んだ事を地域の人へ向けて発信するのはどうかと思う。
 資格をとるための費用を半分出してもらえたりしたら助かると思う。
 遠方から通っていて、交通状況で遅れた時の遅延証明書を出して欲しい。
 必修を1限にするのをやめてほしい。
 時間割のせいで取りたい授業がかぶって諦めてしまうから、その意見も聞いたほうが良いと思います。
 座席指定をなくしたら良いと思います。
 結婚式やお葬式のマナーについてや、テーブルマナーを学べる授業があったらいいなと思います。
 授業にやりこみ要素が少ないと思う。前期・後期、1年・2年と続けてやれる授業がもう少しあって良いと思う。
 遅刻してしまった時、授業が始まっていて少し遅れてしまった人と、授業終了近くに入った人との対応が同じだったので、
 そこをどうにかして欲しいと思いました。

3. 松商短期大学部在学学生アンケート

質問1. 所属について

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
進級予定者数	19	84	103	21	86	107	210
回収数	18	77	95	19	83	102	197
回収率	95%	92%	92%	90%	97%	95%	94%

質問2. あなたが受講した授業の中で良かったこと、悪かったことなど、感じたことを何でも自由に書いて下さい。

商学科

マーケティングで先生がおもしろい話をしてくれたり、ためになることを学べて良かった。
 法学概論でパワーポイントの写真を撮っている人の音が気になった。

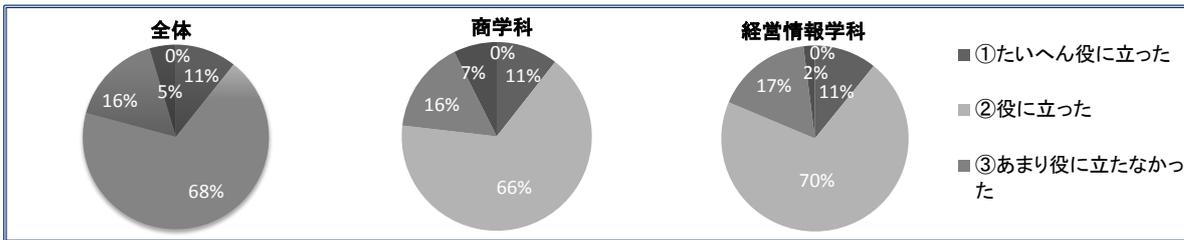
資格がたくさん取得できてよかった。人数が多すぎて集中できなかったものもあるにはあった。
 楽しくわかりやすい授業だった。
 エクセル上級をうけて難しいことにも挑戦するということを経験できたので良かったと思う。
 詳しくやってもプリントが分かりにくかった。
 マーケティングの授業です。企業や業界のことを詳しく教えてくれるし、自分自身あまり興味が無いのに、気になることやもっと調べてみたいを思えること。
 短大というだけあってとてもハードなスケジュールで、授業内容も専門的な難しい内容ばかりだったけれど丁寧な説明で分かりやすかった。
 実体験のことを話しながらの説明だったので、わかりやすかった。
 席が後ろの時は黒板の字が見えにくかった。
 パソコンの使い方に慣れることができたので良かったと思った。
 簿記の学習は大学に入ってから初めて勉強したことだったが、少しづつ身につけているのでこのままの調子で頑張っていきたい。
 232の教室の前の方が寒い。(他1名)
 入学して初めて簿記を学んで分からないことばかりだったけど、レベルごとに分かれた授業だったので安心して受けられた。
 商業簿記の講義で、先生が注意しているにもかかわらず、話を聞いて全く集中していない学生が見られて不愉快だった。
 サービスマーケティングをはじめとするパワーポイントを使った講義では時に映像を流したり、カラフルな画面でとても分かりやすかった。
 エクセルの授業はとてもわかりやすかった。(他1名)
 スライドや口頭での説明がわかりやすかった。たまに早口の先生がいた。
 講義の雰囲気はどれもだいたい静かで良かったです。(他3名)
 資料を持ち込んで良いテストはとも良かった。
 考えて答える授業は見につくし、とても勉強になりました。逆にわからないまま流されるとついていけませんでした。
 座席指定で静かだけどキツキツで、前の方の席が段になっていないからすごく狭い。
 エクセルやワードなど高校のとき苦手だった教科が得意になった。
 パソコン系の授業の進みが速くて、何も理解できなかった。
 パソコンの授業は分からないところはひとつひとつ丁寧に教えてくれて良かったです。
 前期の簿記の授業がとても楽しかった。苦手だったけれど吉澤先生が丁寧に教えてくれるようになってきた。
 先生によって教え方が違うのは当たり前だけど、分からない人に教えようとしてくださる先生ではない方がいて、講義がつまらなかった。
 分からないことは分からないので、最初から初歩の初歩から教えてほしい。楽しい講義もあるし、身につけたら面白い講義も多くあったので、余計につまらないとやる気にもなれなかった。
 私語が目立って集中できないことがあった。
 教室の座っている場所によって、冬は寒いところ暖かいところがある。121教室や232教室は前の方が寒い。
 エクセルの講義で資格を取得できて良かったです。全部の講義を休まずに受講できたので、2年生になっても休まないようにしていきたいです。
 アウトキャンパスが楽しかった。
 お昼休憩が少なすぎる。
 前期とったネイルの授業が新鮮味があってとても楽しかったです。医療事務も自分がなろうとしている職種なので頑張りました。
 どの授業も座席指定がいいです。
 テスト評価だけの授業に出席する意味があまりないと思う。全ての授業に出席点をつけるようにしてほしい。(他1名)
 マーケティングがとても楽しく勉強できた。(他3名)
 生涯スポーツが良い。(他2名)
 興味のあることや知らなかったこと等、例えば常識のあることなど、いろいろ知ることができて良かった。
 人数が多いのに教室がせまい。
 情報、パソコン系の授業や簿記など高校では教わらないことが学べて良かったです。
 アロマの授業がすごく楽しかったです。検定取得ができる講義も全部分かりやすくてよかったです。
 社会人としての常識を学べた。パソコン操作が前より詳しくできるようになった。
 マーケティングの授業では、毎回先生の作ってくださるスライドが楽しく、また内容もとても興味深かったのでも良かったと思います。(他1名)
 座学だけでなく体験できる授業が良かったです。(他1名)
 サービス概論の授業がパワーポイントと説明をしっかりとっていて理解を深めやすかったです。
 パワーポイントを使った授業は分かりやすくてよかったです。授業中にマイクを使ってしゃべってもらえるとよく聞こえていいです。
 科目が多く、時間割で重なる部分が多く、「学びたいのに…」残念と思うことがあります。
 簿記が難しい。
 メモをとる力が身についた。(他2名)
 実践的な授業が多いので、社会に出てからすぐに役立つと思う。
 レポートのある教科は大変だったけど、レポートにまとめる習慣がついたし、ためになったと思う。(他2名)
 高校では学ばないような心理学だったり、アロマ、ネイルなども深くは無いけど体験できた。
 簿記は進むのが少し早いときがありました。
 “絵本の世界”の授業で、毎回先生の考えた良い授業内容により楽しめた。
 騒がしい人の目立つ授業はもう少し先生からの注意がほしい。
 どの科目も先生達が資料やスライドを工夫して教えて下さったので、とても理解が深まりました。
 エクセル上級では先生に分からないことがあるたびに聞いていたのですが、丁寧に分かるまで教えて下さいました。
 検定取得向けの授業がたくさんあり良かった。(他3名)
 プリントや問題集をもらうことができ、勉強に役立てることができた。
 押し付けのような教育をされていると感じた事があった。
 テストに出る部分や大切な部分は分かりやすく説明してもらえた。(他1名)
 冬には部屋が寒いときがあったので、そこがあまりよくなかった。
 必須の講義はとも分かりやすく教えて下さいました。
 日商簿記を15回の授業でマスターしろというのはきびしい。
 ふくしまあけみ先生の授業が面白くて好きでした。
 コミュニケーション学など地域社会学の授業で、人数は少なかったけどみんなで協力したりして仲を深めていけたり、授業の雰囲気がとても好きでした。
 課題の有無や進め方をしっかりとしてほしい。
 基礎簿記初級の人数がとても多かった。仕方がないと思うが、教室を変えるなどしてほしい。司書課程の授業がせめて5限であればありがたい。
 課題をどの教科も課して下さると復習しやすいのでしてほしいと感じました。
 検定で落ちてしまうものがあった。
 幅広い分野を学べる所が良い。

経営情報学科

一人一人の先生が力強く丁寧に教えてくださったおかげで分かりやすかった。
先生方が繰り返し注意しているにも関わらず、大声で喋っている人がいた。
一人一人の理解度が違うので個人に合わせてペースが遅くなり、退屈な時間になることがおおくあったので改善してほしい。
雰囲気よく授業を受けることができました。
良かったことは冷暖房がしっかりしていること。
悪かったことは短大一年生全員が集まる時の密着具合。
サービス・マーケティングの授業はとてわかりやすく良かったです。(他3名)
カラーマーケティングはその日からでも実践できる色の効果を知ることができ、生活に役立っている。
女子が多い。
一部の授業以外は成績の細かい採点の仕方をテスト前ギリギリまで教えてくれなかったので、全ての授業で一番最初の授業の時に欠席数で何点引かれるのか、レポートは何点なのかを教えてください。
教室が狭い。(他1名)
やっぱり興味のある授業を好きなように取れるのは楽しい。(他1名)
週二日の授業がかなり面倒だと思った。
座先指定は良いと思う。
プライダルの授業は良かった。
アウトキャンパスでたくさんの知識が学べた。
簿記の授業などを取って良かった。
一眼目に必修の授業を入れないでほしい。
後期の商業簿記の授業には板書もいけど、モニターでやってほしかった。前に座れなかった時に全く黒板が見えず困った。
エクセル、ワードなどパソコン関連の授業は分かりやすく積極的に取り組めた。(他3名)
キャリア、クリエイト、スタンダードもためになって良かった。
スライドを使った授業のときに、変わるのが早すぎてノートを取れないことがあった。(他1名)
色々な資格をとることができた。(他5名)
エクセル、ワードなど就活に役立つものは良かった。
医療事務は使えないのが残念。
簿記の授業で分からないことがあると、プリントをくれたり解説をしてくれてとても良かった。
初めて知ることになるほどと思うことはあったが、中高でならったような国・算他基礎問題はなおさらわからなくなったし、こんがらがった。
プライダル・ファッション・ネイル・アロマなど専門的なことも勉強することができて良かった。
パワーポイントなどで大きく字が見えてよかった。黒板がある所は字が小さく見えて見えにくかった。(他1名)
法学が分かりにくかつまらなかった。
マーケティングではレポートを作成してくる課題があって、授業を聞いてメモしないと作れないので、毎回内容をよく理解できたしメモをとる力がついたと思う。
医療事務系の授業が大変だけど全て資格が取れたので良かったです。(他1名)
マーケティングの授業は自分の思考力をかなり高めることができたと思う。
パソコン系は分かりやすく教えてくれて良かった。
簿記をキャリアスタンダードとキャリアクリエイトと一緒にしないでほしい。テストの時が大変で十分に勉強できません。
キャリアクリエイトで就活に向けての心構えや準備について分かったので良かった。
キャリアスタのスライドが小さくて答え分からない。
どの教科もよく分かりやすかった。
楽しく聞くことができた。
色彩学などは今まで学んだ事がなかったので良かったです。
ある授業ではただ授業内容をすすめるだけでなく一人一人が理解するまで分かりやすく説明してくれて良かった。
英語の授業など少人数で受講できて良かった。
できればPC室のパソコンが動かなくなることがあるのでなんとかしてほしい。
簿記の授業は先生に分からない所を聞きやすかった。(他1名)
韓国語の授業で留学生と交流できたので良かった。
週二日あると忘れなくて良い。
プライダルで結納や生きていくうえで覚えておいた方がいい常識的なことを学べて良かったです。
実際検定につながる授業は普段からやっていないといけなかったのが良かった。
ネイルの授業が楽しかった。(他1名)
ファッションビジネスが眠かったのと課題がたまった。
エクセル1級をとっておけば良かった。
簿記が難しかった。
課題提出日がいくつもの教科が重なると辛かった。
様々な分野に興味を持って一年でした。(他3名)
授業によって教室の寒暖差が激しい。
授業を受ける中でメモをとる力がついて良かった。きちんとメモを取ることで復習をする時やレポート作成のときに思い出しやすくなった。
生活していくうえで役にたつことやためになることを沢山学べて良かった。
単位のために興味のない講義をとってしまったので勉強が大変だった。
先生によって分かりにくい授業とそうでないものがあった。
体育が楽しかった。
資格がとれる科目では、検定対策をたくさんしてくれて合格につなげることができました。(他1名)
ITパスポートは授業をやっているのか分からない。
席を自由にするとそれぞれの学生の講義に対する真剣度が分かり、周りを見て自分も頑張ろうという気になって良いです。
最終的なゴールが資格取得であることはすごくありがたい。
先生との距離が近く、すぐ聞いてもらえるという環境が良かった。
Interactive Englishと中国語がかぶっていて残念だった。
Interactive Englishは先生とコミュニケーションが取れる。
少ない人数の授業だと先生と話せて仲良くなれるのが良かった。
ゼミがあったことで色々な人と関わった。
医療事務作業補助の授業で、授業に出れなかったときのプリントをレポートとして出してくれるのが良かった。
先生方の教えようとする気持ちが伝わってきてとても良かったです。
テストの時に出席点が加算されない授業がある。
夏の間授業がどの教室でも冷房が効きすぎて寒かったです。
図書館司書の資格の授業である授業がただスライドを書き写すだけになっており、全く身に付いた気がしない。全体的に進行が早かった。
検定につながる授業では出るポイントなど教えてもらえて良かった。
出来の悪い生徒が授業外で質問に行ってもしっかりサポートしてくれる。
図書館司書の授業が必ず6限で、正直途中でやめたくまりました。日中の方が受けやすいです。
数多くの授業が受けられたので、知識の幅が広がりました。

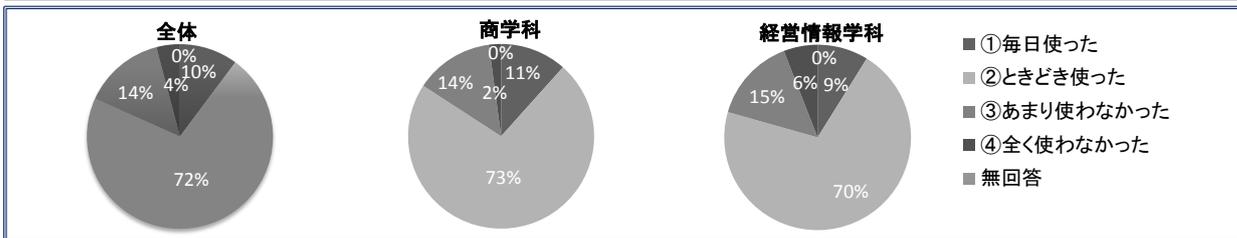
質問3.今年度の「基礎ゼミナール」(4月～7月)の中で行われた初年次教育(ノートのとり方、テキストの読み方、要約の仕方、図書館の利用、レポートの作成など)の内容は、その後の授業で役に立ちましたか？

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん役に立った	2	8	10	2	9	11	21
②役に立った	12	51	63	11	61	72	135
③あまり役に立たなかった	3	12	15	5	12	17	32
④全く役に立たなかった	1	7	8	1	1	2	9
無回答	0	0	0	0	0	0	0



質問4. 所有しているノートパソコンは学習に利用しましたか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①毎日使った	0	11	11	2	7	9	20
②ときどき使った	14	55	69	10	62	72	141
③あまり使わなかった	4	9	13	3	12	15	28
④全く使わなかった	0	2	2	4	2	6	8
無回答	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】

商学科

①の理由

簿記の解答を表示したり、レポートの作成に利用した。
 レポートをパソコンで書きなけなければならないことがあり、いつでもどこでもレポートを進めることができたから。
 調べものをするとき。(他2名)
 レポートの作成。(他5名)
 情報系の検定の練習。
 持っていないと不便だと感じる。

②の理由

レポートを作成するため、エクセルはF4が使えなくて断念。
 レポート作成やエクセルの復習時に使用した。(他7名)
 簿記の答えを見るときやレポートを作成する時に使用した。
 課題の時や、学習の時に利用。
 レポートなどの課題に取り組むときに使った。(他24名)
 学校で購入したパソコンは小さくて持ち運びがしやすかったです。(他1名)
 レポートを作るとき以外あまり使わないので、強制的に買わなくても良いと思う。
 家でもパソコンができるし、持ち運びしやすかったのどこにでも持っていくことができました。
 学校のパソコンを使うことも多くあったから。(他2名)
 授業では使わなかった。(他1名)
 法学、金融の課題にて。

③の理由

だいたい授業の空きコマなどで大学に設置してあるパソコンで事足りてしまった。(他1名)
 自分で持っているため。
 学校のパソコンを使っていた。(他2名)
 レポートには使用することは多かったが、学習では利用していない。(他1名)
 レポートは家でやっていたから。
 学校で購入したノートパソコンがとても使いにくくて困る。画面も小さい動きも遅い。10万も出すなら別のパソコンを買うべきだった。
 全員にパソコンを買わせる意味もないと思う。

④の理由

アニメに使っている。

経営情報学科

①の理由

レポート作成に使用している。(他2名)
youtubelに使っている。
インターネットの使用。
メソフィアの観覧などに使った。
調べ物に利用。(他1名)
課題に使用。

②の理由

使わなければいけないとき。
ノートパソコンを使うような学習が必要でなかった。
レポート作成に使用した。(他39名)
調べ物に利用した。(他4名)
課題に使用した。(他5名)
ほとんど使わないので買った意味がなかった。
図書館や空き教室のものを使えば事足りる。(他5名)
学校がおすすめしたPCを買ったが、とても使いづらい。
マーケティングやエクセル、ワードのとき使用した。(他7名)
手書きをする前にワードでまとめた。
最近調子が悪い。(2名)
テンキーがないのでエクセルの課題はやりづらい。
入学前はノートパソコンでなくタブレットと説明を受けた。

③の理由

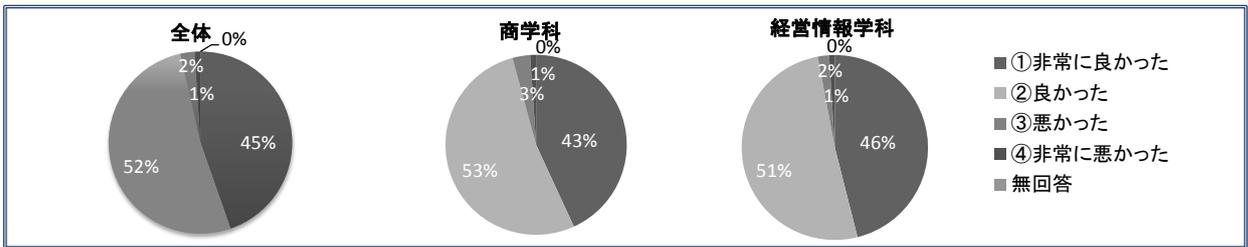
10万円もしたのにすぐ動作をとめるし、重いから。
レポート作成の時のみ使った。(他1名)
自宅や教室のパソコンを使っていたから。(他5名)
テンキーがない。
主にスマートフォンをつかっていた。
パソコンを使用する授業をそんなに取らなかった。

④の理由

利用する時が無い。
移動時間が長く、持っているだけで壊してしまいそうだから。
持っていない。
学校のパソコンを使っていた。
携帯の方が使いやすく、パソコンもノートパソコンよりマウスのついたデスクトップの方が使いやすかった。

質問5.ゼミナール担当者はあなたの学生生活の良きアドバイザーでしたか?

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①非常に良かった	10	31	41	8	39	47	88
②良かった	7	43	50	11	41	52	102
③悪かった	1	2	3	0	2	2	5
④非常に悪かった	0	1	1	0	1	1	2
無回答	0	0	0	0	0	0	0



【理由等】

商学科

①の理由

就職活動についての的確なアドバイスを頂きました。(他1名)
 就職などのアドバイスを分かりやすく教えてくれる。(他4名)
 就職のこととかも親身になって教えてくれた。(他4名)
 求職カードを提出するときに細かくアドバイスしてくれた。(他5名)
 理由があって学校に来られなくなってしまい困っていたが、連絡をくださり、今も直々通って良いアドバイスを頂いている。
 話しやすくフレンドリーだった。
 本当にいつも優しくありがたいです。
 具体例を交えながら説明してくれるので分かりやすかった。
 現実を教えてくれるのはありがたかった。
 たくさんのアドバイスをくれてとても役に立った。(他2名)
 編入の相談をしたとき、詳しく答えてくれたから。
 相談に乗ってくれて良かったです。(他2名)
 すごく頼りになる先生です。安心できます。
 色々なことを話した。(他3名)
 ゼミ内のメンバーと活動する機会も作ってくれたりして学生生活でゼミの人は話しやすくなった。
 気軽に接せられる先生の重要性は高い。
 進路のことや学生生活でやっておくと良いことなど、不安に思っていたことについてしっかりと話を聞いてくれアドバイスももらったので、とてもうれしかったです。力になってもらえて良かったです。
 ゼミの先生が大好きです。
 ゼミのLINEで連絡などマメにしてくれたり、質問に行くと的確に答えてくれた。
 今後のことを細かく教えてくれた。

②の理由

いろいろ親身になってくれた。(他1名)
 いろいろ教えてくれた助かりました。(他2名)
 良かったけどゼミの時間に一人で話している時間が長かった。
 ゼミの時間しか先生と話す機会がないので、わかりません。
 あくまで社会人としてという点で話を下された。
 アドバイスをしてくれました。(他1名)
 ゼミ時間以外の交流があまりなかった。
 特にまだ相談ごとなどしていきなくて実感が無い。
 求職カードなど就職についてももう少しやってほしかったです。
 普通に相談を聞き、返事をしてくれた。
 ゼミのときにしか会わないし、相談できるほど信頼できないです。
 定期的に話を聞いてくれる。
 かなり相談にのってもらえた。
 連絡事項などきちんと伝えてもらっていた。

④の理由

希望したゼミではなかった。

経営情報学科

①の理由

親身に相談にのってくれた。(他6名)
毎回励ましの言葉をもらい、やる気にさせてくれる。
色々な事を話してくれた。(他1名)
最高です。
話をしっかり聞いてくれるし、サポートもしっかりしてくれた。(他8名)
進路関係の提出物についてゼミでの時間をとって見てくれたから。
優しくプログラミングを教えて下さった。
先輩方の様子なども交えて沢山話をしてくれた。
就職のことに話をたくさん聞いてくれた。(他1名)
話しやすく優しい先生です。(他8名)
専門ゼミでの求職カードの記入や、普段の生活での疑問もよく答えてくれた。
大好きな先生です。
留学や就職のことは先生にか話せる人がいないので、嬉しいですし助かっています。
勉強をよく教えてくれた。
求職カードのアドバイスを細かくしてくれた。
学習以外でも求職のことも何回も伺った。楽しいです。

②の理由

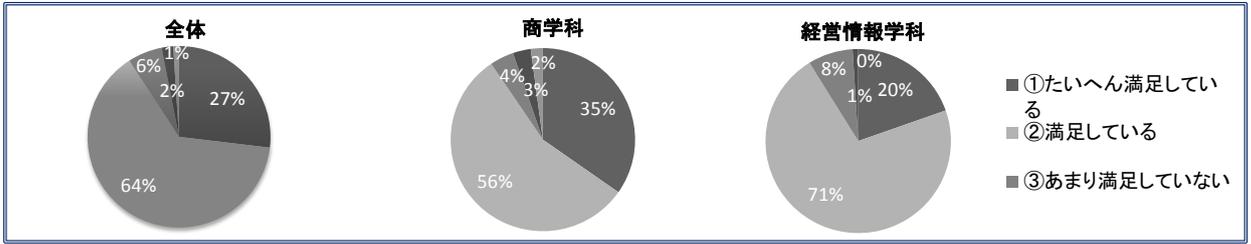
適宜アドバイスをしてくれたため。(他2名)
相談にのってくれた。(他7名)
個人的にはそんなに深く関わってはいないけど、ゼミの時間に不満に思うことはなかった。
色々分かりやすく説明してくれた。
まだたくさん関わったわけではないが、お世話になっています。
求職カードをしっかり見てくれた。(他1名)
フレンドリーで良い先生です。(他1名)
正直あまりアドバイスを受けることがなかったのでわかりません。
就活のアドバイスを頂いた。(他2名)
あまり学校にいらっしゃらなかったため、なかなかお話することは少なかったけど、話をさせて頂いたときは丁寧に聞いてくださった。
相談にあまりいってない。(他2名)
ゼミのときにパーティを開いてくれたり、とても陽気な先生でゼミが楽しいと思う。

④の理由

適当すぎて不安。

質問6. 大学には、学生課・教務課・キャリアセンター・情報センター・総務課等があり、
事務職員はそれぞれのところで皆さんのサポートをさせていただきます。皆さんにとって事務職員の対応はどうか。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	7	26	33	2	18	20	53
②満足している	9	44	53	15	58	73	126
③あまり満足していない	1	3	4	1	7	8	12
④全く満足していない	1	2	3	1	0	1	4
無回答	0	2	2	0	0	0	2



【理由等】

商学科

①の理由

いつでも良い対応をされていてとても良かった。(他5名)
わからないところを親身になって答えてくれる。(他4名)
キャリアセンターで就活の手伝いやアドバイスをしてくれて良かった。
私が困っているとき助けてくれたから。
優しく対応してくれました。(他4名)
迅速な対応をしてくださったため。(他2名)

②の理由

話した時の対応が良かったです。
キャリアセンター入りづらい。
就職のことを聞きにいった時にやさしくわかりやすく教えてくれた。
情報センターでは困ったときいろいろ教えてもらった。
丁寧に説明してくれたが、少し入りづらい。
パソコンを新しく買ったときに情報センターの方に色々教えてもらったから。
キャリアセンターの人はすごく対応が良かったです。(他1名)
皆さん親切でした。(1名)
用事があっていくと、丁寧に対応してくださいました。(他10名)
たまに冷たいときもあった。(他1名)
怖そうと思ったけど、やさしいときがありました。
パソコンの接続をやってくれた。
基本穏やかで良かった。

③の理由

学生課の態度が良いといえない人がいるから。

④の理由

威圧的すぎる！！
学生課と教務課の態度が悪い。

無回答の理由

良い先生も多くいた反面、あまり良くない先生もいた。
学生課の先生方が少し冷たくて怖い。白澤さんと田巻さんはすごく親切。

経営情報学科

①の理由

何も不満がないから。
困っていれば優しく声がけてくれるので行きやすい。(他1名)
丁寧な態度ですばりしかったです。
優しく教えて頂いた。(他5名)
奨学金のことで丁寧に対応してもらえた。

②の理由

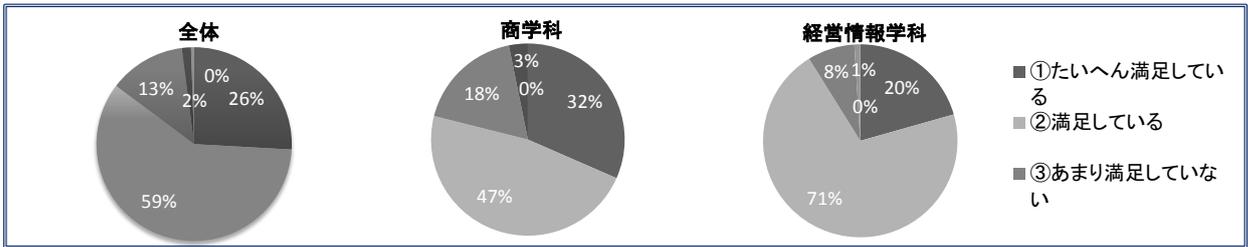
丁寧に優しく対応してくれたため。(他18名)
部活で必要なことなどを分かりやすく教えてくれた。
少し苦手な先生がいる。
良いサポートしてくれる。
ときどき怖い顔をしている人がいるが、大体良い対応をしてくれた。(他2名)
たまに雑だった。
キャリアセンターの対応が良かった。
態度の冷たい人がおり少し怖かった。(他1名)
必要以上に話しかけてかられなかったのも、それぞれの場所にとっても居やすかった。
情報センターの方は携帯の件でお世話になりました。
笑顔で対応してくれる。
普段でも話しかけてくれるので良い先生ばかりだと思った。

③の理由

対応が雑な時がある。(他1名)
たまに冷たいがいた。(他1名)
口調がきつい。
知っている先生はすれ違ったりすると話しかけてくれて好印象。だけど情報をくれるのが遅い。
受付の人が気付いてくれないことがある。
話しかけづらい。
キャリアセンターに行ったけど、行きにくい。
奨学金のことで色々もめた。親切ではない。

質問7. あなたは本学の施設・設備(コンピュータ教室、体育館、教室、グラウンド、駐車場、7号館1階コモンルーム等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	5	25	30	4	17	21	51
②満足している	8	37	45	13	59	72	117
③あまり満足していない	4	13	17	1	7	8	25
④全く満足していない	1	2	3	0	0	0	3
無回答	0	0	0	1	0	1	1



【理由等】

商学科

①の理由

しっかり整備がされていて使いやすかった。(他5名)
 使いやすくて居心地が良い。
 ノートPCでは使えない機能も使えるコンピュータ教室があるのはうれしい。
 車での帰りに待つ所として役立ったから。
 コンピュータ室はたくさんあって、とても利用しやすかったです。(他1名)
 学校のパソコンでレポートが作れてラクだったから。
 コンピュータの起動が少し遅い。
 空き時間に良く利用しました。(他3名)

②の理由

環境は良いが、暖房が強かったりする時がある。
 ネット環境が良くない。
 できたらコンピュータのキーボードは統一して欲しい。
 コンピュータ教室は数も多くいいが、トレーニング室が少し使いつらい。
 空きコマがあるときコンピュータ室が使えるので良かった。
 校舎内がきれいに清掃されているから。(他3名)
 時々暖房を入れているにもかかわらず、寒い教室があって嫌だった。(他2名)
 wi-fiのつながる所とつながらない所の差が大きかったです。(他1名)
 232教室のエアコンがたまに効いていません。(他1名)
 1駐の駐車場が満車じゃないのに、満車になっている。
 夏に体育館が暑い。
 日曜日などの検定時にコモンルームを開放してほしい。
 廊下にも暖房をつけてほしい。
 空調も良く、勉強しやすい。
 たまにインターネットに繋がりにくくなるときがある。
 コモンルームのどの生協がもっと早くからやっているのありがたいです。
 PCの起動に時間がかかることがあった。(他1名)
 コンピュータ室はたくさんあって、利用しやすかったです。
 3道場の施設は満足できません。
 広い教室は冬は寒く、夏場のクーラーは入りすぎて寒すぎる。(他1名)
 空き時間にいる場所が多くて助かります。(他1名)
 駐車場が高い。
 昼食を食べる場所が少し少ないと感じる。
 パソコンやプリンターもあって便利な設備になっているから。

③の理由

狭いと思うところがいくつかある。
 昼食場所や空きコマの休憩場所が少ない気がする。
 パソコンによっては起動が遅く、フリーズすることがあったため。(他1名)
 第一駐車場に入る前の校門で無理やり入ってくる人もいて危ない。渋滞になって迷惑している人もいた。
 広い教室だとだいたいゴミがたまっていて汚かったです。
 夏は暑い、冬は寒すぎる。
 とにかく駐車場が遠い。(他2名)
 駐車場は年間3万円は高すぎるし、休日や雪の日など結構開いている日が多くて不満です。
 駐車場から教室まで屋根のある道がほしい。
 教室の暖房が全体に行き届いておらず、寒いときが何度もあったので少し改善してほしいです。コンピュータ教室はとても利用しやすかったです。
 2号館にいるときネットが繋がらなくて困る。
 駐車場は満車じゃないのに満車になっていて停められないことがある。(他1名)

④の理由

wi-fi環境を改善してください。
 あるだけであまり活動を活発にやることはできなかったから。もっとみんなが使える工夫してほしい。

経営情報学科

①の理由

設備がよく快適に利用できた。(他2名)
設備が充実している。
使いやすいがときどき寒い。
コモンスペースは沢山利用させて頂きました。冬も暖房が使えてとても課題等はかどりました。
コンピュータ教室の数が多いので、講義では使えない教室があっても他に使える教室があった。
大きな教室は下の方が寒い。
コモンスペースの席をもう少し広くしてほしい。

②の理由

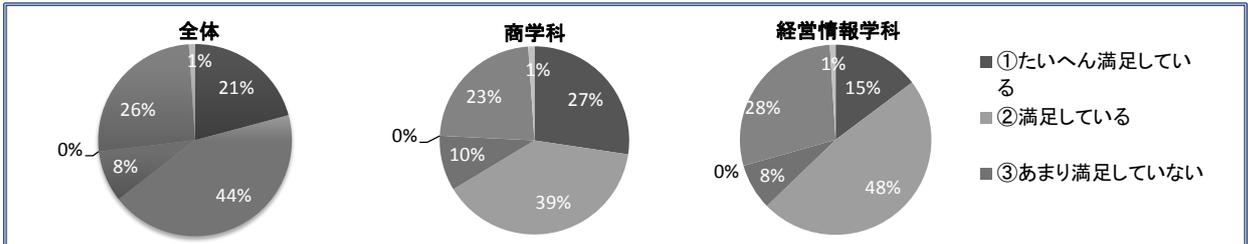
目的に応じて充実した設備のため。
駐輪場を大きくしてほしい。
コンピュータ教室がいっぱいあって良い。(他1名)
321教室の改善をお願いしたい。
コンピュータ室でテスト勉強ができる。
もう少しパソコンはキーボードの反応が止まることがある。早く動いてほしいです。(他4名)
パソコンの性能に教室によって差があるので、何とかしてほしい。(他5名)
掃除の方がきれいしてくれるので過ごしやすかった。(他2名)
駐輪場が満車になっていないのに、満車マークがついていることがある。
駐輪場の「満車」マークが敷地に入るまで見えなくて不便。(第一駐輪場)(他1名)
空きコマにパソコンが出来るのが良い。
少し寒いと感じることがある。(他2名)
ジムをもっとみんなが使えるようにしてほしい。
コモンスペースのPCをもう少し増えてくれたら良いと思う。
一号館の一階は夏は暑くて、冬は寒すぎるからなんとかしてほしい。
合同ゼミのとき隣の人の間隔がほしいです。
駐輪場一日200円はキツイ。
コンピュータ室はきれいで設備を整っていて良かったと思う。
駐輪場から1号館まで遠い。
wi-fiの環境が悪い時が多い。(他1名)
コモンスペースの利用可能時間の貼り紙を貼ってほしい。
コモンスペースは冬寒いときがある。
体育館は事前に予約があれば(部活など)メンフィアに表示してほしい。
短大側にも駐輪場がほしい。
コモンスペースの席を増やしてほしい。
ちょっと暖房がほしい。
コンピュータ室のコピー機の調子が悪いことが多い。

③の理由

駐輪場が有料なので。
教室が寒すぎたり暑すぎたりします。(他1名)
体育館はとにかく寒い。
駐輪場は故障が多かった。
ネットの接続が悪い時がある。
過ごしづらい。
駐輪場について、ウィンカーをつけずに出入りしている人がいて危ないです。
場所によっては床が汚い。

質問8. あなたは各サポートセンター(基礎教育センター、国際交流センター、地域づくり考房『ゆめ』、図書館、健康安全センター等)に満足しましたか。満足しませんでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	6	20	26	1	14	15	41
②満足している	5	32	37	4	45	49	86
③あまり満足していない	1	8	9	2	6	8	17
④全く満足していない	0	0	0	0	0	0	0
⑤利用していない	6	16	22	12	17	29	51
無回答	0	1	1	0	1	1	2



【理由等】

商学科

①の理由

分かりやすく丁寧に自分の時間を削って先生方は教えてくれた。(他2名)
 行きやすい。環境が良い。(他1名)
 台湾などでお世話になりました。
 図書館はものすごく居心地がいい。(他3名)
 図書館ではレポート作成に必要なものが揃っている。
 みんなと交流できた。
 図書館はパソコン、暖房など環境が整っていて居心地が良かった。
 授業の空きコマのとき、図書館を使っています。(他2名)
 図書館が静かでテスト勉強などに集中できます。(他5名)
 『ゆめ』親身になっているいろいろな話をきいてくれました。
 基礎教育センターでは、質問に対して先生個人個人に分かりやすく説明してくれるので良かった。(他2名)
 図書館で映画を観ることができるのがとてもいい。(他1名)
 図書館では資格についてやテスト勉強でも役立つ本がたくさんあってよかった。

②の理由

色々な本があって良いが、見たい本があっても探しにくいところがあった。
 図書館では落ち着いて学習が出来る。(他1名)
 空調設備がしっかりされていたから。
 図書館の食べる席をもう少し増やしてほしい。(他1名)
 基礎教育センターの時間を夜型に変えてほしい。
 テスト前問題を教えてくれた。
 勉強をサポートしてくれたり、静かな図書館が良い。
 図書館はとても利用しやすくて良いです。

③の理由

映画の本数が少ない気がする。
 図書館の3階がたまにすごうるさい。
 基礎教育センターは入りづらい。
 健康安全センターの先生の対応があまり良くなかった。

⑤の理由

行く機会がなかった。
 興味があまりなかった。
 行く気になりませんでした。朝もギリギリに行き、授業が終わったらすぐ帰っていました。
 利用するタイミングが分からない。
 入りづらい。

経営情報学科

①の理由

基礎教育センターにお世話になっており、先生たちはみな親切に接してくれるし、勉強も非常に分かりやすく教えてくれる。(他5名)
 図書館は静かで過ごしやすい。(他3名)
 雰囲気が良い。
 「ゆめ」は色々な活動ができて良かった。(他1名)
 図書館は寒くていられない。
 基礎教育センターのおかげで勉強しようと思えるようになった。
 留学の際、国際交流センターの先生がとても優しく対応してくださった。

②の理由

学習などに役立った。
 国際交流センターが良かった。
 図書館は色々な面で役に立ち、静かな環境で勉強が出来る。(他1名)
 「ゆめ」は色々な体験ができて良かった。
 1階にパソコンがもう少し増えると使いやすい。
 図書館の室温管理が微妙。
 図書館にビデオを見るところがあるのはうれしいが、パソコンの起動はかなり遅く感じる。
 図書館にあまり小説が置いてない。資格の本ももっと置いてほしい。
 図書館はwifiがうまく入らない。

③の理由

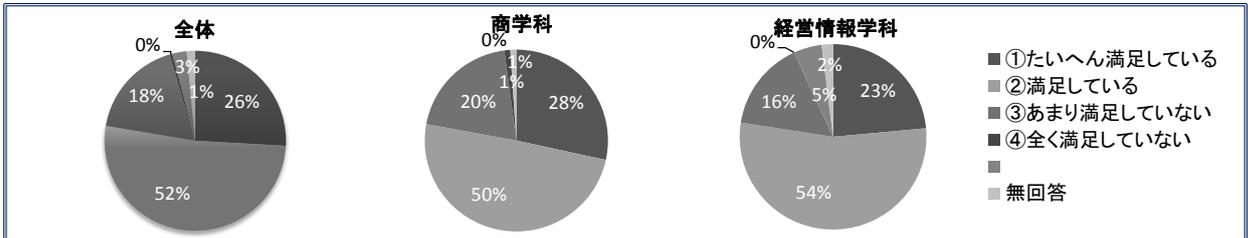
出来れば図書館で飲食可のPCスペースを作ってほしい。
 図書館のプリンターを3階からも使えるようにしてほしい。
 ゆめは2年生の場所という感じがして入りづらい。
 健康安全センターの場所が分かりづらい。(他1名)

⑤の理由

利用する機会がなかった。(他1名)
 時間がないので。

質問9. あなたは生協のフォレストホール、ラウンジ、購買、ミニショップに満足しましたか。満足しませんでしたか。
その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	3	24	27	7	17	24	51
②満足している	7	40	47	7	48	55	102
③あまり満足していない	8	11	19	3	13	16	35
④全く満足していない	0	1	1	0	0	0	1
⑤利用していない	0	0	0	2	3	5	5
無回答	0	1	1	0	2	2	3



【理由等】

商学科

①の理由

おいしい。(他2名)
 数多くの商品があるから。(他8名)
 色々揃っており、足りないものがあったても買えるので良かった。(他2名)
 お昼ご飯などが買えるため便利だった。
 満足しているが、もう少し営業時間を増やしてほしいかも。
 コンビニのミニバージョンで安かったりしたので良かったです。
 気軽に立ち寄れた。
 生協ではセールで値段が安くなっているので満足。(他1名)
 セールをもっと宣伝してほしい。
 お昼を作れなかったときに役に立った。

②の理由

購買がいろんなものがあるって良かった。(他2名)
 レジの人があいさつを返してくれる。
 ラウンジなど狭いと感じる。
 売り切れが多いので、品数を増やしてほしい。(他1名)
 たまに来るドーナツ屋さんが来ていることを駅の方から来る人にも分かるようにしてほしい。
 セールなどもあり、学生にとってとても使いやすい。
 ハンバーガーみたいなものがあったらいいなと思った。
 短大の方も夕方までやってほしいです。(他1名)
 レジの方がすてき。もっと長時間営業していたら良いと思います。フォレストホールの品ぞろえがすばらしい。
 美味しいけど全体的に値段が高い。
 ラウンジで用が済んでも席をたくさん取っている人がいるのは残念。
 祝日や休日の補講日はやってほしい。
 短大の授業がある日はやってほしい。(他1名)
 ミニショップは生協よりも小さい分、品物が売れるのが早いのが生協まで行っている時間がないときがあった。

③の理由

四大が休みの時も営業して欲しい。
 狭い。
 食堂の回転率が悪い。
 お昼になると混んでいて、遅く行くと物自体が残っていない。
 ミニショップのモノが足りない。
 買いたいものが無いことがあるので、在庫を増やしてほしい。(他1名)
 ミニショップのおにぎりが少ない。
 短大の生協はどうして11時からなのか気になる。
 購買の値段が高い。(他2名)
 閉まる時間が早い。(他2名)
 もう少し早く購買をあけてほしい。(他1名)

④の理由

ほとんど売り切れる

⑤の理由

閉店時間が早い。

経営情報学科

①の理由

美味しかった。(他1名)
値段も安く満足できた。(他4名)
必要なものが売っているから。
品ぞろえが良い。(他4名)
お昼がないときにすごく助かる。
毎日学食を食べている。おいしくて健康的なご飯をいつもありがとうございます。
親切に接客してくれる。

②の理由

ミニショップのおにぎりがすぐ売り切れる。(他1名)
困ったときに役立った。(他1名)
ミニショップの営業時間がもう少し長くてもいいのではと思う。(他2名)
短大の購買ももう少し営業を長くしてほしい。(他4名)
たくさんチョコレートがあって良かった。
お昼などは早くいかないと売り切れてしまうから、少し増やしてほしい。
欲しいものが大体ある。
品ぞろえが豊富である。(他1名)
7号館のショップをよく利用します。パンがすぐなくなってしまうイメージなのでもう少し増やしてほしいです。
ラウンジをよく利用させてもらいました。日替わりメニューもあって楽しめた。
ミニショップに牛乳をおいてほしい。
短大の購買は混雑することが多いので、もう少し広めにしてもらいたい。
要望で商品をもっとチェンジしてほしい。
購買がコンビニよりも安くよかった。
オリジナルのお弁当があって良いと思うけど、もっと普通のおにぎりやパンを置いてほしい。
割引券が使える公共交通機関の値段が安いから利用したい。
フォレストホールの購買を朝も開けてほしい。
学食の食券が100円綴りになっていて、端数の10円がなく不便。

③の理由

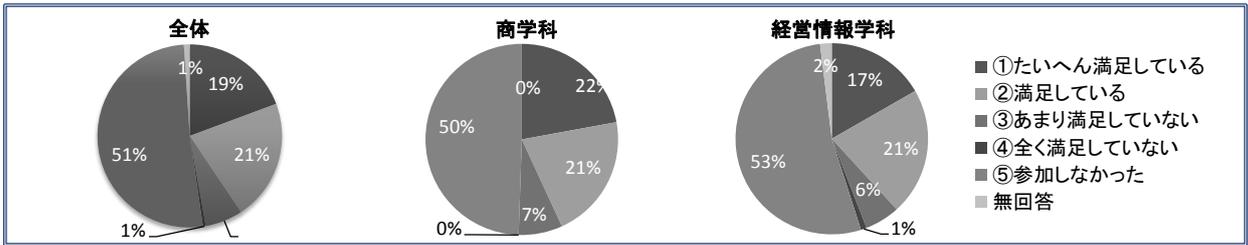
品ぞろえが悪い。(他3名)
閉まるのが早い。(他4名)
おにぎり、パンの数が少なすぎる。(他1名)
購買とミニショップですが、開いている時と閉まっている時が分からないから知らせてほしい。
4大生が3号館の食堂に来るのですごく混む。

⑤の理由

高い。弁当作ったほうがよっぽど良い。

質問10. あなたにとって、サークル活動はどうでしたか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	7	14	21	4	13	17	38
②満足している	4	16	20	4	18	22	42
③あまり満足していない	2	5	7	0	6	6	13
④全く満足していない	0	0	0	0	1	1	1
⑤参加しなかった	5	42	47	11	43	54	101
無回答	0	0	0	0	2	2	2



【理由等】

商学科

①の理由

人数も多く、さびしいサークルではなかったので楽しくワイワイできた。
 学部を超えて、いろいろな人とコミュニケーションがとれるため。(他1名)
 友だちを増やすきっかけになった。(他4名)
 大学の人と関わりをもてた。
 マツナビでコミュニケーション能力を上げることができました。
 初めて飲み会があったり楽しかったです。
 楽しく体を動かすことができた。
 週に一回か二回でちょうどよく運動ができた。
 リフレッシュできる。
 体育館でも床がクッションみたいなのがひいてあって驚いた。使いやすい。
 体育館がしっかりしているし、物も新しくきれい。しかし取れる日にちが少ないからそこが残念。
 練習は大変ですが、入ってよかったと思いますし、とても充実した活動です。
 先輩方は優しかった。

②の理由

やっているのが分からない日がある。
 施設がしっかりしていたから。
 学年を通しての交流ができて良かったとおもいます。
 色々な人との交流が深まった。

③の理由

やる時間とやる日ははっきりしていない。週一回では少なすぎる。
 思った以上にレベルが低かった。
 あまり活動がなかった。(他2名)
 少ししか参加できていないから。
 雰囲気が悪手。

⑤の理由

通学に時間を使っているから。できればやりたい。
 忙しかったから。
 学校の生活に慣れたら入ろうと思ったから。
 バイトで時間がないから。
 電車通いで時間がなかったり、6限までやっているのはいけなかったから。

経営情報学科

楽しくコミュニケーション取りながら活動できた。
 たくさんの友人ができた。
 楽しい。(他2名)
 専門の講師の先生に来て頂いた。
 勉強と両立できる丁度いい頻度だった。
 国際交流クラブに所属しているが、留学生のみんなと仲良く出来ました。
 学祭とかすごく楽しくて大学の人も関わられるの楽しい。

②の理由

楽しい。(他1名)
 短大生活のスケジュールにあっていたから。
 体育館もきれいで使いやすいです。
 文系のためかイベントが少なかった。
 部活に入るのは初めてだったけど、楽しく自分のしたいことができた。
 多く活動があったわけではなかったのでも参加しやすかった。
 昨年活動実績が無かったので、今年は意見要望を聞きながら活動していきたい。
 もう少し交流できる機会があればよかった。
 学部生の皆さんと交流できた。(他1名)
 先輩や大学の人も仲良くなれるので良い。
 自分の好きな事を好きなだけ出来る。

③の理由

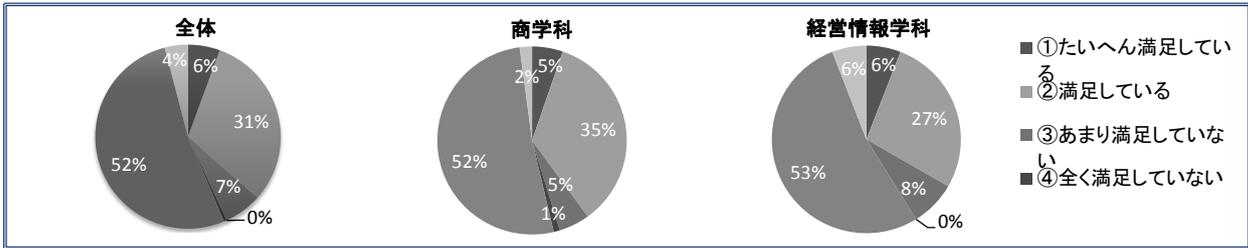
予定などが合わずあまり活動できなかった。
 活動数が少ない。

⑤の理由

面白そうなのがなかった。
 時間が無い。
 アルバイトで忙しかったし、「ゆめ」に入っていたから。
 バイトで忙しいから。
 サークルよりアルバイトをしたいから。
 入るタイミングを逃したため。(他1名)
 まだ部活動に参加していないが、写真部に入部したので楽しみです。
 通学時間がかかるから参加していません。

質問11. あなたにとって、学生会活動はどうか。その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	1	4	5	1	5	6	11
②満足している	5	28	33	4	24	28	61
③あまり満足していない	0	5	5	1	7	8	13
④全く満足していない	0	1	1	0	0	0	1
⑤参加しなかった	11	38	49	13	41	54	103
無回答	1	1	2	0	6	6	8



【理由等】

商学科

①の理由

楽しかった。
活動に参加できた。

活動で何をしているのか分からない。
活動にあたっての準備が良かったから。
各行事などとても盛り上がるのでよかった。
色々な企画があって面白いから。
大学祭など楽しめた。
活動内容などいいと思いました。(他1名)
行事が楽しかった。
友人と仲良くなれるきっかけになったから。
大学祭に関わってよかった。
文化祭が良かった。
みんながまとまるよう長、先生をはじめみんながきょうりょくしているから。
何かの係で活動できるのはとてもやりがいを感じる！
文化祭が良かった。

③の理由

学生会がどう機能しているか目に見えない。もっと学生全体と関わってほしい。
仕事が多かったから。
参加していたようなないような感覚がある。
一度イベントに参加したけどちょっとグダグダだった。

⑤の理由

よく分かっていなかった。
やる機会が多かった。
興味が無い。
知らなかった。
短大生はなかなかいそがしいので難しいと思います。

経営情報学科

②の理由

自分はこれといった活動はしなかったが、これから頑張っていきたい。
協力して何かをやるのはとても良いと思った。
楽しい(他1名)
焼イモ大会が楽しかった。
文化祭で学祭のスタッフとして活動できたのでよかった。

③の理由

連絡が遅いから。
去年はあまりやる事がなかったし、やらせてもらえなかったので今年は頑張りたい。
集会が多い。
参加したという感じがしない。

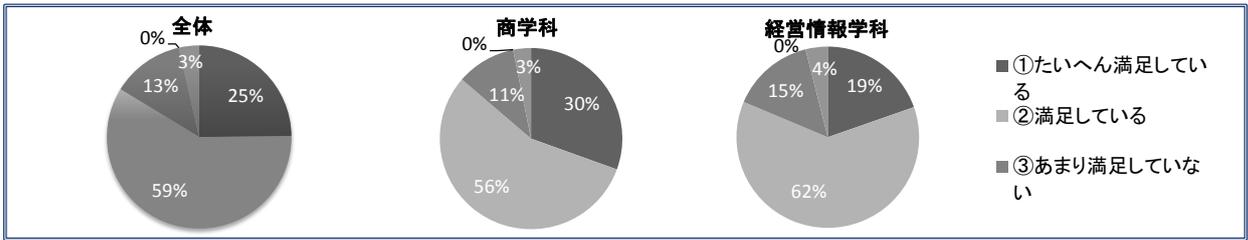
⑤の理由

時間が無い。
よく分からない。

質問12. あなたは本学の学生会行事(大学祭、新入生歓迎会、体育大会、クリスマス会等)についてどのように感じましたか。

その理由や要望など、お気づきの点も記入してください。

	商学科			経営情報学科			合計
	男	女	計	男	女	計	
①たいへん満足している	4	25	29	4	16	20	49
②満足している	10	43	53	11	52	63	116
③あまり満足していない	1	9	10	3	12	15	25
④全く満足していない	0	0	0	0	0	0	0
無回答	3	0	3	1	3	4	7



【理由等】

商学科

①の理由

ゼミの人と仲良くできた。(他2名)
 どれも盛り上がったので良かった。
 頑張ってお花をたくさん売った大学祭は楽しかったです。
 ゼミのみんなと仲良くなれたし、数少ない行事で楽しめた
 体育祭は楽しい。(他1名)
 内輪の盛り上がりは全体には分からないので、学生全体が一緒に笑って楽しめることをするのが良いと思う。
 すごく楽しかった。できれば他学科ともっと交流したい。
 大学祭は芸能人が来てとても楽しかったです。これからも続けてほしいです。
 焼イモを来年もやってほしいです。
 新しい友人を作るきっかけになったと思うから。(他1名)
 新入生歓迎会があったことにより、これからどんな生活になるのか想像しやすかった。
 盛り上がってワクワクした。(他2名)
 毎回企画が楽しい！
 ゼミの友だちやそれ以外の人も仲良くなれたり、良い思い出を残せたのでよかった。
 楽しかったし、色々な人と交流できた。(他1名)
 高校のときは違う楽しさがあった。
 短大の中や大学の人も交流の場があるのは良かったのです。行事ごとは好きなので今後も参加していきたい。
 大学祭が楽しかった。

②の理由

おもしろい企画があると思った。
 体育大会でゴミ袋の量が少ない。
 とても楽しかったですが、大学祭の模擬店は個人でやった方がいいと思った。
 楽しめたから。(他2名)
 規模が大きくて楽しかった。
 体育大会は楽しかったけど、暇な時間が多かった。
 自由な感じが良かったから。
 新入生歓迎会は明るい雰囲気ていろいろなサークルのことが知ることができて良かったです。
 焼いもが好きだが、授業とかぶって焼きいも大会に行けなかったのが残念だった。
 参加が自由なものも良いがもう少し全体で楽しめることがあればいいと思った。
 学生会に入っている人だけが達成感を味わえるようなところが少しある。
 どれも楽しかったし、景色もあったから。
 短大生も屋台に参加するのを自由にしてほしい。
 行事がたくさんあっていいと思う。
 大学祭や体育大会はとても充実したものでした。(他1名)
 男女わけてほしい。
 開催する期日が毎回休みを使ったものなので、正直休みたくないという気持ちがある。
 ゼミの人や学校の人など交流が深まりよかったです。
 歓迎されている感じでよいと思う。

③の理由

1、2年の情報交換ができない。
 体育大会は運動が苦手な人もいるため、ハの字の大縄跳びなどプレッシャーがかかるようなものはよくないと思う。
 もう少しやりたいことを学生に問いかけて欲しい。新入生歓迎会のゲームを正直やりたくなかった。
 自由な参加のものでもほぼ強制的で、土日にやっても振り替えの休みもないので。
 体育大会をする理由が分かりません。
 みんな一人一人が積極的に進んで行事に参加できることが少ない気がする。

経営情報学科

①の理由

とても盛り上がって行事に参加できたので楽しかった。
行事は男女分けてほしい。
楽しく参加できた。(他2名)
体育大会は楽しかった。
他学部の学生と交流することができました。(他1名)
芸能人のチョイスが良かった。
体育大会(秋)の体育館が寒すぎて、そのあと体調を崩した。

②の理由

楽しかった。(他11名)
体育大会はとても楽しかった。(21名)
ゼミを通し仲が良くなる点でよい。(他1名)
大学祭は楽しかった。(他1名)
お金がかかっていると思った。アモーレカップルはいらないと思う。
体育大会では、自分のゼミが今何位か途中まで分かるようにしていたほうが、やる気が出る。
もう少し盛り上がりしてほしい。
芸能人など来てとても楽しかったです。
体育大会は年1回で良いと思います。
行事があることで交友関係を広げることが出来た。
あまり運動できなかったので体を動かす機会があって良かった。
大学祭でもっとはしゃぎたかった。
誰もが参加できる楽しいイベントが沢山あって良かった。
楽しいですが授業中ということがたびたびあった気がします。

③の理由

必要性が感じられない。(他1名)
楽しませようというよりは自分たちで勝手に盛り上がってる感じの方が強かった。
体育大会の待ち時間が多かった。
新入生歓迎会は少し微妙でした。
あまり楽しい内容ではなかった。
クリスマス会などほかのイベントの連絡が来なかった。
大学生メインな感じがする。
体育大会は球技ばかりやっていて、参加する人が限られているように思う。
体育大会は学校でやってほしいです。
参加しようとは思わない。

質問13. 松本大学松商短期大学部をより良くするための、あなたの意見・提案を聞かせてください。

(例えば ①こんな授業があったらいい、②こんな制度があったらいい、③こんなところを変えてほしい等、何でも結構です。)

商学科

将棋の授業があったらいいと思った。囲碁があるなら将棋も欲しいと思った。
最初の時に、パソコンのスペック説明をする時、あんな良い高スペックではなくても良いということ。最悪エクセルとワードが入ってたら良いとだけ伝えれば良いと思
wifiをもっと良くしてほしい。(他1名)
今のままで満足です。
二号館のところがもう少し暖かくしてほしい。
食堂や休憩場所を増やしてほしい。
祝日も休みみたいです。(他1名)
二号館に電子レンジをお願い。
一人一人にipadを配布し、それを使って授業や出席をとれたら良い。
男子トイレを増やしてほしい。
アクティブラーニングの授業があればよい。
エクセルやワード以外でもパソコンを利用させる授業を増やしてほしい。
皆が集中して講義を受けられるように、ちゃんと注意する時は注意してほしい。それでもダメな場合は座席指定にするなど配慮してほしい。
電車の時間をもっと考慮してもらえたらうれしいです。
ペン習字の授業がほしい。
保育士など子供のことが勉強できる講義などあればよいです。
一年前期の医療事務の単位を増やしたほうがよいです。勉強時間と単位数が圧倒的に割にあわないです。
全ての授業で遅刻したら受講票を渡さない(時間制限)ことを徹底してほしい。早く起きて授業に遅刻せず来ている人と、残り40分くらいで来て出席になる人の違いは何なのかと気になった後期でした。
ひたすら映画を見る授業を受けたいです。
仕方がない部分ですが、受けたい講義がかぶってしまい、どちらかができないというのがとても残念。(他5名)
先生の都合とかで難しい場合は5限になってもよいので、取りたい授業がかぶらないようにしてほしいです。
もっと四年制の学部の方とも交流があればいいと思います。(他1名)
休みを大学と合わせてほしい。
暖房が寒い。(他3名)
松本大学・松商短期大学部のホームページの先生の写真が今の先生の雰囲気と全然違って、入学したとき戸惑いました。できれば今の先生を載せてほしいです。
ネイルの後期が5人足りなくて開講されなかったのでショックです。
廊下にも冷暖房がほしいです。
駐車場が遠い。大学側は近いのに短大だけ遠くてとても不便。(他1名)
休みの日が大学と違いすぎる。大学よりは休みが少ないのは分かっていたけど、月曜まで学校に来て火曜から休みとか、
金曜日から始まりとか祝日学校でテストのあと一週間休みとか、よく分からない。もっと休みの並びを考えてほしい。
追試験もお金をとるのはおかしいと思う。インフルとか学校来れないのに。インフルでも医者に行かずにテストに来た方が良くないと思う。
編入対策の授業を何回か行ってほしい。
一般常識程度のマナー講座。
公欠(忌引き)制度がほしいです。(他1名)
図書館が開館する時間がもう少し早いと便利なのかなと思います。
座席指定は堅苦しいと思った。(他1名)
せっかく購入したPCを使う授業をしてほしい。
商と経情あわせての授業がほしいです。
駐車場の値段が高い。土日とか休みの期間はゲートが開いていて、誰でも使えるのでカードをせっかく買ったのに・・・と思う。
雪の日も開いていてビックリした。カードを売るならゲートを開けないでほしい。
新たな駐車場を作るのは難しいと思いますが、とにかくこのメチャクチャ寒い中一号館まで歩くのが、苦痛すぎたので書いておきます。
間に合いそうな授業にもギリギリ遅刻するのが悔しくて仕方がないです。
他の学部との交流の機会もあったら楽しいと思う。
ドーナツの販売を一号館とかでもやってほしい。
ネイルの授業のようにヘアメイクの授業があったら受けてみたいと思う。(他1名)
駐車場代を安くしてほしい。
台風などの影響で次の日の〇〇時までに連絡が無かったら登校してとくるけど、休校になるならにしろ、どっちになったのか連絡がほしいです。
食品に関する授業なども増やしてほしいです。
SPI専門授業を1年生のときから設けてほしいです。
後期の授業で、エクセル・ワードを必修にしてほしいです。社会人になっても必要なスキルと思うからです。
英検3級以上の取得も必須にしてほしいです。
様々な資格が取れるのがうれしい。
短大だけの授業の時も購買をあげてほしい。

経営情報学科

授業の内容をもう少しゆっくりにしてほしい。
4学期制が嫌だ。
プログラム関係の授業をしてほしい。(AIとかの分野)
もう少しキャリアチャレンジのような歴史の授業があっても良いと思った。
教養科目の授業をもう少し増やしたら、より良くなると思います。
座席指定をやめてほしい。(他1名)
もう一つ学食を増やしてほしいです。
いまだに経営情報科と商科の違いが分からないのではっきりしてほしい。
321教室のパソコンを変えてほしい。試験中エラーが起こるとつらい。
なるべく大学の方とテストなどの日程を一緒にできたらうれしい。
駐輪場を増やすか大きくしてほしい。
できれば電車の時間に合わせて授業をしてほしい。3限に合うよう電車で来ると30分ほど暇な時間ができるので可能なら合わせてほしい。
インテリアに関する授業があったら良いと思います。
安い費用で留学が出来ればよい。
インターネット環境をもう少し改善してほしい。
図書館司書の資格を取る講義を1限前にしてほしいかたです。
短大の購買が閉まる時間が早いので、営業時間を延ばしてほしい。
テスト前の期間は日曜も学校(コモンルームや図書館など一部)が開放されているといいなと思いました。
駐車場の「満車」サインが校門にあると分かりやすいし、助かるので検討してほしいです。(他1名)
コモンルームの電子レンジが使えなかったので、使い方をどこかにおいてもらえると嬉しい。
図書館の地下一階が寒いです。
もっと海外について知れたり、語学の授業があればいいと思った。
ハンガルの授業を1年だけでなく、2年でも履修できるようにしてほしい。(他1名)
テスト期間を大学と同じにして早く長期休暇に入れるようにしてほしい。
廊下をもう少し暖かくしてほしい。
これから社会人になって覚えておく有利な制度や、青色申告のやり方などを教えてほしい。
中より外の方が暖かいときがあるくらい校舎が寒いので、室内の温度を一定にしてほしい。
もっと大学の関わりがあったほうが大学祭もよくなると思う。
松本大学の設備を使いやすくしてほしい。
1号館の暖房をもっとつけたほうがいいです。
アウトキャンパスや体育祭など行事を増やしてほしい。
冬が寒い。もう少し室温をあげてほしい。
休みやテストなど大学とあわせたほうが良いと思う。
週2回授業をつくるのはいいけど、他に取りたい授業がとれないのは残念です。
人気の授業はかぶらないようにするなどの対策をしてほしい。
1号館のコンピュータを置いてあるところが寒いし、夜になると電気が薄暗いほどしかついてないので、改善してほしいです。
コモンルームの他にもう少し机やイスを用意してほしい。
トレーニングルームが使えたらいいなと思う。
夏はいいが冬は校舎が寒く、とくに6限は寒い。(他2名)
履修したい科目が重なっていて取れないことが何度もあったので、ずらすか2回に分けたりするのはどうでしょうか。
休日なのに学校にしないでほしかった。
5限などにTOEIC対策の講座や1から英語を勉強できる授業がほしい。
専門的な分野を増やす。
駐輪場をもっと近くしてほしい。
ベン習字は後期にもあってほしかったです。
ノートPCですが高校の時に参加したオープンキャンパスでは学校が貸してくれるという説明を受け、買わないつもりで入学しました。
しかし入学が決まってからの説明会では古いので買うことを進めるといった説明を受け驚いたので、今後のオープンキャンパスでは古いということをちゃんと説明に加えた方が良くと思います。
大学の駅の出入口を広くしてほしい。
部活を増やしてほしい。
16フィールドの他に、ペット関連や製菓関連の授業があるともっと幅が広がると思った。
留学情報をもっと教えてほしい。
ロッカーを2・3・7号館のいずれかに増やしてほしい。1号館にあっていくのが遠い。
121、232教室の前の席が寒い。
メイクか美容系の実技授業を増やしてほしいです。
wi-fiが遅い。
1限目の授業開始時間を5~10分ほど遅くしてほしいです。
もう少し短大側で、学生が自由に印刷できる場所を増やしてほしい。
ミニショップの開店時間を早めてほしいです。
課外講義を増やしてほしいです。(公務員対策など)

平成29年度
松本大学大学院・松本大学・松本大学松商短期大学部
自己点検・評価報告書

発行日 2018年10月31日
編集 松本大学自己点検・評価委員会
発行者 松本大学・松本大学松商短期大学部
学長 住吉 廣行
印刷所 日本ハイコム株式会社
長野県塩尻市北小野4724
発行所 松本大学
長野県松本市新村2095-1
